

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第27集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 26

2022年3月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施され、人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きく変化しています。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの長い歴史をみることができます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各事業者の皆様からの費用負担を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることができました。その成果は、店舗や住宅建設などの開発に伴い発掘されたものです。長い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

こうして発見された新たな歴史の一部である貴重な文化財を、「人がつながる 豊かで住み続けたいまち ふじみ野」の実現のため、将来にわたって保存・継承し、地域の皆様や子供たちが、生涯にわたって地域の歴史や文化を学び続けられるよう目指してまいります。貴重な文化財と共に、本書が将来にわたって活用されれば幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担とご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁、埼玉県教育委員会文化資源課、市関係各課、調査関係者、そして各事業者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会
教育長 朝倉 孝

例　　言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の2020（令和2）年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。
2. 2020（令和2）年度に行った試掘調査、発掘調査および整理作業は総経費7,616,883円に対し国庫補助金（3,808,000円）、県費（1,904,000円）の補助金の交付を受け、2020（令和2）年4月1日～2021（令和3）年3月31日まで実施したものである。民間開発を原因として行った6件の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行った。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業に伴う費用は各開発原因者・委託者からの委託費により行った。

遺跡名・地点名	委託者	契約期間
鶴ヶ岡外遺跡第7地点	（株）オグラ	令和3年6月7日～令和4年3月31日
鶴ヶ岡外遺跡第8地点	パークサクラオート（株）	令和4年3月7日～令和4年3月31日
亀久保塚遺跡第34地点	久保 邦吉	令和3年9月10日～令和4年3月31日
駒林遺跡第42地点	鈴木 一雄	令和3年4月1日～令和4年3月31日
淨津寺跡遺跡第56地点	大石 幸子、石井 愛子、安野 浩光	令和4年1月6日～令和4年3月31日
本村遺跡第9地点	神木 宏之	令和3年2月15日～令和4年3月31日

3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護係長	鍋島 直久（2021.4.1～）
担当課	社会教育課文化財保護係	文化財保護係調査担当者	長谷川義行（2017.4.1～2021.3.31）
教育長	朝倉 孝（2014.4.1～）		岡崎 淳子（2015.4.1～）
部長	皆川 恒晴（2019.4.1～）		橋本祐可子（2015.4.1～）
課長	永倉 秀雄（2020.4.1～）	庶務担当	坪田 幹男（2018.7.2～2021.2.28）
社会教育課副課長		発掘調査員補	臨時の任用職員 高橋 京子（2005.4.1～）
	小林 久美（2018.4.1～）		

4. 本書作成において、調査に至る経過の執筆は岡崎と鍋島で分担した。本書作成全般にわたり、田中信氏（ふじみ野市発掘調査・整理作業指導者）のご教示を賜った。

墨書き土器の赤外線写真撮影については、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団のご協力を賜った。

第IV部田第15図2川越市弁天西遺跡出土「片牧家」墨書き土器については、川越市教育委員会のご協力を賜った。石器実測については、有限会社アルケーリサーチに委託した。

土壤サンプル分析及び、炭化物分析はパリソナーゲイ株式会社に委託した。

鶴ヶ岡外遺跡第7地点の基準点測量及び測量図作成の一部は、株式会社東京航業研究所に委託した。

遺物接合・復元：川中ひろみ。

土器実測・拓本：岩城英子、坂本民子、佐竹里佳、鈴木千恵子、深谷美奈子、山内康代。

遺構・遺物図トレース：小林登喜江。

図版作成：青山奈保美、大久保明子、齋藤有紀、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子。

遺構写真：岡崎、坪田、鍋島。レイアウト・遺物写真：大久保、岡崎。

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）

天ヶ嶺岳、上田寛、魚水環、越前谷理、大久保淳、大野朝日、岡田賢治、加藤秀之、木村藍、久津間文隆、隈本健介、栗岡潤、齋藤麻耶、酒井智晴、笠森健一、佐藤一也、佐藤啓子、清水理史、菅沼慎太郎、鈴木清、高木文夫、田中信、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、三上栄一、水口由紀子、柳井章宏、和田晋治、埼玉県教育委員会市町村支援部文化資源課。

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。(敬称略)

青山奈保美、新井和枝、飯塚泰子、壹岐久子、井上麻美子、岩城英子、白井孝、逢坂英明、大久保明子、岡良子、小口広、香取秀明、川中ひろみ、小林登喜江、斎藤有紀、坂本民子、櫻井英史、佐竹里佳、鈴木千恵子、須藤さち子、関田成美、高橋けい子、丹治つや子、野岡由紀子、長谷川雅之、比嘉洋子、深谷和江、深谷美奈子、福田美枝子、藤井喜恵子、増澤勝実、黛佳代子、山内康代、矢作梓、吉田一麿、若林紀美代。

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 縮尺は原則として、遺構配置図1:300、遺構平面図・遺物出土状況図1:60・1:30、戸などの詳細図1:30、土器実測図1:4、土器拓影図1:4、石器実測図1:4・2:3、銭1:1である。
- (2) 遺構断面図の水系高は海拔高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高と同じ。
- (3) 遺構図におけるscreen-toneの指示、遺物出土状況のドットの指示は、

擾乱		地山(ローム)		焼土		煤・炭化物・タール範囲					
被熱範囲		赤色塗彩		釉							
土器	●	石器	★	黒曜石	▲	チャート	□	砾	○	炭	■
- (4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表している。
- (5) 遺構・遺物実測図中の▲▼マークは、図の接続、結合を示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 26 目次

はじめに	i	
例 言	ii	
凡 例	iii	
目 次	iv	
挿図目次	v	
表 目 次	vi	
写真図版目次	vii	
第一部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果		
第1章 遺跡と調査の概要	1	
I 調査に至る経過	1	
II 立地と環境	4	
III 市内の遺跡	4	
第2章 北野遺跡の調査	9	
I 遺跡の立地と環境	9	
II 北野遺跡第 50 地点	11	
III 北野遺跡第 51 地点	11	
第3章 川崎遺跡の調査	13	
I 遺跡の立地と環境	13	
II 川崎遺跡第 56 地点	18	
III 川崎遺跡第 57 地点	20	
第4章 ハケ遺跡の調査	25	
I 遺跡の立地と環境	25	
II ハケ遺跡第 28 地点	28	
第5章 権現山遺跡の調査	30	
I 遺跡の立地と環境	30	
II 権現山遺跡第 29 地点	34	
第6章 滝遺跡の調査	35	
I 遺跡の立地と環境	35	
II 滝遺跡第 36 地点	38	
III 滝遺跡第 37 地点	39	
第7章 長宮遺跡の調査	43	
I 遺跡の立地と環境	43	
II 長宮遺跡第 59 地点	47	
第8章 鶴ヶ舞遺跡の調査	51	
I 遺跡の立地と環境	51	
II 鶴ヶ舞遺跡第 38 地点	51	
III 鶴ヶ舞遺跡第 39 地点	53	
IV 鶴ヶ舞遺跡第 40 地点	53	
V 鶴ヶ舞遺跡第 41 地点	53	
VI 鶴ヶ舞遺跡第 42 地点	53	
第9章 松山遺跡の調査	55	
I 遺跡の立地と環境	55	
II 松山遺跡第 103 地点	58	
III 松山遺跡第 104 地点	59	
IV 松山遺跡第 105 地点	61	
V 松山遺跡工事立会	62	
第10章 江川東遺跡の調査	63	
I 遺跡の立地と環境	63	
II 江川東遺跡第 27 地点	63	
第11章 東久保遺跡の調査	65	
I 遺跡の立地と環境	65	
II 東久保遺跡第 78 地点	65	
第12章 東中学校西遺跡の調査	68	
I 遺跡の立地と環境	68	
II 東中学校西遺跡第 37 地点	70	
第13章 西ノ原遺跡の調査	71	
I 遺跡の立地と環境	71	
II 西ノ原遺跡第 179 地点	74	
第14章 神明後遺跡の調査	75	
I 遺跡の立地と環境	75	
II 神明後遺跡第 58 地点	80	
第15章 苗間東久保遺跡の調査	82	
I 遺跡の立地と環境	82	
II 苗間東久保遺跡第 35 地点	84	
第16章 浄津寺跡遺跡の調査	85	
I 遺跡の立地と環境	85	
II 浄津寺跡遺跡第 56 地点	85	
第二部 民間開発に伴う調査の成果		
第1章 鶴ヶ岡外遺跡第 6 地点の調査	94	
I 遺跡の立地と環境	94	
II 鶴ヶ岡外遺跡第 7 地点の本調査に至る経過と概要	94	
III 遺構と遺物	96	
IV 鶴ヶ岡外遺跡第 8 地点の本調査に至る経過と概要	101	
V 遺構と遺物	101	
第2章 亀久保堀跡遺跡第 34 地点の調査	103	
I 遺跡の立地と環境	103	
II 本調査に至る経過と概要	103	
III 遺構と遺物	103	
第3章 駒林遺跡第 42 地点の調査	108	
I 遺跡の立地と環境	108	
II 本調査に至る経過と概要	110	
III 遺構と遺物	110	
第4章 本村遺跡第 9 地点の調査	115	
I 遺跡の立地と環境	115	
II 本調査に至る経過と概要	115	
III 遺構と遺物	115	
第III部 川崎遺跡第 16 次の調査		
I 本調査に至る経過と概要	131	
II 遺構と遺物	136	
第IV部 まとめ		
I 市内出土の西国産陶器・土器について	155	
II 川崎遺跡第 16 次調査からふじみ野市の古代を復現する試み	163	
III 2020 年度の調査について	186	
附 編	188	
写真図版	197	
抄 錄	233	

挿図目次

第1図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	5
第2図	ふじみ野市遺跡分布図	7
第3図	北野遺跡の地形と調査区	9
第4図	北野遺跡第50地点調査区域図、土層	11
第5図	北野遺跡第51地点調査区域図、土層、出土遺物	12
第6図	川崎遺跡の地形と調査区	13
第7図	川崎遺跡遺構分布図	16
第8図	川崎遺跡第56地点遺構配置図	18
第9図	川崎遺跡第56地点溝	19
第10図	川崎遺跡第57地点遺構配置図	20
第11図	川崎遺跡第57地点J36・37号住居跡	21
第12図	川崎遺跡第57地点J36・37号住居跡遺物出土状況、集石土坑	22
第13図	川崎遺跡第57地点出土遺物	23
第14図	ハケ遺跡の地形と調査区	25
第15図	ハケ遺跡遺構分布図	27
第16図	ハケ遺跡第28地点遺構配置図、溝	28
第17図	ハケ遺跡第28地点出土遺物	29
第18図	権現山遺跡の地形と調査区	30
第19図	権現山遺跡遺構分布図	32
第20図	権現山遺跡第29地点遺構配置図、土層、土坑、出土遺物	34
第21図	淹遺跡の地形と調査区	35
第22図	淹遺跡遺構分布図	37
第23図	淹遺跡第36地点調査区域図、土層	38
第24図	淹遺跡第37地点遺構配置図	39
第25図	淹遺跡第37地点土坑・ピット・溝	40
第26図	淹遺跡第37地点出土遺物	41
第27図	長宮遺跡の地形と調査区	43
第28図	長宮遺跡遺構分布図	46
第29図	長宮遺跡第59地点遺構配置図、溝土層	47
第30図	長宮遺跡第59地点溝分布図	48
第31図	長宮遺跡第59地点出土遺物	49
第32図	鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区	51
第33図	鶴ヶ舞遺跡第40地点遺構配置図、第38・39・41・42地点調査区域図、第40・41地点土層、第40地点ピット	54
第34図	松山遺跡の地形と調査区	56
第35図	松山遺跡遺構分布図	57
第36図	松山遺跡第103地点遺構配置図、溝、出土遺物	58
第37図	松山遺跡第104地点遺構配置図、土層・土坑・溝、出土遺物	60
第38図	松山遺跡第105地点調査区域図、土層、出土遺物	61
第39図	松山遺跡工事立会出土遺物	62
第40図	江川東遺跡の地形と調査区	63
第41図	江川東遺跡第27地点調査区域図、土層	64
第42図	東久保遺跡の地形と調査区	65
第43図	東久保遺跡第78地点調査区域図、土層	66
第44図	東中学校西遺跡の地形と調査区	68
第45図	東中学校西遺跡第37地点調査区域図、土層	70
第46図	西ノ原遺跡の地形と調査区	71
第47図	西ノ原遺跡第179地点調査区域図、土層、出土遺物	74
第48図	神明後遺跡の地形と調査区	75
第49図	神明後遺跡遺構分布図	78
第50図	神明後遺跡第58地点遺構配置図、土層、堀跡	79
第51図	神明後遺跡第58地点出土遺物	80
第52図	苗間東久保遺跡の地形と調査区	82
第53図	苗間東久保遺跡第35地点調査区域図、土層	84
第54図	淨津寺跡遺跡の地形と調査区	85
第55図	淨津寺跡遺跡遺構分布図	88
第56図	淨津寺跡遺跡第56地点遺構配置図、土層	89
第57図	淨津寺跡遺跡第56地点炉穴	90
第58図	淨津寺跡遺跡第56地点土坑	91
第59図	淨津寺跡遺跡第56地点ピット・溝	92
第60図	鶴ヶ岡外遺跡の地形と調査区	95
第61図	鶴ヶ岡外遺跡第7地点試掘調査遺構配置図、土層	97
第62図	鶴ヶ岡外遺跡第7地点本調査遺構配置図、集石土坑、土層	98
第63図	鶴ヶ岡外遺跡第7地点石器出土状況	99
第64図	鶴ヶ岡外遺跡第7地点出土状況	100
第65図	鶴ヶ岡外遺跡第8地点遺構配置図	101
第66図	鶴ヶ岡外遺跡第8地点遺物出土状況	102
第67図	亀久保塙跡遺跡の地形と調査区	103
第68図	亀久保塙跡遺跡遺構分布図	105
第69図	亀久保塙跡遺跡第34地点遺構配置図、土層	106
第70図	亀久保塙跡遺跡第34地点堀跡	107
第71図	駒林遺跡の地形と調査区	108
第72図	駒林遺跡遺構分布図	111
第73図	駒林遺跡第42地点遺構配置図	112
第74図	駒林遺跡第42地点堀跡①・溝	113
第75図	駒林遺跡第42地点堀跡②・ピット・出土遺物	114
第76図	本村遺跡の地形と調査区	116
第77図	本村遺跡中世遺構分布図	120
第78図	本村遺跡第9地点遺構配置図	121
第79図	本村遺跡第9地点水路跡・土層	122
第80図	本村遺跡第9地点土坑	123
第81図	本村遺跡第9地点ピット	124
第82図	本村遺跡第9地点溝・土層	125
第83図	本村遺跡第9地点井戸1	127
第84図	本村遺跡第9地点井戸2・3	128
第85図	本村遺跡第9地点出土遺物①	129
第86図	本村遺跡第9地点出土遺物②	130
第87図	川崎遺跡古代住居跡分布図	132
第88図	川崎遺跡第16次遺構配置図	135

第 89 図	川崎遺跡第 16 次 H43・44 号住居跡	136
第 90 図	川崎遺跡第 16 次 H45 号住居跡	137
第 91 図	川崎遺跡第 16 次 1・2 号掘立柱建物跡	139
第 92 図	川崎遺跡第 16 次 3・4 号掘立柱建物跡	140
第 93 図	川崎遺跡第 16 次 3・4 号掘立柱建物跡土層	141
第 94 図	川崎遺跡第 16 次 5 号掘立柱建物跡・H46 号住居跡	142
第 95 図	川崎遺跡第 16 次 6 号掘立柱建物跡	143

第 96 図	川崎遺跡第 16 次方形堅穴建物跡	144
第 97 図	川崎遺跡第 16 次土坑・ピット①・井戸	145
第 98 図	川崎遺跡第 16 次ピット②	146
第 99 図	川崎遺跡第 16 次ピット③	147
第 100 図	川崎遺跡第 16 次出土遺物①	150
第 101 図	川崎遺跡第 16 次出土遺物②	151
第 102 図	川崎遺跡第 16 次出土遺物③	152

表 目 次

第 1 表	過去 3 年間の調査件数と面積一覧表	1
第 2 表	2020(令和 2)年度埋蔵文化財調査一覧表	2
第 3 表	2020(令和 2)年度立会調査一覧表 1(埋蔵文化財 包蔵地内)	3
第 4 表	2020(令和 2)年度立会調査一覧表 2(埋蔵文化財 包蔵地外)	3
第 5 表	ふじみ野市遺跡一覧表	8
第 6 表	北野遺跡調査一覧表	10
第 7 表	北野遺跡第 51 地点出土遺物観察表	12
第 8 表	川崎遺跡調査一覧表	14
第 9 表	川崎遺跡縄文時代住居跡一覧表	17
第 10 表	川崎遺跡第 56 地点溝一覧表	19
第 11 表	川崎遺跡第 57 地点 J3b 号住居跡ピット一覧表	21
第 12 表	川崎遺跡第 57 地点 J37 号住居跡ピット一覧表	22
第 13 表	川崎遺跡第 57 地点集石土坑出土遺物観察表	22
第 14 表	川崎遺跡第 57 地点出土遺物観察表	24
第 15 表	ハケ遺跡調査一覧表	26
第 16 表	ハケ遺跡第 28 地点出土遺物観察表	29
第 17 表	権現山遺跡調査一覧表	31
第 18 表	権現山遺跡古代住居跡一覧表	33
第 19 表	権現山遺跡第 29 地点出土遺物観察表	34
第 20 表	滝遺跡調査一覧表	36
第 21 表	滝遺跡第 37 地点出土遺物観察表	42
第 22 表	長宮遺跡調査一覧表	44
第 23 表	長宮遺跡第 59 地点出土遺物観察表	50
第 24 表	鶴ヶ舞遺跡調査一覧表	52
第 25 表	松山遺跡調査一覧表	55
第 26 表	松山遺跡第 103 地点出土遺物観察表	59
第 27 表	松山遺跡工事立会出土遺物観察表	62
第 28 表	江川東遺跡調査一覧表	64
第 29 表	東久保遺跡調査一覧表	66
第 30 表	東中学校西遺跡調査一覧表	69
第 31 表	西ノ原遺跡調査一覧表	72
第 32 表	西ノ原遺跡第 179 地点出土遺物観察表	74
第 33 表	神明後遺跡調査一覧表	76
第 34 表	神明後遺跡第 58 地点出土遺物観察表	81
第 35 表	苗間東久保遺跡調査一覧表	83
第 36 表	淨禪寺跡遺跡調査一覧表	86
第 37 表	淨禪寺跡遺跡第 56 地点炉穴一覧表	93
第 38 表	淨禪寺跡遺跡第 56 地点土坑一覧表	93
第 39 表	淨禪寺跡遺跡第 56 地点ピット一覧表	93
第 40 表	淨禪寺跡遺跡第 56 地点溝一覧表	93
第 41 表	鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表	94
第 42 表	鶴ヶ岡外遺跡第 7 地点出土遺物観察表	96
第 43 表	亀久保塚遺跡調査一覧表	104
第 44 表	駒林遺跡調査一覧表	109
第 45 表	駒林遺跡第 42 地点ピット一覧表	114
第 46 表	駒林遺跡第 42 地点出土遺物観察表	114
第 47 表	本村遺跡調査一覧表	117
第 48 表	本村遺跡第 9 地点土坑一覧表	123
第 49 表	本村遺跡第 9 地点ピット一覧表	126
第 50 表	本村遺跡第 9 地点溝内ピット一覧表	126
第 51 表	本村遺跡第 9 地点井戸一覧表	126
第 52 表	本村遺跡第 9 地点出土遺物観察表	130
第 53 表	川崎遺跡古代住居跡一覧表	133
第 54 表	川崎遺跡掘立柱建物跡一覧表	134
第 55 表	川崎遺跡第 16 次土坑一覧表	148
第 56 表	川崎遺跡第 16 次 1 号掘立柱建物跡ピット一覧表	148
第 57 表	川崎遺跡第 16 次 2 号掘立柱建物跡ピット一覧表	148
第 58 表	川崎遺跡第 16 次 3 号掘立柱建物跡ピット一覧表	148
第 59 表	川崎遺跡第 16 次 4 号掘立柱建物跡ピット一覧表	148
第 60 表	川崎遺跡第 16 次 5 号掘立柱建物跡ピット一覧表	148
第 61 表	川崎遺跡第 16 次 6 号掘立柱建物跡ピット一覧表	148
第 62 表	川崎遺跡第 16 次ピット一覧表	149
第 63 表	川崎遺跡第 16 次出土遺物観察表	153

写真図版目次

写真図版 1 北野遺跡第 50・51 地点、川崎遺跡第 56 地点	197
写真図版 2 川崎遺跡第 57 地点(1)	198
写真図版 3 川崎遺跡第 57 地点(2)、ハケ遺跡第 28 地点	199
写真図版 4 権現山遺跡第 29 地点、滝遺跡第 36・37(1) 地点	200
写真図版 5 滝遺跡第 37 地点(2)、長宮遺跡第 59 地点(1)	201
写真図版 6 長宮遺跡第 59 地点(2)、鶴ヶ舞遺跡第 38 地点	202
写真図版 7 鶴ヶ舞遺跡第 39～42 地点	203
写真図版 8 松山遺跡第 103・104 地点	204
写真図版 9 松山遺跡第 105 地点・工事立会、江川東遺跡第 27 地点、東久保遺跡第 78 地点	205
写真図版 10 東中学校西遺跡第 37 地点、西ノ原遺跡第 179 地点	206
写真図版 11 神明後遺跡第 58 地点、苗間東久保遺跡第 35 地点	207
写真図版 12 淨津寺跡遺跡第 56 地点(1)	208
写真図版 13 淨津寺跡遺跡第 56 地点(2)	209
写真図版 14 鶴ヶ岡外遺跡第 7 地点試掘調査	210
写真図版 15 鶴ヶ岡外遺跡第 7 地点本調査	211
写真図版 16 鶴ヶ岡外遺跡第 7・8 地点	212
写真図版 17 亀久保堀跡遺跡第 34 地点試掘調査	213
写真図版 18 亀久保堀跡遺跡第 34 地点本調査	214
写真図版 19 脊林遺跡第 42 地点試掘調査	215
写真図版 20 脊林遺跡第 42 地点本調査	216
写真図版 21 本村遺跡第 9 地点(1)	217
写真図版 22 本村遺跡第 9 地点(2)	218
写真図版 23 本村遺跡第 9 地点(3)	219
写真図版 24 川崎遺跡第 16 次(1)	220
写真図版 25 川崎遺跡第 16 次(2)	221
写真図版 26 川崎遺跡第 16 次(3)	222
写真図版 27 川崎遺跡第 16 次(4)	223
写真図版 28 川崎遺跡第 16 次(5)	224
写真図版 29 川崎遺跡第 16 次(6)	225
写真図版 30 川崎遺跡第 16 次(7)	226
写真図版 31 川崎遺跡第 16 次(8)	227
写真図版 32 川崎遺跡第 16 次(9)	228
写真図版 33 川崎遺跡第 16 次(10)	229
写真図版 34 川崎遺跡第 16 次(11)	230
写真図版 35 ふじみ野市出土の古代律令期の墨書き器①	231
写真図版 36 ふじみ野市出土の古代律令期の墨書き器②	232

第Ⅰ部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果

第1章 遺跡と調査の概要

I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市では平成17年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」(旧上福岡市、旧大井町では昭和53年度から合併まで)として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は庁内関係各課と連絡調整を行い、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、建設課(民間の指定確認検査機関含む)への建築確認申請段階、都市整備課からの開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」(以下「埋蔵文化財事前協議書」)の提出を受けて事前協議を行う。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ現地踏査及び現況確認を実施、遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発行為に対して申請者と協議を行った。

協議後、文化財保護法第99条第4項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施している。またその個人の用に供する住宅(個人住宅)の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2020年度の試掘及び発掘調査は第2表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査25件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査1件、公共事業に伴う本調査0件、民間開発に伴う本調査1件を行った。開発面積は13,536.14m²で、そのうち実質調査面積は試掘1,559.31(本調査面積726.4)m²である。過去2年間の調査件数と調査面積を第1表に掲載する。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び活用と、調査体制の強化が求められるところである。

第1表 過去3年間の調査件数と面積一覧表

	試掘件数	個人住宅	原因者負担	調査原因の内訳
		本調査件数	本調査件数	
	開発面積m ²	開発面積m ²	開発面積m ²	
2018 (平成30年度)	39件	2件	1件	個人住宅13、分譲住宅13、共同住宅2、宅地造成1、店舗3、診療所兼住宅2、寄宿舎1、福祉施設1、駐車場2、道路拡幅1、建物解体1
	15,441.74	43.885	33.8	
2019 (平成31・令和元年度)	38件	3件	1件	個人住宅16、分譲住宅18、共同住宅3、診療所兼住宅1
	12,194.64	162.5	60	
2020 (令和2年度)	25件	1件	1件	個人住宅5、分譲住宅11、共同住宅7、事務所1、宅地造成1
	13,536.14	44.9	681.5	

第2表 2020(令和2)年度埋蔵文化財調査一覧表

No.	遺跡・地点名	申請地住所	開発面積 (m ²)	試掘面積	個人住宅等 本調査面積 民間開発 本調査面積	原因	試掘期間	調査措置
							本調査期間	
1	北野遺跡第 50 地点	北野 2-2122-12	85.76	4.5		個人住宅	11/12	試掘調査
2	北野遺跡第 51 地点	北野 1-3059-1・4 の各一部	499.00	124		共同住宅	11/13	試掘調査
3	川崎遺跡第 56 地点	川崎 2-7-11・16	316.00	74.45		分譲住宅	9/8・9	試掘調査
4	川崎遺跡第 57 地点	川崎字宮前 127-2	168.00	44.7	44.9	個人住宅	2/4	試掘調査
5	ハケ遺跡第 28 地点	福岡 3-1363-7	157.79	46.75		事務所	9/10・11	試掘調査
6	椎現山遺跡第 29 地点	海 1-4-11・17	98.00	26.4		分譲住宅	4/14～17	試掘調査
7	滝遺跡第 36 地点	滝 3-3-28	668.54	67		分譲住宅	4/6・7	試掘調査
8	滝遺跡第 37 地点	滝 2-6-7	181.00	36.6		分譲住宅	4/15・16	試掘調査
9	長宮遺跡第 59 地点	長宮 2-1-15	405.12	42.1		共同住宅	11/10	試掘調査
10	鶴ヶ舞遺跡第 38 地点	鶴ヶ舞 1-69-75	130.14	27.9		分譲住宅	7/13	試掘調査
11	鶴ヶ舞遺跡第 39 地点	鶴ヶ舞 1-59-1～4・9	733.00	13.7		個人住宅	9/25	試掘調査
12	鶴ヶ舞遺跡第 40 地点	鶴ヶ舞 1-106-2	114.80	17.24		分譲住宅	10/5	試掘調査
13	鶴ヶ舞遺跡第 41 地点	鶴ヶ舞 1-69-36 の一部	81.34	13.5		分譲住宅	10/19	試掘調査
14	鶴ヶ舞遺跡第 42 地点	鶴ヶ舞 1-79-27	94.23	9		分譲住宅	11/12	試掘調査
15	松山遺跡第 103 地点	松山 2-1-4 の一部・1-5	462.00	137		共同住宅	6/10～12	試掘調査
16	松山遺跡第 104 地点 (北側)	池上 356-1、357、360 の各一部	1,586.87	64.75		宅地造成	9/28・29	試掘調査
17	松山遺跡第 104 地点 (南側)	池上 355、356-1、357、360、361 の各一部	2,944.13	4		宅地造成	9/28・29	試掘調査
18	江川東遺跡第 27 地点	仲 2-1-8	257.87	77.65		共同住宅	10/22・12/25	試掘調査
19	東久保遺跡第 78 地点	東久保 1-169-3	63.14	7.4		分譲住宅	12/10	試掘調査
20	駒林遺跡第 42 地点	新駒林 2-310-1	899.00	149.29		個人住宅	5/18	試掘調査
21	東中学校西遺跡第 37 地点	ふじみ野 4-3-2	624.00	127.8		共同住宅	2/16・17	試掘調査
22	西ノ原遺跡第 179 地点	苗間 1-2-1・12-13	468.00	93.9		共同住宅	2021.4/12～21	本調査
23	神明後遺跡第 58 地点	苗間字神明後 301-1	732.41	35.7		個人住宅	3/22	試掘調査
24	苗間東久保遺跡第 35 地点	苗間字東久保 641-1	581.00	31.9		分譲住宅	8/4・5	試掘調査
25	本村遺跡第 9 地点	大井 2-18-6	1,086.00	261.98	681.5	分譲住宅	6/26・29	試掘調査
合計			13,536.14	1,559.31	44.90		1/12	本調査
					681.50		1/25～2/1	試掘調査
							2/22～3/26	本調査

第3表 2020(令和2)年度立会調査一覧表1 (埋蔵文化財包蔵地内)

No.	遺跡・地点	申請地住所	開発面積 (m ²)	原 因	立会日	備 考
1	北野	北野1-3127-20・27、3126-43・39	93.79	個人住宅	6/1 立会	6/1 根切立会時一部試掘、遺構遺物なし、慎重工事
2	北野	北野2-1788-9	128.00	個人住宅	6/29・8/25 立会	既存建物撤去立会時一部試掘、遺構遺物なし、工事立会
3	北野	北野2-1-7(2130-2・10)	115.60	個人住宅	7/31 立会	7/31 基礎撤去時立会
4	北野	北野2-1810-6	104.74	分譲住宅	11/9 立会	既存建物撤去時一部試掘、地表面下100cmでも遺構面検出できず、工事立会
5	北野	北野2-2125-2 (住居表示 3-7)	116.71	分譲住宅	1/5 確認調査	1/5 基礎撤去立会時一部試掘、現地表面下90~100cmで遺構確認面、基礎の深さは32cmで保護層有工事立会
6	北野	大原1-2074-7	87.95	個人住宅	2/8、3/17 立会	既存建物撤去立会時一部試掘、現地表面下80~90cmでも確認面検出できず、工事立会
8	川崎	川崎字宮脇138-1	1,087 m ² のうち 4 m ²	アンテナ支持 コンクリート柱建設	1/27 立会	1/27 立会、溝状の落込みが見られたため再立会実施予定
9	ハケ	福岡3-1481-7	1.00	土地利用に伴う小社新設工事	1/22 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
11	滝	滝3-3-40~3-28	35.20	ガス管新設工事	6/17・18 立会 立会、板磚3枚出	
12	長宮	長宮2-1-72~1-15	11.66	ガス管新設工事	1/27 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
13	亀居	亀久保2-8-8	75.15	建物解体工事	5/20 立会	立会時一部試掘、遺構遺物なし
14	亀居	亀久保2-975-17・18	153.63	建物解体工事	8/7 立会	
15	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞1-79-4・26、79-4 地先	2.00	電柱移設工事	1/12 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
16	富士見台横穴群 (住居表示 14-17)	富士見台612-4	105.00	個人住宅	6/29 立会	試掘なし、6/29 立会
19	松山	栗地3-1-28~26	18.80	ガス管新設工事	8/17~18 立会	8/17~18 立会済
20	松山	松山2-1	24.00	ガス管新設工事	8/7 立会	
22	松山	仲2-4-15	15.00	ガス管新設工事	11/24・25 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
23	松山	松山2-6-29	4.00	本柱・支継新設・撤去工事	3/11 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
25	江川東	東久保1-145-13、146-14	115.00	個人住宅	1/20 立会	既存建物撤去立会、慎重工事
26	東久保西	ふじみ野2-10-18	115.85	分譲住宅	7/8 立会	試掘なし、根の隣立会
27	駒林	新駒林3-723-1・2	1.94	ガス管新設工事	5/29・30 立会	
28	駒林	新駒林3-723-2	1.00	土地利用に伴う電柱新設工事	9/24 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
29	西ノ原	旭1-8-1	2.00	土地利用に伴う電柱移設工事	7/1、8/26 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
32	神明後	商間228-1	3.00	電柱移設工事	11/30・ 3/16 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
33	神明後	商間292-1~293-4	20.40	ガス管新設工事	2/9 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
34	苗間東久保	苗間東久保648-14	78.94	分譲住宅	10/1 立会	現地盤土の為試掘なし、工事立会
35	苗間東久保	苗間635先	4.00	支持物代替 (本柱・支継新設・撤去) 工事	1/20、4/9 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
36	淨禪寺跡	苗間字東久保722-1	1.00	支柱新設	9/12 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
37	淨禪寺跡	苗間字神明前567-1	4.00	基地局建設	11/19 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
38	大井宿	大井1-6-23・24	466.00	建物解体工事	7/2 立会	解体立会時確認調査、遺構確認面まで1.2~1.5m、慎重工事
39	大井宿	大井1-6-24	4.00	電柱移設工事	9/12・2/8 立会	掘削面横抜く調査不可、工事立会
40	大井氏館跡	大井1-6-9の一部	249.00	自家用倉庫	3/25 立会	

第4表 2020(令和2)年度立会調査一覧表2 (埋蔵文化財包蔵地外)

No.	遺跡・地点	申請地住所	開発面積 (m ²)	原 因	立会日	備 考
1	鶴ヶ岡外近接	亀久保字大野原 1696-3 (約2,700)	119,405.96	教場新設	1/18 立会	
2	西近接	西1-5930-3、5931-3	1,060.00	分譲住宅	5/7 立会	
3	北野近接	大原2-1735-1 外4筆	40,280.18	建物解体工事	6/19 立会	
4	上福間貝塚近接	福岡2-1500-72	3,400.03	店舗建設	7/21・9/1 立会	
5	長宮近接	花ノ木1-2-5、中福間字百目木 189-4	1,058.32	分譲住宅	6/1 立会	
6	亀居近接	大井中央4-10-2・3・4	1,225.66	事務所及び駐輪場	6/27 立会	
7	亀居近接	鶴ヶ舞3-13-3	1,932.30	店舗	1/21 立会	
8	駒林隣接	新駒林2-316-1 の一部	151.61	個人住宅	4/14 立会	
9	東中学校西隣接	ふじみ野1-8-8	1,977.00	共同住宅	8/17・9/2 立会	
10	西ノ原隣接	うれし野2-15-52	114.00	個人住宅	5/30 立会	
11		亀久保 1150	26,446.07	工場・事務所・危険物保管庫	9/18 立会	1,000 m ² 以上

II 立地と環境

ふじみ野市は、首都圏 30 km 圏内の県南西部に位置する。2005(平成 17)年 10 月 1 日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積 14.64 km²、人口は 2019(平成 30)年 7 月現在 113,297 人である。

旧上福岡市地域では明治・大正時代頃までは畑作と稻作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道(大井宿)や新河岸川(福岡河岸)、東武東上線(上福岡駅)などの交通網が発達した交通の要所でもあった。現在も市内には国道 254 号バイパス、東武東上線、川越街道(国道 254 号線)、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線・福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畠地や田園風景も多くみられる。

昭和初期の太平洋戦争時には、旧福岡村に通信施設や旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(火工廠)が建設され、戦後の昭和 30 年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和 60 年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も行われた。現在は上福岡駅周辺の再開発と、ふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行われている。

ふじみ野市を地形的みると、武藏野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武藏野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武藏野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高 180 m、扇端部は標高 15 ~ 20 m で比高差 10 m 前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地(大井台)がある。この大井台の中を 3 本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禪寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は從来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武藏野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫できた旧河道(埋没河川)、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

III 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれている。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

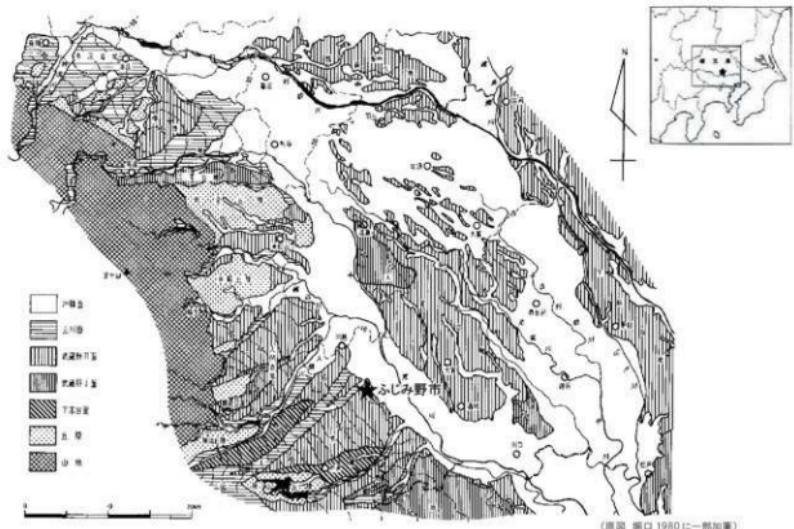
【旧石器時代・縄文時代】 市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡(川越市)が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期開山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鶯森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームIII層～X層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあ



第1図　ふじみ野市の位置と周辺の地形

と再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり 5 ~ 6 m の急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期である A.T 降灰前（立川ローム第VII層）の石器を本村遺跡の微高地から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳 11 基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2 号墳）1 基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3 基がある。ハケ遺跡第 16 地点の調査（2014）で、古墳の周溝から、6 世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見されたが、古墳の形態や主体部については不明である。また第 19 地点の調査（2015）では 6 世紀代の円墳 3 基が新たに発見され、群集墳であることが判明した。

他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7 世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約 1.5 km の台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は 10 世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は 9 世紀後半ごろまで続く。

8 世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8 世紀中葉～9 世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに 9 世紀以降 10 世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは銅帶金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】 駒林遺跡では 14 世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毬跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは 13 ~ 16 世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15 世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16 世紀後半～17 世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禪寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

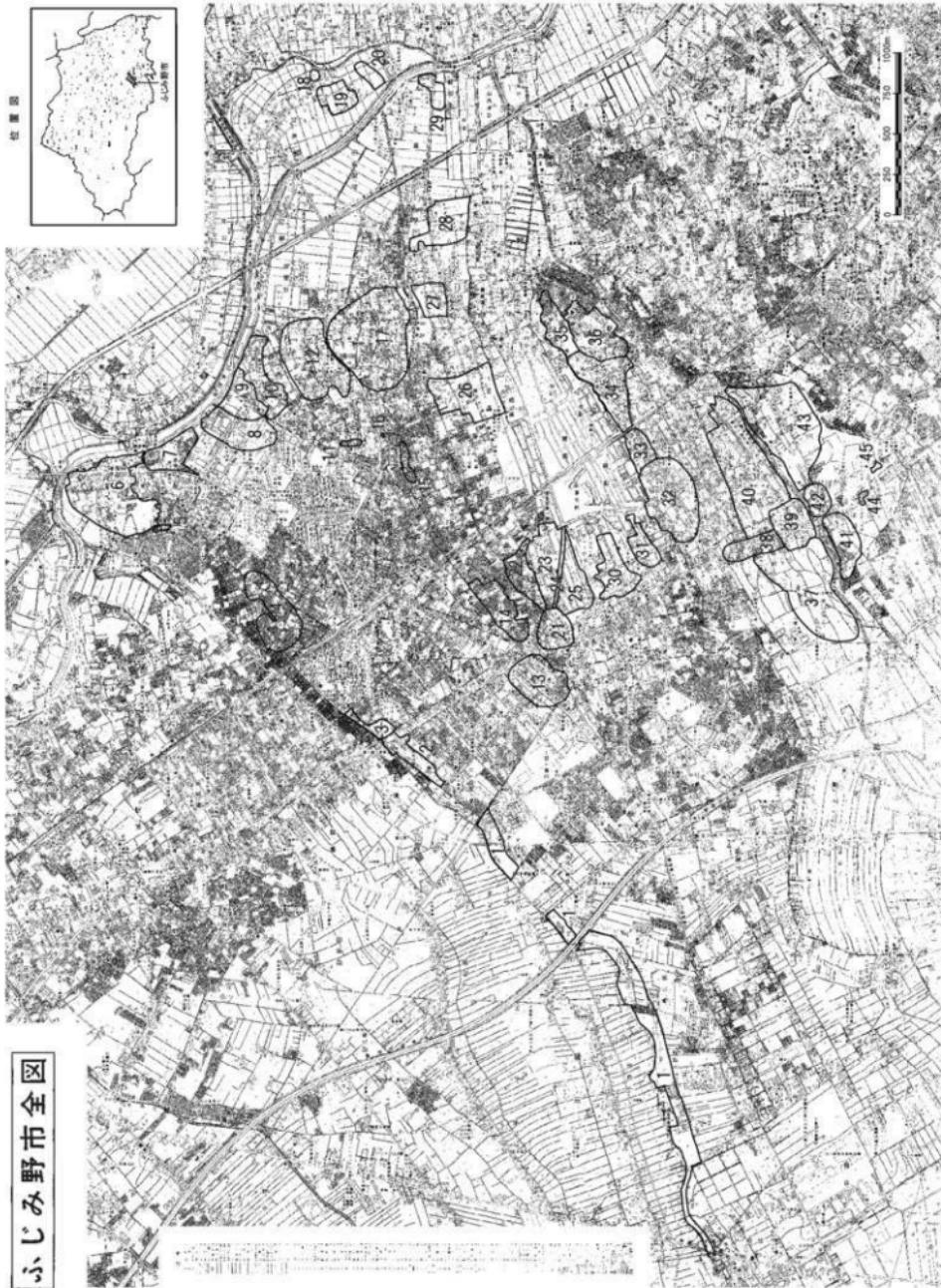
【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禪寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所（通称造兵廠「火工廠」）の跡地で、防爆土壁・防空壕・水溜・消火栓・排水溝などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。

位置図



ふじみ野市全図



第2図 ふじみ野市道路分布図 (1/30,000)

第5表 ふじみ野市遺跡一覧表

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落跡	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落跡、6世紀代の古墳群	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山遺跡群(古墳群)	古墳前期の集落跡、古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落跡	25-007
10	瀬遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落	30-046
15	富士見台	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期・近世の集落跡	30-009
24	龜久保坂跡遺跡	中世の坂跡	30-006

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の堀跡、中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世の寺院	25-015
28	黒森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐鳥遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・後期・奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安	30-041
35	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期の集落跡	30-020
36	淨禪寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井氏館跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期・奈良・平安・近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔塙	中世の散布地	30-027

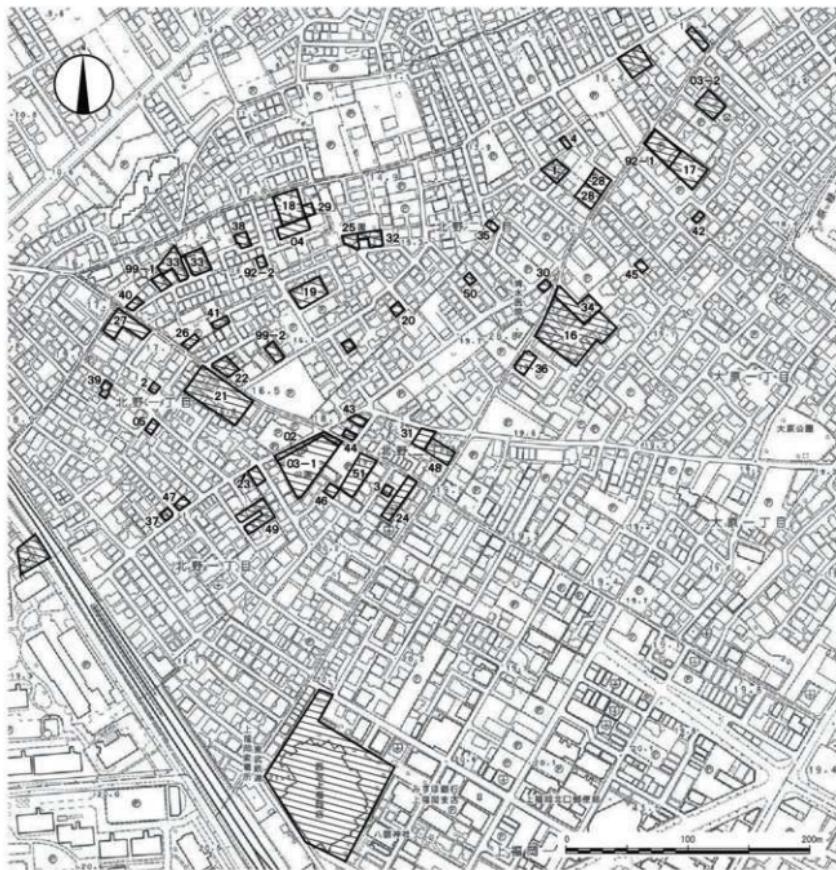
第2章 北野遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高 17 ~ 18m の台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北 250 m、東西 650 m 以上の遺跡である。上福岡駅まで 600 m に位置する利便性のため、昭和 30 年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1km 上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965 年の分布調査、1970 年代後半の宅地開発で縄文時代早～中期の土器片が採集され、1980 年以来 2021 年 4 月現在 51ヶ所で試掘調査が行われている。縄文時代中期と平安時代の住居跡各 1軒、中世以前とみられる溝等を検出、縄文時代中期深鉢土器の顔面把手等も採集されている。



第3図 北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第6表 北野遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試査)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	北野 2-2110-1 の一部、2112-1	(2006.4.7)	408	(44)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 3
2	北野 1-3119-11	(2006.8.4)	131		個人住宅	遺構遺物なし	H18-ふ生、市内 3	
3	北野 1-3061-4	(2006.4.28)	148		分譲住宅	遺構遺物なし		市内 3
4	北野 2-8-3	(2006.8.24)	58		個人住宅	遺構遺物なし	H18-ふ生	
92-1	大原 2-2079-1	(1992.6.19 ~ 22)	617		駐車場	遺構なし、土師器片	上堆 15	
92-2	北野 2-1809-1	(1992.8.6)	138		個人住宅	遺構遺物なし	上堆 15	
99-1	北野 2-1797-5	(1999.7.2)	157.4		個人住宅	遺構なし、縄文土器片	上堆 22	
99-2	北野 2-1787-1	(1999.8.9 ~ 12)	179.1		個人住宅	遺構なし、縄文土器片	上堆 22	
02	北野 1-3058-1、3114-1 の一部	(2002.11.28 ~ 29)	100		公園歩道	遺構遺物なし		上堆 25
03-1	北野 1-3058-1、3114-1 の一部	(2003.7.1 ~ 11)	1,484		公園	遺構遺物なし		上堆 26
03-2	大原 2-2081-6	(2003.8.8 ~ 11)	350		宅地造成	土坑、縄文土器片	上堆 26	
04	北野 2-1827-1 ~ 3	(2004.4.16 ~ 19)	435		共同住宅	遺構遺物なし	上堆 27	
05	北野 1-3129-3 ~ 20	(2005.12.2)	101		個人住宅	遺構遺物なし	H17-ふ生	
16	大原 1-2070-1、2071-1	(2009.4.8 ~ 10)	1,888	(296)	宅地造成	ピット、縄文土器等		市内 8
17	大原 1-2079-1・6	(2009.10.13 ~ 17)	412	(122.5)	共同住宅	土坑、縄文土器		市内 8
18	北野 2-1828-2・12、1829-1・2	(2009.3.9 ~ 18)	507.9	(178)	分譲住宅	縄文時代住居跡1、古代住居跡1、土坑、ピット、縄文土器等		市内 8
19	北野 2-1821-1・2、1820-4	(2010.12.1 ~ 2)	476.3	(74)	共同住宅	ピット、遺物なし		市内 10
20	北野 2-1835-11	(2011.8.11)	61.3	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
21	北野 1-3117-3、3118-1	(2011.12.8 ~ 20)	830	(281)	分譲住宅	昭跡、縄文土器等		市内 14
22	北野 2-1788-8 の一部	(2012.2.6 ~ 8)	207.1	(48)	分譲住宅	遺構なし、遺物器		市内 14
23	北野 1-3111-4(1)・4(4-9)、2(8.2.8)		140.8	(1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
24	生野 1-3063-1	(2012.9.13 ~ 14)	335	(60)	分譲住宅	土坑、縄文土器		市内 15
25	北野 2-1833-3(2-6-6)	(2012.12.10)	142.7	(25)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
26	北野 2-1795-3	(2012.12.14)	117	(23)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
27	北野 1-3119-11	(2014.5.7)	481	(50.25)	共同住宅	遺構なし、縄文土器		市内 20
28	北野 2-2110-9	(2014.5.27 ~ 28)	100.6	(17.25)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 20
28	北野 2-2110-8	(2014.5.27)	101.4	(14)	個人住宅	石臼土坑、溝、縄文土器		市内 20
		2014.5.28		3.5				
29	北野 2-1830-8	(2014.10.14 ~ 15)	83.7	(16.5)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 20
30	北野 2-2067-8	(2014.10.30 ~ 11.5)	75.9	(12.8)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 20
31	北野 2-2130-4・9	(2015.8.18)	179	(21.5)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
32	北野 2-1841-7 他	(2015.8.27)	209	(4.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 22
33	北野 2-1801-3・4・42・43	(2015.12.1 ~ 8)	627.69	(169.55)	分譲住宅	第1石土坑、第2石土坑、縄文土器		市内 19
34	大原 2073-1	(2015.12.7 ~ 8)	276.13	(24)	共同住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
35	北野 2-2116-4	(2015.12.8)	53	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
36	大原 1-2058-10・11 の各一部	(2016.2.15 ~ 16)	212	(31.16)	共同住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
37	北野 1-3127-23・25	(2016.3.25)	70.25	(2.76)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
38	北野 2-1807-6・7・8、1808-3・5	(2016.7.29)	106.9	(9.5)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 24
39	北野 1-3129-27・28	(2016.12.5)	119	(21)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
40	北野 2-5-27	(2017.1.30 ~ 31)	65	(12.42)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
41	生野 2-1794-2 の一部	(2017.2.20 ~ 21)	157.49	(13)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
42	大原 2-5692-9	(2017.7.6)	63.83	(7.6)	分譲住宅	土坑、土器片		市内 24
43	北野 2-2129-11	(2017.8.4)	86.67	(7.7)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 24
44	北野 2-2129-7	(2017.12.14)	68.59	(2)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
45	大原 1-2049-7	(2018.4.16)	119.04	(7.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
46	北野 1-3065-18	(2019.3.12)	103	(0.49)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
47	北野 1-3127-12	(2019.7.8)	74.46	(4.83)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
48	北野 2-2130-1	(2019.8.28)	275.23	(55.5)	共同住宅	土坑、縄文土器		市内 25
49	北野 1-3109-8・15	(2020.1.29)	429.64	(71.96)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 25
50	北野 2-2122-12	(2020.11.12)	85.76	(4.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 26
51	北野 1-3059-1・4 の各一部	(2020.11.13)	499	(124)	共同住宅	遺構なし、縄文土器等		市内 26

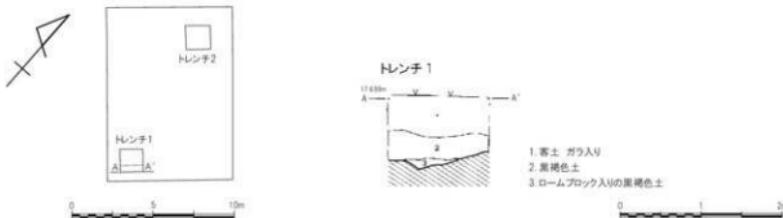
II 北野遺跡第 50 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 8 月 31 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 11 月 12 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は約 1.5m 四方のグリッドを 2ヶ所設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 70 cm である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 4 図 北野遺跡第 50 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

III 北野遺跡第 51 地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 10 月 5 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 11 月 13 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 2m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ~ 50 cm である。

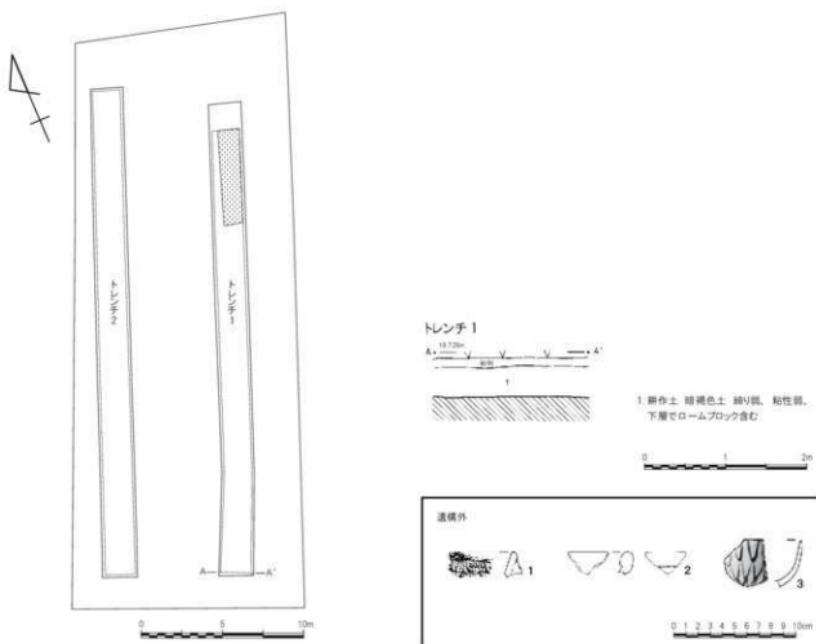
調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

出土遺物はすべて遺構外からの出土である。詳細については第 5 図及び第 7 表に掲載した。

第7表 北野遺跡第51地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第5図-1	遺構外	繩文式土器	—	—	—	—	口縁部片、陰帯に横位のキャタピラ文	繩文中期前半
第5図-2		瀬戸美濃系陶器擂鉢	—	—	—	—	口縁部片、玉縁状、鉄輪	17世紀後半
第5図-3		肥前系磁器小碗	—	—	—	—	輪轍成形、呉須、手描、外面一重網目文	18世紀前半



第5図 北野遺跡第51地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)、出土遺物(1/4)

第3章 川崎遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

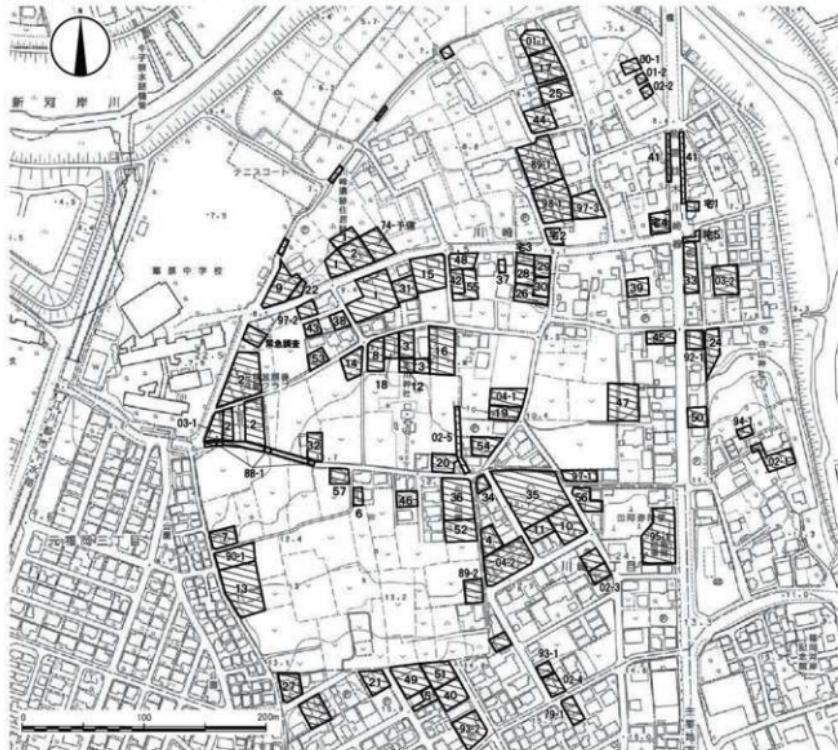
川崎遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は 400 ~ 500 m、台地の基部から先端へ 1 km にわたる緩やかに傾斜しており、標高は最南部で 18 m、最北部では 8 m を測る。遺跡の範囲は南北 600 m、東西 500 m 以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、煙も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917(大正 6) 年頃、台地の先端部で貝塚が確認され 1928(昭和 3) 年の調査では川崎貝塚として報告された。1967 年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2021 年 4 月現在 90 ヶ所で調査を行っている。

主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑、縄文時代と中世以降の貝塚等である。また、旧石器時代の遺物も出土している。

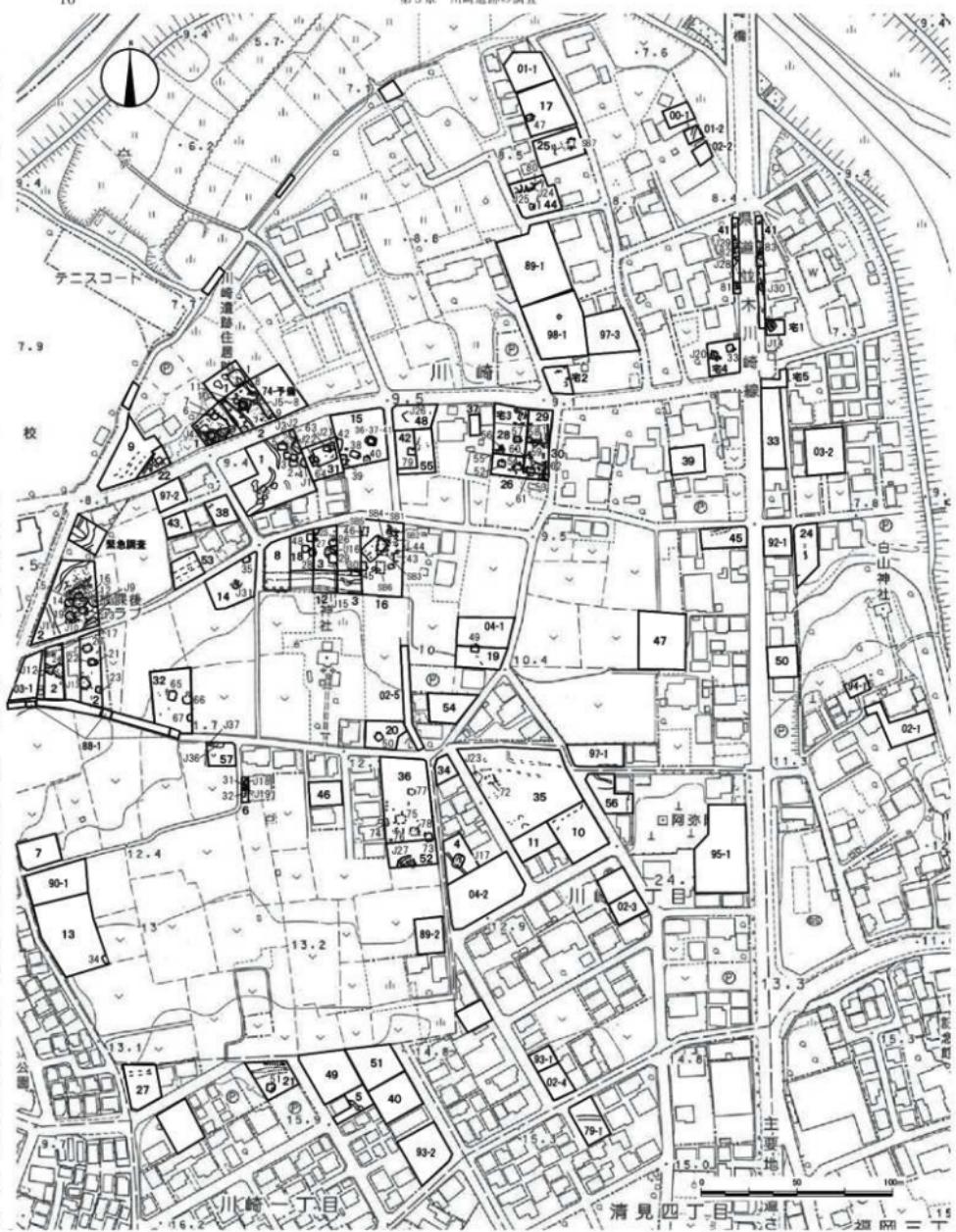


第 6 図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第8表 川崎遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
74- 予備	川崎 160	(1974.3.25 ~ 4.4)	84		事前調査	炉穴、土坑、ビット、縄文土器等		上濃調
1 次	川崎 162 ~ 176	1974.7.20 ~ 9.19	1,800		事前調査	縄文時代住居跡3、古墳時代住居跡 1、古代住居跡7、焼土、集石、土坑、 塙跡、溝、井戸、地下式坑、縄文土器、 土師器等	川崎 1 次	
緊急調査	大字川崎字宮後 168-3	1975.3.30 ~ 5.10	198		個人住宅	溝、縄文土器等		上濃調
宅 1	大字川崎字宅地番 221	1975.6.8 ~ 29	50		個人住宅	縄文時代住居跡1、貝殻、縄文土器等	宅地添 1 次 A 地区	上濃調
2 次	川崎 137 ~ 174	1975.9.4 ~ 12.5	3,055		事前調査	縄文時代住居跡6、古代住居跡10、 炉穴、土坑、ビット、溝、井戸、縄文土器、 土師器等		川崎 2 次
3 次	川崎 149-6	1977.11.1 ~ 12.3	300		宅地造成	縄文時代住居跡2、古代住居跡6、 柱穴、溝、縄文土器、土師器等		川崎 3 次
宅 2	川崎 198	1978.5.15 ~ 25	170		宅地造成	土坑、ビット、遺物なし		上埋 I
宅 3	川崎 230	1978.5.23 ~ 31	130		宅地造成	井戸、溝、地下式坑、遺物なし	宅地添 3 次 C 地区	上埋 I
4 次	川崎 2-5-2	1979.4.19 ~ 5.11	304		宅地造成	縄文時代住居跡1、ビット、溝、縄 文土器等		上埋 II ~ IV
5 次	川崎 1-1-4	1979.9.26 ~ 10.10	152		宅地造成	洪積土構造、遺物なし		上埋 II
79-1 清見 4-3-11	(1978.11.12 ~ 19)	260			宅地造成	溝、縄文土器		上埋 II
6 次	川崎 102-5	1979.12.3 ~ 8	30		プレハブ家屋	縄文時代住居跡2、古代住居跡2、 柱穴、溝、縄文土器等		上埋 II
7 次	川崎宮前	1981.11.27 ~ 30	316		個人住宅	遺構なし、平安土器		上埋 IV
8 次	大字川崎字宮前 148-1	1984.1.17 ~ 26	400		住宅建設	溝、縄文土器		上埋 VI
宅 4	川崎宅地添 219-2 ~ 3	1984.9.25 ~ 10.9	301		住宅建設	縄文時代住居跡1、古代住居跡1、 縄文土器、須恵器等		上埋 VII
9 次	川崎字宮前口 172- 1・2	1986.9.11 ~ 20	495		個人住宅	溝、縄文土器等		上埋 IX
10 次	川崎 224-1	1987.11.24 ~ 30	603		個人住宅	溝、石井		上埋 X
11 次	川崎 2-6-2	1988.5.10 ~ 17	289		住宅建設	遺構遺物なし		上埋 XI
88-1 市道 402 号線	(1988.9.19 ~ 21)	60			下水道設置	遺構遺物なし		上埋 XI
89-1 川崎字宅地添 196-1	(1989.4.10 ~ 18)	1,045			住宅建設	遺構遺物なし		上埋 XII
89-2 川崎字宮前 58-2	(1989.10.3 ~ 6)	264			住宅建設	遺構遺物なし		上埋 XII
12 次	川崎字宮前 149-4 ~ 5	1990.4.20 ~ 27	311		住宅建設	溝、遺物なし		上埋 XIII
13 次	川崎字宮前 122	1990.5.1 ~ 17	480		住宅建設	古代住居跡1、土師器		上埋 XIII
90-1 川崎字宮前 122	(1990.5.18 ~ 23)	530			範囲確認	遺構遺物なし		上埋 XIII
14 次	川崎字宮前 145-2	1990.10.1 ~ 31	499		個人住宅	縄文時代住居跡1、古代住居跡1、 貝塚、遺器等		上埋 XIV
15 次	川崎字宮前口 160-1	1991.10.23 ~ 11.20	499		個人住宅	古代住居跡7、土坑、縄文陶器、垂 耳土器、石製鋤耕車等		上埋 XIV
92-1 川崎字山内 9-5	(1993.2.18 ~ 19)	168			店舗併用住宅	遺構遺物なし		上埋 XV
93-1 川崎 2-2-10・11	(1993.8.24)	131			個人住宅	遺構遺物なし		上埋 XVI
93-2 川崎 1-1-1 の一部	(1993.9.10 ~ 13)	422			共同住宅	遺構遺物なし		上埋 XVI
94-1 川崎字台 258-外 1 番	(1994.11.17 ~ 24)	230			機材置場	遺構遺物なし		上埋 XVII
95-1 川崎 2-7-2・3		1,126			消防署	遺構遺物なし		上埋 XVIII
16 次	川崎字宮前 150-2・3	(1995.12.4 ~ 8) 1995.12.11 ~ 1996.3.8	828		駐車場 資材置場	縄文時代住居跡3、古代住居跡4、 古代立柱建物跡6、堅穴状遺構、 土坑、溝、井戸、縄文土器		H7 上社、上 淮 18、市内 26
17 次	川崎字宅地添 204 の 一部	(1996.7.8 ~ 12) 1996.7.15 ~ 23	779	(779) 130	宅地造成 個人住宅	古代住居跡1、墨書き土器、須恵器等		上埋 XV
18 次	川崎字宮前 148-3	1996.11.18 ~ 12	198		個人住宅	古代住居跡3、土師器等		上埋 XV
97-1 川崎字山内 21	(1997.4.14)	367			宅地造成	溝、遺物なし		上埋 XVI
97-2 川崎字宮前口 165-6	(1997.10.20)	204			個人住宅	遺構なし、縄文土器片		上埋 XVI
97-3 川崎字宅地添 199- 1・2・5	(1998.2.12 ~ 16)	780			個人住宅	遺構遺物なし		H9 上社
99-1 川崎字宅地添 197-1	(1998.10.27 ~ 11.6)	996			宅地造成	溝、縄文土器等		上埋 XVI
市道 402 号線 2 次	川崎字宮前、宮脇地内	2000.2.21 ~ 25	496		道路敷設	縄文時代住居跡1		H11 上社
00-1 川崎字宅地添 209 の 一部	(2000.6.19 ~ 22)	123.3			個人住宅	遺構なし、貝殻、縄文土器等		上埋 XX
01-2 川崎字宅地添 209 の 一部	(2001.6.12 ~ 25)	100			車庫	溝、土坑、縄文土器等		上埋 XX
19 次	川崎字宮前 157 の一部	2001.9.18 ~ 10.4	289		個人住宅	古代住居跡1、土坑、土師器等		上埋 XX
01-1 川崎字宅地添 204-1	(2001.10.29 ~ 30)	825			平地造成	遺構なし、縄文土器片、貝殻等		上埋 XX
02-1 川崎 249-1 の一部	(2002.5.13)	341			倉庫	遺構なし、縄文土器等		上埋 XX
02-2 川崎 210-1・2 の一部	(2002.10.28 ~ 29)	561			共同住宅	溝		H14 上社
02-3 川崎 2-4-16	(2002.12.24)	228			個人住宅	遺構遺物なし		H14 上社
02-4 川崎 2-2-12	(2003.3.13)	165			個人住宅	遺構遺物なし		H14 上社
03-1 川崎 137-1 の一部	(2003.8.6 ~ 7)	257			個人住宅	遺構なし、縄文土器片		上埋 XX
02-5 川崎字宮前 155 先	(2003.3.26)	164			市道 401 号線	遺構遺物なし		H14 上社

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
03-2	川崎字宅地226-16	(2003.12.8 ~ 19)	381		個人住宅	遺構遺物なし		上地 26
宅 5	川崎字宅地222-3先	2004.2.16 ~ 18	88		市道381号線	古墳時代住居跡 1、壺型土器		H15上社
04-1	川崎字宮前157-1の一部	(2004.6.14 ~ 15)	421		個人住宅	壺、土器等		上地 27
04-2	川崎 2-5-1	(2004.11.11 ~ 4)	881		宅地造成	遺構遺物なし		上地 27
20 次	川崎字宮前153-5	(2005.11.22 ~ 27)	257		個人住宅	古墳時代住居跡 1、土器等		市内 1
21	川崎 1-6-10の一部	(2006.4.11)	298	(124)	個人住宅	古代住居跡 1、溝、縄文土器等		市内 3
		2006.4.14 ~ 20						
22	川崎 171-1、174-10	(2007.4.16 ~ 23)	104	(104)	消防団車庫	炉穴、土坑、溝、地下式坑、穴掘、 壺型土器、瓦塔、花瓶等		市内 4
24	川崎字宅地225-3	(2007.10.4)	319	(26)	共同住宅	溝、土器片		市内 4
25	川崎字宅地203-3の一部、203-3の一部	(2008.4.15 ~ 17)	1,033	(55)	個人住宅	古代庭柱建物跡 1、土坑、ピット、 溝、地下室、灰陶陶器、縄文土器等		市内 6
26	川崎字宅地230-5	(2008.4.21)	228		個人住宅	古代住居跡 4、土坑、ピット、井戸、 壺型土器等		市内 6
27	川崎 1-7-1	(2008.5.15 ~ 21)	350	(112)	分譲住宅	土坑、溝、縄文土器等		市内 6
28	川崎字宅地230-7	(2008.7.10 ~ 8.8)	434	(160)	個人住宅	古代住居跡 3、土坑、溝、土器等		市内 6
29	川崎字宅地230-1の一部	(2008.7.9 ~ 11)	203	(108)	個人住宅	古代住居跡 2、土坑、ピット、溝、 壺型土器、土器等		市内 6
30	川崎字宅地230-6	(2008.7.17)	200		個人住宅	古代住居跡 4、土坑、ピット、溝、 井戸、灰陶陶器、壺型土器等		市内 6
31	川崎字宮前161-1・5・6の一部	(2009.10.28)	304	(103)	個人住宅	縄文時代住居跡 2、古代住居跡 2、 土坑、ピット、縄文土器、壺型土器等		市内 8
32	川崎字宮前140の一部	(2011.2.24 ~ 3.2)	396	(166.5)	個人住宅	古代住居跡 3、土坑、ピット、溝、 壺型土器等		市内 10
33	川崎字宅地226-5	(2011.4.14 ~ 21)	438	(135)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 14
34	川崎 2-5-4	(2011.7.25 ~ 26)	117.8	(23)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 14
35	川崎 2-6-4 ~ 7・9	(2011.9.27 ~ 11.24)	1,924	(668)	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、 土坑、ピット、溝、縄文土器、壺型 土器等		市内 14
36	川崎字宮前100-1	(2011.12.15 ~ 26) 2012.1.10 ~ 17	1,096	(439) 22	公園整備	古代住居跡 6、土坑、ピット、溝、 壺型土器、壺型土器等		市内 14
37	川崎字宅地232-1	(2012.9.3)	1,298	(15)	個人住宅	遺構なし、須恵器		市内 15
38	川崎字宮前165-3	(2013.2.29)	176	(25) 5	個人住宅	燒土、ピット、縄文土器等		市内 15
39	川崎字宅地227-1	(2013.3.4 ~ 5)	1,121.33	(34)	個人住宅	遺構なし、縄文土器等		市内 15
40	川崎 1-1-7	(2013.10.11 ~ 17)	447	(172.5)	共同住宅	遺構なし、陶器		市内 18
41	川崎 218-1他	2014.8.1 ~ 10.31	419		道路	縄文時代住居跡 3、古代住居跡 3、 炉穴、土坑、ピット、溝、灰跡、 縄文土器、須恵器等		樹海文 420
42	川崎字宅地233-3	(2015.6.26 ~ 7.2)	200	(39)	集合所	古代住居跡 1、土器等		市内 22
43	川崎字宮前165-5・8・9	(2015.6.26)	175.21	(20)	個人住宅	燒土、縄文土器等		市内 22
44	川崎字宅地202-1・8	(2015.11.24 ~ 12.10) 2016.1.5 ~ 20	273.56	(124)	分譲住宅	縄文時代住居跡 2、古代住居跡 1、 貝塚、土坑、ピット、溝、地下室式坑、 縄文土器、須恵器等		市内 19
45	川崎字山向8-4、7-7・8	(2017.2.22 ~ 24)	254.72	(55.65)	個人住宅	溝、縄文土器等		市内 24
46	川崎字宮前101-5、103-8	(2017.3.13)	199	(4)	個人住宅	振り込み遺構、須恵器		市内 24
47	川崎字山向15-1、16-1	(2017.12.19)	749	(5)	資材置場	遺構遺物なし		市内 24
48	川崎字宅地234-1	(2018.8.27 ~ 30)	266	(41)	個人住宅	縄文時代住居跡 1、ピット、溝状、 遺構、縄文土器等		市内 25
49	川崎 1-1-5	(2019.2.7 ~ 8)	509	(106.41)	分譲住宅	樹切り溝、縄文土器等		市内 25
50	川崎字山向10-4の一部	(2019.4.8)	120	(20)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
51	川崎 1-1-6	(2019.5.8 ~ 9)	394	(97.14)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
52	川崎字宮前99-1	(2019.5.22 ~ 24) 2019.5.28 ~ 6.19	635	(172.4) 82.5	個人住宅	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、 瓦片		市内 25
53	川崎字宮前166-1・9 ~ 11	(2019.11.5 ~ 6)	212	(47.5)	分譲住宅	焼跡、縄文土器等		市内 25
54	川崎字宮前155-6	(2020.2.20 ~ 21)	313.62	(23.25)	個人住宅	遺構なし、泥炭土		市内 25
55	川崎字宅地232-4、233-1の各一部	(2020.3.16 ~ 17)	235	(22.35)	個人住宅	溝、須恵器等		市内 25
56	川崎 2-7-11・16	(2020.9.8 ~ 9)	316	(74.45)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 26
57	川崎字宮前127-2	(2021.2.4) 2021.2.5 ~ 12	168	(44.7) 44.9	個人住宅	縄文時代住居跡 2、集石土坑、溝、 縄文土器等		市内 26



第7図 川崎遺跡遺構分布図(1/2,500)

第9表 川崎遺跡縄文時代住居跡一覧表(単位cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率 ()は推定	平面形	規模	炉 地 床 石 器 骨 貝			拡 張 溝	主軸方位	時期	備考	所収告書	
						地 床 体	炉 石 器	骨 貝						
1	1974	第1次 LN03	2/3	方形	430 × 380	○				N-16-E	法螺a		川崎1次、市史貢1	
2	1974	第1次 LN19	2/3	長方形	- × 550	○			(4)	N-42-E	黒浜		川崎1次、市史貢1	
3	1974	第1次 LN20	2/3	長方形	560 × 420	○			○	N-59-E	黒浜		川崎1次、市史貢1	
4	1975	第2次 LN70	1/2	圓丸長方形	- × 330						黒浜		川崎2次、市史貢1	
5	1975	第2次 LN73		圓丸長方形	350 × 260	○				N-6-W	花瓶下層?		川崎2次、市史貢1	
6	1975	第2次 LN74		圓丸長方形	820 × 810	○				N-80-W	前期	LN73・74・76・ 77の頭で構築	川崎2次、市史貢1	
7	1975	第2次 LN76		不整形	390 × 290	○				N-10-E	前期		川崎2次、市史貢1	
8	1975	第2次 LN77		圓丸長方形		○					前期		川崎2次、市史貢1	
9	1975	第2次 LN08	1/2	圓丸長方形	- × 570	○				N-88-E	間山		川崎2次、市史貢1	
10	1975	第2次 LN34		不整形	520 × 480					N-15-W	黒浜?	H19住・LN35と 重複	川崎2次、市史貢1	
11	1975	第2次 LN35					未検出					10I住・H19住と 重複	川崎2次、市史貢1	
12	1975	第2次 LN25	大部分	長方形	- × 450	未検出				N-68-W	間山	H24住と重複	川崎2次、市史貢1	
13	1975	第2次 LN50	1/2 以上	長方形	620 × 460	○				N-35-W	間山		川崎2次、市史貢1	
14	1975	宅地添1次	完掘	不整形台形	390 × 410	○				N-22-W	早期未量~ 前期初頭	貝塚作う	上塙調	
15	1977	第3次 J7		不明							花瓶下層		川崎3次、市史貢1	
16	1977	第3次 J8		不整形							花瓶下層		川崎3次、市史貢1	
17	1979	第4次 1号住居	完掘	圓丸長方形	645 × 505	○				N-36-E	黒浜		上塙II・IV、市史貢1	
18	1979	第6次 1A								○	黒浜	1B・1Cと重複	上塙II、市史貢1	
19	1979	第6次 1C								○	黒浜	1A・1Cと重複	上塙II、市史貢1	
20	1984	市地添第4次2号住居	完掘	納鏡形	円径 3 ~ 4m	○	(1)	○			加賀村		上塙VI	
31	1990	第14次 3号住居	完掘							N-52-E	間山I	貝塚を作う	上塙13、市史貢1	
32	1995	第16次 3号住居								○	黒浜	少跡のみ		
33	1995	第16次 4号住居								○	黒浜	炉跡のみ	H7上社、市内26	
34	1995	第16次 2号住居	完掘	長方形	1200 × 800					N-45-E	黒浜	大型住居		
35	2000	市道402号線 2次									間山		H11上社	
21	2009	第31地点 J21号住居	75%	納鏡形	(500) × 420		(2)				将名寺I		市内8	
22	2009	第31地点 J22号住居	25%						○	○	加賀村 E IV		市内8	
23	2011	第35地点 J23号住居	一部	台形か 長方形	520 × -						黒浜	未検出	市内14	
24	2015	第44地点 J24号住居	一部	円形か方形		○		○ ○			黒浜	H80住と重複	市内19	
25	2015	第44地点 J25号住居	一部	円形か 圓丸方形					○		黒浜	地下式坑と重複	市内19	
26	2018	第48地点	一部	円形か 圓丸方形								前期?		市内25
27	2019	第52地点	75%	圓丸長方形	940 × (600)	○				N-72-E	黒浜		未報告	
28	2014	第41地点 2号住居		楕円形	(430 × 110)					N-0	黒浜		痕跡文420	
29	2014	第41地点 4号住居		圓丸方形	(490 × 200)					N-7-E	間山	1号住と重複	痕跡文420	
30	2014	第41地点 5号住居		方形	(370 × 350)					N-7-E	茅山上層	土坑・炉穴と重複	痕跡文420	
36	2020	第57地点 J36号住居	一部	圓丸方形	(820 × 200)	○					黒浜		市内26	
37	2020	第57地点 J37号住居	一部		(214 × 62)						黒浜		市内26	

II 川崎遺跡第 56 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 8 月 31 日付けて「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 9 月 8・9 日にかけて試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 cm である。

調査の結果、時期不明の溝 3 条を確認した。出土遺物はない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

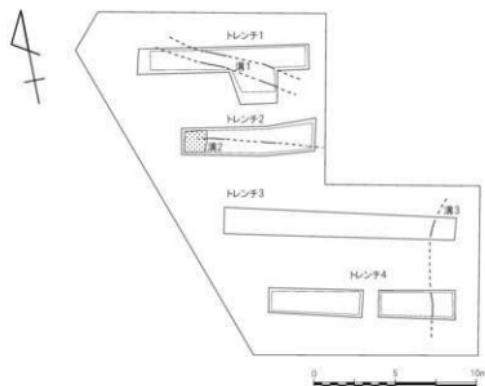
① 溝

溝 1 及び溝 2 は調査区北側、溝 3 は調査区南東部で検出した。規模等の詳細については第 10 表に掲載した。

【溝 1】 N-59°-W に走行する。底部は凹凸があり、幅約 20 cm の工具痕が残る。

【溝 2】 走行方向は N-70°-W。底部に凹凸はなく平坦である。断面形態は溝 1 と類似するが覆土が異なるため、時期差があるものと想定される。

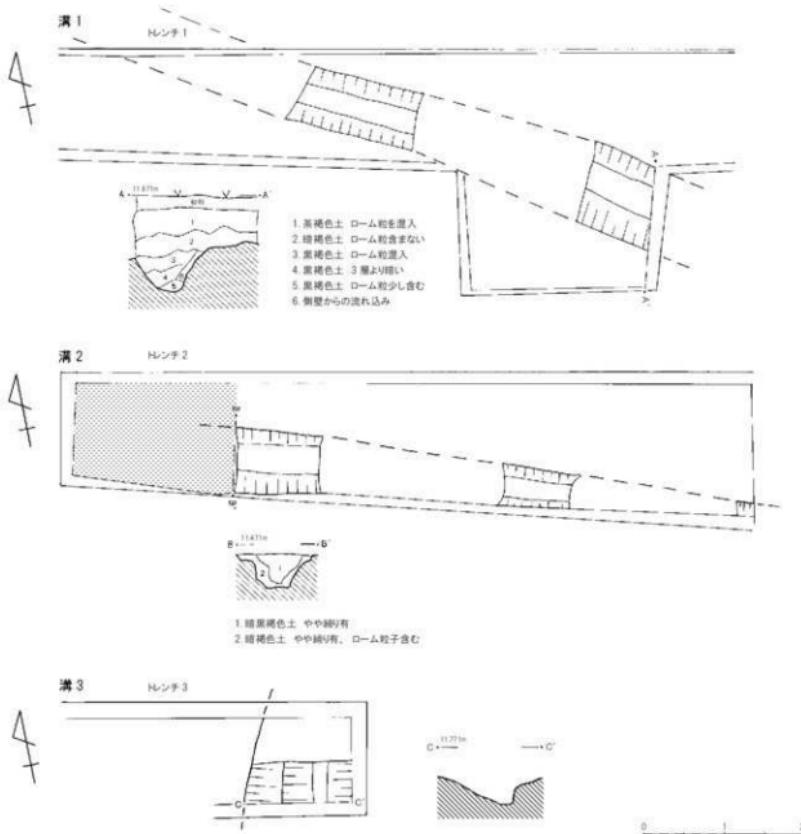
【溝 3】 南北方向に走行する。西に向かって緩やかに立ち上がる。覆土は軟質の暗褐色土が主体で、明確な時期は不明だが近世以降の地境の可能性が考えられる。



第 8 図 川崎遺跡第 56 地点遺構配置図 (1/300)

第 10 表 川崎遺跡第 56 地点溝一覧表 (単位 cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ
1	逆台形	71 ~ 100	25 ~ 36	60.9
2	逆台形	90	23 ~ 37	40.2
3	U字形	130	20	52.8



第 9 図 川崎遺跡第 56 地点溝 (1/60)

III 川崎遺跡第 57 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 12 月 6 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 2 月 4 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 cm である。

調査の結果、縄文時代住居跡 2 軒と集石土坑 1 基を確認した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は 2021 年 2 月 5 ~ 12 日まで、遺構が確認された部分について重機で表土除去後、人力による調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① J36 号住居跡

【位置・検出状況】調査区北側のトレンチ 1 で検出した。

【形状・規模】全容は不明だが、隅丸方形を呈するものと考えられる。規模は東西 (820) cm × 南北 (200) cm を測る比較的大型の住居である。

【構造】中央部北寄りに炉と考えられる焼土跡を検出した。東西 110 cm × 南北 (72) cm を測り、北側調査区外へ延伸する。住居内で検出したピットについての詳細は第 11 表に掲載した。規模からピット 2 及びピット 5 は主柱穴と考えられる。

【遺物出土状況】遺物は、縄文土器片が僅かに覆土中より出土したのみである。遺物の詳細については第 13 図 1 ~ 11 及び第 14 表に掲載した。黒浜式の土器片を多く含む。

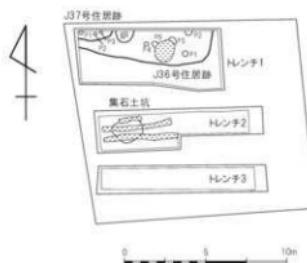
② J37 号住居跡

【位置・検出状況】調査区北西隅で検出した。J36 号住居跡の床面を掘り込んでつくられており、J36 号住居跡より新しい時期のものである。

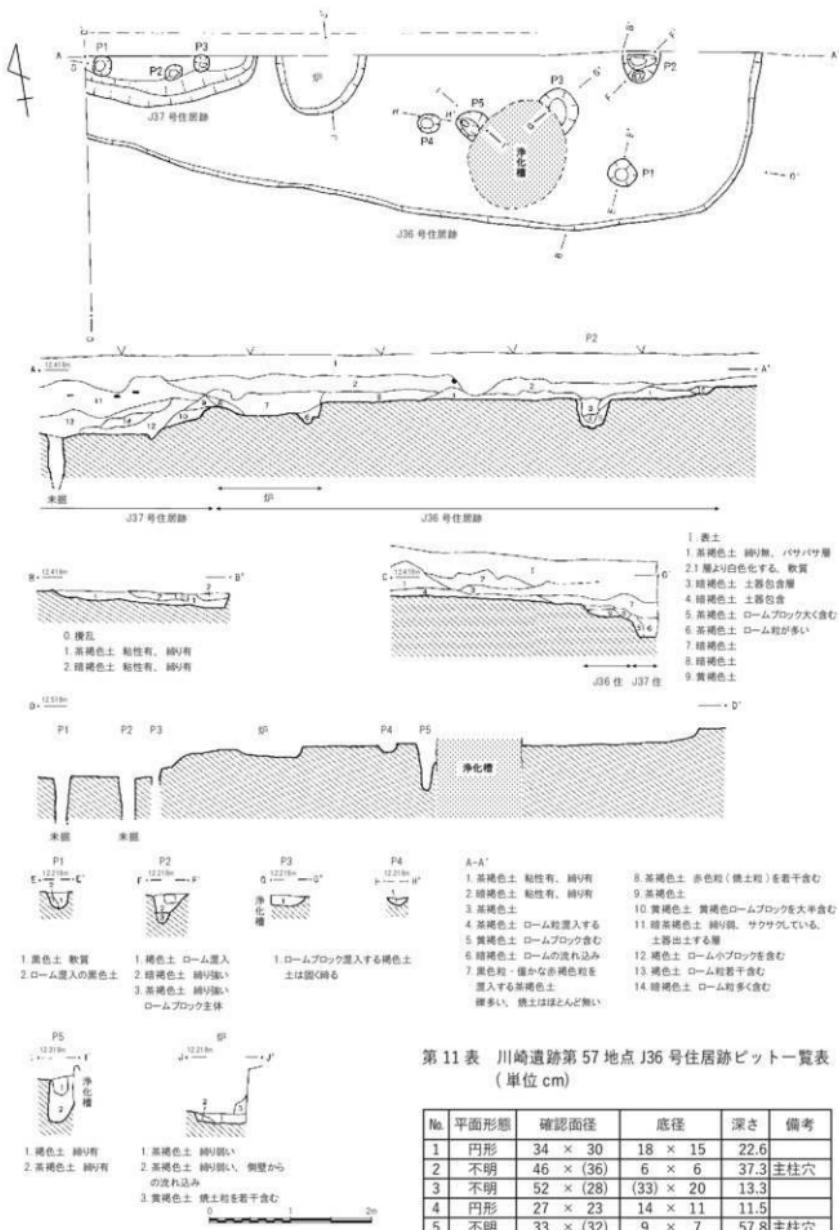
【形状・規模】住居の南東隅のみの検出であるため、全容は不明である。今回の調査で確認された規模は、東西 (214) cm × 南北 (62) cm である。

【構造】住居内でピット 3 基を検出した。詳細については第 12 表に掲載した。3 基はいずれも壁柱穴の可能性がある。

【遺物出土状況】出土遺物については第 13 図 12 ~ 22 及び第 14 表に掲載した。J36 号住居跡同様、黒浜式の破片を覆土中に含む。



第 10 図 川崎遺跡第 57 地点遺構配置図 (1/300)



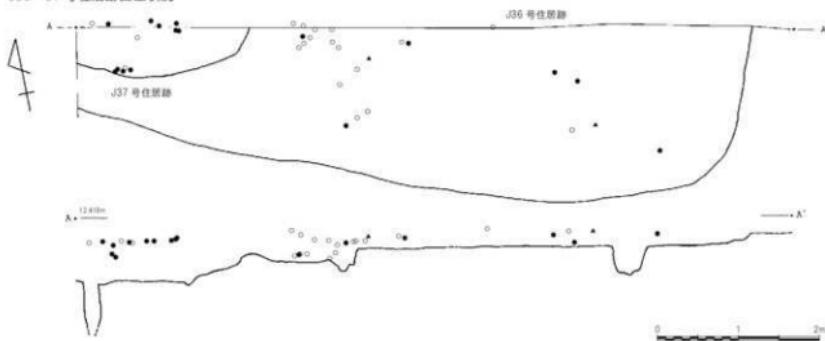
第12表 川崎遺跡第57地点J37号住居跡ピット一覧表
(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	26 × 23	12 × 11	64.2
2	円形	19 × 18	12 × 9	51.7
3	円形	21 × 18	13 × 9	9.7

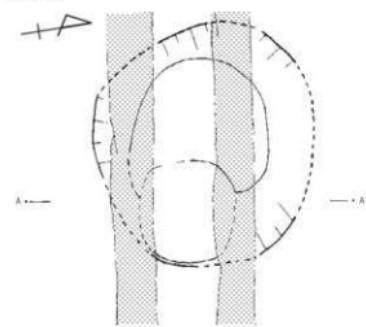
第13表 川崎遺跡第57地点集石土坑出土礫観察表(単位cm・g)

平面形態	確認面径	底径	深さ	點数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・ 煤付着数	タール・煤 未付着数
円形	150 × 137	64 × 60	15.8	163	5,466.80	33.53	155 (95.0%)	8 (5.0%)	48 (29.45%)	115 (70.55%)	29 (17.8%)	134 (82.2%)

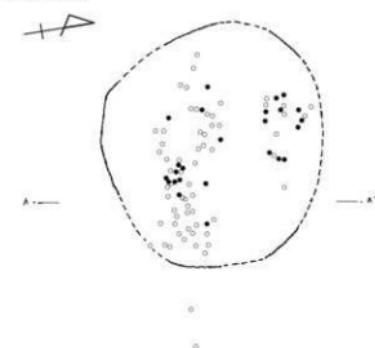
J36・37号住居跡出土状況



集石土坑



遺物出土状況

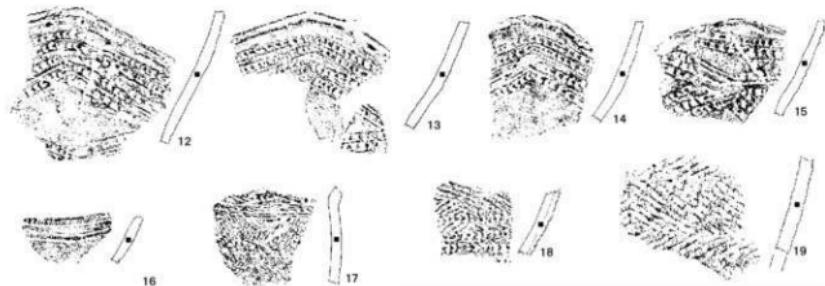


第12図 川崎遺跡第57地点J36・37号住居跡遺物出土状況(1/60)、集石土坑(1/30)

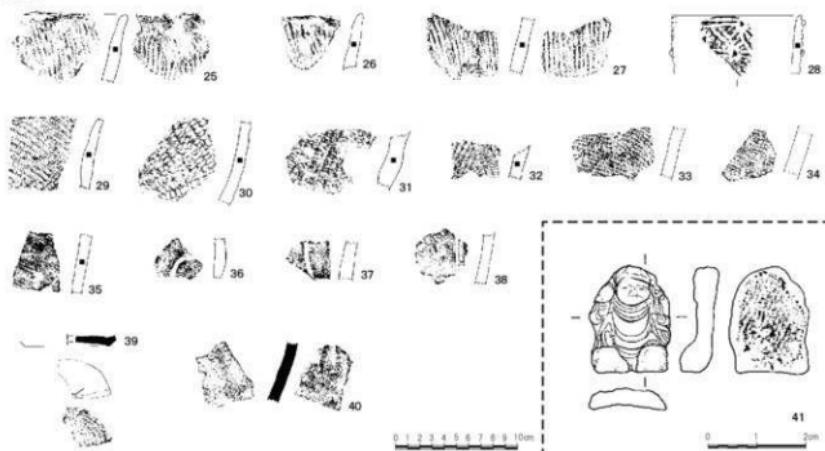
J36 号住居跡



J37 号住居跡



遺構外



第 13 図 川崎遺跡第 57 地点出土遺物 (1/4・1/1)

③集石土坑

調査区中央部やや西寄りで検出した。後世の歓跡に破壊されており、歓と歓の間に僅かに残存していた。確認できた遺構の規模は東西 150 cm × 南北 (136) cm を測る。

④出土遺物

遺構外からも縄文時代前期～中期の土器片が多く出土している。詳細については第 13 図 25～41 及び第 14 表に掲載した。その出土量から本地点周辺の縄文時代集落の広がりが想定できよう。

第 14 表 川崎遺跡第 57 地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 13 図 -1	J36 号住居跡	縄文式土器	胴部上位の文様帶、半裁竹管文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -2		縄文式土器	口縁部分、單節の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -3		縄文式土器	口縁部分、單節の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -4		縄文式土器	胴部片、單節の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -5		縄文式土器	胴部片、2 段 RL に 2 段 LR を対反に巻き付けた附加状、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -6		縄文式土器	胴部片、無筋の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -7		縄文式土器	胴部片、内外面貝殻状痕文、胎土に纖維を含む	縄文早期末
第 13 図 -8		縄文式土器	胴部片、胎土に雲母を含む	縄文中期前
第 13 図 -9		縄文式土器	口縁部分、胎土に雲母を含む	縄文中期末
第 13 図 -10		縄文式土器	胴部片、2 段 LR を充填した尖る逆「U」字型の区画文	縄文中期末
第 13 図 -11		縄文式土器	胴部片、細めの沈線に 2 段 LR を充填した区画文	縄文中期末
第 13 図 -12	J37 号住居跡	縄文式土器	13～16 是同一個体と考えられる、大 2・小 2 の波状の口縁と推定、2 本一組の半裁竹管文で菱形、三角の文様を構成か、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -13		縄文式土器	波状の口縁部分、半裁竹管文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -14		縄文式土器	胴部片、くびれ部、上位は半裁竹管文、下位は単節の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -15		縄文式土器	13～16 と同一個体の可能性もある	黒浜式
第 13 図 -16		縄文式土器	胴部片、無筋の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -17		縄文式土器	胴部片、無筋の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -18		縄文式土器	胴部片、無筋の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -19		縄文式土器	胴部片、無筋の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -20		縄文式土器	胴部片、無筋の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -21		縄文式土器	胴部片、2 段 LR の履位の綴文に沈線で区画し磨消縄文で無紋帯を構成	縄文中期末
第 13 図 -22		縄文式土器	胴部片、単節縄文、摩耗著しい	縄文中期
第 13 図 -23	集石	縄文式土器	胴部下半、無筋の附加条、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -24		縄文式土器	胴部片、無筋縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -25		縄文式土器	口縁部分、内外面貝殻条痕文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -26		縄文式土器	口縁部分、内外面貝殻条痕文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -27		縄文式土器	胴部片、内外面貝殻条痕文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -28		縄文式土器	小型土器の口縁部分、口縁部に沈線による锯齒状文とボタン状貼付文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -29		縄文式土器	口縁部分、2 段の RL、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -30		縄文式土器	胴部片、単節の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -31		縄文式土器	胴部片、無筋の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -32		縄文式土器	胴部片、無筋の羽状縄文、胎土に纖維を含む	黒浜式
第 13 図 -33		縄文式土器	胴部片、細かい 2 段の LR	縄文前期後葉か
第 13 図 -34		縄文式土器	胴部片、細かい 2 段の LR	縄文前期後葉半
第 13 図 -35		縄文式土器	胴部片、無紋部、胎土に纖維を含むか	縄文前期
第 13 図 -36		縄文式土器	胴部片、細かい単節縄文に太めの区画沈線と無紋帯で文様構成	縄文中期末
第 13 図 -37		縄文式土器	胴部片、太めの沈線	縄文中期末
第 13 図 -38		縄文式土器	胴部片、幅広な磨消縄文	縄文中期末
第 13 図 -39		須恵器坏	底部片、輪縁右回転、系部糸り離し、胎土に海綿骨針、南北比産業	9世紀
第 13 図 -40		須恵器壺	胴部片、内面當具痕をナデ調整、東金子産業か	9世紀
第 13 図 -41		泥面子	大黒天、製作り、裏面指領痕、江戸在地産	幕末～明治

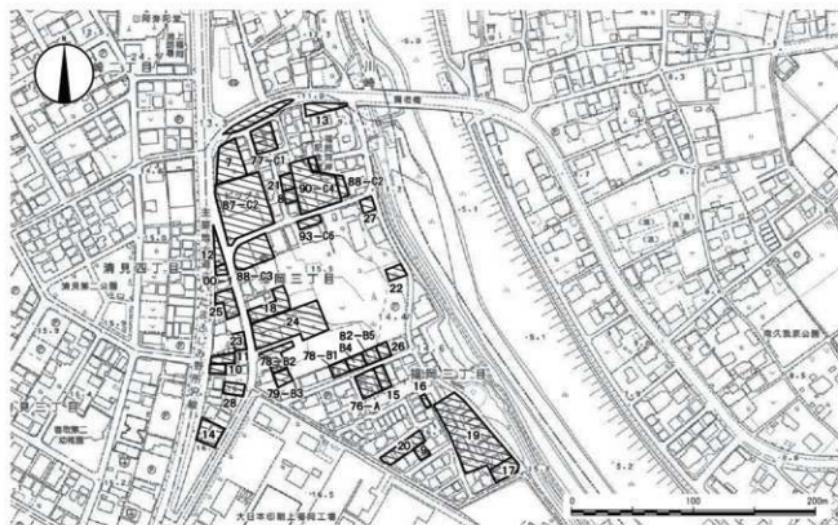
第4章 ハケ遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷がに入る。標高は14～16mで、遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に烟が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晚期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2021年4月現在34ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014年に第16地点の発掘調査で、古墳の周溝から6世紀の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土し、2015年の第19地点でも新たに3基の円墳を検出した。本遺跡は便宜上東西に走る道路によって南側からハケ遺跡A、ハケ遺跡B、ハケ遺跡Cと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。



第14図 ハケ遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第15表 ハケ遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試査)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
76-A	大字中福同字見違 1228～2021	1976.9.11～16	306		個人住宅	古墳時代住居跡1、堅穴式遺構、土 坑等	A-1次	上瀬岡、市史貢I
77-C1	大字中福同字清見 1480	1977.8.2～27	1,794		宅地造成	縄文時代住居跡5、古代住居跡2、 堅穴式遺構、炉跡、土坑、墨書き土 器等	C-1次	ハケC、市史貢I
78-B1	中福岡 1228-40	1978.8.28～9.10	165		個人住宅	遺構なし、縄文土器	B-1次	上瀬I、市史貢I
78-B2	中福岡 1181-2	1978.9.11～25	360		貸家	炉跡、土坑、縄文土器	B-2次	上瀬I、市史貢I
79-B3	中福岡 1228-37	1979.7.20～31	166			土坑、縄文土器	B-3次	上瀬II、市史貢I
82-B5	大字中福同字見違 1228-46	1982.5.10～17	165			溝、縄文土器	B-5次	上瀬V
87-C2	福岡 3-2068-1・2	1987.4.16～5.29	1,900		倉庫付住宅 改築	縄文時代住居跡11、古代住居跡4、 古代竪柱柱頭物跡1、土坑、縄文土 器、土師器等	C-2次	上瀬X、市史貢I
88-C3	福岡 2-2-1	1988.8.15～20	627		駐車場	縄文時代住居跡4、古代住居跡2、 縄文土器等	C-3次	上瀬11、市史貢I
88-C2	福岡 3-4-2	1988.10.24～28	60		擁壁改修	縄文時代住居跡2	C-試	上瀬11、市史貢I
90-C4	福岡 3-2069-1の一部 (旧福田屋敷地内)	1990.6.20～9.6 H3.1月末	500		河岸記念館 管理棟、 庭園成	旧福田屋敷柱石跡、竪治屋建物跡、 (磁石・火炎・物置跡・土石遺構)、 縄文時代住居跡8、古代住居跡3、 土坑、溝、縄文土器、土師器等	C-4次	H2上社、市史貢I、上瀬17
93-C6	福岡 3-1189-2、2065-2	1993.5.6～18	141.91		個人住宅	土坑、縄文土器	C-6次	上瀬16
00-1	福岡 3-1184-8	2000.1.26	100		個人住宅	遺構遺物なし	C-試(2)	上瀬22
7	福岡 3-2	(2006.7.10～22)	666	(130)	宅地造成	縄文時代住居跡3、古代住居跡4、 集石土坑、土坑、溝、井戸、縄文土器、 須恵器等	C-7次	市内3・13
7	福岡 3-1479-1	(2013.8.10～11)	712.35	(34.7)	分譲住宅			
8	福岡 3-2069-9	(2009.3.17)	99	(11)	個人住宅	縄文時代住居跡1、溝、縄文土器等	C-8次	市内6
9	福岡 3-1257-7, 1259-1	(2010.2.2～4)	120	(30)	個人住宅	土坑、縄文土器	C-9次	市内8
10	福岡 3-1363-14	(2013.4.22)	1223	(37)	個人住宅	溝、遺物なし		市内14
11	福岡 3-1363-11	(2011.4.21～22)	157.7	(30)	分譲住宅	居外埋甕、縄文土器		市内14
12	福岡 3-1472-1	(2012.9.24)	122	(22)	分譲住宅	ビット、縄文土器等		市内15
13	福岡 3-1484-1	(2013.10.3)	183	(2.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内18
14	福岡 3-1363-15	(2013.11.22)	144	(15.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内18
15	福岡 3-1228-19	(2014.4.8～9)	184.09	(64.7)	分譲住宅	土坑、縄文土器等		市内20
16	福岡 3-1254-7・14・ 17	(2014.8.11～9.2) 2014.9.3～9	68	(26.25) 19.36	分譲住宅	古墳1、人物・円筒埴輪、縄文土器等		市内20・21
17	福岡 3-1219-1・2	(2014.9.26～30)	98.58	(50.4)	分譲住宅	溝、縄文土器等		市内20
18	福岡 3-1182、2066-5	(2014.12.4～10) 2015.1.16～16	510.67	(107.85) 64	分譲住宅	縄文時代住居跡1、土坑、溝、縄文 土器		市内16・20
19	福岡 3-1222-1, 1223～1225、1255	(2015.4.2～5.11・ 10.13)	2,296	(572.6) 885	宅地造成	古墳3、礎石建物跡1、溝、ビット、 象形・円筒埴輪、縄文土器等		市内21・22
20	福岡 3-1252-1	(2015.10.14～16) 2015.10.29～30	375	(90.4) 33	分譲住宅	堅跡、土坑、火工窯境界机、ビット、 土師器等		市内21
21	福岡 3-1193-4・15、 2069-10	(2016.1.5)	101	(20.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内22
22	福岡 3-2061-3の一部	(2016.12.26～ 2017.1.19・9.11) 2017.1.25～2.8	249.32	(116.65) 40.5	分け自由会 集会施設	古代住居跡1、土坑、ビット、縄文 土器等		市内24
23	福岡 3-1183-1の一部	(2017.7.18)	137	(44.27)	個人住宅	ビット、縄文土器		市内24
24	福岡 3-1178-1、 1179-1、1180-1、 1181-1、2066-2、 2067	(2017.7.19～27) 2017.7.28～8.7	1,702.15	(446) 63.75	宅地造成	縄文時代住居跡1、堅穴式遺構、土坑、 集石土坑、ビット、縄文土器等		市内23
25	福岡 3-1184-5・6	(2018.6.12)	297	(68.27)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内25
26	福岡 3-1228-48	(2019.6.25～26)	135	(41.13)	分譲住宅	土坑、溝、須恵器、防錆車		市内25
27	福岡 3-2061-2	(2020.3.25～27)	226.22	(61.8)	共同住宅	遺構なし、縄文土器等		市内25
28	福岡 3-1363-7	(2020.9.10～11)	157.79	(46.75)	事務所	溝、縄文土器等		市内26



第15図 ハケ遺跡遺構分布図(1/1,500)

II ハケ遺跡第28地点

(1) 調査の概要

調査は自社社屋建設に伴うもので、原因者より2020年9月8日付けて「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年9月10・11日に試掘調査を実施した。

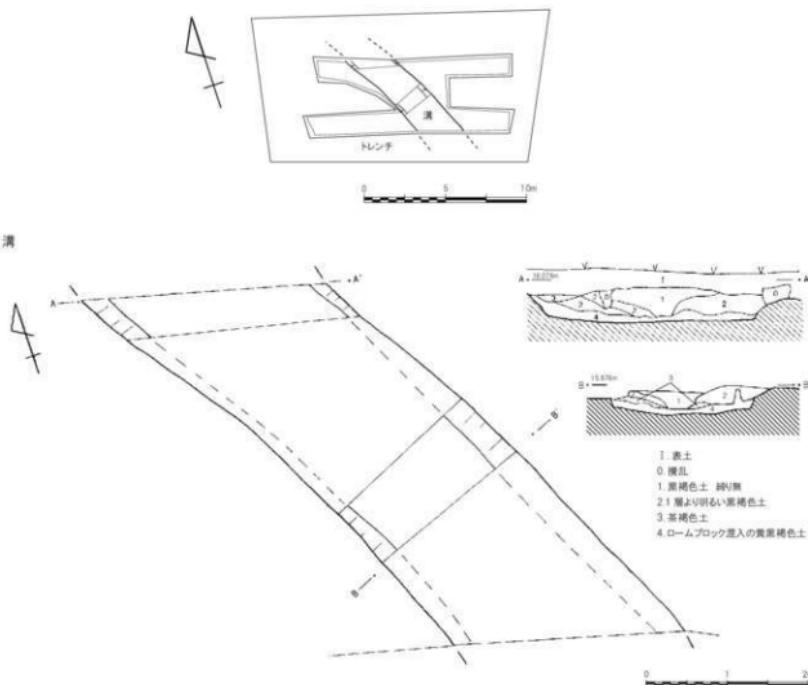
試掘調査は幅1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30cmである。

調査の結果、時期不明の溝1本を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①溝

調査区中央部で検出した。走行方向はほぼ南北方向を指向する。断面形態はU字状を呈し、遺構の規模は上幅212cm、下幅178cm、深さ32.8cmを測る。底面は比較的平坦である。本地点の北西に位置する第10地点の調査でも同様の溝が検出されており、規模や走行方向から同一であると考えられる。覆土中より縄文土器片が数点出土しているが、溝の時期を示すものではない。



第16図 ハケ遺跡第28地点遺構配置図(1/300)、溝(1/60)

②出土遺物

溝からは縄文土器片、遺構外では近世遺物が出土した。詳細については第 17 図及び第 16 表に掲載した。



第 17 図 ハケ遺跡第 28 地点出土遺物 (1/4)

第 16 表 ハケ遺跡第 28 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・偏考	時期・型式
第 17 図 -1	溝	縄文式土器	胸部片、2段の LR	縄文前期後葉
第 17 図 -2		縄文式土器	胸部片、断面正方形の突帯を持つ、胎土に雲母片含む	縄文中期前葉
第 17 図 -3		縄文式土器	胸部片、無筋縄文	縄文前期後葉
第 17 図 -4		縄文式土器	胸部片、単節縄文、沈線、無文帶	縄文前期後葉
第 17 図 -5		縄文式土器	胸部片、無文部	縄文中期後葉
第 17 図 -6		縄文式土器	胸部片、無文部	縄文前期後葉か
第 17 図 -7	遺構外	土製火鉢	土師質、内外面煤付着	江戸時代
第 17 図 -8		磁器碗	輪錐成形、コバルト、型紙刷	1880 年代一

第5章 権現山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

権現山遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面のいわゆる川崎台の南東端部に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。また、南側は旧清水という小川が流れる低地で、やはり急傾斜の斜面を形成する。標高は16～18mを測る。遺跡の範囲は南北300m、東西300m以上ある。

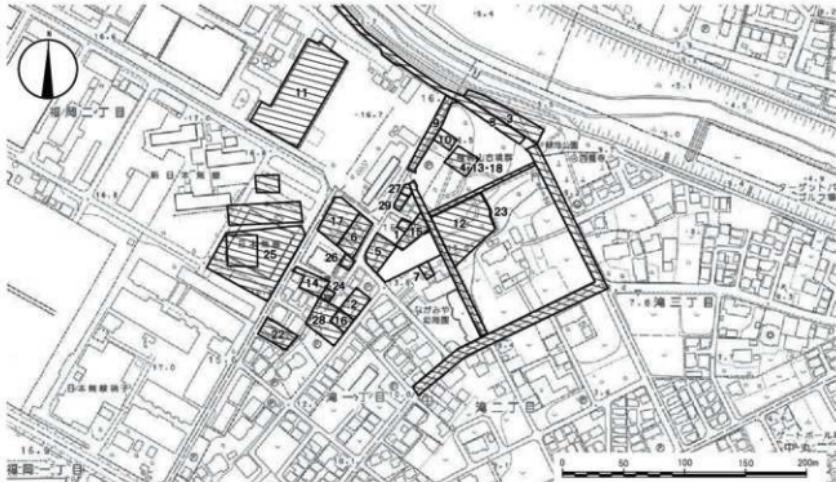
周辺の遺跡は、台地続きの北側に縄文時代前期・中期・晩期、古墳時代の集落がある著名な上福岡貝塚、台地下の低地面に縄文時代早期・前期、古墳から奈良・平安時代の集落である滝遺跡がある。

権現山遺跡は大正6年に安部立郎氏により「権現山といふ円形古墳」(安部1917)として紹介された。その後、1937年(昭和12年)に山内清男、関野克によって上福岡貝塚が調査された折に作成された遺構配置図には、新河岸川沿いに3群6基の古墳が記述されている。(山内1937)戦後は『埼玉県史』(1951)、『古墳調査報告書－入間地区－』(1961)等に古墳の記載がある。しかし、1965年に行われた通称「厄病塚」(権現山北古墳群2M・3M)の調査では古墳の確証が得られず、十三塚の可能性が考察されている。

一方、通称「権現山」(権現山古墳群2M)は徳川家康が鷹狩りに訪れたという伝承から、1963年に市指定文化財(上福岡市)に指定された。資料上の初見は元禄12(1699)年の「武州入間郡福岡村除地水帳」に「権現社地」の記載があり、塚の上には天保11(1840)年2月造立の「東照神祖命」の石造物が安置される。

その後1982年～1993年までの6次にわたる発掘調査により、古墳時代前期の古墳群(11基)が発見され、「権現山」はいわゆる前方後方墳であることが判明し、2002年3月22日県指定文化財に指定された。

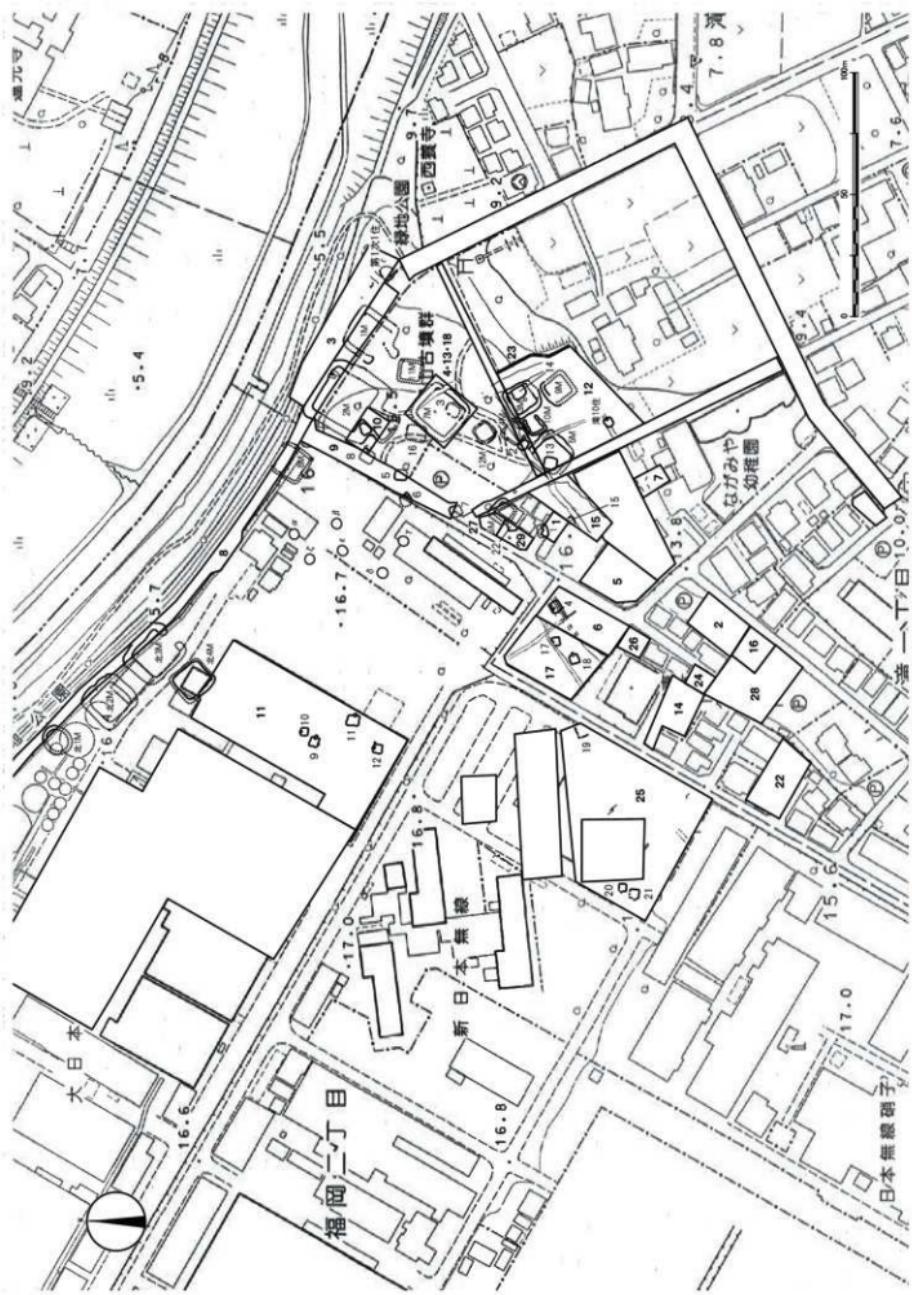
1982年以来2021年4月現在29ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代中期の集落、古墳時代前期の方形周溝墓群、古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落である。なお、滝遺跡の第3・5・9・10次調査および、1995年と2002年の試掘は権現山遺跡の範囲に入っているため、権現山遺跡第1・2・5～7・14・17地点へ変更した。



第18図 権現山遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第17表 権現山遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	渕 1-4-15	1980.6.27 ~ 7.3	76		個人住宅	古墳時代住居跡 1、窓 遺構遺物なし	旧渕遺跡 3 次	上埋Ⅲ
2	渕 1-3-21	1980.7.25 ~ 29	330		住宅建設		旧渕遺跡 5 次	上埋Ⅲ
3	渕 3-4-7	1982.1.20 ~ 2.6	50		自転車置場 (公共事業)	方形周溝墓、縄文時代住居跡 1、窓 文字土器等		S56 上社
4	渕 1-5-4	1982.12.8 ~ 28	200		範囲確認	方形周溝墓 6、古墳時代住居跡 1、 土坑、窓、縄文土器等		上埋Ⅴ、市史貢 I
		1983.5.18 ~ 6.28	100			方形周溝墓 1、古墳時代住居跡 1、 縄文土器等	旧 83-2 次	上埋Ⅵ
5	渕 1-4-4	1984.5.11 ~ 22	466		住宅建設	窓、土師器	旧渕遺跡 9 次	上埋Ⅶ、市史貢 I
6	渕 1-3-17	1984.6.1 ~ 12	363		住宅建設	古墳時代住居跡 1、土坑、ビット、窓、 土師器等	旧渕遺跡 10 次	上埋Ⅷ、市史貢 I
7	渕 1-4-2	1984.6.28 ~ 30	33		物置	龜石、土坑、ビット、陶磁器等	旧渕遺跡 11 次	上埋Ⅸ、市史貢 I
8	大字福岡 1500	1985.1.20 ~ 2.25			道路整備	方形周溝墓 2、古墳 3、彫形土器等		S59 上社、市史貢 I
9	渕 1-4-8	1985.8.9 ~ 9.9	430		範囲確認	古墳時代住居跡 2、古代住居跡 1、 土坑、土師器、土製防護柵等	旧 85-4 次	上埋Ⅹ
10	渕 1-5-9・10	1986.2.10 ~ 22	202		範囲確認	方形周溝墓 1、古墳時代住居跡 1、 土坑、ビット、土師器等	旧 85-5 次	上埋Ⅺ
11	福岡 3-1187-4	1988.6.7 ~ 14	3,200		工場増築	古墳 1、古代住居跡 4		
12	渕 1-6-6	1989.2.20 ~ 3.6	2,000		農地改善	方形周溝墓 4、古墳時代住居跡 3、窓		上埋 11、市史貢 I
		1989.5.8 ~	1,724			方形周溝墓 4、古代住居跡 1		H1 上社
13	渕 1-5-4	1993.7 ~ 8			範囲確認	古墳 2、高坪等		市史貢 I
14	渕 1-3-13	1995.11.27 ~ 30	462		共同住宅	遺構遺物なし	旧渕遺跡 95-1	上埋 18
15	渕 1-4-3	1996.4.15 ~ 5.7	396		個人住宅	古墳時代住居跡 1、窓、土師器	旧 96-9 次	上埋 19
16	渕 1-3-49	2002.5.29 ~ 30	165		個人住宅	遺構なし、縄文土器等	旧渕遺跡 02-1	上埋 25
17	渕 2-6-2	2004.5.17 ~ 27	856		範囲確認	古代住居跡 2、土師器等		上埋 27
18	渕 1-5-4	2006.4.25 ~ 27			古墳整備			
19	宇都宮 2-1500-23				工場増築		立会のみ	
20	(工場内)							
21								
22	渕 1-3-58 ~ 60				住宅建設			
23	渕 1-6-7	(2008.10.23 ~ 29)	1,576	(12)	古墳整備	土坑、龜石、土師器等		市内 6
24	渕 1-3-25	(2013.5.17)	90	(5.7)	個人住宅	遺構なし、土師器等		市内 18
25	福岡 2-1-1	(2014.6.2 ~ 7.18)	3,588	(996.75)	事務所	古代住居跡 3、炉穴、土坑、窓、土 師器等		市内 16
		2014.7.22 ~ 9.2	86					
26	渕 1-3-23	(2015.11.30)	97	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
27	渕 1-4-6	(2017.7.3 ~ 4)	63	(25)	分譲住宅	ビット、縄文土器等		市内 24
28	渕 1-3-3	(2019.2.25 ~ 26)	624	(131.99)	分譲住宅	ビット、縄文土器等		市内 25
29	渕 1-4-11 ~ 17	(2020.4.14 ~ 17)	98	(26.4)	分譲住宅	古代住居跡 1、土師器等		市内 26



第19図 埼玉山道路遺構分布図 (1/0.075)

第18表 権現山遺跡古代住居跡一覽表

II 権現山遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅に伴うもので、原因者より2020年3月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年4月14～17日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～50cmである。

調査の結果、古代住居跡1軒と土坑1基を検出したが、保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① H22号住居跡

H22号住居跡は調査区の東側で検出した。調査区外に広がるため、遺構全体の規模は不明だが、東西(360)cm×南北342cmを測り、隅丸長方形を呈するものと推測される。保護層の確保が可能であったため、詳細については不明である。

② 土坑

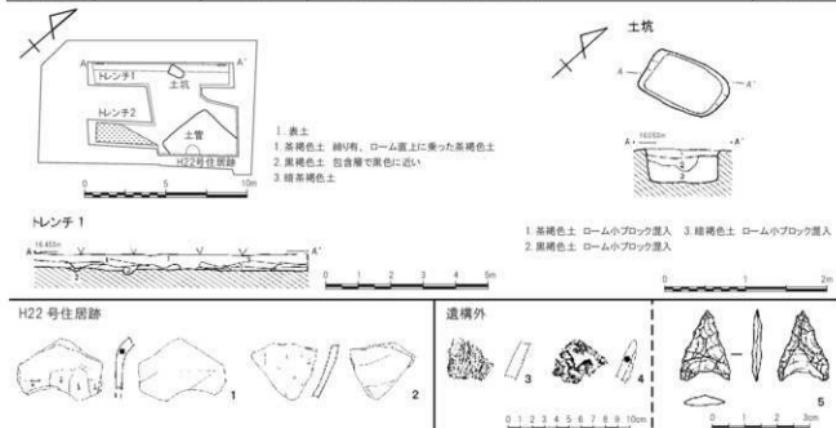
土坑は調査区北西部で検出した。平面形態は隅丸長方形を呈し、確認面径105×65cm、底径85×56cm、深さ40cmを測る。出土遺物がないため遺構の時期は不明であるが、覆土の特徴や形状から比較的新しい時期のものであると考えられよう。

③ 出土遺物

遺物はH22号住居跡の覆土中及び遺構外から出土した。詳細については第20図及び第19表に掲載した。

第19表 権現山遺跡第29地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第20図-1	H22号住居跡 遺構外	土器器壁	頭部片、口縁部ヨコナデ、頭部腹位のヘラケズリ	8世紀
第20図-2		土器器壁	頭部片、腹位のヘラケズリ	8世紀
第20図-3		縄文式土器	頭部片、外面部殺条痕文、胎土に纖維を含む	縄文早期末
第20図-4		縄文式土器	口縁部片、腹部に押圧文、沿ってキャビラ文	縄文前期末
第20図-5		石鏡	長さ2.2/幅1.5/厚さ0.25/重さ0.79	縄文期



第20図 権現山遺跡第29地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、土坑(1/60)、出土遺物(1/4・2/3)

第6章 滝遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に绳文時代前期、中期、晚期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、绳文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来2021年4月現在43ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査（1）は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

遺跡の主たる時代と遺構は、绳文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構（集石を伴う）である。



第21図 滝遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第20表 滝遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
丸橋 1次	瀬 3-3-77 ~ 81	(1976.6.26 ~ 27) 1976.7.24 ~ 8.12	533.73	分譲住宅	古墳時代住居跡 2、土師器	丸橋遺跡は瀬遺跡へ統合	上墳 VI	
丸橋 2次	瀬 3-3-13	1978.7.26 ~ 8.6	210	住宅建設	土器、縄文土器		上墳 I	
1次	瀬 2-6-11	1978.10.2 ~ 13	129	住宅建設	古墳時代住居跡 1、土師器		上墳 I	
2次	瀬 1-4-2	1979.4.15 ~ 5.7	278	幼稚園ビル	古墳時代住居跡 1、古代住居跡 3、土坑、唐戸土器 等		上墳 II	
3次	瀬 1-4-15	1980.6.27 ~ 7.3	76	個人住宅	古墳時代住居跡 1、甕	幾現山 1 地点へ変更	上墳 III	
4次	瀬 1-4-1	1980.7.7 ~ 10	105	住宅建設	遺構なし、土師器		上墳 III	
5次	瀬 1-3-21	1980.7.25 ~ 29	330	住宅建設	遺構遺物なし	幾現山 2 地点へ変更	上墳 III	
6次	瀬 3-3-6	1980.11.19 ~ 11.30	166	住宅建設	古代住居跡 1、ピット、縄文土器 等		上墳 III	
7次	瀬 1-1-19	1981.7.30 ~ 31	400	個人住宅	遺構なし、土師器 等		上墳 IV	
8次	瀬 3-3-15 他	1983.11.14 ~ 26	990	住宅建設	古墳時代住居跡 2、土坑、溝、土師器 等		上墳 VI	
83. 試						詳細不明	上墳 VI	
9次	瀬 1-4-4	1984.5.11 ~ 22	466	住宅建設	溝、土師器 等	幾現山 5 地点へ変更	上墳 VII	
10次	瀬 1-3-17	1984.6.1 ~ 12	363	住宅建設	古墳時代住居跡 1、土坑、ピット、溝、土師器 等	幾現山 6 地点へ変更	上墳 VII	
11次	瀬 1-4-2	1984.6.28 ~ 30	33.12	物置	無石、土坑、ピット、陶磁器 等	幾現山 7 地点へ変更	上墳 VII	
12次	瀬 1-4-2	1984.12.22 ~ 24	94	住宅建設	遺構なし、土師器 等		上墳 VII	
92-1	瀬 1-2-14 の一部	(1992.7.6 ~ 8)	400	倉庫	遺構遺物なし		上墳 15	
93-1	瀬 1-1-4	(1993.4.23 ~ 28)	313.08	共同住宅	遺構遺物なし		上墳 16	
93-2	瀬 2-2-7	(1993.8.25)	99	個人住宅	遺構遺物なし		上墳 16	
95-1	瀬 1-3-13	(1995.11.27 ~ 30)	462	共同住宅	遺構遺物なし	幾現山 14 地点へ変更	上墳 18	
99-1	瀬 1-1-6	(1999.10.21 ~ 26)	511.09	宅地造成	遺構なし、土師器片 等		上墳 22	
00-1	瀬 2-5-20	(2001.1.23 ~ 24)	154.7	個人住宅	遺構なし、土師器片		上墳 23	
01-1	瀬 2-2-8	(2001.4.17 ~ 20)	519.64	共同住宅	古代住居跡 1、土師器		上墳 24	
02-1	瀬 1-3-49	(2002.5.29 ~ 30)	165	個人住宅	遺構なし、縄文土器片	幾現山 16 地点へ変更	上墳 25	
05-1	瀬 3-3-5 ~ 143	(2005.6.24 ~ 27)	350	個人住宅	遺構遺物なし		市内 1	
12	瀬 2-5-3 ~ 4 の一部	(2007.2.6)	472	(80)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 3
13	瀬 2-2-6	(2007.10.24 ~ 11.1)	737.7	(113)	共同住宅	佛土、土坑、ピット、溝		市内 4
14	瀬 2-5-11 ~ 17	(2007.11.8 ~ 19) 2007.11.20 ~ 12.6	692	(254) 92	分譲住宅	古代住居跡 7、佛土、土坑、溝、井戸、土師器 等		市内 4
15	瀬 3-3-84	(2009.9.2 ~ 14)	100	(50)	分譲住宅	古代住居跡 1、土坑、ピット、井戸、土師器 等		市内 7
16	瀬 3-3-145	(2009.12.2 ~ 14)	434	(129)	宅地造成	古代住居跡 2、土坑、ピット、溝、井戸、土師器 等		市内 8
17	瀬 3-3-6 ~ 144	(2010.5.6 ~ 6.18)	331	(197)	分譲住宅	古代住居跡 5、孤立立柱建物跡 1、集石、土坑、ピット、溝、井戸、土師器 等		市内 10
18	瀬 2-6-4 ~ 6	(2011.6.6 ~ 13) 2011.6.14 ~ 7.14	1,164	(124.3) 195.2	個人住宅	古墳時代住居跡 2、孤立立柱建物跡 3、土坑、ピット、溝、井戸、土師器 等		市内 14
19	瀬 3-4-2	(2011.10.17 ~ 24)	1,277.16	(359)	分譲住宅	溝、陶磁器 等		市内 14
20	瀬 1-8 ~ 9	(2012.5.9 ~ 11) 2012.5.14 ~ 25	124.45	(65) 20	分譲住宅	古代住居跡 1、土坑、ピット、井戸、土師器 等		市内 12
21	瀬 1-1-7 ~ 26 ~ 31	(2012.5.11 ~ 21) 2012.7.17 ~ 18.7	1,176.25	(226) 340	共同住宅	古代住居跡 3、孤立立柱建物跡 1、土坑、ピット、溝、井戸、土師器 等		市内 12
22	瀬 1-1-40	(2013.7.30)	114	(19)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
23	瀬 1-3-5 の一部	(2014.2.12)	371	(38)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
24	瀬 1-8 ~ 9 の一部	(2014.7.16 ~ 18)	222.8	(85)	分譲住宅	土坑、ピット、土師器 等		市内 20
25	瀬 1-2-4 ~ 32	(2014.7.17 ~ 8.26) 2014.9.8 ~ 10.31	2,804	(1115.8) 362	宅地造成	古代住居跡 8、古代組立柱建物跡 1、土坑、ピット、溝、井戸、須恵器 等		市内 16
26	瀬 2-5-6 ~ 8 瀬 2-5-39 ~ 40 ~ 41 ~ 42	(2015.10.19 ~ 27) 2015.11.9 ~ 10	368.92	(242) 19.2	個人住宅	古代住居跡 2、落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、縄文土器 等		市内 22
27	瀬 1-1-25	(2015.11.27 ~ 12.1)	155	(29)	個人住宅	古代住居跡 1、ピット、土師器 等		市内 22
28	瀬 1-4-1 ~ 26 ~ 27	(2016.9.3 ~ 6)	2,492.15	(25)	幼稚園	古代住居跡 1、ピット、土師器 等		市内 24
29	瀬 2-5-46	(2016.11.10)	150.41	(34.95)	個人住宅	溝、縄文土器 等		市内 24
30	瀬 1-1-3 の一部	(2017.2.13 ~ 15)	303	(104.5)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内 24
31	瀬 1-1-3 の一部	(2017.2.13 ~ 15)	109	(26.1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
32	瀬 3-3-14	(2017.6.26 ~ 29)	784.54	(176.1)	分譲住宅	ピット、溝、井戸、陶磁器 等		市内 24
33	瀬 1-1-9 の一部	(2018.12.14)	187	(38.15)	個人住宅	ピット群、須恵器 等		市内 25
34	瀬 1-1-8	(2019.2.20 ~ 21, 4.12)	333	(52.54)	個人住宅	遺構なし、須恵器 等		市内 25
35	瀬 1-6-3	(2020.2.17) 2020.2.18 ~ 21	171.83	(85.5) 35	個人住宅	土坑、井戸、地下式坑、板碑、カクケ等		市内 25
36	瀬 3-3-28	(2020.4.6 ~ 7)	668.54	(67)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 26
37	瀬 2-6-7	(2020.4.15 ~ 16)	181	(36.6)	分譲住宅	土坑、ピット、溝、土師器		市内 26



第22図 沿道路遺構分布図(1/2,000)

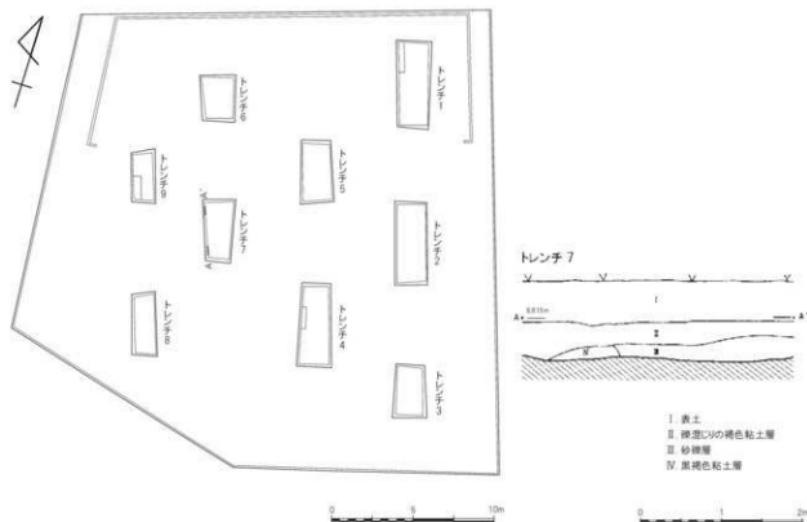
II 滝遺跡第36地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2020年3月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年4月6・7日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1.5~2mのトレンチ9ヶ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から約80cm下で地山粘質土層を確認した。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第23図 滝遺跡第36地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

III 滝遺跡第37地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2020年3月30日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年4月15・16日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1.5mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60～70cmである。調査の結果、時期不明の溝跡、土坑、ピットを検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①土坑

調査区北東部のトレンチ3で確認した。平面形態は楕円形を呈し、確認面径は100×(52)cmを測る。保護層の確保が可能であったため完掘はしていない。出土遺物はない。土層の観察から縄文時代に帰属する可能性が高い。

②ピット

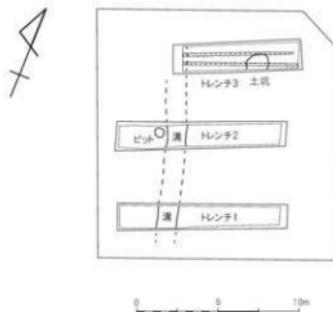
調査区西側、トレンチ2の溝の西側に接するように位置する。平面形態はほぼ円形を呈し、確認面径55×50cm、底径21×19cm、深さ50cmを測る。土層中位よりS字口縁甕の破片が出土しているが、ピットの時期を決定するものではない。

③溝

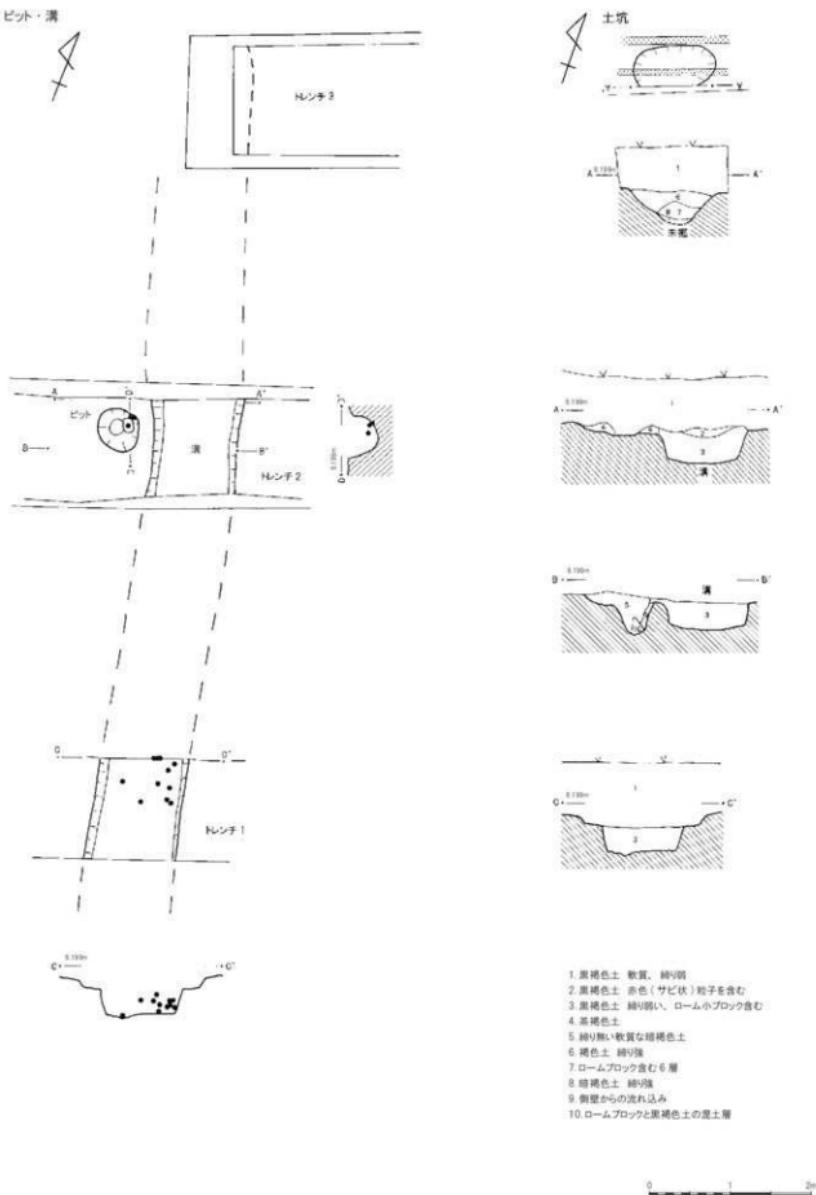
調査区中央部やや西寄りに位置し、N-13°-Wとほぼ南北に走行する。断面形態は台形を呈し、上幅100～110cm、下幅85～90cm、深さ30～40cmを測る。底面は平坦で、南北で大きな高低差は見られない。覆土中より土師器片が出土したが、溝の時期を決定するものは不明である。

④出土遺物

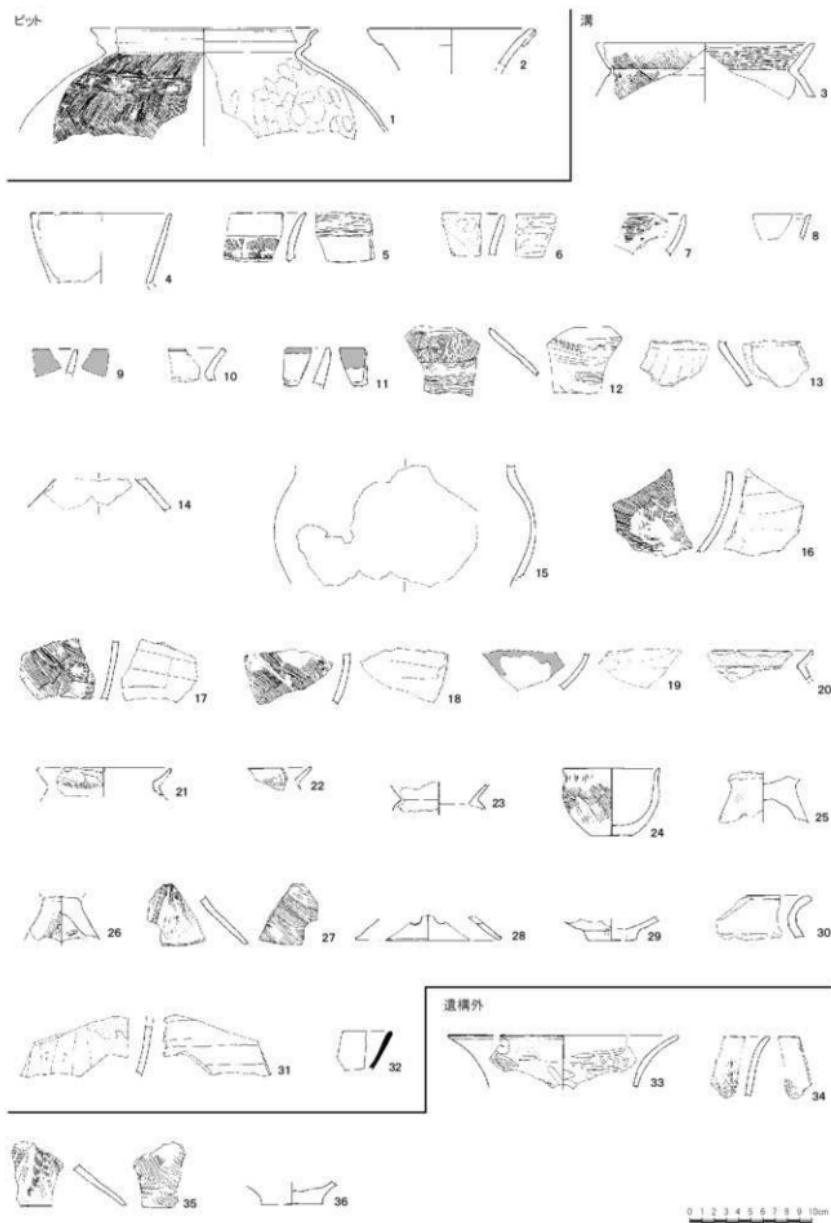
遺物の大半は溝の覆土中より出土したものである。詳細については第26図及び第21表に掲載した。土師器片については溝の南側に比較的集中して出土している。内容としては、4世紀代に位置付けられるものが多く、本地点より約25m南西に位置する第18地点の4世紀後半の住居跡との関連が考えられる。



第24図 滝遺跡第37地点遺構配置図(1/300)



第25図 滞遺跡第37地点土坑・ビット・溝(1/60)



第26図 滝遺跡第37地点出土遺物 (1/4)

第21表 滝遺跡第37地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期
1	ピット	土師器・台付甕	S字状口縁、口径(18.6)cm、口縁部ナデ、頸部羽状ハケ目、肩部横溝ハケ目内面ナデ	4世紀前半
2		土師器・壺	複合口縁、口径(13.8)cm、口縁部粘土貼付、胎土に白色粒子を含む、2.5YR 5/6明赤褐色	4世紀前半～中葉
3		土師器・甕	壺または台付甕、口径(17.9)cm、外面ハケ、内面ナデ	4世紀前半～中葉
4		土師器・小型壺	口縁部、口径(11.4)cm、内外面ミガキ、赤彩、所謂瓢壺、内面に僅かに煤付着	4世紀中～後半
5		土師器・甕	口縁部、外面ハケ目後ナデ、外面ハケ目、胎土に赤色粒子を多く含む	4世紀中～後半
6		土師器・甕	口縁部、内外面ミガキ、胎土に赤色粒子を含む	4世紀
7		土師器・高环	高环または坦口縁部、外面ハケ目、内面ミガキ	4世紀中～後半
8		土師器・甕	口縁部、全体的に摩耗、口縁部が僅かに内面に突出する	-
9		土師器・甕	口縁部、内外面ミガキ、赤彩	-
10		土師器・甕	口縁部、内外面ナデ、外面に僅かに赤彩が残る	-
11		土師器・甕	口縁部、内外面ミガキ、赤彩、内面に煤付着	-
12		土師器・甕	壺または壺肩部、外面縮位ハケ目後肩部に横溝ハケ目、内面ナデ	4世紀前半
13		土師器・甕	壺または壺肩部、外面ミガキ、胎土に砂粒を多く含む	4世紀代
14		土師器・甕	肩部、頸部径(7.5)cm、内外面共に摩滅	4世紀代
15		土師器・壺	頸部、最大復元径(21.4)cm、内外面共に摩滅	4世紀代
16		土師器・甕	頸部、外面ハケ目、内面ナデ	4世紀前半
17		土師器・甕	頸部、外面ハケ目、内面ナデ、内面に黒斑	4世紀前半
18		土師器・甕	頸部、外面ハケ目、内面ナデ、胎土に径5mm程度の礫を含む	4世紀前半
19		土師器・甕	頸部、外面ミガキ、外面に赤彩	古墳時代前半
20		土師器・鉢	口縁部、長さ約1.5cmの短い口縁部が付く小型の鉢、外面ハガレ、内面ミガキ	4世紀前半～中葉
21		土師器・鉢	口縁部、口径(11.0)cm、長さ約1.4cmの短い口縁部が付く小型の鉢、外面ハケ目、内面ミガキ	4世紀前半～中葉
22		土師器・鉢	口縁部、長さ約1.4cmの短い口縁部が付く小型鉢、外面赤彩	4世紀前半～中葉
23		土師器・壠	頸部、復元径(6.3)cm、全体的に摩滅が激しい、内外面に僅かに赤彩の痕跡有	-
24		土師器・鉢	1/2残存、口径(8.0)cm、底径3.3cm、高さ5.5cm、長さ5mmの短い口縁部が付く小型鉢、外面ハケ目、内面ナデ	4世紀前半～中葉
25		土師器・高环	脚部、全体的に摩耗が激しい、胎土に白色粒子を多量に含む	5世紀
26		土師器・高环	脚部、外面ミガキ、内面ナデ	4世紀
27		土師器・台付甕	脚部、外面ハケ目、胎土に白色粒子を含む	4世紀
28		土師器・高环	高环または器台脚部、底径(12.0)cm、僅1cmの透かし孔、内外面ミガキ	4世紀
29		土師器・壺	底部、底径(4.2)cm、外面へラナデ、内面ナデ	4世紀代
30		土師器・甕	口縁部、内外面ナデ、外面に僅かにヘラケズリ	8世紀
31		土師器・甕	頸部、外面縮位へラケズリ、内面横溝へラナデ	8世紀代
32		須恵器・环	口縁部、胎土に白色針状物質を含む、内面に僅かに煤付着、南北企産	古代
33	遺構外	土師器・甕または鉢	口縁部、口径(18.9)cm、内外面ナデ、胎土に赤色粒子を含む	4世紀
34		土師器・壺	口縁部、内外面にハケ目が見られる	4世紀
35		土師器・台付甕	脚部、外面ハケ目、胎土に白色粒子を含む	4世紀
36		土師器・甕	底部、底径(5.0)cm、内外面ナデ	4世紀後半以降

第7章 長宮遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畠が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に绳文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2021年4月現在95ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は绳文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に関係のある溝跡などである。

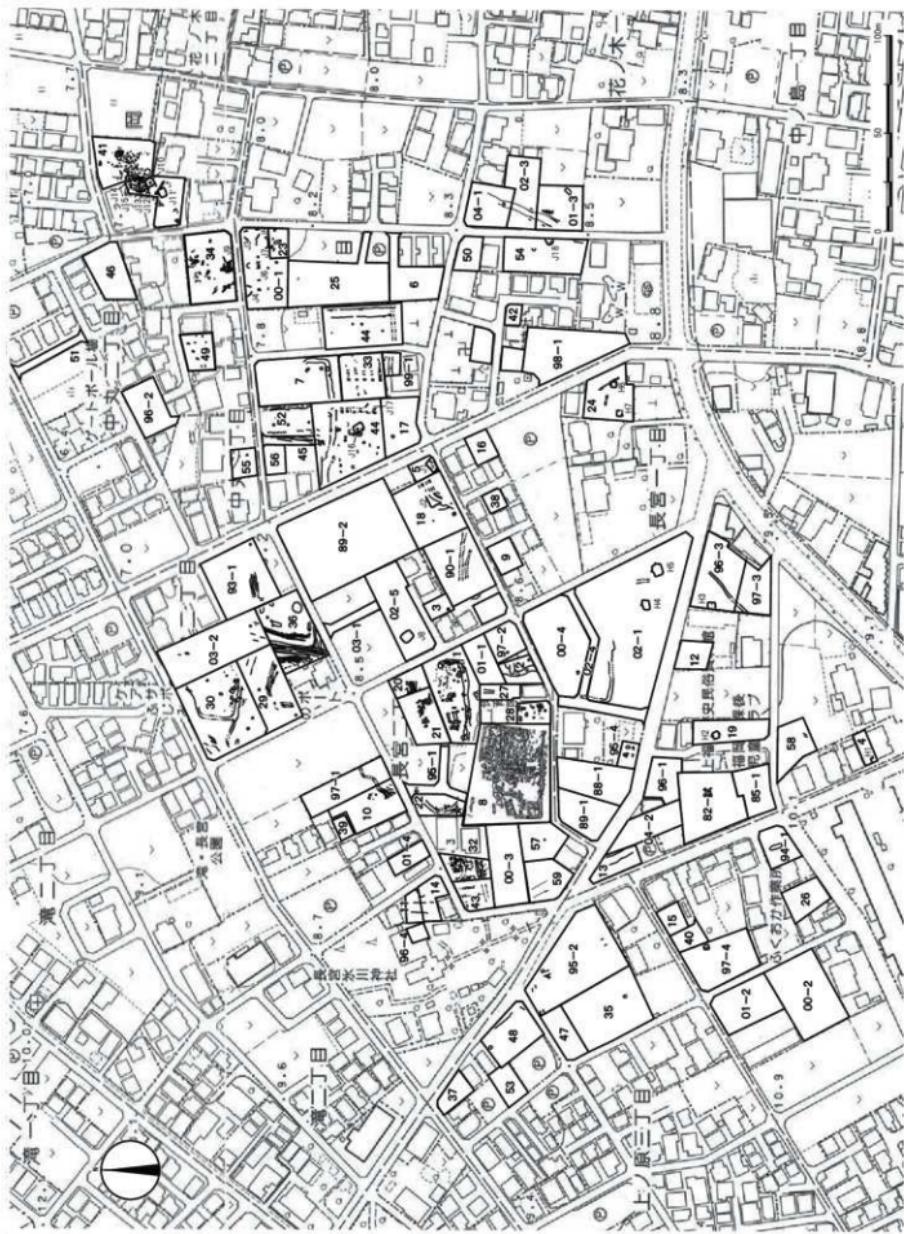


第27図 長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第22表 長宮遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1次	長宮 2-1-23	1977.10.3 ~ 30	1,000		保育園	土坑、柱穴、溝、板磚等		川崎3次・長宮
2次	長宮 2-1-27	1978.4.25 ~ 5.15	235		住宅建設	土坑、溝、石臼等	上堆1	
3次	長宮 2-5-11	1978.7.24 ~ 30	111		住宅建設	土坑、遺物なし	上堆1	
4次	長宮 1-1-14	1978.10.6 ~ 9	37			古代住居跡1、土師器等	上堆1	
5次	長宮 2-5-2	1979.4.16 ~ 20	110			鐵文時代住居跡1、繩文土器	上堆II、IV	
6次	中丸 1-4-13	1980.4.23 ~ 24	515			溝なし、陶磁器	上堆III	
7次	中丸 1-3-6	1980.5.13 ~ 31	869			溝、井戸、繩文土器等	上堆III	
8次	長宮 2-1-10 ~ 13	1980.9.8 ~ 10.8	1,900		宅地造成	土坑、溝、井戸、板磚等	上堆1	
9次	長宮 1-4-10	1980.9.21 ~ 30	200			溝なし、陶器	上堆III	
10次	長宮 2-3-4	1980.12.5 ~ 15	485			土坑、溝、板磚等	上堆III	
11次	長宮 2-2-10	1980.12.16 ~ 18	117			溝、繩文土器等	上堆III	
12次	長宮 1-2-7	1981.5.26 ~ 30	160		駐車場	溝なし、繩文土器	上堆IV	
13次	長宮 1-2-13	1981.6.3 ~ 11	251		個人住宅	溝、繩文土器	上堆IV	
82-試	長宮 1-2-12		1,000		歴史民俗資料館	溝	S57上社	
14次	長宮 2-5-8	1985.9.24 ~ 27	156		個人住宅	溝、大甕	上堆IV	
15次	西原 2-2-1	1985.10.22 ~ 31	116		個人住宅	溝なし、繩文土器	上堆VII	
85-1	長宮 1-2-11	(1986.3.6 ~ 15)	400		学童保育	溝	S60上社	
16次	長宮 1-4-7	1986.6.9 ~ 17	173		個人住宅	溝なし、繩文土器	上堆IX	
17次	中丸 1-3-11	1987.6.19 ~ 30	504		個人住宅	土坑、繩文土器	上堆X	
88-1	長宮 1-3-8	(1988.9.13 ~ 16)	657		住宅建設	溝無遺物なし	上堆11	
89-1	長宮 1-3-9	(1989.9.20 ~ 30)	448		住宅建設	溝なし、繩文土器等	上堆12	
89-2	長宮 2-5-19	(1989.11.14 ~ 24)	1,778		住宅建設	溝なし、繩文土器	上堆12	
90-1	長宮 2-5-4	(1990.11.27 ~ 30)	919		共同住宅	溝、遺物なし	上堆13	
18次	長宮 2-5-3	1992.10.6 ~ 12.2	915		共同住宅	鐵文時代住居跡1、集石、土坑、溝、 繩文土器	上堆15	
19次	長宮 1-2-21 ~ 35	1992.12.17 ~ 1993.1.22	467		駐車場	古墳時代住居跡1、漆器等	上堆15	
93-1	長宮 2-4-2 の一部	(1994.2.10 ~ 28)	1,501.54		共同住宅	土坑、溝、板磚	H5上社	
94-1	西原 2-5-1	(1994.7.25 ~ 8.2)	314		心身障害者	溝、遺物なし	上堆17	
20次	長宮 2-1-22 の一部	1995.4.10 ~ 5.9	169.59		個人住宅	溝、陶器等	上堆18	
21次	長宮 2-1-63 ~ 65	(1995.6.19 ~ 8.8)	360.94		個人住宅	土坑、溝、井戸、陶磁器等	上堆18	
95-1	長宮 2-2-20 他	(1995.8.9 ~ 28)	421		市道敷設	溝、繩文土器等	上堆18	
95-2	上ノ原 3-1-6 他 4 重	(1995.10.4 ~ 12)	1,528		共同住宅	溝、繩文土器	上堆18	
22次	長宮 2-1-60	(1995.10.23 ~ 25)	269		駐車場	土坑、ビット、溝、井戸、陶器等	上堆6、上堆18	
95-4	長宮 1-3-13	(1995.12.12 ~ 25)	120		駐車場	土坑、溝、繩文土器等	上堆18	
96-1	長宮 1-2-16	(1996.7.12 ~ 18)	348.52		宅地造成	溝なし、土師器等	上堆19	
96-2	中丸 2-2-9 他 3 重	(1996.11.7)	568		宅地造成	溝無遺物なし	上堆19	
96-3	長宮 1-2-4	(1997.1.14 ~ 21)	794.16		共同住宅	古代住居跡1、集状遺構、土師器等	上堆19	
96-4	長宮 2-2-4	(1997.2.24)	204.78		社務所改築	遺物遺物なし	H6上社	
97-1	長宮 2-3-3	(1997.4.8 ~ 9)	611		農地天地返し	土坑、土師器等	上堆20	
97-2	長宮 2-1-2	(1997.4.9 ~ 11)	289		個人住宅	土坑、遺物なし	上堆20	
97-3	長宮 2-3-6 ~ 37	(1997.6.4 ~ 5)	423.33		駐車場	土坑、土師器等	上堆20	
97-4	西原 2-5-6	(1997.8.15 ~ 21)	753		駐車場	竪穴式遺構、土師器等	上堆20	
98-1	中丸 1-2-4	(1998.11.24 ~ 27)	1,014		宅地造成	溝なし、繩文土器等	上堆21	
99-1	中丸 1-3-12	(1999.11.8 ~ 16)	98		個人住宅	溝、集石、土坑、繩文土器等	上堆22	
00-1	中丸 1-4-7	(2000.7.4 ~ 11)	932		宅地造成	鐵文時代住居跡5、土坑、繩文土器等	上堆23	
00-2	西原 2-4-8 ~ 10	(2000.7.17 ~ 24)	1,081		宅地造成	溝無遺物なし	上堆23	
00-3	長宮 2-1-17	(2000.8.21 ~ 23)	687		共同住宅	溝なし、繩文土器	上堆23	
00-4	長宮 1-3-3A ~ 4A	(2001.1.17 ~ 23)	1,118.9		宅地造成	土坑、陶磁器等	上堆23	
23次	中丸 1-4-7	2001.7.18 ~ 26	137.01		個人住宅	土坑、繩文土器等	上堆24	
01-1	長宮 2-1-3	(2001.4.20 ~ 24)	330		個人住宅	溝なし、繩文土器等	上堆24	
01-2	西原 2-4-7	(2001.5.25)	634		共同住宅	遺物遺物なし	上堆24	
01-3	中丸 1-1-3	(2001.8.7 ~ 24)	513		共同住宅	道路状遺構、土坑、繩文土器等	上堆24	
01-4	長宮 2-8-6	(2001.11.6)	130		個人住宅	溝無遺物なし	H13上社	
02-1	長宮 1-3-2 ~ 5	(2002.6.5 ~ 11)	3,536		宅地造成	古代住居跡2、溝、土師器等	上堆25、H14上社	
24次	長宮 1-4-3	(2002.6.20 ~ 7.2) 2003.1.30 ~ 2.14	575	72	個人住宅	古代住居跡2、溝、土師器等	上堆25、H14上社	
02-3	中丸 1-1-5	(2002.9.3 ~ 11)	622		宅地造成	道路状遺構、陶磁器等	上堆25	
02-4	長宮 1-3-31	(2002.9.20 ~ 25)	362.19		地区計画道路	溝、遺物なし	上堆25	
02-5	長宮 2-5-6	(2003.3.10 ~ 12)	827		宅地造成	鐵文時代住居跡1	H14上社	
03-1	長宮 2-5-30 ~ 32	(2003.9.16)	196.64		区画道路	溝無遺物なし	上堆26	
03-2	長宮 2-4-7	(2003.12.16 ~ 18)	1,123		宅地造成	井戸、陶磁器等	上堆26	
04-1	中丸 1-2-11	(2004.11.26)	488		宅地造成	道路状遺構、遺物なし	上堆27	
04-2	長宮 1-2-15	(2004.12.7 ~ 9)	466		農地改良	溝なし、繩文土器	上堆27	
25	中丸 1-4-8	(2007.2.15 ~ 16)	1,161	(20)	個人住宅	ビット、繩文土器等	市内3	
26	西原 2-5-2 の一部	(2007.3.28)	594	(24)	個人住宅	溝なし、繩文土器	市内3	
27	長宮 2-1-4	(2007.5.30 ~ 31)	174.58		個人住宅	溝、遺物なし	市内4	

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
28	長宮 2-1-8	(2007.5.31 ~ 6.5) 2007.6.6 ~ 22	188	(135)	個人住宅	土坑、ピット、井戸、陶磁器等		市内 4
29	長宮 2-4-6 の一部	(2007.11.20 ~ 12.3) 2007.12.4 ~ 5	618	(145) 145	共同住宅	土坑、ピット、堀跡、溝、井戸、織文土器等		市内 4
30	長宮 2-4-6	(2009.9.28 ~ 11.2) 2009.11.4 ~ 12.8	1,362.1	(542) 445	老人福祉施設	土坑、ピット、溝、井戸、板磚等		市内 7、8
31	欠番							
32	長宮 2-1-18	(2010.1.15 ~ 25) 2010.2.4 ~ 26	271	(75) 134	分譲住宅	土坑、ピット、溝、織文土器等		市内 7、8
33	中丸 1-3-2	(2011.5.19 ~ 31)	534	(169)	分譲住宅	集石土坑、土坑、ピット、溝、織文土器等 丈土器等		市内 14
34	中丸 2-2-2 ~ 46	(2011.6.27 ~ 7.16) 2011.11.2 ~ 12.1	914	(229) 276	分譲住宅	織文時代住居跡1、落とし穴、土坑、ピッ ト、井戸、溝、井戸、織文土器等		市内 11
35	上ノ原 3-1-4	(2011.9.9 ~ 26)	1,157.88	(178)	分譲住宅	炉穴、織文土器等		市内 14
36	長宮 2-4-3	(2011.10.4 ~ 17) 2011.10.21 ~ 11.14	981	(323.3) 656	分譲住宅	炉穴、土坑、ピット、溝、井戸、 板磚等		市内 11
37	上ノ原 3-6-6	(2011.11.8)	105	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
38	飛空 1-4-27	(2011.11.24 ~ 25)	101	(17)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 14
39	長宮 2-3-23	(2012.2.1)	130.54	(3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
40	西原 2-5-7 の一部	(2012.4.16)	201	(43)	個人住宅	遺構なし、遺物器		市内 15
41	福岡町丸橋 988-1 ~ 3、989-2 ~ 5、990- 3	(2012.4.17 ~ 25) 2012.6.11 ~ 7.25	1,152.62	(240) 370	分譲住宅	織文時代住居跡2、炉穴、落とし穴、 土坑、ピット、溝、井戸、織文土器等		市内 12
42	中丸 1-2-24	(2012.8.3)	101	(0.8)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
43	長宮 2-1-72	(2013.2.27 ~ 3.1)	231	(45)	個人住宅	土坑、ピット、溝、織文土器等		市内 15
44	中丸 1-3-3、4-5	(2013.5.14 ~ 6.24) 2013.6.25 ~ 7.30	1,329	(513) 165	分譲住宅	織文時代住居跡2、炉穴、落とし穴、 土坑、溝、ピット、井戸、織文土器等		市内 13
45	中丸 1-3-17 ~ 18、 3-5 の一部	(2013.8.7 ~ 10)	223	(70)	道路	溝、土師器等		市内 18
46	中丸 2-22-13	(2013.9.6 ~ 10)	488	(155) △ 伴生△セシル	高齢者	遺構なし、俎器		市内 18
47	上ノ原 3-1-5	(2013.10.10)	330	(74)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 18
48	上ノ原 3-6-1	(2014.4.2 ~ 8)	555	(188.4)	分譲住宅	溝、井戸、遺物なし		市内 20
49	中丸 2-2-4	(2014.10.23 ~ 30)	293.09	(61.8)	共同住宅	炉穴、溝、遺物なし		市内 20
50	中丸 1-2-17	(2015.3.16)	228	(26)	分譲住宅	遺構なし、陶磁器		市内 20
51	中丸 2-3-45 ~ 46	(2012.4.5)	176	(15)	道路	遺構遺物なし		市内 15
52	中丸 1-3-24	(2016.3.11 ~ 17)	484	(110.14)	分譲住宅	土坑、ピット、溝、井戸、織文土 器等		市内 22
53	上ノ原 3-6-3	(2016.7.11)	223	(53.13)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 24
54	中丸 1-2-16	(2017.5.16 ~ 23)	800	(241.59)	分譲住宅	織文時代住居跡1、土坑、溝、織文 土器等		市内 24
55	中丸 2-2-6 の一部	(2017.6.29)	191	(34.2)	個人住宅	土坑、ピット、溝、石器等		市内 24
56	中丸 1-3-37	(2017.7.5)	123	(22.5)	個人住宅	遺構なし、土製品		市内 24
57	長宮 2-1-16	(2018.2.15)	374.63	(45)	個人住宅	土坑、織文土器		市内 24
58	長宮 1-1-7	(2018.7.2)	360	(58.7)	寄宿舎	溝、土師器等		市内 25
59	長宮 2-1-15	(2020.11.10)	405.12	(42.1)	共同住宅	溝、陶磁器等		市内 26



第28図 長宮遺跡遺構分布図(1/2,500)

II 長宮遺跡第 59 地点

(1) 調査の概要

調査は寄宿舎集合住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 10 月 6 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 11 月 10 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 100 ~ 110 cm である。

調査の結果、時期不明の溝 1 条を検出した。試掘の範囲での確認のみとし、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

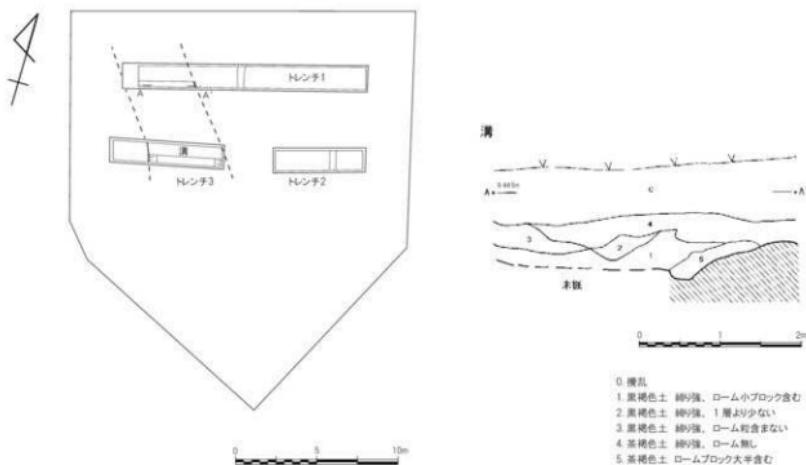
(2) 遺構と遺物

①溝

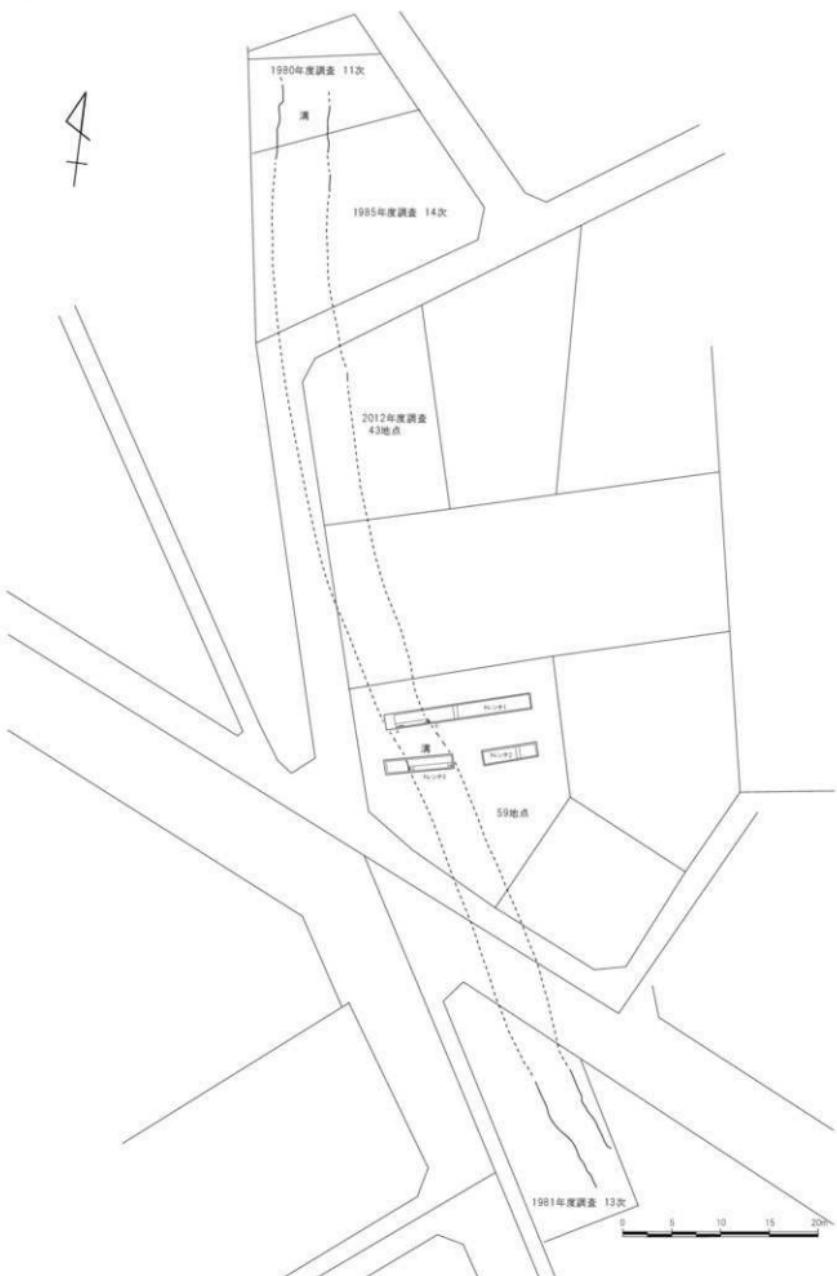
遺構は調査区の北西部で確認した。走行方向はおおよそ N-30°-W であると想定できる。規模は確認面での幅 450 cm を測り、未掘のため下幅及び深さは不明である。本地点より北側に位置する 11、14 次及び第 43 地点、南側に位置する 13 次調査で走行方向を同じくする溝を検出しており、今回確認された溝についても同様であるものと考えられる。覆土中より陶磁器片が出土したが、溝の時期を決定するものではない。

②出土遺物

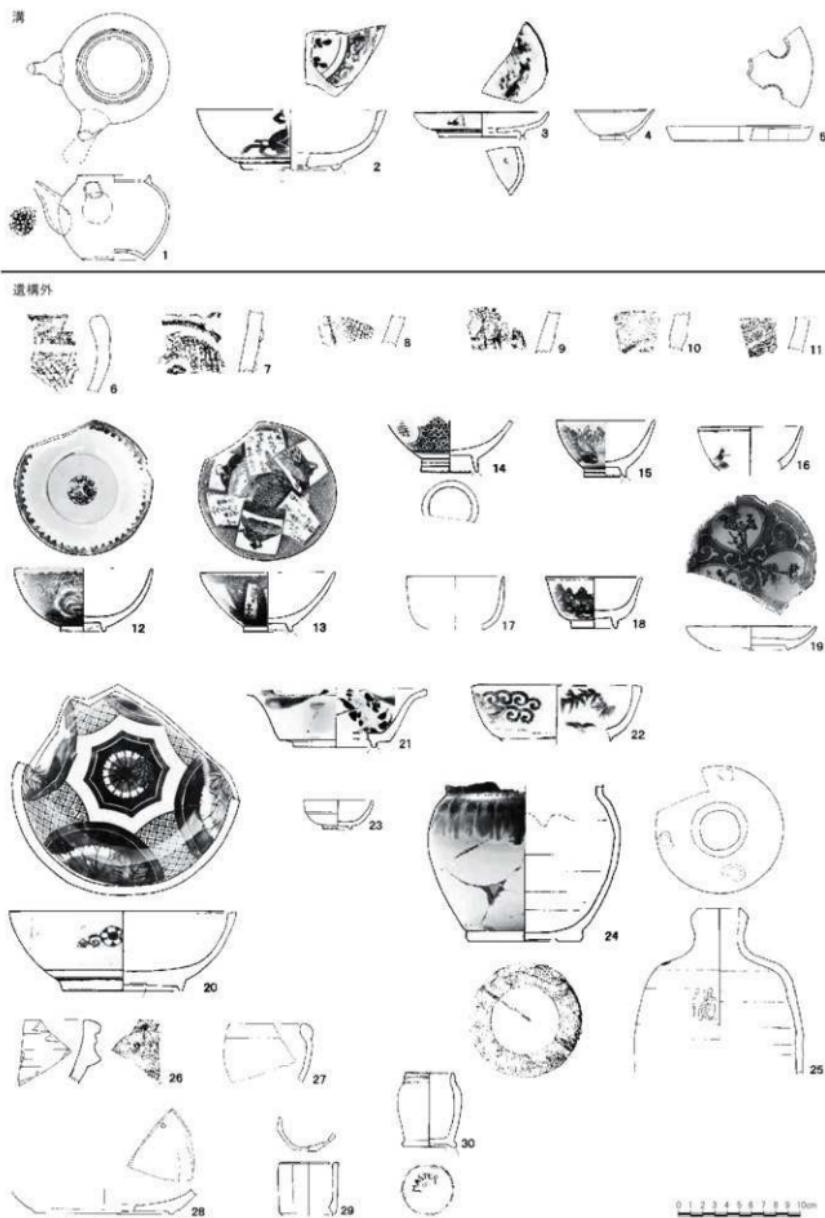
遺物は溝の覆土中と遺構外より出土したものである。詳細については第 31 図及び第 23 表に掲載した。溝覆土中の遺物については、いずれも上層からの出土である。溝の廃絶時期が近代初頭であるものと考えられよう。



第 29 図 長宮遺跡第 59 地点遺構配置図 (1/300)、溝土層 (1/60)



第30図 長宮遺跡第59地点溝分布図(1/500)



第 31 図 長宮遺跡第 59 地点出土遺物 (1/4)

第23表 長宮遺跡第59地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第31図-1	溝	磁器急須	4.8	7.0	5.1	—	型作り、クロム青磁、蓋受部・底部無釉、胎土草色、京都産	明治～
第31図-2		磁器皿	15.5	7.5	5.0	—	輪錐成形、蛇の目高台、コバルト、高台釉剥ぎ、型紙刷、胎土灰みを帯びやや粗い	1880年代～
第31図-3		磁器皿	11.1	6.9	2.0	—	輪錐成形、コバルト、手描、豊付地割、瀬戸美濃産	1870年代～
第31図-4		磁器酒盃	6.6	2.4	2.4	—	輪錐成形、コバルト、文様は團線のみ。豊付無釉、瀬戸美濃産	1870年代～
第31図-5		土器皿	12.0	11.0	1.2	—	上面被熱により赤色化、胎土灰白色	幕末～
第31図-6	縄文式土器	—	—	—	—	—	口縁部片、地紋 LR、口縁部下に幅広な弦線が走る。逆「U」字状の文様力	加賀利 E3
第31図-7		—	—	—	—	—	胴部片、両側をなでられた隆線により唐草状の文様を構成。隙間に RL の単節範文で充填	加賀利 E3
第31図-8		—	—	—	—	—	胴部片、地紋 RL の單節範文。無紋帯の中央を斜行起線文	加賀利 E3
第31図-9		—	—	—	—	—	胴部片、器面摩耗著しいが B と同様の文様力	加賀利 E3
第31図-10		—	—	—	—	—	胴部片、唐草状の無紋帯が唐草状の文様を構成するか、沈線で区画された無紋帯の端が盛り上る	加賀利 E3
第31図-11		—	—	—	—	—	胴部片、波状に垂下する崩状文。	加賀利 E3
第31図-12	遺構外	磁器碗	11.2	3.9	5.2～5.4	—	輪錐成形、コバルト、型紙刷、口縁部内面埋め込み、見込菊竹梅文、豊付砂付着、胎土灰色、口縁部意図的な欠損力	1880年代～
第31図-13		磁器碗	11.2	4.0	4.9	—	輪錐成形、コバルト、胴版転写、内外面百人一首かるた文、豊付無釉、口縁部意図的な欠損力	1890年代～
第31図-14		磁器碗	—	4.7	(4.2)	—	輪錐成形、高高台、真須、豊付釉剥、ピンホール	幕末～明治初
第31図-15		磁器湯飲み	8.1	3.5	4.6	—	輪錐成形、コバルト・褐色絵具、胴版転写、團線手描、豊付釉剥	1890年代～
第31図-16		磁器湯飲み	8.5	—	(3.6)	—	輪錐成形、コバルト、胴版転写、施紋手垢	1890年代～
第31図-17		磁器湯飲み	8.1	—	(4.3)	—	輪錐成形、クロム青磁、胎土草色	1890年代～
第31図-18		磁器湯飲み	8.0	3.8	4.2	—	輪錐成形、コバルト、胴版転写、山水文、全面施釉、豊付砂付着、瀬戸美濃産	1890年代～
第31図-19		磁器小皿	10.8	6.2	2.0	—	輪錐成形、コバルト、胴版転写、豊付無釉、胎土や灰味	1890年代～
第31図-20		磁器鉢	18.6	9.8	6.6	—	輪錐成形、コバルト、胴版転写、蛇の目高台、釉剥、高台内マジン、胎前産	1890年代～
第31図-21		磁器小鉢	15.0	6.8	4.9	—	輪錐成形、口縁部一部鉄釉、上緒は内外面を赤・桃・青・白色で梅花文、豊付釉剥、瀬戸美濃産	1900年代～カ
第31図-22		磁器鉢	14.0	—	(4.6)	—	輪錐成形、コバルト、胴版転写	1890年代～
第31図-23		磁器酒盃	5.8	2.4	2.4	—	型作りカ、体部中位に微隆線、白磁、高台内施釉、豊付無釉、瀬戸美濃産	明治～
第31図-24		陶器盤	—	9.4	(12.9)	—	輪錐成形、蛇の目高台、外面墨灰釉・内面赭釉の後外面肩から内面頭部に銅線縫、鉄釉流し掛け、胎土灰味の褐色、高台無釉	幕末～
第31図-25		陶器徳利	3.5	—	(13.6)	—	輪錐成形、一升徳利、内外面灰釉、肩上面に3個の目痕、体部外面に釘書「酒、瀬戸美濃産	1830～60年代
第31図-26		陶器擂鉢	—	—	—	—	輪錐成形、鉛釉、胎土明褐色、益子產力	明治～
第31図-27		片口鉢	—	—	—	—	輪錐成形、褐色粒が入る灰釉、胎土黒色粒が入る灰色	幕末～
第31図-28		陶器土瓶	—	—	—	—	輪錐成形、鉄釉、外表面から底部露胎で塗付着、胎土明褐色、益子產力	幕末～
第31図-29		陶器八角向付	4.8	—	(4.8)	—	型作り、長石釉、裏入、信楽產	幕末～
第31図-30		磁器クリーム瓶	6.4	2.4	2.9	—	スクリュー栓、上底、豊付無釉、底部に「MASTER」(M と R は 1辺が長い)、深谷市の「マスター尚美堂」製造	昭和初期～戰後

第8章 鶴ヶ舞遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ舞遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約 500 ~ 900 m 程下った左岸に位置している。標高 21 ~ 23 m で現谷底との比高差は 5 m を測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち、僅かに畠地が残っている。

周辺の遺跡は約 200 m 西に亀居遺跡、約 150m 南に江川南遺跡、約 200m 南東に東久保遺跡がある。

1987 年の最初の調査から 2021 年 4 月現在 42 地点で試掘及び発掘調査が行われ、旧石器時代の石器、縄文時代の炉穴、落とし穴、平安時代の溝を検出し、平安時代の須恵器壺が出土している。

II 鶴ヶ舞遺跡第 38 地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅に伴うもので、原因者より 2020 年 7 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや東寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 7 月 13 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ~ 60 cm である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 32 図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第24表 鶴ヶ舞遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	鶴ヶ舞 67-3	(1986.1.28 ~ 29)	499		個人住宅	土坑、縄文土器		東部VI
2	鶴ヶ舞 1-65-6	(1987.4.16 ~ 30)	495		個人住宅	炉穴、土坑、溝、須恵器等		東部Ⅸ
3	鶴ヶ舞 1-69-1	(1994.7.10)	141		駐車場	遺構なし、焼壁		町内IV
4	鶴ヶ舞 1-60-6-10	(1997.8.26 ~ 29)	318		共同住宅	溝、井戸		町内VII
5	鶴ヶ舞 1-61-3	(1997.11.4 ~ 6)	266		分譲住宅	溝、縄文土器		町内VII
6	鶴ヶ舞 1-84	(2002.9.10 ~ 13)	474	(201)	個人住宅			町内XII
7	鶴ヶ舞 1-65-1	(2003.5.29 ~ 6.14) 2003.6.23 ~ 7.3	2,030	(742) 130	分譲住宅	石器ブロック、落とし穴、ピット、 竪群、縄文土器等		町内XII、大調20
8	鶴ヶ舞 1-69-46 ~ 51 - 61 ~ 66	(2005.7.11 ~ 8.11) 2005.8.24	1,087	(236) 16.5	分譲住宅	炉穴、ピット、遺物なし		大調18
9	鶴ヶ舞 1-16-5	(2005.11.1)	104	(23)	共同住宅	ピット、遺物なし		市内2
10	鶴ヶ舞 1-64-6	(2006.6.5)	96	(20)	個人住宅	焼畠、磚		市内3
11	鶴ヶ舞 1-65-2 ~ 6	(2006.9.21 ~ 10.5)	1,316	(420)	建物解体	遺構遺物なし		市内3
12	鶴ヶ舞 1-58-4	(2011.7.19 ~ 21)	97.7	(16)	個人住宅	遺構遺物なし		市内14
13	鶴ヶ舞 1-78-7	(2011.7.21)	115	(5)	個人住宅	遺構なし、土器		市内14
14	鶴ヶ舞 1-79-7	(2011.9.22)	56.3	(10)	個人住宅	遺構遺物なし		市内14
15	南台 798-33	(2011.11.22)	100.3	(6)	個人住宅	遺構遺物なし		市内14
16	鶴ヶ舞 1-73-10	(2012.9.7)	63		分譲住宅	遺構遺物なし		市内15
17	鶴ヶ舞 1-58-2	(2012.11.16) 2012.11.16	324.2	(44) 33	個人住宅	溝、遺物なし		市内15
18	福岡武蔵野 1408-4 (9-6)	(2013.1.21)	61	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内15
19	鶴ヶ舞 1-79-25	(2013.4.10)	94.6	(31.3)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内18
20	鶴ヶ舞 1-69-70	(2013.5.13)	68.55	(18)	個人住宅	遺構遺物なし		市内18
21	鶴ヶ舞 1-73-27 ~ 51 - 52 ~ 54	(2013.10.23)	135.55	(29.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内18
22	鶴ヶ舞 1-69-35 ~ 56	(2014.12.4)	171	(38.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内20
23	鶴ヶ舞 1-73-19	(2015.6.29)	72	(10)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内22
24	鶴ヶ舞 1-67-3 ~ 4 の 一部	(2015.8.31)	499	(25.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内22
25	福岡武蔵野 1406-7 ~ 8 ~ 10 ~ 11	(2013.5.2)	1,124.99	(35.6)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内18
26	鶴ヶ舞 1-99-10 ~ 12	(2016.12.5)	252	(15.75)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内24
27	鶴ヶ舞 1-58-8	(2017.4.13)	54	(3.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内24
28	鶴ヶ舞 1-85-3 ~ 4 ~ 19 ~ 22	(2017.11.16 ~ 17)	497.81	(25.65)	分譲住宅	炉穴、土坑、ピット、縄文土器		市内24
29	鶴ヶ舞 1-69-103	(2017.11.17)	106	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内24
30	福岡武蔵野 1398-1	(2018.6.28)	265.92	(28.11)	宅地造成	遺構遺物なし		市内25
31	鶴ヶ舞 1-69-94	(2018.9.10)	297	(30.45)	個人住宅	遺構遺物なし		市内25
32	南台 2-793-2 の一 部、793-17	(2019.3.25)	99	(20.98)	個人住宅	遺構遺物なし		市内25
33	南台 2-1746-1	(2019.7.11)	112.19	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内25
34	鶴ヶ舞 1-69-52	(2019.7.24)	88.59	(6.71)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内25
35	鶴ヶ舞 1-106-4	(2019.8.5)	117.99	(37.1)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内25
36	鶴ヶ舞 1-62-3 の一	(2020.3.19)	130	(10.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内25
37	鶴ヶ舞 1-106-6	(2020.3.19)	125.56	(12.75)	個人住宅	遺構遺物なし		市内25
38	鶴ヶ舞 1-69-75	(2020.7.13)	130.14	(27.9)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内26
39	鶴ヶ舞 1-59-1 ~ 4 ~ 9	(2020.9.25)	733	(13.7)	個人住宅	遺構遺物なし		市内26
40	鶴ヶ舞 1-106-2	(2020.10.5)	114.8	(17.24)	分譲住宅	ピット、遺物なし		市内26
41	鶴ヶ舞 1-69-36 の一 部	(2020.10.19)	81.34	(13.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内26
42	鶴ヶ舞 1-79-27	(2020.11.12)	94.23	(9)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内26

III 鶴ヶ舞遺跡第39地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2020年6月30日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年9月25日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約2mのトレーナー2本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約95cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

IV 鶴ヶ舞遺跡第40地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2020年9月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年10月5日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約2mのトレーナー2本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約70～80cmである。

調査の結果、ピット1基を検出したが、遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

V 鶴ヶ舞遺跡第41地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2020年8月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年10月19日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレーナー2本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30～40cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

VI 鶴ヶ舞遺跡第42地点

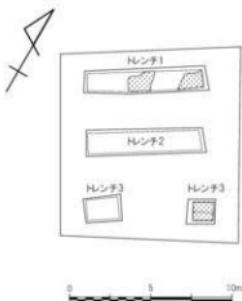
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2020年8月31日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年11月12日に試掘調査を実施した。

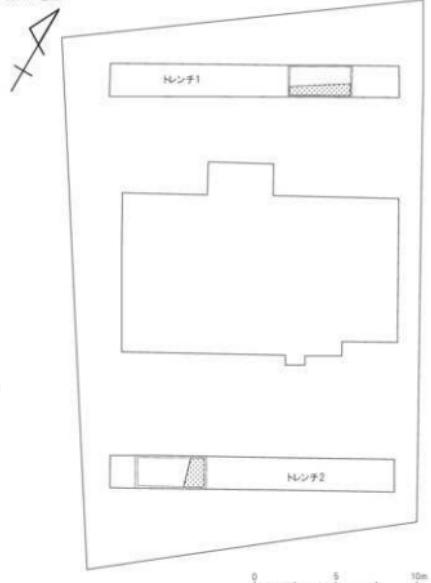
試掘調査は幅約1.5m四方のグリッド4ヶ所を設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60～70cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

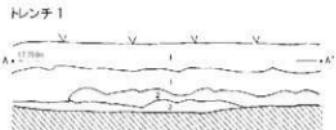
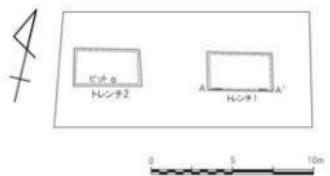
第38地点



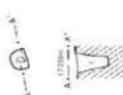
第39地点



第40地点



ピット



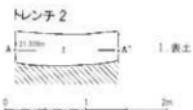
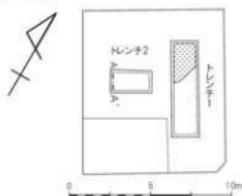
ピット覆土
1. 粗質の黒褐色土

Pit 1

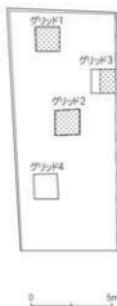
- 1. 表土
- 2. 黒褐色土 やや緑色有
- 3. 結晶褐色土 緑色有、粘性有

0 1 2m

第41地点



第42地点



第33図 鶴ヶ舞遺跡第40地点遺構配置図・第38・39・41・42地点調査区域図(1/300)、第40・41地点土層・第40地点ピット(1/60)

第9章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武藏野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

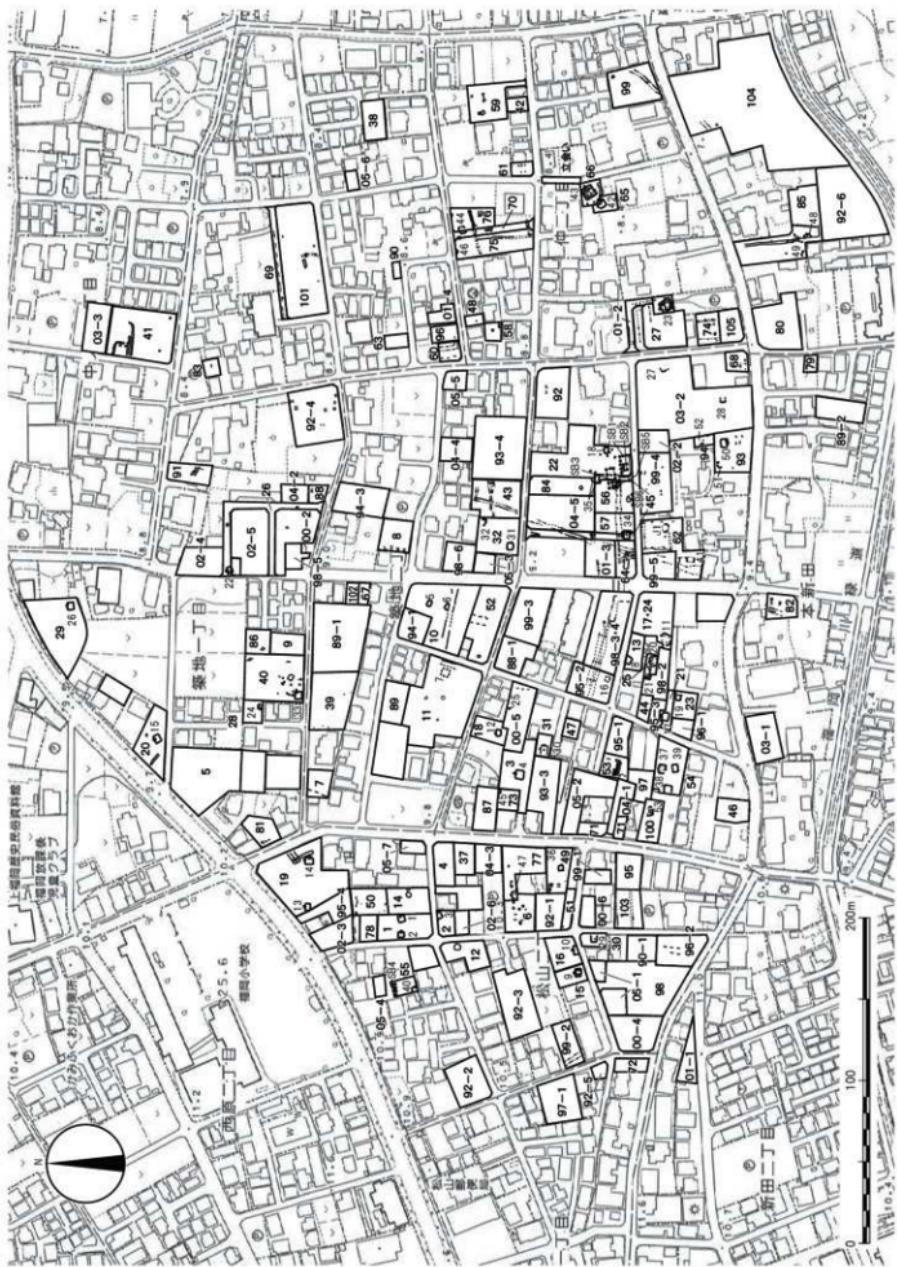
1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2021年4月現在約160地点で試掘および調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

第25表 松山遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
77 の各一部	松山2-6-2・3-12 2014.3.13～26	(2014.3.3～11)	493 (95)	22.8 (95)	個人住宅	古代住居跡1. 土坑、墨書き器、土師器等	市内 18	
78	松山2-5-5 (2014.5.22)		242 (35.3)		個人住宅	遺構遺物なし	市内 20	
79	本新田395-1の一部 (2014.8.5)		153 (36)		個人住宅	遺構遺物なし	市内 20	
80	池上372 (2015.3.12)		1,183.4 (90)		個人住宅	遺構なし、拾拾等	市内 20	
81	駿地1-1-12 (2015.3.23)		247.49 (74.3)		分譲住宅	渠、遺物なし	市内 20	
82	本新田411の一部 (2015.7.30～31)		194 (35)		個人住宅	宿跡、墨書き器	市内 22	
83	仲1-2-22 (2015.8.31)		98 (6)		分譲住宅	遺構なし、墨書き器	市内 22	
84	駿地3-4-13 (2015.9.15～16)		455 (190)		宅地造成	古代住居跡1. 井戸、墨書き器等	市内 22	
85	池上362-1の一部 (2015.10.1～19)		1,244.47 (485.6)	93 (93)	分譲住宅	古代住居跡2. 燃土、溝、須恵器等	市内 19	
86	駿地1-1-4 (2016.7.5～7)		294 (37.9)		分譲住宅	渠、陶磁器	市内 24	
87	駿地3-1-21～22の一部 (2016.9.14)		427 (29.5)		個人住宅	遺構遺物なし	市内 24	
88	駿地1-3-36 (2016.10.13)		120 (18.8)		個人住宅	土坑、ビット、渠、遺物なし	市内 24	
89	駿地2-1-11～16 (2017.3.3～6)		287.04 (89.3)		分譲住宅	遺構なし、須恵器	市内 24	
90	仲1-1-35の一部 (2017.10.12)		120 (12)		個人住宅	遺構遺物なし	市内 24	
91	駿地1-3-8の一部 (2017.10.24)		416 (51.75)		個人住宅	渠、陶器等	市内 24	
92	駿地3-4-3 (2017.10.30～31)		621 (177.75)		分譲住宅	土坑、ビット、墨書き器	市内 24	
93	駿地3-5-72 (2017.11.27～28)		571.97 (114.35)		共同住宅	古代住居跡2. 土坑、宿跡、渠、墨書き器、土師器等	市内 24	
94	駿地3-5-4 (2018.3.23)		1,508 (172.5)		作業場	古代住居跡1. ビット、土師器等	市内 24	
95	松山2-1-12 (2018.8.1～9.13)		353 (38.96)		分譲住宅	遺構遺物なし	市内 25	
96	仲1-1-34 (2018.8.20)		165.43 (31.95)		分譲住宅	宿跡、遺物なし	市内 25	
97	駿地3-1-5～7の各一部 (2018.10.30)		253 (61.93)		個人住宅	遺構遺物なし	市内 25	
98	松山2-2-4 (2019.1.1)		1,291.34 (54.46)		店舗	遺構なし、須恵器	市内 25	
99	仲2-4-2 (2019.1.21～22)		673.35 (201.25)	33.8 (21)	分譲住宅	宿跡遺構、陶磁器等	市内 23	
100	駿地3-1-5の一部 (2019.8.9～23)		327 (45)		個人住宅	古代住居跡1. 土師器等	市内 25	
101	仲1-2-52～54 (2019.10.30～11.1)		1,219 (222)		分譲住宅	土坑、渠、遺物なし	市内 25	
102	駿地2-3-14～15 (2020.3.17)		91 (5)		分譲住宅	遺構遺物なし	市内 25	
103	松山2-1-4の一部 (2020.6.10～12)		462 (137)		共同住宅	渠、須恵器等	市内 26	
104	池上356-1、357、 360の各一部	(2020.9.28～29)	1,586.87 (64.75)		宅地造成	土坑、渠、須恵器等	市内 26	
	池上355、356-1、 357、360、361の各一部	(2020.9.28～29)	2,944.13 (4)		宅地造成	遺構遺物なし	市内 26	
105	仲2-1-8 (2020.10.22～12.25)		257.87 (77.65)		共同住宅	遺構なし、陶磁器	市内 26	



第34図 松山遺跡の地形と調査区(1/4,000)



第35図 松山遺跡分布図 (1/3,000)

II 松山遺跡第103地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2020年6月8日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年6月10～12日に試掘調査を実施した。

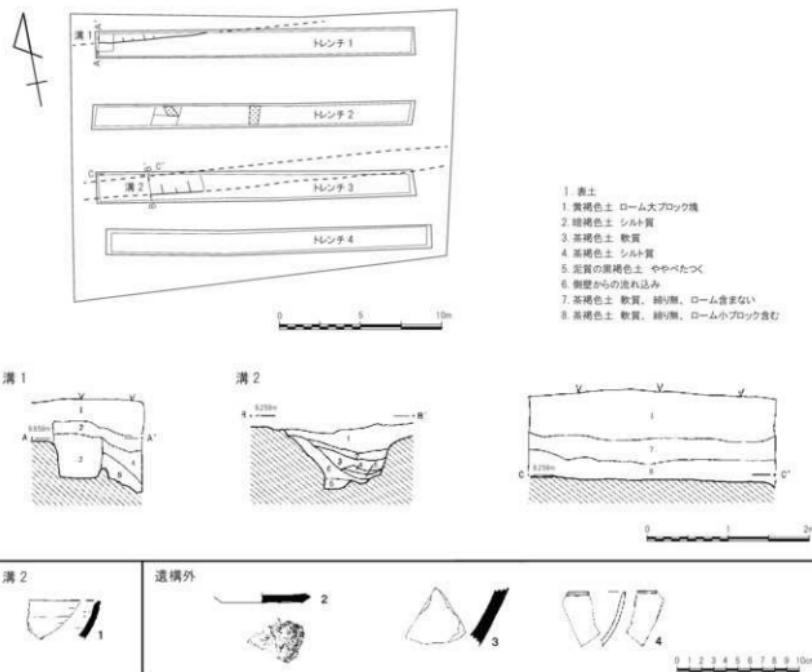
試掘調査は幅約1.5～2mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30～90cmである。

調査の結果、時期不明の溝2条を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①溝

溝は調査区北側、トレンチ1と調査区中央のトレンチ3で確認した。いずれも東西方向に走行する。溝1はそのほとんどが調査区外になるため、詳細は不明である。溝2は上幅130cm、下幅65cm、深さ70cmを測り、断面形態は台形を呈するが、底面は平滑ではなく凹凸がある。土層の観察より滯水していたものと考えられる。溝の高低差をみると東側が高いため、東から西に向かって水が流れていたものと推測される。



第36図 松山遺跡第103地点遺構配置図(1/300)、溝(1/60)、出土遺物(1/4)

②出土遺物

遺物の詳細については第36図及び第26表に掲載した。溝から須恵器片が1点出土したが、溝の時期を決定するものではない。

第26表 松山遺跡第103地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第36図-1	溝2	須恵器片	-	-	-	-	輪縁使用、胎土に海綿骨針含む、南比企産	8世紀中頃
第36図-2	遺構外	須恵器片	-	6.6	-	-	輪縁使用、底部全面回転ヘラケズリ、胎土に海綿骨針含む、南比企産	8世紀中頃
第36図-3		須恵器片	-	-	-	-	外面の叩き目・内面の垂当具痕はナデ消、胎土に海綿骨針含む、南比企産	奈良・平安
第36図-4		磁器碗	-	-	-	-	輪縁成形、失透色の釉、太白手、瀬戸美濃産	幕末

III 松山遺跡第104地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2020年9月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年9月28・29日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約2mのトレーナー1本と1.5m四方のトレーナー2ヶ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約60~90cmである。

調査の結果、溝1条を確認したが保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

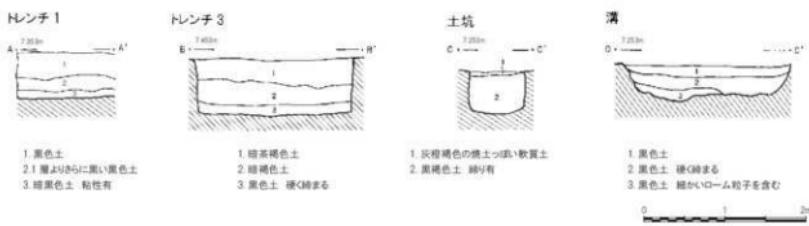
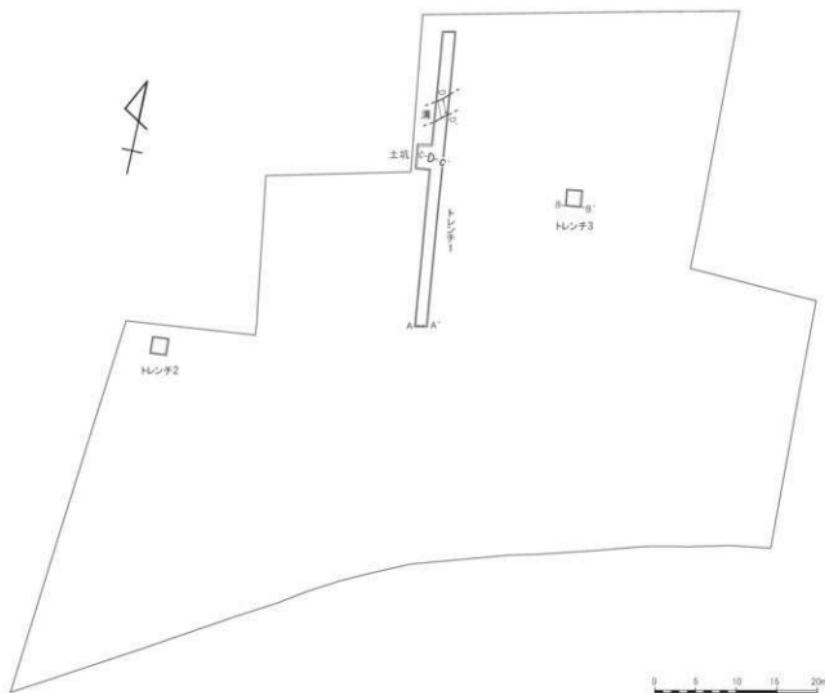
(2) 遺構と遺物

①溝

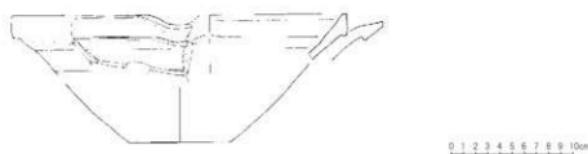
調査区中央に入れたトレーナー1の北側で確認した。走行方向はN-52°Eで、上幅200cm、下幅170cm、深さ45cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、底面は比較的凹凸がある。走行方向や断面形態、覆土の特徴等から本地点の北側に位置する第99地点で検出した堀状遺構と同様である可能性が高い。

②出土遺物

遺物は遺構外から出土した須恵器系片口鉢の口縁部1点である。13世紀後半~14世紀前半の魚住窯産で、帶状の縁帯を持ち、縁帯には弱い降灰が見られる。割れ口部を砥石として転用している。



遺構外:



第37図 松山遺跡第104地点遺構配置図(1/600)、土層・土坑・溝(1/60)、出土遺物(1/4)

IV 松山遺跡第105地点

(1) 調査の概要

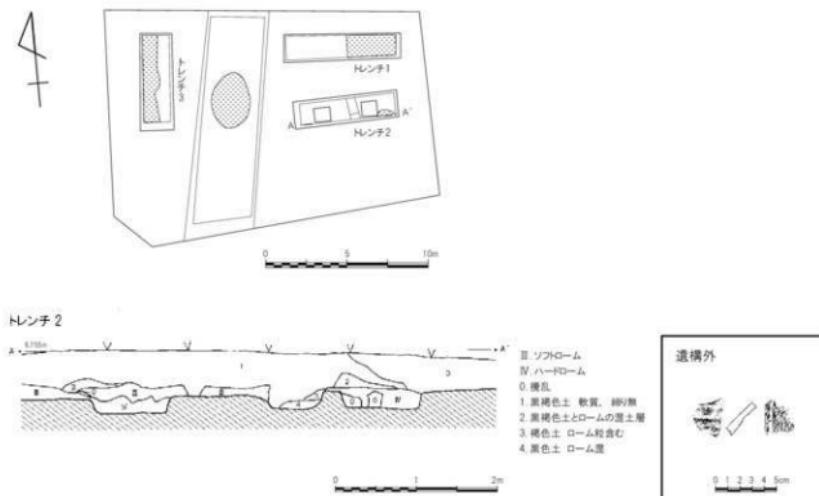
調査は共同住宅建設に伴うもので、原団地より2020年7月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年10月22日及び12月25日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5～2mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～50cmである。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

表土中より陶器片1点が出土した。17世紀後半～18世紀初頭の丹波産と思われる擂鉢の胸部破片である。内面の磨り目の間隔が粗い。



第38図 松山遺跡第105地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)、出土遺物(1/4)

V 松山遺跡工事立会

(1) 調査の概要

調査はガス管新設工事に伴うもので、原図者より2020年10月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置する。申請者と協議の結果、掘削面積が幅約60cmと狭小なため、工事立会の措置とした。2020年11月24・25日に工事立会を実施したところ、遺構は確認されなかったが、表土中より遺物を数点確認した。

(2) 遺構と遺物

遺物はすべて近世以降のものである。詳細については第39図及び第27表に掲載した。

第27表 松山遺跡工事立会出土遺物観察表（単位 cm・g）

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第39図-1	遺構外	陶器植木鉢	-	-	-	-	輪縁成形、画面鉄袖、内面錦袖をハケ塗、瀬戸美濃産	19世紀～
第39図-2		土器火鉢	-	-	-	-	胎土明るい赤褐色で軟質、外面櫛歯の割突文	18世紀～
第39図-3		軒丸瓦	-	-	-	-	瓦当面剥落、被熱のためか土筋質	江戸

遺構外



第39図 松山遺跡工事立会出土遺物(1/4)

第 10 章 江川東遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

江川東遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約 700 ~ 1,000m 程下った右岸に位置している。標高 15 ~ 19m で現谷底との比高差は 3m を測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、右岸は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畠地が残っている。

周辺の遺跡は谷頭部付近に亀居遺跡、対岸台地上に鶴ヶ舞遺跡、南側に東久保遺跡がある。

本遺跡は旧大井町の地域で最も早く市街化された区域内にあり、現在は表面採取がほとんど不可能であるが、一部残された畠地には須恵器が散布する。第 2 地点の調査では、近世の土坑・ピットを検出している。2021 年 4 月現在 27 地点で試掘及び発掘調査を行っている。

II 江川東遺跡第 27 地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 12 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 12 月 10 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1m のトレーナー 2 本を設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 15 ~ 20 cm である。

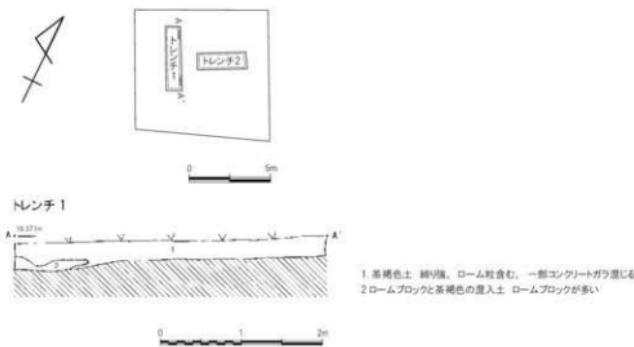
調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 40 図 江川東遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第28表 江川東遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	東久保 1-149-14	(1994.3.24 ~ 25)	52		個人住宅 溝、織文土器 等			町内Ⅲ
2	大字東久保 1-162-34	1995.1.20 ~ 2.6	191		個人住宅 土坑、ピット、フレーク 等			町内Ⅳ
3	欠番							
4	東久保 138-4 他	(1996.1.24 ~ 29)	246		個人住宅 溝、ピット、遺物なし			町内Ⅴ
5	東久保 1-159-6	(1998.6.1 ~ 9)	164		土地分譲 ピット、遺物なし			町内Ⅵ
6	東久保 1-168-7	(2001.7.17)	71	(15)	個人住宅 遺構遺物なし			町内Ⅹ
7	東久保 1-160-47	(2003.4.7)	88		個人住宅 遺構遺物なし			町内Ⅺ
8	東久保 1-150 他	(2004.3.25 ~ 4.7)	6137		共同住宅 土坑、溝、遺物なし			町内Ⅻ
9	東久保 1-6-19	(2004.4.9 ~ 5.10) 2004.5.11 ~ 19	464		保育園 ピット、溝、織文土器 等			町内ⅩⅢ、大調 14
10	東久保 1-174-1・36	(2005.10.13 ~ 24)	881	(267)	分譲住宅 土坑、ピット、遺物なし			市内 2
11	東久保 1-162-1・14	(2006.11.9 ~ 17)	674	(200)	分譲住宅 土坑、ピット、遺物なし			市内 3
12	東久保 1-27-3	(2006.11.10)	72	(6)	宅地造成 遺構遺物なし			市内 3
13	東久保 1-159-4	(2006.8.11)	114	(24)	個人住宅 遺構遺物なし			市内 3
14	東久保 1-174-38	(2007.5.25 ~ 29)	67	(30)	個人住宅 遺構遺物なし			市内 4
15	東久保 1-136-5	(2007.9.11 ~ 13)	344	(91)	公民館分譲 遺構なし、須恵器			市内 4
16	東久保 1-176-13 ~ 16	(2009.9.14 ~ 15) 2009.9.16 ~ 18	148.5	(63)	個人住宅 溝、土坑、織文土器			市内 8
17	東久保 1-177-1	(2009.12.10 ~ 18)	556	(156)	地下堆積物調査 遺構遺物なし			市内 8
18	東久保 1-176-9	(2011.11.28)	72	(21)	個人住宅 遺構遺物なし			市内 14
19	東久保 1-146-6	(2012.7.24)	74.2	(13)	個人住宅 ピット、遺物なし			市内 15
20	東久保 1-160-29	(2013.7.30)	71.94	(11)	分譲住宅 遺構遺物なし			市内 18
21	東久保 1-180-3	(2013.11.21 ~ 22)	570	(30.5)	分譲住宅 遺構遺物なし			市内 18
22	東久保 1-160-39	(2014.9.30 ~ 10.1)	72.44	(11)	個人住宅 遺構遺物なし			市内 20
23	東久保 1-180-11	(2014.10.10)	180	(29.4)	個人住宅 遺構なし、土器			市内 20
24	東久保 1-32-12	(2015.11.27)	91.92	(6)	個人住宅 遺構遺物なし			市内 22
25	東久保 1-16-21	(2019.3.12)	63.4	(9.4)	分譲住宅 遺構遺物なし			市内 25
26	東久保 1-176-6	(2019.11.7)	72	(13.2)	分譲住宅 遺構遺物なし			市内 25
27	東久保 1-169-3	(2020.12.10)	63.14	(7.4)	分譲住宅 遺構遺物なし			市内 26



第41図 江川東遺跡第27地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

第 11 章 東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約 500 ~ 1,000m 程下った右岸に位置している。標高 17 ~ 20m で現谷底との比高差は 3 ~ 4m を測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東大久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れおり、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川の間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約 50m に江川南遺跡、南側に隣接して亀久保塚跡遺跡が位置する。本遺跡の調査は 1976 年以来 2021 年 4 月現在 77 地点で試掘調査および発掘調査を行っている。これまでの調査で、旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑など、中近世は溝や柵跡が確認されている。

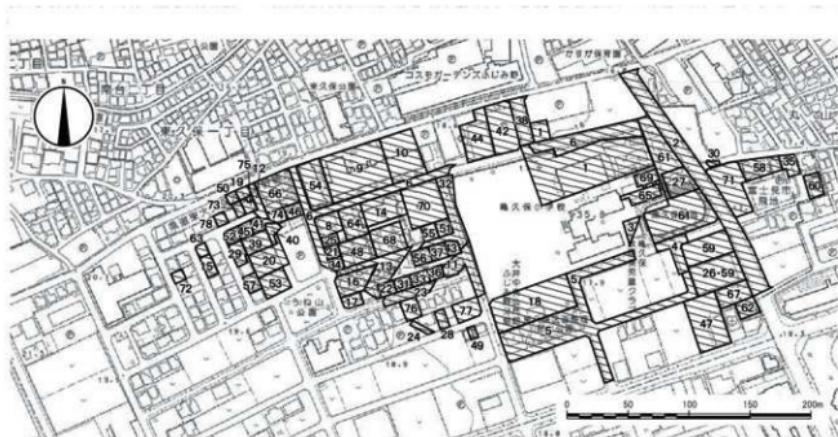
II 東久保遺跡第 78 地点

(1) 調査の概要

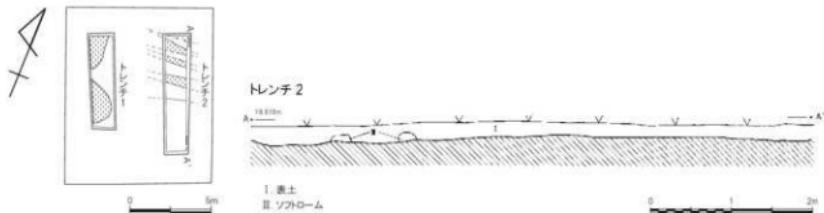
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 5 月 11 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 5 月 18 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 20 ~ 25 cm である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 42 図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第43図 東久保遺跡第78地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

第29表 東久保遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	東久保字東久保285-1他	(1976.6.29 ~ 7.27)	10,000		東久保小学校	集石土坑、土坑、溝状窓網、井戸、縄文土器等		東久保
2	東久保293-1他 (12-1号線)	1994.12.19 ~ 1995.3.23 (1995.5.18 ~ 22) (1996.11.15)	2,472		区画整理道路	土坑、ビット、溝、縄文土器片		大調14
3	東久保284-1	(1996.5.20 ~ 29)	270		土童保育所	溝、柵列、遺物なし		町内VI
4	東久保364-1	(1996.6.7 ~ 10) 1996.9.2 ~ 4			区画整理道路	旧石器礫群、石器		町内VI・大調14
5	東久保366	1996.11.22 ~ 1997.3.5	320		区画整理道路	土坑、昭緒、ビット、溝、縄文土器等		大調14
6	東久保271-1 (8-7号線)	(A区)1997.1.20 ~ 2.13 (B区)1997.2.24 ~ 3.19 (C区)1997.7.24 ~ 25 (D区)1997.8.6	2,309		区画整理道路	落とし穴、集石土坑、土坑、ビット、溝、縄文土器等		大調14
7				168				大調14
8	東久保18街区12面地	(1997.7.29 ~ 8.2)	305		個人住宅	土坑、ビット		町内VII
9	東久保279,280	(1997.8.18 ~ 28)	2,117		共同住宅	集石土坑、土坑、ビット、溝、縄文土器等		町内VII・大調14
10	東久保19街区	(1997.9.2 ~ 10)	1,067		分譲住宅	集石土坑、溝、縄文土器等		町内VII
11	東久保(8-8号線)	1998.3.11 ~ 12	588		区画整理道路	ビット、溝、柵列、縄文土器等		大調14
12	東久保(6-19号線)	1998.1.19 ~ 1.21	282		区画整理道路	集石土坑、ビット、溝、石器		大調14
13	東久保381-5他 (6-23号線)	1999.5.19 ~ 20 (1999.11.2)	360		区画整理道路	集石土坑、ビット、溝、縄文土器等		大調14
14	東久保18街区3面地	(1999.6.29 ~ 7.16) 1999.7.19 ~ 29	823	330	共同住宅	溝、柵列、縄文土器等		町内IX・大調14
15	東久保5街区14 ~ 15面地	(1999.8.2)	178	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		町内IX
16	東久保15街区1 ~ 5 ~ 32面地	(1999.10.1 ~ 6)	334	(132)	個人住宅	遺構遺物なし		町内IX
17	東久保381-5	(1999.6.14 ~ 15)	168	(121)	個人住宅	遺構遺物なし		町内IX
18	東久保27街区2面地	(1999.11.30 ~ 12.15)	14,989	(409)	グランド アパート	柵列、遺物なし		町内IX
19	東久保3街区9 ~ 10面地	(1999.12.20 ~ 21)	108	(40)	店舗併用住宅	遺構遺物なし		町内IX
20	東久保4街区9面地	(2000.2.28 ~ 3.3)	476	(234)	個人住宅	遺構遺物なし		町内IX
21	東久保18街区14面地	(2000.3.23 ~ 28)	114	(57)	個人住宅	遺構遺物なし		町内IX
22	東久保15街区28面地	(2000.3.22 ~ 23)	150	(38)	個人住宅	遺構遺物なし		町内IX
23	東久保(6-49号線)	2000.3.13 ~ 16, 3.27 ~ 4.6	280		区画整理道路	土坑、焼土		大調14
24	東久保14街区	2000.1.19	390		区画整理道路	遺構遺物なし		大調14
25	東久保18街区13面地	(2000.4.13 ~ 14)	135	(50)	個人住宅	遺構遺物なし		町内X
26	東久保31街区9面地	(2000.4.14)	1,107	(833)	砂利敷駐車場	ビット、溝、縄文土器片等		町内X
27	東久保26街区	2000.5.17 ~ 6.8	560		区画整理 貯水池	土坑、ビット、溝、柵列		大調14
28	東久保14街区8面地	(2000.6.29 ~ 7.4)	130	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		町内X
29	東久保4街区18 ~ 20面地	(2000.6.30 ~ 7.4)	216	(16)	個人住宅	溝		町内X
30	東久保294-2	2000.7.4	48		区画整理道路	溝状窓網、遺物なし		大調14

地区 地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
31	東久保 15 街区 26 画地	(2000.6.7)	126	(87)	個人住宅	遺構遺物なし		町内X
32	東久保 277 - 381 他	2000.7.12 ~ 8.4 2001.7.16 ~ 11.30	265 590		区画整理道路	石器集中、土坑、ピット、溝、樹列、石器 等	大調 14	
33	東久保 15 街区 24 画地	(2000.8.2 - 3)	128	(22)	個人住宅	遺構遺物なし		町内X
34	東久保 18 街区 15 画地	(2000.8.29 - 30)	110	(38)	個人住宅	ピット		町内X
35	東久保 23 街区 3 - 4 画地	(2000.12.7 ~ 9)	139	(46)	個人住宅	溝、ピット、遺物なし		町内X
36	東久保 15 街区 21 - 22 画地	(2001.1.19 ~ 25)	135	(40)	個人住宅	遺構遺物なし		町内X
37	東久保 15 街区 13 - 33 画地	(2000.12.11)	149	(40)	個人住宅	遺構遺物なし		町内X
38	東久保 284-1, 285-1	2000.12.13 ~ 15	501		区画整理道路	ピット、遺物なし		大調 14
39	東久保 4 街区 8 - 9 画地	(2001.3.22 ~ 27)	317	(117)	個人住宅	落とし穴		町内X
40	東久保 270-3 - 4	2001.3.23, 2001.6.1	128		区画整理道路	遺構遺物なし		大調 14
41	東久保 4 街区 6 - 7 画地	(2001.5.28 ~ 29)	112	(37)	個人住宅	溝、遺物なし		町内X
42	東久保 19 街区 10 画地	(2001.4.18 ~ 21)	864	160	駐車場	溝、遺物なし		町内X
43	東久保 15 街区 14 - 15 画地	(2001.5.22 ~ 25)	142	(37)	個人住宅	遺構遺物なし		町内X
44	東久保 19 街区 9 - 11 - 12 画地	(2001.5.10 ~ 6.29)	757	(186)	倉庫	落とし穴、ピット、溝、縄文土器 等		町内X
45	東久保 258-21	(2001.6.1)	100	(31.5)	個人住宅	遺構遺物なし		町内X
46	東久保 17 街区 3 - 4 画地	(2001.6.4 ~ 6)	135	(49)	個人住宅	溝、縄文土器 等		町内X
47	東久保 31 街区 6 - 13 画地	(2001.10.11 ~ 26)	1,203	(321)	店舗	落とし穴、溝、遺物なし		町内X
48	東久保 18 街区 9 - 10 画地	(2001.12.17 ~ 25)	518	(178)	分譲住宅	遺構遺物なし		町内X
49	東久保 13 街区 7 画地	(2002.2.12 ~ 13)	100	(1)	分譲住宅	遺構遺物なし		町内X
50	東久保 3 街区 22 画地	(2002.9.24)	102		個人住宅	遺構遺物なし		町内X
51	東久保 18 街区 11 画地	(2002.12.3)	155		個人住宅	遺構遺物なし		町内X
52	東久保 4 街区 3 画地	(2003.2.6 ~ 7)	64		個人住宅	溝、井戸		町内X
53	東久保 4 街区 10 画地	(2003.5.7 ~ 22)	408		共同住宅	ピット、溝、遺物なし		町内X
54	亀久保字東久保 272 (19街区 7 画地)	(2003.5.9 ~ 22)	798		共同住宅	落とし穴、ピット、溝、遺物なし		町内X
55	亀久保字東久保 488 (18街区 7 画地)	(2003.6.9 ~ 12)	165		個人住宅	現道路、遺物なし		町内X
56	亀久保字東久保 15 街区 12 画地	(2003.7.31 ~ 8.5)	165		個人住宅	現道路、遺物なし		町内X
57	東久保 258-26 (4 街区 14 画地)	(2003.9.22 ~ 10.1)	133		個人住宅	遺構遺物なし		町内X
58	ふじみ野 2-27-2	(2004.4.13 ~ 14)	558		分譲住宅	溝		町内X
59	ふじみ野 2-25-7 ~ 9	2004.7.14 ~ 23	1,804		店舗	土坑、ピット、溝、遺物なし		町内X、大調 14
60	ふじみ野 2-26-16	(2004.7.22 ~ 24)	337		個人住宅	ピット、遺物なし		町内X
61	東久保 26 街区	2004.9.29 ~ 11.26	2,376		区画整理 公園跡地	土坑、ピット、溝、磁器片	大調 14	
62	ふじみ野 2-25-16	(2004.10.12 ~ 15)	220		個人住宅	溝、遺物なし		町内X
63	ふじみ野 2-5-10 - 12	(2006.2.10)	105	(23)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
64	ふじみ野 2-18-6 の一部	2006.10.12 ~ 20	437	112	共同住宅	溝、樹列、石器 等		市内 3
65	ふじみ野 2-22-2, 5 ~ 7	(2008.1.18 ~ 28)	260	(51)	小学校施設	遺構遺物なし		市内 4
66	ふじみ野 2-19-4, 19-5	(2008.6.22 ~ 6.11)	862	(261)	分譲住宅	溝、縄文土器 等		市内 6
67	ふじみ野 2-25-10 - 11	(2009.11.9)	492.5	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
68	ふじみ野 2-18-13	(2010.11.22 ~ 26) 2010.11.29 ~ 12.8	791	(306)	分譲住宅	集石土坑、溝、樹列、縄文土器 等		市内 9
69	ふじみ野 2-22-2, 3 ~ 5 の一部・6 ~ 7	(2011.3.28)	17,276.3	(32)	小学校増築	遺構遺物なし		市内 10
70	ふじみ野 2-18-8 ~ 10	(2013.1.16 ~ 24)	1,156	(180)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 15
71	ふじみ野 2-27-1 - 9	(2013.6.17 ~ 19)	998	(222)	店舗	溝、遺物なし		市内 18
72	ふじみ野 2-6-7	(2015.7.2)	100	(7)	個人住宅	溝、遺物なし		市内 22
73	ふじみ野 2-3-14	(2017.6.19)	62.35	(4.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
74	ふじみ野 2-19-2 ~ 3	(2017.8.1 ~ 2)	239	(26.7)	個人住宅	ピット、古鉢		市内 24
75	ふじみ野 2-3-13 ~ 24	(2017.12.18)	96.87	(4.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
76	ふじみ野 2-15-7	(2019.5.16)	228	(37.13)	分譲住宅	ピット、溝、遺物なし		市内 25
77	ふじみ野 2-15-9	(2019.7.2)	320	(15.76)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
78	ふじみ野 2-3-17	(2020.5.18)	99	(20.1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 26

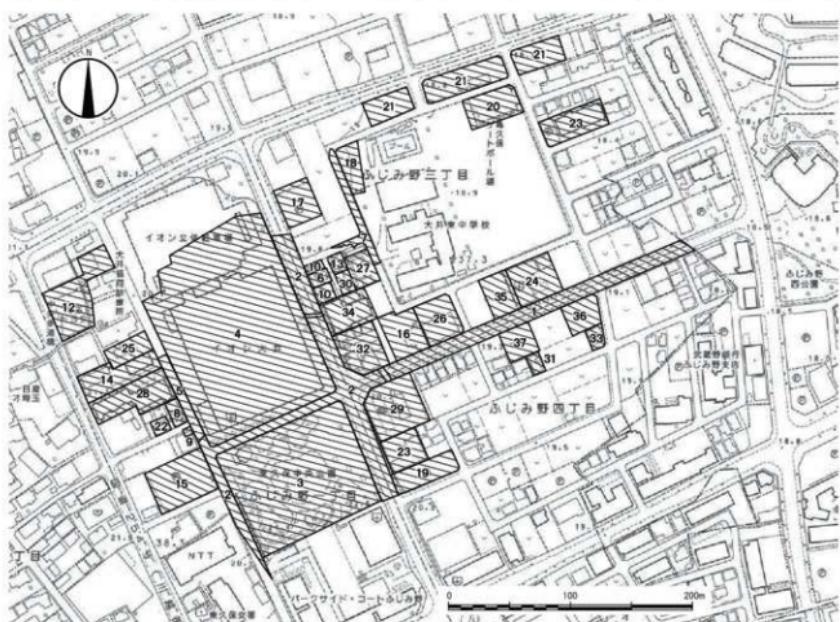
第12章 東中学校西遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間の標高は20.0～21.0mの低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川（現在用水路）が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。

遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てた北側約50mに東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

遺跡の時期は縄文時代では早期の炉穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋甕、落とし穴や集石土坑などを検出している。中・近世では墓壙・溝・柵列などが確認されている。本遺跡の調査は1995年以来2021年4月現在36ヶ所で試掘調査および発掘調査が行われている。



第44図 東中学校西遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第30表 東中学校西遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1 東久保 5511, 526, 531 他		1994.10.6 ~ 11.9	3,168		区画整理 道路	土坑、ビット、遺物なし		大圖 14
2 東久保 466-1 他	<A 区>1996.10.7 ~ 11.15 <B 区>1996.12.12 ~ 17 <C 区>1997.3.5 ~ 19 <D 区>1997.6.12 ~ 19 <E 区>1997.7.8 ~ 8.8 <F 区>1996.1.18 ~ 31 <G 区>1996.1.25		3,308		区画整理道路	炉穴群、黒土石坑、落とし穴、土坑、 ビット、溝、縄文土器 他	大圖 14	
			1,168					
			880					
3 東久保 465, 500 他	(1996.8.29 ~ 9.13) 1996.10.7 ~ 21	10,200		区画整理公園	落とし穴、土坑、ビット、溝、縄 文土器 他		町内 VI, 大圖 14	
4 東久保 326 他	(1997.2.6 ~ 10.29) 1997.6.12 ~ 8.8	24,681		店舗	落とし穴、集石土坑、土坑墓、ビット、 溝、屋外堆積、壇列、縄文土器 他		町内 VI ~ VIII, 大圖 14	
5 東久保 487-1, 474-4 他	1997.6.12 ~ 7.24	668		区画整理道路	炉穴、落とし穴、ビット、溝、砾 片		大圖 14	
6 東久保 325-1 ~ 7 ~ 8.9	(1997.6.26 ~ 27)	135.62		事務所	遺構遺物なし		町内 VIII	
7 東久保 402-1 他	1997.7.21 ~ 31	636		区画整理道路	ビット、焼穴		大圖 14	
8 東久保 44 街区 13 ~ 14 画面	1997.8.5 ~ 9	251.94		個人住宅	落とし穴、ビット、溝、遺物なし		町内 VIII	
9 東久保 45 街区 2 ~ 3 画面	(1997.8.19 ~ 9.1)	324.7		個人住宅	ビット、溝、遺物なし		町内 VIII	
10 東久保 42 街区 1 画面 欠	(1997.12.10 ~ 20)	135.19		店舗	遺構遺物なし		町内 VIII	
12 東久保 44 街区 3 ~ 23 ~ 24 画面	(1998.1.6 ~ 24)	1,879		店舗	遺構遺物なし		町内 VIII	
13 東久保 2 街区 12 画面	(1998.6.9 ~ 11)	218		個人住宅	ビット、遺物なし		町内 II	
14 東久保 44 街区 11 ~ 29 ~ 26 画面	(1998.6.23 ~ 26)	1,231		共同住宅	ビット、遺物なし		町内 II	
15 東久保 45 街区 1 ~ 4 ~ 6 画面	(1998.8.17 ~ 24)	2,649		店舗専用駐車場	ビット、遺物なし		町内 II	
16 小じみ野町 1-5・6・7	(2013.2.18 ~ 22)	1,834	(52)	集合住宅	遺構遺物なし		市内 15	
17 東久保 42 街区 6 画面	(1998.8.17 ~ 31)	1,347		店舗専用駐車場	ビット、遺物なし		町内 II	
18 東久保 38 街区 7 ~ 8 画面	(1998.8.19 ~ 24)	1,131		店舗専用駐車場	遺構なし、石窓		町内 II	
19 東久保 319-1	(1999.2.8 ~ 17)	850		テニスコート	ビット、焼穴、遺物なし		町内 II	
20 東久保 32 街区 8 画面	(1999.3.17)	944		駐車場	遺構なし、雨器		町内 II	
20 東久保 39 街区 1 画面	(1999.6.16 ~ 7.19)	900	(461)	区画整理調整池	ビット、溝、遺物なし		町内 IX	
21 東久保 37 街区 1 ~ 3 画面	(1999.11.18 ~ 12.9)	1,311	(733)	店舗	土坑、ビット、溝、縄文土器 他		町内 IX	
22 東久保 44 街区 15 画面	(2000.3.7 ~ 9)	150	(56)	個人住宅	ビット、溝、砾石		町内 IX	
23 東久保 33 街区 6 画面	(2003.8.5 ~ 13)	1,233	(30)	共同住宅	土坑、ビット、遺物なし		町内 XI	
23 小じみ野 4-1~6 の一部	(2005.5.24 ~ 30)	926	(288)	店舗	土坑、遺物なし		市内 2	
24 小じみ野 3-9-5	(2005.6.20 ~ 7.7) 2005.7.11 ~ 13	1,425	(194)	店舗	炉穴		市内 2	
25 小じみ野 1-1 ~ 9 ~ 10	(2005.6.28 ~ 7.2)	604	(151)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 2	
26 小じみ野 3-10-8 ~ 11	(2006.1.5 ~ 10)	1,060	(147)	店舗	遺構遺物なし		市内 2	
27 小じみ野 3-10-3 の 一部~4	(2006.1.11)	120	(14)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2	
28 小じみ野 1 丁目 1-13 ~ 14 ~ 15 ~ 32 ~ 23	(2006.4.24 ~ 5.10)	1,568.15	(680)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 3	
29 小じみ野 4-4-1	(2006.5.15 ~ 19 ~ 7.28 ~ 8.1)	2,004	(600)	店舗	土坑、土人形		市内 3	
30 小じみ野 3-10-13	(2006.7.3)	634	(56)	保育所	遺構遺物なし		市内 3	
31 小じみ野 4-3-14	(2008.2.14)	165		個人住宅	遺構遺物なし		市内 4	
32 小じみ野 3-10-12	(2008.6.13 ~ 25)	1,231	(302)	分譲及び店舗	遺構遺物なし		市内 6	
33 小じみ野 4-3-8 の一部	(2008.10.3)	214.92	(37)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6	
34 小じみ野 3-10-6	(2011.2.2 ~ 3)	1,032	(135)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 10	
35 小じみ野 3-9- 地 1 の一部	(2015.3.10)	661.42	(211.5)	病院増築	溝状遺構、遺物なし		市内 20	
36 小じみ野 4-3-6 ~ 7	(2015.8.11)	724	(134)	駐車場	遺構遺物なし		市内 22	
37 小じみ野 4-3-2	(2023.3.22)	624	(127.8)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 26	

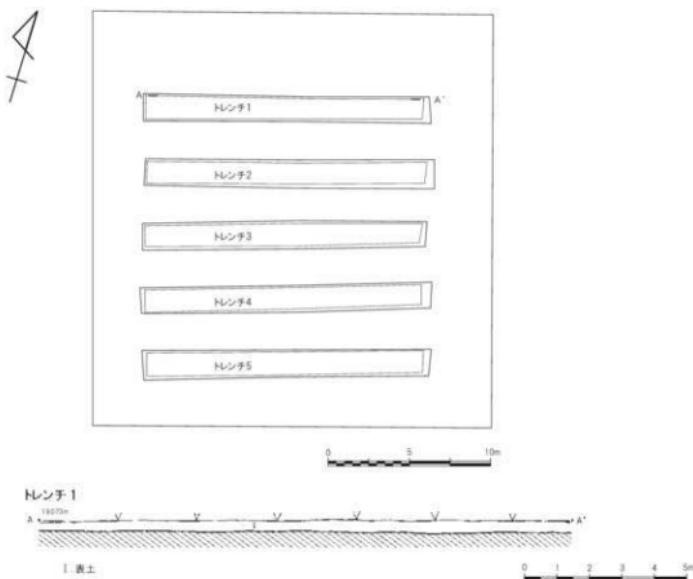
II 東中学校西遺跡第37地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2021年2月18日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年3月22日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30～40cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第45図 東中学校西遺跡第37地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

第13章 西ノ原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18~21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れ入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2~3mで、武藏野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、淨禪寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武藏野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2021年4月現在で179地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210軒を超す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落であったことがわかる。



第46図 西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第31表 西ノ原遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	測量面積 ()	測量 面積 (m ²)	調査 面積 (試験)	調査原因	確認された 遺構・出土物	所収 報告書	地区 地点	所在地	測量面積 ()	測量 面積 (m ²)	調査 面積 (試験)	調査原因	確認された 遺構・出土物	所収 報告書
1		1971			縄文時代住居跡1、石器 土器、陶土器等	史前史I		46	苗原83-2	1991.4.9～10	199		個人住宅	遺構なし、縄文土器等	内IV
2	西ノ原83	1978.12.6～26	270		宅地造成	横穴式土器等	西ノ原 遺跡	47	苗原136-2	1991.7.15～26	141		個人住宅	遺構なし、縄文土器等	内IV
3		1979.3			宅地造成	縄文土器等		48	苗原西9-109	1991.9～10			区画道路	縄文時代住居跡1、土器 遺跡	内IV
4	西ノ原125-1	1979.2.2～9	660		宅地造成	遺構なし、縄文土器等	東部I	49	苗原西9-109	1991.12～1992. 1997.3.13～24	2,810		区画道路	縄文時代住居跡1、土器 遺跡	内IV
5	苗原99-2	1979.8.1～14 8.20～31	305		宅地造成	横穴式住居跡1、土器 石器、土器等	大字II	50	苗原西9-109	1991.11～12			区画道路	縄文時代住居跡1、土器 外郭構造、土器	内IV
6	西ノ原170-2	1980.5.19～27	450		宅地造成	土器、陶器、陶土器等	東部II	51	苗原153-2	1991.2.4～12 2005.4.11～5	1,190	(420) 600	モルタルムー ル工事	縄文時代住居跡1、土器 ビット、縄文土器等	内IV 大既18
7	西ノ原96-1	1980.10.1～29	563		宅地造成	縄文土器等	東部II	52	苗原122-1	1991.2.10～20 1992.4.16～9.1 1993.11.10	984		オソリソ スタッド	縄文時代住居跡1、土器 ビット、縄文土器等	内IV
8	西ノ原95-2～3	1980.10.30～ 11.14	661		宅地造成	朱漆木柱、土器、瓦 柱21、瓦、石器等	東部II	53	苗原143-3	1992.4.7～13	493		上層階	縄文時代住居跡1、土器 遺跡	内IV
9	西ノ原93-2、98-1	1981.6.1～23	800			柱21、瓦、石器等	東部II	54	西ノ原	1992.5.7～6.29	1,100		区画道路	縄文時代住居跡1、土器 瓦、土器等	内IV
10	西ノ原180-2	1981.11.4～13	400		個人住宅 等		東部II	55	西ノ原135-5～9	1992.5.21～6.23	241		駐車場	縄文時代住居跡2、伊 豆土器等	内IV
11	西ノ原143-5	1983.9.23～27	198		平地造成	土器、陶器等	東部II	56	西ノ原133-2	1992.6.23～26	261.4		分譲住宅	縄文時代住居跡1、土器 瓦、土器等	内IV
12	西ノ原123-3	1983.7.8～9.11	330		宅地造成	土器、陶器等	東部II	57	西ノ原143-3・4	1992.7.6～9.1	174		個人住宅	縄文時代住居跡1、土器 ビット、縄文土器等	内IV
13	西ノ原114-6	1983.9.13～10.18	350			縄文時代住居跡1、石器 土器、陶器等	東部II	58	西ノ原137-2	1992.8.8	146		個人住宅	遺構なし、縄文土器等	内IV
14	西ノ原143	1983.10.24～11.7	240	180		縄文時代住居跡1、土器 瓦、土器等	東部II	59	西ノ原135-1	1992.3.16～11.12	454.9		個人住宅	縄文時代住居跡1、土器 瓦、土器等	内IV
15	西ノ原105-3	1984.5.1～30	311		開削住宅 跡	縄文時代住居跡1、土器 瓦、土器等	東部II	60	西ノ原136-2	1992.12.10～25	253		個人住宅	縄文時代住居跡2、土器 瓦、土器等	内IV
16	西ノ原82-1	1984.8.10～9.5	1,688		測量面積 等			61	西ノ原130-1他	1993.1.12～2.19	1,140		断面壁	縄文時代住居跡1、土器 瓦、土器等	内IV
17	西ノ原139-3	1985.5.13～22	165		宅地造成	土器、陶器等	東部II	62					縄文時代住居跡1、土器 瓦、土器等	内IV	
18	西ノ原142-1	1985.7.26～8.5	560		宅地造成	ビット、縄文土器等	東部II	63	西ノ原162-3-1 166	1993.4.13～22	147		共同住宅	ビット群、遺物なし	内IV
19	西ノ原135-1	1986.7.8～21	230		住宅建設 等	縄文時代住居跡1、土器 瓦、土器等	東部II	64	西ノ原94-1	1994.1.27～29	327.0/5		共同住宅	遺構なし、縄文土器等	内IV
20	西ノ原135-1	1986.11.29～ 1987.4	3,593		区画道路	縄文時代 住居跡	東部II	65	西ノ原145-1	1993.6.7～11	815		共同住宅	縄文時代住居跡2、土器 瓦、土器等	内IV
21	西ノ原95-1	1986.12.11～ 1987.1.9	447		住宅	縄文時代 住居跡	東部II	66	西ノ原133-2	1994.3.30～7.19	474		共同住宅	縄文時代住居跡1、土器 瓦、土器等	内IV
22	苗原144-1	1987	480		苗村墓園	縄文時代住居跡2、土器 瓦、ビット、縄文土器等	東部II	67	西ノ原159-2	1994.1.20～21	308.0/5		店舗	土器、ビット、漢 字土器等	内IV
23	西ノ原169	1987.7～8	1,024		区画道路	土器	大既6	68	西ノ原95-2-6	1994.3.22～25	285		苗原94年12月 苗原12月	遺構なし、遺物なし	内IV
24		1987						69	苗原106	1994.4.27～5.10	1,821		店舗	土器、ビット、漢 字土器等	内IV
25	西ノ原169	1988.1～2	781		区画道路	遺構なし	大既6	70	苗原136	1994.5.5～5.17	551		店舗	縄文時代住居跡2、土 器、瓦、土器等	大既6
26	西ノ原169	1988.3～4	1,649		区画道路	縄文時代住居跡3、石 器、石碑等	大既6	71	苗原112	1994.6.27～7.5	309		個人住宅	遣シ文字、遺構なし	内IV
27	西ノ原79、80-2 物	1988.10	942		区画道路	縄文時代住居跡5、鉢 穴、石器等	大既6	72	苗原112-109	1994.11.27～28	321		個人住宅	遺構なし、遺物なし	内IV
28	西ノ原79、90-2	1988.11			区画道路	遺構なし	大既6	73	苗原92-1	1995.2.27～29	274		個人住宅	遺構なし、遺物なし	内IV
29	西ノ原79、90-2他	1988.12			区画道路	縄文時代住居跡1(小倉跡)	大既6	74	苗原163	1995.2.1～13	169		春耕所	ビット、縄文土器等	内IV
30		1989.2～3			区画道路	土器	大既6	75	苗原122	1995.5.16～23 1995.6.9～7.2	379		事務所	縄文時代住居跡1、土器 瓦、土器等	大既13
31	西ノ原115-1	1989.11.4～11	84		下水道埋設 等	遺構なし	東部II	76	苗原152-2他	1995.4.20～27	468		事務所	ビット、縄文土器等	内IV
32	西ノ原122	1989.10～19	21		区画道路	縄文時代住居跡1、屋 内壁構造、縄文土器等	東部II	77	苗原143-2	1995.5.24～29	347		店舗	縄文時代住居跡1、土 器、瓦、ビット、縄文 土器等	大既13
33	西ノ原153-2	1989.10～19	21		区画道路	縄文時代住居跡1、石 器	大既6	78	苗原22-3-2	1995.8.28～8.8/9	45		野小屋	縄文時代住居跡3、縄 文土器等	内IV
34	西ノ原171	1989.1.24～31	21		区画道路	縄文時代住居跡1	東部II	79	苗原162-2他	1995.9.29～7.24	135		個人住宅	遺構なし、遺物なし	内IV
35		1989.2～3			区画道路	縄文時代住居跡3、土器 瓦、土器等	大既6	80	苗原83-2	1999.7.19～29	319		店舗	遺構なし、遺物なし	内IV
36		1989.3～4	4,000		区画道路	遺構なし、土器、陶 器等	大既6	81	苗原169	1999.8.2～7.7	223		通勤住宅	遺構なし、遺物なし	内IV
37		1989.5～8	200		区画道路	遺構なし	大既6	82	苗原168	1999.8.11～8.15	249		春耕所	遺構なし、遺物なし	内IV
38	西ノ原142-2	1989.9.29～9.12	74		個人住宅	縄文時代住居跡1、土 器、縄文土器等	東部II	83	苗原136-2	1998.8.23～10.21	190.06		個人住宅	石器、土器、ビット、縄 文土器等	内IV
39	西ノ原142-2	1989.9.25～9.12	94		個人住宅	縄文時代住居跡4、陶 器、縄文土器等	東部II	84	苗原106、109	1999.11.30～12.30	135		個人住宅	土器、ビット、遺物なし	内IV
40	苗原151-3、128-1	1989.10～16	1,595		区画道路	縄文時代住居跡5、陶 器、縄文土器等	大既6	85	苗原153-3	1999.1.15～20	654		バーデン	遺構なし、遺物なし	内IV
41	苗原108-1、112 1997.3.13～4.1	108,000	476		区画道路	縄文時代住居跡4、土 器、陶器、縄文土器等	苗原IV	86	苗原133-2、 93.1	1996.4.19～ 9.21	698		個人住宅	土器、ビット、縄文土器等	内IV
42	苗原西153-1, 121-1	1991.12～1992.7	106,000	993	区画道路	縄文時代住居跡5、陶 器、縄文土器等	大既6	87	苗原182-1	1996.5.3～5.15	344		学生宿	遺構なし、遺物なし	内IV
43	苗原153-3	1990.6.26～7.9	272		個人住宅	縄文時代住居跡4、土 器、縄文土器等	東部II	88	苗原西180-2 1998.7.20～9.27	1997.6.26～30	745		共同住宅	遣シ文字、ビット、 縄文土器等	内IV
44	西ノ原142-1他	1990.6.18～7.31	3,224		区画道路	縄文時代住居跡4、屋 内壁構造、瓦、土器、縄 文土器等	大既6	89	苗原西112	1996.7.17～8.30	143.93		個人住宅	石器、土器、ビット、 縄文土器等	内IV
45	西ノ原142-1他	1990.6.18～7.31			区画道路	縄文時代住居跡4、屋 内壁構造、瓦、土器、縄 文土器等	東部II	90	苗原西142-2	1996.7.31	177.28		個人住宅	縄文時代住居跡2、土 器、瓦、土器、ビット、 縄文土器等	内IV

I 遺跡の立地と環境

73

地区 地番	所在地	調査期間 ()	開発 面積 (m ²)	調査 面積 (m ²)	調査原因 ()	確認された 遺跡と遺物	所轄 報告書	地区 地番	所在地	調査期間 ()	開発 面積 (m ²)	調査 面積 (m ²)	調査原因 ()	確認された 遺跡と遺物	所轄 報告書
91 鹿島 269		(1996.8.1 ~ 30)	477		店舗	遺跡遺物なし	府内VI	141 鹿ノ川 1-8	鹿ノ川 1-8	(2007.5.6 ~ 9)	735	(81)	店舗兼事務所	土壌、ビット	府内 4
92 鹿島 292-2		(1996.10.22 ~ 26)	684	店舗兼事務所	遺跡遺物なし	府内VI	142 うわじ野 1-4-2	うわじ野 1-4-2	(2006.4.4 ~ 7)	296.0	(63)	市営宅	遺跡遺物なし	府内 6	
93 鹿島 315		(1996.10.22 ~ 23)	141	個人住宅	遺跡なし、構造土器等	府内VI	143 うわじ野 2-17-3	うわじ野 2-17-3	(2006.3.23)	287	(47)	市営宅	遺跡遺物なし	府内 6	
94 鹿島 345-2		(1996.11.14 ~ 19)	146.29	50	個人住宅	遺跡なし、構造土器等	府内VI	144 境内 1-8-11		(2009.9.3 ~ 25)	159	(74)	店舗兼事務所	瓦、瓦礫 等	府内 8
95 鹿島 354		(1996.11.14 ~ 19)	283		商店ビル	伊、構造土器等	府内VI	145 うわじ野 2-4-1-		(2010.7.25 ~ 8.25)	4,938	(364)	営業事務所	瓦、構造土器	府内 10
96 鹿島 441		(1996.12.17 ~ 20)	333		個人住宅	火、土壌、ビット。	府内VI	146 境内 1-16-3		(2010.10.16 ~ 13)	246	(86)	分譲住宅		府内 10
97 鹿島 47-2		(1996.12.19 ~ 20)	141.92		分譲住宅	遺跡遺物なし	府内VI	147 境内 1-16-8 の一部		(2010.12.8 ~ 14)	135		穀文化財	瓦、土壌、ビット、瓦、構造土器等	府内 10
98 鹿島 171-2		(1997.1.6)	206		個人住宅	遺跡なし	府内VI	148 境内 1-16-8 の一部		(2010.12.8 ~ 16)	211		個人住宅	瓦、ビット、瓦、構造土器等	府内 10
99 鹿島 97-1		(1997.1.20 ~ 24)	396.69		個人住宅	瓦なし、土壌、ビット。	府内VI	149 うわじ野 2-4-7		(2011.2.7 ~ 10)	625	(114)	営業事務所	瓦、遺物なし	府内 10
100 鹿島 150-2		(1997.4.5 ~ 12)	447		共同住宅	土壌、ビット、瓦、土壌等	府内VI	150 第一丁目 4-5・6		(2012.1.23 ~ 2.16)	108		宅地造成	穀文化財	府内 11・14
101 鹿島 183-1・3		(1997.7.20 ~ 25)	187		モディハピス	遺跡遺物なし	府内VI	151 境内 1-14-18		(2013.1.23 ~ 2.14)	111	77	個人住宅	穀文化財	府内 15
大井戸窓 22 朝霞	境内外	(1997.10.9 ~ 20)	179		個人住宅	ビット、瓦、構造土器等	府内VI	152 1-14-19		(2012.6.29 ~ 27)	107	26	個人住宅	瓦、土壌、構造土器等	府内 15
103 残置								153 1-14-17		(2013.7.1 ~ 26)	111	69	個人住宅	瓦なし、土壌、構造土器等	府内 18
104 鳥居 22 鷺の山	境内外	(1997.10.8 ~ 8)	223		個人住宅	土壌、瓦、構造土器等	府内VI	154 境内 1-14-1		(2012.1.20 ~ 27)	467	(283)	共同住宅	瓦、土壌、瓦等	府内 14
105 鶴舞 125-2, 126-2		(1998.1.13 ~ 21)	565		共同住宅	穀文化財	府内VI	155 境内 1-13-2		(2012.1.27 ~ 31)	324	(38)	共同住宅	瓦、構造遺物なし	府内 14
106 鳥居 112		(1998.1.19 ~ 24)	135.58		個人住宅	ビット、瓦、構造土器等	府内VI	156 1-6-2 の一部		(2012.5.29 ~ 30)	951	(380)	共同住宅	瓦、構造土器等	府内 18
107 鶴舞 112		(1998.2.9 ~ 13)	135.56		個人住宅	ビット、瓦、構造土器等	府内VI	157 鳥居 2-2-3		(2011.10.24 ~ 26)	846	(292)	共同住宅	瓦なし、構造土器等	府内 14
108 鶴舞 95-1, 92-1, 99-1・8-8		(1998.3.3)	413		個人住宅	土壌、ビット、瓦、構造土器等	府内VI	158 1-13-1・2-5		(2011.10.21 ~ 22)	234	(88)	共同住宅	瓦なし、構造土器等	府内 18
109 鶴舞 403-3, 429		(1998.3.11 ~ 18)	429		店舗併用	遺跡遺物なし	府内VI	159 境内 1-13-2		(2013.11.26 ~	2,345	(887)	工業施設	瓦、ビット、瓦、構造土器等	府内 18
110 鶴舞 146-2		(1998.4.29 ~ 5.28)	385		新規用	瓦なし、土壌、構造土器等	府内VI	160 1-6-3		(2013.12.9 ~ 17)	602	(229.5)	分譲住宅	瓦、構造土器等	府内 18
111 鳥居窓 23 朝霞	境内外	(1998.10.23 ~ 27)	354		個人住宅	ビット、瓦、構造土器等	府内VI	161 境内 1-15-2		(2014.1.17 ~ 31)	755	(249)	共同住宅	瓦なし、土壌、瓦等	府内 18
112 大井戸窓 23 朝霞	境内外	(1999.2.9)	144		個人住宅	遺跡遺物なし	府内VI	162 1-15-6 の一部		(2016.3.23 ~ 7.18)	709		共同住宅	瓦、土壌、構造土器等	府内 18・23
113 大井戸窓 57・58		(1999.4.5 ~ 12.14)	2,817	2,009	店舗	瓦なし、構造土器等	府内VI	163 1-14-18		(2014.1.20 ~ 21)	869	(335)	共同住宅	瓦なし、構造土器等	府内 18
114 西・原 194-1		(1999.8.4 ~ 12)	676	(272)	駐車場	瓦なし、ビット、構造土器等	府内VI	164 1-15-8		(2014.3.4 ~ 25)	455		共同住宅	瓦、構造土器等	府内 18
115 小糸森 52 御宿		(1999.9.27 ~ 29)	135	31	事務所	遺跡遺物なし	府内VI	165 1-14-20-3		(2012.1.27 ~ 31)	324	(38)	共同住宅	瓦なし、構造遺物なし	府内 14
116 小糸森 59 御宿		(1999.12.2 ~ 3)	119	42	個人住宅	遺跡遺物なし	府内VI	166 1-15-1・2-1		(2013.11.26 ~ 12.9)	2,345	(887)	工業施設	瓦、ビット、瓦、構造土器等	府内 18
117 小糸森 199-2		(1999.12.2 ~ 4)	135	42	店舗併用	遺跡遺物なし	府内VI	167 境内 1-6-3		(2013.12.9 ~ 17)	602	(229.5)	分譲住宅	瓦なし、構造土器等	府内 18
118 小糸森 59 御宿		(2000.4.3 ~ 12)	548	214	店舗併用	瓦なし、構造土器等	府内VI	168 1-7-10		(2015.2.22 ~ 31)	148.98	(42.75)	個人住宅	遺跡なし、構造土器等	府内 20
119 小糸森 18 御宿		(2000.11.15 ~ 18)	221	221	店舗	穀文化財	府内VI	169 1-15-8		(2014.3.4 ~ 25)	869	(455)	共同住宅	瓦なし、構造土器等	府内 18
120 小糸森 24 御宿		(2001.3.7 ~ 15)	1,120	466	共同住宅	瓦なし、構造土器等	府内VI	170 1-14-24		(2014.4.15 ~ 16)	309	(106.9)	駐車場	土壌、構造土器等	府内 20
121 稲 1-15								171 1-15-18		(2014.6.17 ~ 20)	442	(114.78)	個人住宅	穀文化財	府内 20
122 小糸森 14 初町		(2002.3.9 ~ 19)	593	(221)	個人住宅	穀文化財	府内VI	172 境内 1-3-2 ~ 5		(2014.8.29 ~ 9.4)	2,526	(825)	看板道	瓦、構造土器等	府内 20
123 小糸森 15 初町		(2002.6.21 ~ 7.22)	635		個人住宅	瓦なし、構造土器等	府内VI	173 1-3-7 ~ 10		(2015.2.2 ~ 31)	148.98	(42.75)	個人住宅	遺跡なし、構造土器等	府内 20
124 鶴舞 137-2		(2002.10.9 ~ 26)	524	(205)	個人住宅	穀文化財	府内VI	174 1-15-18		(2015.5.11 ~ 18)	647	(285)	駐車場	瓦なし、構造土器等	府内 22
125 鶴舞 138-2		(2003.2.14 ~ 19)	162	(78)	個人住宅	ビット、遺物なし	府内VI	175 1-12-1		(2015.9.30)	160	(25.8)	個人住宅	穀文化財	府内 22
126 鶴舞 1-13-6 ~ 7		(2004.2.20 ~ 25)	153	(44.7)	個人住宅	遺跡遺物なし	府内VI	176 1-13-1 ~ 17 -		(2015.11.15)	212.01	(35.7)	分譲住宅	遺跡遺物なし	府内 22
127 鶴舞 1-13-4 ~ 9		(2004.5.24 ~ 29)	327	(347)	個人住宅	土壌、構造土器等	府内VI	177 1-8-1		(2015.11.8 ~ 10)	349	(83.67)	駐車場	瓦なし、土壌上層に瓦等	府内 22
128 鶴舞 1-16-9 ~ 10		(2004.6.14 ~ 7.10)	614	(488)	店舗	瓦、ビット、構造土器等	府内VI	178 1-13-20 ~ 23		(2013.10.21)	76.8	(21)	店舗	瓦なし、構造土器等	府内 18
129 境内 1-11-5		(2004.9.30 ~ 10.7)	235	(70)	共同住宅	穀文化財	府内VI	179 鶴舞 1-2-5		(2016.3.19 ~ 21)	173	(21.18)	共同住宅	遺跡遺物なし	府内 24
130 境内 1-5-8		(2004.10.14 ~ 19)	116	(29)	個人住宅	遺跡遺物なし	府内VI	180 鶴舞 1-4-2 ~ 3		(2016.10.18 ~ 19)	488.39	(116.19)	共同住宅	瓦、ビット、瓦、構造土器等	府内 24
131 境内 1-5-13		(2004.10.22)	97	(29)	店舗併用	瓦なし	府内VI	181 鶴舞 1-4-5		(2016.11.28)	102.32	(26.9)	個人住宅	遺跡遺物なし	府内 24
132 鶴舞 1-15-17								182 鶴舞 1-7-12		(2017.2.28 ~ 17)	147.45	(34.53)	共同住宅	瓦、ビット、構造土器等	府内 24
133 鶴舞 1-6-8		(2005.10.11 ~ 12)	176	(44.8)	個人住宅	遺跡遺物なし	府内VI	183 鶴舞 1-15-1 ~ 3		(2017.4.30 ~ 21)	113.82	(32.05)	個人住宅	穀文化財	府内 24
134 鶴舞 1-13-2		(2005.10.9 ~ 11)	348	(43)	店舗併用	瓦、土壌、構造土器等	府内VI	184 鶴舞 1-12-13		(2017.5.24)	229.08	(46.65)	共同住宅	瓦なし、構造土器等	府内 24
135 みずし野 1-5-2		(2005.9.14 ~ 24)	3,342	(1,147)	店舗併用	穀文化財	府内VI	185 鶴舞 1-15-7		(2018.4.9 ~ 10)	121	(34.35)	個人住宅	穀文化財	府内 25
136 鶴舞 1-13-22 ~ 23		(2006.2.29 ~ 30)	629.66	(44)	学生寮	遺跡遺物なし	府内VI	186 鶴舞 1-11-2		(2018.4.10 ~ 20)	28.49				
137 みずし野 1-7-7		(2006.8.3 ~ 7)	862	(208)	共同住宅	遺跡遺物なし	府内VI	187 鶴舞 1-11-2		(2018.7.3)	238.11	(40.93)	駐車場	瓦なし、構造土器等	府内 25
138 鶴舞 1-14-7 ~ 8		(2006.11.21 ~ 22)	247.33	(40)	個人住宅	遺跡遺物なし	府内VI	188 鶴舞 1-14-5		(2019.2.4)	620	(87.95)	店舗兼事務所	瓦なし、構造土器等	府内 25
139 みずし野 1-4 ~ 10		(2007.2.17)	474	(16)	共同住宅	遺跡遺物なし	府内VI	189 鶴舞 1-14-5		(2019.2.5)	418.84	(37.2)	共同住宅	遺跡遺物なし	府内 25
140 境内 1-16-14-1 の 一部		(2007.5.7 ~ 10)	487	(208)	宇智堅	遺跡遺物なし	府内VI	190 鶴舞 1-2-1 ~ 12 ~		(2020.8.4 ~ 5)	468	(93.9)	共同住宅	瓦なし、構造土器等	府内 26

II 西ノ原遺跡第179地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2020年8月3日付けて「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部や北寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年8月4・5日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレチ4本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約30~60cmである。

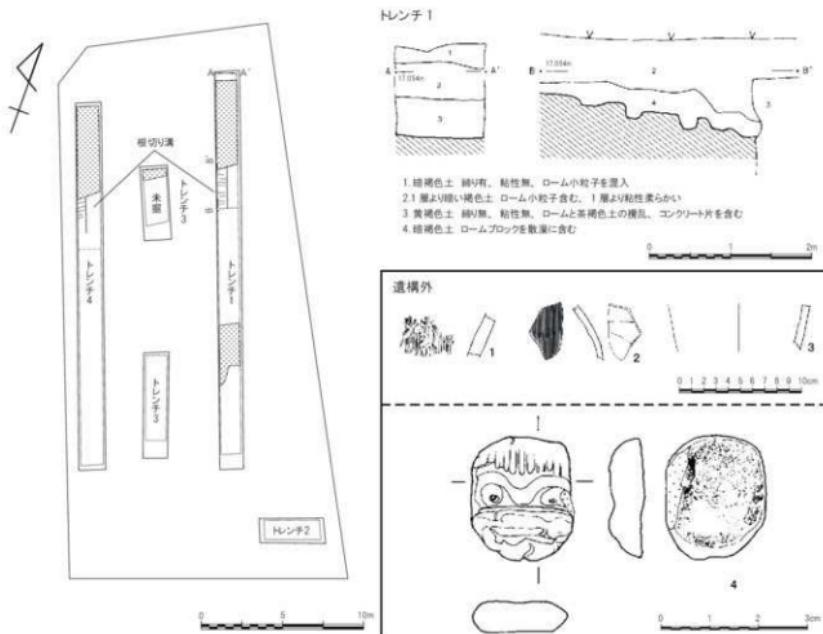
調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

表土中より土器片が数点出土した。詳細については第47図及び第32表に掲載した。

第32表 西ノ原遺跡第179地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第47図-1	遺構外	縄文土器	—	—	—	—	外面条線	加曾利E式期
第47図-2		磁器瓶	—	—	—	—	輪錐成形、具須染付、1条目文、外面から内面上半に施釉、肥前産	17世紀
第47図-3		陶器植木鉢	—	—	—	—	輪錐成形、灰釉、内面無釉、瀬戸美濃産	19世紀
第47図-4		泥面子	2.5	2.1	0.6	—	芥子面、型作り、裏面指痕	19世紀



第47図 西ノ原遺跡第179地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)、出土遺物(1/4・1/1)

第 14 章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

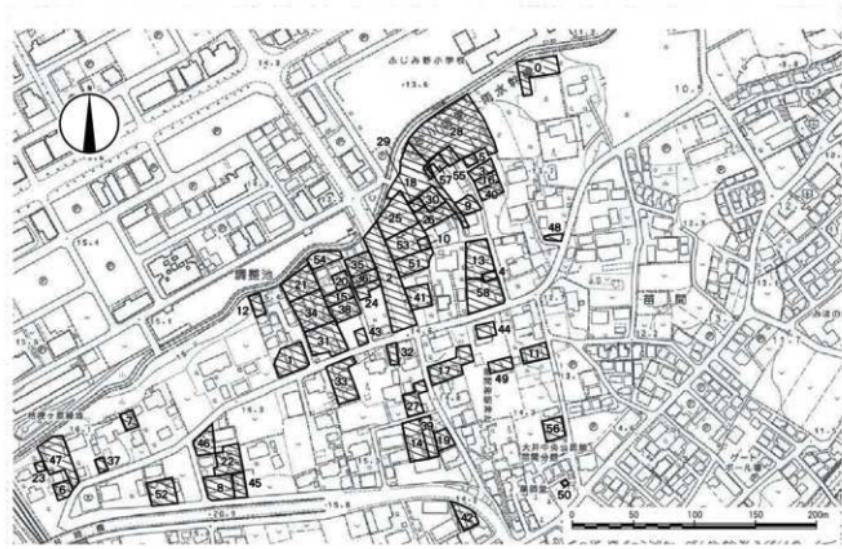
神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12~16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2021年4月現在58地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半~後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

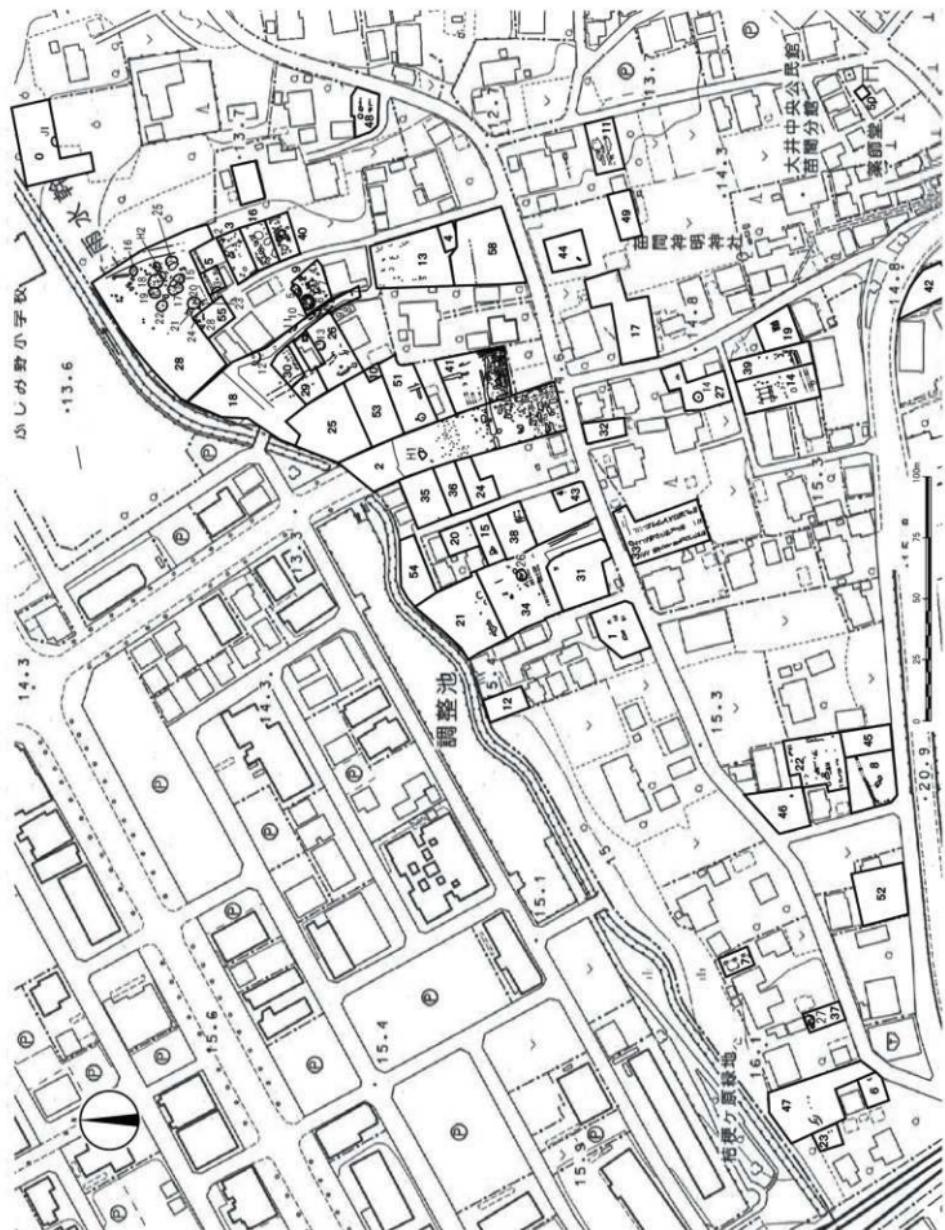


第48図 神明後遺跡の地形と調査区(1/4,000)

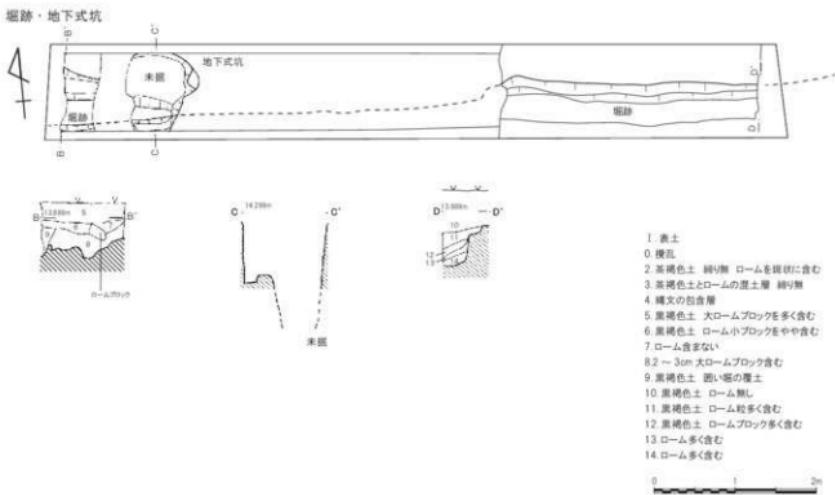
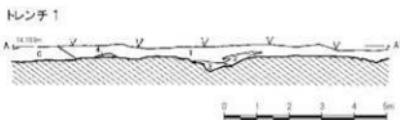
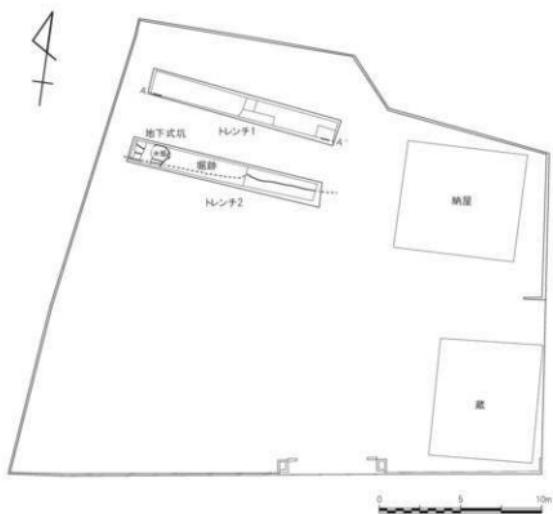
第33表 神明後遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開免面積 (m ²)	調査面積 (試査)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6～11	615.47		共同住宅	溝、須恵器等		町内Ⅲ
2	苗間 295-2、299-3	1993.5.12～20	1,688		道路築造	古代住居跡1、中近世掘立柱建物跡 多軒、落とし穴、土坑、堀跡、井戸、 地下式坑		町内Ⅲ
3	苗間 309-12	(1995.3.24～29) 1995.4.3～5.19	200.03		分譲住宅	縄文時代住居跡1、土坑、ピット、 縄文土器等		町内VI
4	苗間 302	(1996.6.17～19)	703.76		物置	遺構なし、縄文土器片		町内VI
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15) 1997.3.15～4.2	80.17		個人住宅	縄文時代住居跡1、土坑、溝、縄文 土器		町内VI
6	苗間 255、227-2	(1997.9.29～30)	150.79		個人住宅	土坑、縄文土器片等		町内Ⅷ
7	苗間 260	(1998.6.1～2)	1,460		個人住宅	地中室、縄文土器等		町内Ⅸ
8	苗間 235-1	(1998.7.21～24)	458		共同住宅	衛生土坑、土坑、溝、堀跡、縄文 土器片		町内Ⅹ
9	苗間 310-1	(1998.9.1～11) 1998.9.14～10.15	219		共同住宅	縄文時代住居跡4、集石土坑、落と し穴、土坑、ピット、井戸、地下室、 縄文土器等		町内Ⅹ
10	苗間 298-1	(1999.9.16) (1999.10.21)	44	(3)	個人住宅	遺構なし、縄文土器片		町内IX
11	苗間 366	1999.10.22～26	239	(97)	個人住宅	土坑、ピット、縄文土器等		町内IX
12	苗間 282-2・5	(2000.3.6)	211	(8)	共同住宅	遺構遺物なし		町内X
13	苗間 302-1	(2000.4.17～19)	694	(154)	個人住宅	土坑、ピット、縄文土器等		町内X
14	苗間 252-2	(2000.8.18～23)	357	(196)	共同住宅	中近世掘立柱建物跡1、土坑、ピッ ト、溝、井戸、堀跡、縄文土器等		町内X
15	苗間 293-15	(2001.4.11) 2001.4.12～13	163	50	個人住宅	集石土坑、縄文土器片		町内XI
16	苗間 309-14	(2001.7.23～24) 2001.7.25～9.3	165	189	個人住宅	竪穴状遺構、屋外堆壘、土坑、ピッ ト、溝、地下水式坑、地下室、縄文 土器等		町内XI
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	(7.5)	個人住宅	溝、砾石		町内XI
18	苗間 304-1、303-6	(2002.5.15～25) 2002.5.27～6.24	672	(220)	分譲住宅	縄文時代住居跡5、炉穴、土坑、溝、 ピット、堀跡		町内XII
19	苗間 264-4	(2002.9.18～20)	216		個人住宅	溝		町内XII
20	苗間 293-11	(2003.1.14～15)	143		個人住宅	ピット、溝		町内XII
21	苗間 283-1	(2003.1.10～30)	674		土地造成	土地造成 陶磁器		町内XII
22	苗間 235-2・3	(2003.7.8～29)	430		分譲住宅	土坑、ピット、溝、井戸、陶磁器		町内XII
23	苗間 253	(2004.4.9)	62		個人住宅	地下室、鉢質		町内XII
24	苗間神明後 293-4-10	(2004.9.30～10.7)	148		個人住宅	遺構遺物なし		町内XII
25	苗間 295-1	(2004.9.30～10.7)	660		店舗併用住宅	遺構遺物なし		町内XII
26	苗間神明後 301、 303-3～5・7、304-1	(2005.6.1～8) 2005.6.15～30	689	(160)	分譲住宅	縄文時代住居跡1、土坑、溝、地下 式坑、縄文土器等		大調18
27	苗間 248-2、249-1	(2005.7.20～25) 2005.7.27～29	385	(80)	共同住宅	縄文時代住居跡1		大調18
28	苗間神明後 305-1	(2005.5.8～31) 2006.6.29～10.5	2,171	(1,200)	宅地造成	縄文時代住居跡11、古代住居跡1、 屋根灰、集石、落とし穴、土坑、ピッ ト、溝、堀跡、縄文土器		市内3
29	苗間神明後 303-21-24	(2006.5.8～11) 2006.5.12～19	135.9	(52)	個人住宅	ピット、溝、縄文土器		市内3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8～19) 2006.12.14～19	101.13	(60)	個人住宅	ピット、縄文土器		市内3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3～7)	499	(72)	個人住宅	土坑		市内4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	(31)	個人住宅	遺構なし、泥面子		市内4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	298	(209)	個人住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、 陶磁器等		市内6
33b	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	357		分譲住宅			市内6
34	苗間神明後 283-1、 284-1の一部	(2008.4.30～5.15) 2008.5.16～28	1,693	(357)	分譲住宅	縄文時代住居跡1、集石、落とし穴、 ピット		市内5
35	苗間神明後 293-6-20	(2008.8.1)	247	(26)	個人住宅	ピット、遺物なし		市内6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	(37)	個人住宅	遺構遺物なし		市内6
37	苗間 258-1の一部	(2009.4.13)	120	(27)	個人住宅	縄文時代住居跡1、縄文土器		市内8
38	苗間字神明後 292-13、 293-1	(2009.7.6～7) 2009.7.9～14	265.4	(118)	個人住宅	溝、縄文土器		市内8
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5～12) 2009.8.24～9.1	378	(114)	共同住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、地 下式坑、縄文土器		市内7

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
40	苗間 309-1	(2009.11.9 ~ 16) 2009.12.18 ~ 2010.1.15	156	47 (77)	個人住宅	堅穴状遺構、集石土坑、土坑、ピット、溝、井戸、地下式坑、縄文土器		市内 8
41	苗間字神明後 298-1、299-1 の各一部	(2010.5.25 ~ 6.7) 2010.6.15 ~ 7.21	486.36	(400) 286	共同住宅	中世倒立柱建物跡 1、堅穴状遺構、石器集中、集石土坑、土坑、ピット、溝、木炭灰、石器等		市内 9
42	苗間字神明後 380-3	(2010.6.1 ~ 2)	312	(44)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 10
43	苗間 292-14	(2010.10.20 ~ 22) 2010.10.22	107	(42) 10	個人住宅	ピット、縄文土器等		市内 10
44	苗間字神明後 367-1、368-1 の一部	(2011.7.8) 2011.7.11 ~ 13	1,535.9	(63) 21	個人住宅	落し穴、遺物なし		市内 14
45	苗間字神明後 235-9	(2011.12.5)	200	(61)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
46	苗間字神明後 235-6	(2012.4.9 ~ 10)	233	(52)	個人住宅	土坑、縄文土器片		市内 15
47	苗間字神明後 227-2	(2012.4.24) 2012.4.25 ~ 5.10	340	(55) 27.5	個人住宅	集石、ピット、縄文土器片		市内 15
48	苗間字神明後 315-1 の一部	(2012.5.7)	171	(44) 26	個人住宅	土坑、ピット、溝、井戸、縄文土器等		市内 15
49	苗間字神明後 367-1、368-6	(2013.1.30)	1,411.3	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
50	苗間 375	(2013.12.11)	531.8	(31.7)	美術館	土坑、磁器等		市内 18
51	神明後 295-1、297-1・2 の一部、298-1、299-1	(2014.11.5 ~ 13) 2014.11.20 ~ 25	487.33	(116) 42.5	共同住宅	土坑、溝、縄文土器		市内 16
52	苗間字神明後 231-1	(2015.1.28)	379	(44.4)	個人住宅	ピット、縄文土器片		市内 20
53	苗間字神明後 298-1	(2015.3.19)	495	(14.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
54	苗間字神明後 293-7・9	(2015.12.3)	342	(6)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 22
55	苗間字神明後 310-1 の一部	(2017.5.8) 2017.5.9 ~ 12	180	(28) 27.44	個人住宅	縄文時代住居跡 2、土坑、ピット、縄文土器等		市内 24
56	苗間字神明後 374-34	(2019.11.11)	255.58	(30.3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
57	苗間字神明後 310-9	(2020.1.21)	146	(15.46)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 25
58	苗間字神明後 301-1	(2020.6.26 ~ 29)	732.41	(35.7)	個人住宅	塙跡、土器片等		市内 26



第49図 神明後遺跡遺構分布図(1/2000)



第 50 図 神明後遺跡第 58 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、壠跡(1/60)

II 神明後遺跡第58地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2020年3月31日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年6月26～29日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレーナー2本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～90cmである。

調査の結果、堀跡1本と地下式坑と考えられる遺構を確認したが保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

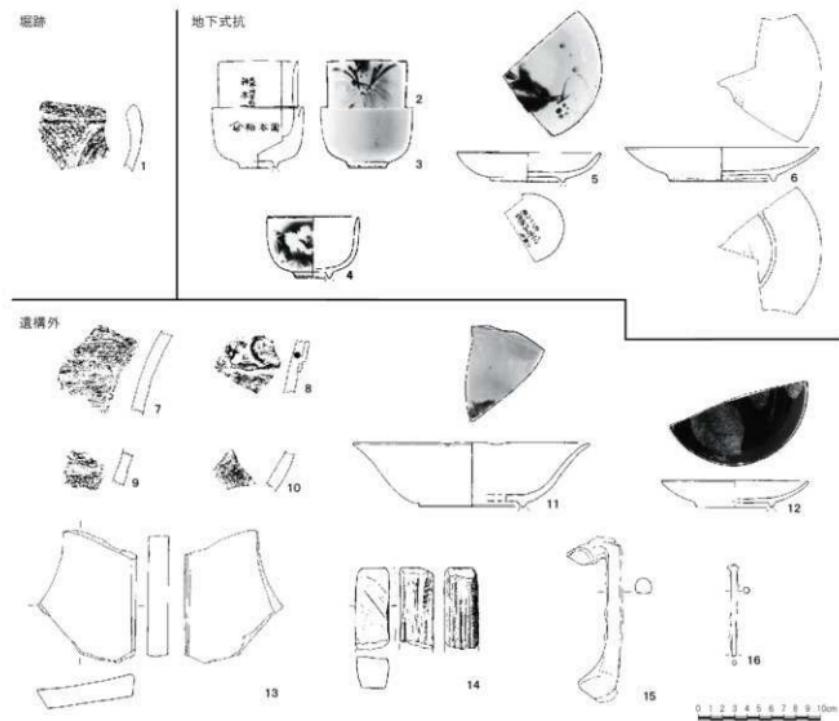
(2) 遺構と遺物

① 堀跡

堀跡はトレーナー2で確認した。走行方向はほぼ東西方向を指向する。トレーナー内では北側の立ち上がりを確認したのみで南側の立ち上がりは調査区外のため、規模等詳細については不明である。

② 地下式坑

地下式坑はトレーナー2西側で確認した。堀跡の立ち上がり北側に(130)cm×(90)cmの入口と思われる落ち込みを検出した。ほとんどが調査区外のため、規模等の詳細については不明である。



第51図 神明後遺跡第58地点出土遺物(1/4)

③出土遺物

遺物は堀跡・地下式坑共に出土したが、いずれも遺構の時期を示すものではない。詳細については第 51 図及び第 34 表に掲載した。

第 34 表 神明後遺跡第 58 地点出土遺物観察表(単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 51 図 -1	堀跡	縹文土器深鉢	-	-	-	-	地文 LR、口縁部に微隆起線が廻り無 紋帶、二本の幅広な平行沈線文を構成	加曾利 E4 式
第 51 図 -2	地下式坑	磁器湯飲み碗	6.6	-	-	-	3と入れ子(内側)、釉下色絵、緑・水・ 茶色の絵の具と白のイッキンで笠文、 側面に「大井村字苗間○神木商店」と上給付	1890 年代~
第 51 図 -3		磁器湯飲み碗	7.5	2.7	5.1	-	輪轍形成、白磁、側面に「(屋号:山 に保)柏谷園」と上給付	1890 年代~
第 51 図 -4		磁器湯飲み碗	7.6	2.7	5.1	-	輪轍形成、コバルト、手描、墨付釉 剥	1890 年代~
第 51 図 -5		磁器皿	12.0	6.0	2.4	-	輪轍形成、釉下色絵、緑・茶で松文、 上給付で赤の梅花文。底部にコバル トで「上福岡(屋号:山に二) 宮崎 酒店 電一二三番」(現ふじみ野市福 岡中央 2 丁目)、墨付釉剥	1890 年代~
第 51 図 -6		磁器皿	16.0	8.8	2.8	-	型作り、透明釉と鋼線釉の掛け分け、 墨付無釉	1890 年代~
第 51 図 -7	遺構外	縹文式土器	-	-	-	-	頬部片、無文部	縹文前期カ
第 51 図 -8			-	-	-	-	貼付文、胎土に金雲母片含む	阿玉台式期
第 51 図 -9			-	-	-	-	地文無筋縹文カ、胎土に織紋含む	縹文前期
第 51 図 -10		常滑窯	-	-	-	-	薄手	中世前期
第 51 図 -11		磁器皿	19.4	8.5	5.2	-	輪花型作り、銀彩、見込みプリント 上給付、墨付無釉	戦後
第 51 図 -12		磁器皿	12.0	6.2	2.2	-	型作り、こげ茶色の釉の上に白泥粉 を振り手書きで葉脈を表現、墨付釉 剥ぎ	戦後
第 51 図 -13		瓦	-	-	-	-	被熱で割れ口まで煤付着	明治~
第 51 図 -14		砥石	(6.6)	2.6	2.7	-	使用面は 1 面、他は鋸痕を残す、凝 灰岩	近世~
第 51 図 -15		鉄製釘	13.6	4.8	1.2	-	端部欠失	-
第 51 図 -16		鉄製釘	7.5	1.0	0.5	-	洋釘力	1872 年頃~

第 15 章 苗間東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 600 m、さかい川の谷頭部から約 1,800 m 下った右岸、さかい川と浄禪寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高 10 ~ 11 m、現谷底との比高差は 1 ~ 1.5 m を測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禪寺川対岸には浄禪寺跡遺跡がある。遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は 1979 年に開発に伴う緊急調査として行われた。2021 年 4 月現在 32ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代早期の落とし穴や炉穴、中期後半～後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。



第 52 図 苗間東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第35表 苗間東久保遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	苗間字東久保 579-2 ~ 8	(1979.4.3 ~ 21)	605		共同住宅	伊穴、土坑。縄文土器等	(旧淨禪寺跡遺跡 1)	東部 I、町史資料
2	苗間字東久保 645-6 ~ 10	(1979.9.4 ~ 10) 1979.10.30 ~ 11.8	530		共同住宅	縄文時代住居跡 1。縄文土器等		東部 I
3	苗間字東久保 642-11・12	(1980.4.7)	206		共同住宅	遺構なし。縄文土器		東部 II
4	苗間字東久保 642	(1980.4.16 ~ 5.10)	750		共同住宅	縄文時代住居跡 2。土坑。縄文土器等		東部 II
5	苗間字東久保 636-3	(1980.9.8 ~ 24)	106		共同住宅	伊穴。集石。土坑。ピット。縄文土器		東部 II
6	苗間字東久保 639	(1980.11.27 ~ 12.26)	577			縄文時代住居跡 2。炉穴。土坑。 柱穴群。縄文土器		東部 II、町史資料
7	苗間字東久保 573-3	(1982.4.1 ~ 3)	396		共同住宅	遺構なし。縄文土器	(旧淨禪寺跡遺跡 2)	東部 III
8	苗間字神明前 568-7 ~ 9	(1981.4.2 ~ 9)	360		共同住宅	遺構遺物なし	淨禪寺跡遺跡 2-1 へ変更(欠番とする)	東部 IV
9	苗間字東久保 642-1	(1983.11.8 ~ 12.5)	660		共同住宅	土坑遺構。土坑。縄文土器等		東部 V
10		1984	340			土坑。ピット。縄文土器	未報告	
11		1984	560			遺構なし。縄文土器等	未報告	
12	苗間東久保 581	1984.7.20 ~ 21	320		共同住宅	遺構なし	淨禪寺跡遺跡 3 地点 へ変更(欠番とする)	未報告
13		1984	900			縄文時代住居跡 2。土坑。ピット。 縄文土器		町史資料 I
14	苗間字東久保 635	(1987.4.1)	923			土坑。ピット。縄文土器		東部 IX
15	苗間字東久保 635	(1988.12.8 ~ 14)	447		個人住宅	土坑。ピット。縄文土器		東部 IX
16	苗間 645-1	(1990.8.21 ~ 24) 1989.8.24	390	117	共同住宅	縄文時代住居跡 1。土坑。縄文土器		東部 X
17	苗間 636-4	(1991.3.12 ~ 15)	583		駐車場	土坑。縄文土器		町内 I
18	苗間字東久保 464、639 他	(1992.6.2 ~ 9) 1992.9.7 ~ 10.22	906		分譲住宅	縄文時代住居跡 3。落とし穴。土 坑。ピット。溝状遺構。縄文土器		大調 5
19	苗間 637-14 ~ 16	(1994.2.8 ~ 16) 1994.2.16 ~ 3.25	356		宅地開発	縄文時代住居跡 1。落とし穴。土 坑。ピット。縄文土器等		大調 12
20	苗間 637-18 ~ 19	(1998.3.18 ~ 24) 1998.6.15 ~ 8.13	664		分譲住宅	集石土坑。土坑。ピット。縄文 土器等		大調 12
21	苗間字神明後 333-1	(1999.8.3 ~ 6)	350	(95)	個人住宅	土坑。縄文土器等		町内 IX
22	苗間 645-11	(2001.10.25)	99	(6)	個人住宅	遺構なし。縄文土器		町内 XI
23	苗間字東久保 640-9	(2004.9.1)	104		個人住宅	遺構遺物なし		町内 XII
24	苗間東久保 637-1 ~ 28	(2006.3.7 ~ 3.20) 2006.4.10 ~ 28	561	515	分譲住宅	土坑。ピット。縄文土器等		市内 2
25	苗間字東久保 631-3	(2007.7.11 ~ 23)	414	(176)	分譲住宅	ピット。縄文土器		市内 4
26	苗間字東久保 637-3 ~ 34	(2010.6.1 ~ 11) 2010.7.7 ~ 23	429	429	分譲住宅	縄文時代住居跡 1。土坑。ピット。 縄文土器等		市内 12
27	欠番							
28	苗間字東久保 644-1	(2011.7.21 ~ 22)	112	(6)	個人住宅	ピット		市内 14
29	苗間字東久保 630-1 ~ 3	(2011.7.28 ~ 8.1)	216	(68)	個人住宅	土坑。ピット。溝。縄文土器等		市内 14
30	苗間字東久保 641-3、 644-4	(2011.8.22 ~ 24) 2012.7.2 ~ 23	238	(48)	個人住宅	遺構なし。縄文土器		市内 14
31	苗間字東久保 644-6 ~ 7	(2014.1.20 ~ 26)	220	(14)	個人住宅	土坑		市内 18
32	苗間字神明後 334-1、 335-1、336-1、337-1	(2014.3.6 ~ 27) 2014.4.8 ~ 5.19	2989	(1010.5)	共同住宅	伊穴。落とし穴。土坑。ピット。溝。 縄文土器等		市内 16
33	苗間字東久保 640-1 ~ 10・11	(2016.7.14 ~ 25) 2016.7.28 ~ 8.1	313	(96.42)	分譲住宅	落とし穴。ピット。縄文土器等		市内 19
34	苗間字東久保 649-20	(2018.5.16)	123.86	(24.3)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
35	苗間字東久保 641-1	(2021.1.12)	581	(31.9)	分譲住宅	遺構なし。縄文土器		市内 26

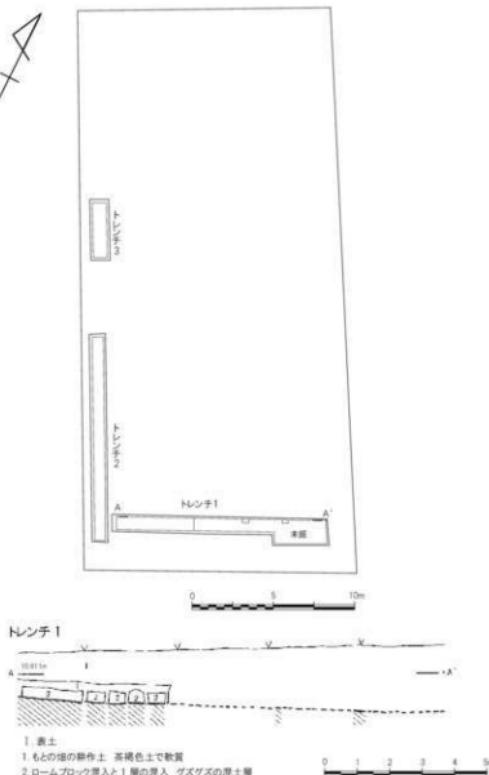
II 苗間東久保遺跡第 35 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 12 月 10 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 1 月 12 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 130 ~ 200 cm である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 53 図 苗間東久保遺跡第 35 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第16章 淨禪寺跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

淨禪寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、淨禪寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12~14mで現谷底との比高差は2mを測る。淨禪寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、淨禪寺川を境に分割して登録した。

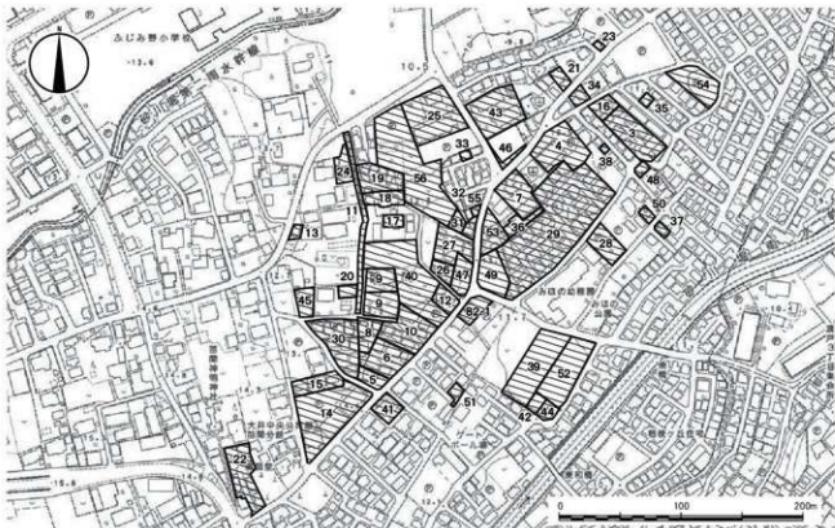
遺跡周辺は市街化が進み、残された畠地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2022年2月現在、55地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡4軒、中・近世の墓研状の堀や遺跡名の由来である淨禪寺墓域から土壙墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。淨禪寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 淨禪寺跡遺跡 第56地点

(1) 調査の概要

調査は宅地開発・分譲住宅建設に伴うもので、原図者より「埋蔵文化財事前協議書」が2021年10月18日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。試掘調査は2021年11月5~16日、12月3~7日に、幅約1.5mのトレンチを16本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構を確認した。遺構確認面までの深さは約0.2~2mで、道路の築造や地盤改良、切土等により遺構の保存が困難なため、2022年1月20~31日まで本調査を行った。縄文時代の土坑5基、炉穴13基、時期不明の溝4条を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成など記録保存を行ったうえ埋戻し、調査を終了した。



第54図 淨禪寺跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第36表 清淨寺跡遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	西間字東久保 579-2 ～8	(1979.4.3～21)	605		共同住宅	炉穴、土坑。縄文土器等	西間字東久保1地点へ変更 (欠番とする)	東部I
2	西間字東久保 573-3	(1982.4.1～3)	396		共同住宅	遺構なし。縄文土器	西間字東久保7地点へ変更 (欠番とする)	東部II
82-1	西間字神明前 568-7 ～9	(1982.4.2～9)	360		共同住宅	遺構遺物なし。	(旧西間字東久保8地点)	東部IV
3	西間字東久保 581	1984.7.20～21	320		共同住宅	遺構なし。縄文土器	(旧西間字東久保12地点)	未報告
4	西間字神明後 346-1	1989.11.15～25	150		開発予定地	炉穴、北坑、ビット。縄文土器		東部X
5	西間 374-9	1991.8.28～9.3	100		個人住宅	焼切り窓。縄文土器		町内I
6	西間 358-1	1991.9.21～24	826		個人住宅	遺構なし。縄文土器		町内I
7	西間字東久保 573-4	(1992.7.8～17) 1992.10.28～11.24	831		共同住宅	炉穴、ビット、磁器、井戸、縄文土器	大調5、 町内II	
8	西間 357-1	(1994.9.20～27)	615		宅地分譲	落とし窓、溝、縄文土器等		町内IV
9	西間 353	(1994.10.18) 2007.5.22～24	1,266	70	(個人住宅)	燒土、土坑、溝、縄文土器等		町内IV、 市内4
10	西間 356-1	1994.10.31～11.2	999		宅地分譲	土坑墓、溝、一字一石絆等		大調12
11	西間 352-1 他	(1995.1.9～2.3)	572		道路	溝水口、燒土、陶器等		町内IV
12	西間 35-95	1995.9.25～10.21	140		個人住宅	屋外土、遺構外土器集中、ビット、 溝、構文土器等		町内V
13	西間 314-2	(1996.1.8～29)	101		個人住宅	土坑、ビット、溝、井戸、縄文土器等		町内V
14	西間 360-1、362-2	(1996.6.3～12) 1996.6.18～7.11	2,178		個人住宅	焼群、落とし窓、ビット、溝、縄文土器等		町内VI
15	西間 362-4・5	(1996.6.3～12) 1996.7.12～8.2	494		分譲住宅	炉穴、土坑		町内VI
16	西間 579-1	1997.11.10～12.19	291		個人住宅	縄文時代住居跡1、炉穴、土坑、ビット、 溝、縄文土器等		町内VIII
17	西間 345-2・10	(1998.9.29～10.2)	877		個人住宅	遺構なし。縄文土器		町内Ⅸ
18	西間 345-3・4	(1999.5.26～6.24) 1999.6.26～8.3	599	303	個人住宅	炉穴、灰石土坑、土坑、ビット、溝、 縄文土器等		町内IX
19	西間字神明後 345- 15・16	(1999.8.18～27) 1999.8.28～9.14	703	703	分譲住宅	孤立柱建物跡6、炉穴、燒土、集石 土坑、土坑、溝、井戸、縄文土器等		大調15、 町内IX
20	西間字神明後 351-1	(2001.10.26～29)	223	(17.5)	倉庫	遺構なし。陶器等		町内XI
21	西間字東久保 591-3、 592-7	(2001.11.19～20)	182	(12)	個人住宅	溝、遺物なし		町内XII
22	西間 373-5・8、377- 5・3・4	(2002.4.23～5.14)	935		分譲住宅	土坑、ビット、溝、遺物なし		町内 XIII
23	西間 592-1	(2003.4.28)	100		個人住宅	ビット、溝、遺物なし		町内 XIII
24	西間字神明後 346- 1・2の一部	(2004.8.30～31)	391		個人住宅	遺構遺物なし		町内 XIII
25	西間字神明後 339- 1・2の各一部	(2004.9.22～10.12)	721		共同住宅	ビット、遺物なし		町内 XIII
	西間字神明後 338- 339-2	(2012.6.27)	844.8	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
26	西間字神明後 354-2 の一部 354-23・24 ～15	(2005.3.3～8) 2007.4.17～28、6.7 ～15	226	(216)	分譲住宅	炉穴、土坑、ビット、溝、縄文土器		町内 XIII、 市内 3
27	西間字神明後 354-2	(2005.12.1～2006.1.22) 2006.1.23～2.22	696	224	道路及び 分譲住宅	縄文時代住居跡1、炉穴、屋外埋甕、 土坑、ビット、溝、縄文土器等		市内 2
28	西間字東久保 719-7、 720-1	(2007.1.23)	2,478	(22)	園舎改築	溝、遺物なし		市内 3
29	西間 570-1・2、571- 1・2、575	(2007.8.7～9.21) 2007.9.25～11.6	4,920	(1,251)	分譲住宅	中世近世柱建物跡3、土坑、ビッ ト、塙跡、溝、井戸、地下式坑、 縄文土器等		市内 4
30	西間 359-1	(2007.9.14～10.9) 2007.10.9～11.2	1,298	(414)	分譲住宅	赤堀跡、木炭窯、落とし窓、土坑、 ビット、溝、陶磁器等		市内 4
31	西間字神明後 342・14 の一部	(2008.2.19) 2008.2.19～3.5	171	(109)	個人住宅	縄文時代住居跡1、炉穴、土坑、ビッ ト、縄文土器等		市内 4
32	西間字神明後 340- 17、342-10・15	(2007.2.25～3.4)	188	(40)	個人住宅	塙跡、ビット、縄文土器		市内 4
33	西間字東久保 340-21 ～2010.10.22	(2010.8.6)	76	(1.2)	個人住宅	土坑、縄文土器		市内 10
34	西間字東久保 586-7、 587-2の一部	(2012.8.24)	160	(48)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
35	西間字東久保 582-8	(2012.4.4)	80	(16)	個人住宅	ビット、縄文土器		市内 15
36	西間字東久保 573-5 の一部	(2012.8.6～9) 2012.9.5～12	400	(90)	宅地造成	土坑、ビット、塙跡、溝、縄文土 器		市内 15

地区 地点	所在地	調査期間 ()	調査面積 (m ²)	開発面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
37	苗間字東久保 727-17	(2012.11.21)	100.52	(9)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15		
38	苗間字東久保 578-11	(2013.5.13 - 14)	53.42	(15.9)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18		
39	苗間字神明前 565-1	(2013.6.25 ~ 7.3)	1,709	(564)	分譲住宅	溝、遺物なし	市内 18		
40	苗間字神明後 355-1 1・2・12	(2015.8.19 ~ 9.30) 2015.10.1 ~ 11.9	2,308.06	(619) 456	分譲住宅	土坑、ビット、溝、戸式坑、縄文土器	縄文時代住居跡 1、築石土坑、土坑、 ビット、溝、戸式坑、地下式坑、縄文土器	市内 19・22	
41	苗間字神明前 509-	(2015.12.21)	349.73	(85.4)	分譲住宅	土坑、ビット、縄文土器		市内 22	
42	苗間字神明前 564-3 の一部	(2016.4.8)	132.35	(38.55)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 24	
43	苗間字 589-1	(2016.8.20 ~ 24)	1,402	(165.67)	公園	遺構なし、土器	市内 24		
44	苗間字神明前 564-5	(2016.7.1 ~ 4)	124.05	(30.64)	分譲住宅	溝、遺物なし	市内 24		
45	苗間字神明後 349-3, 350-4	(2016.8.18 ~ 19)	310	(19.44)	個人住宅	ビット、縄文土器等	ビット、縄文土器等	市内 24	
46	苗間 588-10	(2017.2.6)	108	(70)	道路拡幅	遺構なし、縄文土器	市内 24		
47	苗間字神明後 354-1	(2017.4.21 ~ 24) 2017.4.25 ~ 5.2	401	(115.05) 104.7	個人住宅	伊穴、土坑、ビット、縄文土器	伊穴、土坑、ビット、縄文土器	市内 24	
48	苗間字東久保 717-3	(2017.5.15)	103	(7)	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 24		
49	苗間字東久保 569-1	(2017.5.22 ~ 23)	798	(252.8)	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 24		
50	苗間字東久保 717-12	(2017.7.10)	132	(23.55)	個人住宅	遺構なし、陶器	市内 24		
51	苗間字神明前 510-12・13	(2018.4.26)	112.58	(5.1)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25	
52	苗間字神明前 564-1	(2019.2.12・13)	1,186	(233.61)	老人ホーム・ デイサービス	ビット、遺物なし	老人ホーム・ デイサービス	市内 25	
53	苗間字東久保 572-2	(2019.7.30・31)	515	(28.71)	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 25		
54	苗間 584	(2019.10.16 ~ 21)	800.09	(140.13)	分譲住宅	土坑、遺物なし	土坑、遺物なし	市内 25	
55	苗間字神明後 340-15	(2021.5.7)	57.92	(7.5)	駐車場	遺構遺物なし	未報告		
56	苗間 338-5外 14番	(2021.11.5 ~ 16・12・3 ~ 7) 2022.1.20 ~ 31	2,919.84	(693.1)	分譲住宅	伊穴、土坑、ビット、溝		市内 26	

(2) 遺構と遺物

本書では試掘調査と本調査で検出した遺構について報告し、遺物については令和4（2022）年度刊行予定の市内遺跡群発掘調査報告書で併せて報告する。遺構の全ては調査区の南側斜面地周辺にみられ、北側ではみられない。調査区の北側にはかつて淨禪寺川が東西方向に流れていたため、人の居住には適さなかつたものと推察される。

検出した遺構は、縄文時代の炉穴、土坑、ビットと近世以降とみられる溝である。縄文時代の遺構は調査区南側の斜面地に集中しており、周辺の調査で確認されているものと同時期のものと考えられる。各遺構の詳細は第37～40表の一覧表のとおりである。

①炉穴

炉穴は13基検出した。隣接する第18・27・31地点で確認された縄文時代早期の炉穴と同時期と考えられる。炉穴群の集中する調査区南側の斜面地は、表土層が20～30cmと浅い。確認された炉穴も炉穴12を除きほとんどが焼土の硬化面のみである。

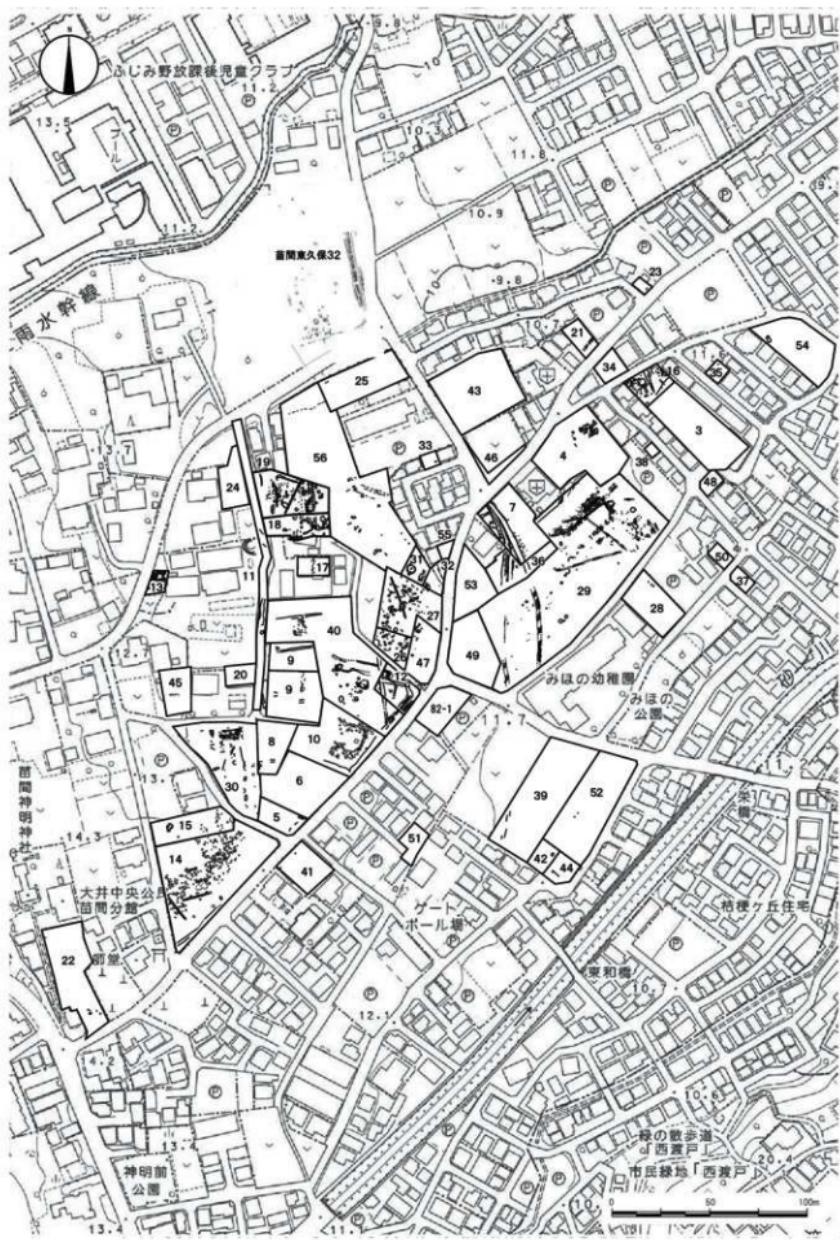
遺構の残存状況と表土層の薄さから、調査区南側の斜面地が何らかの掘削による影響を受けたものと推察される。

②土坑

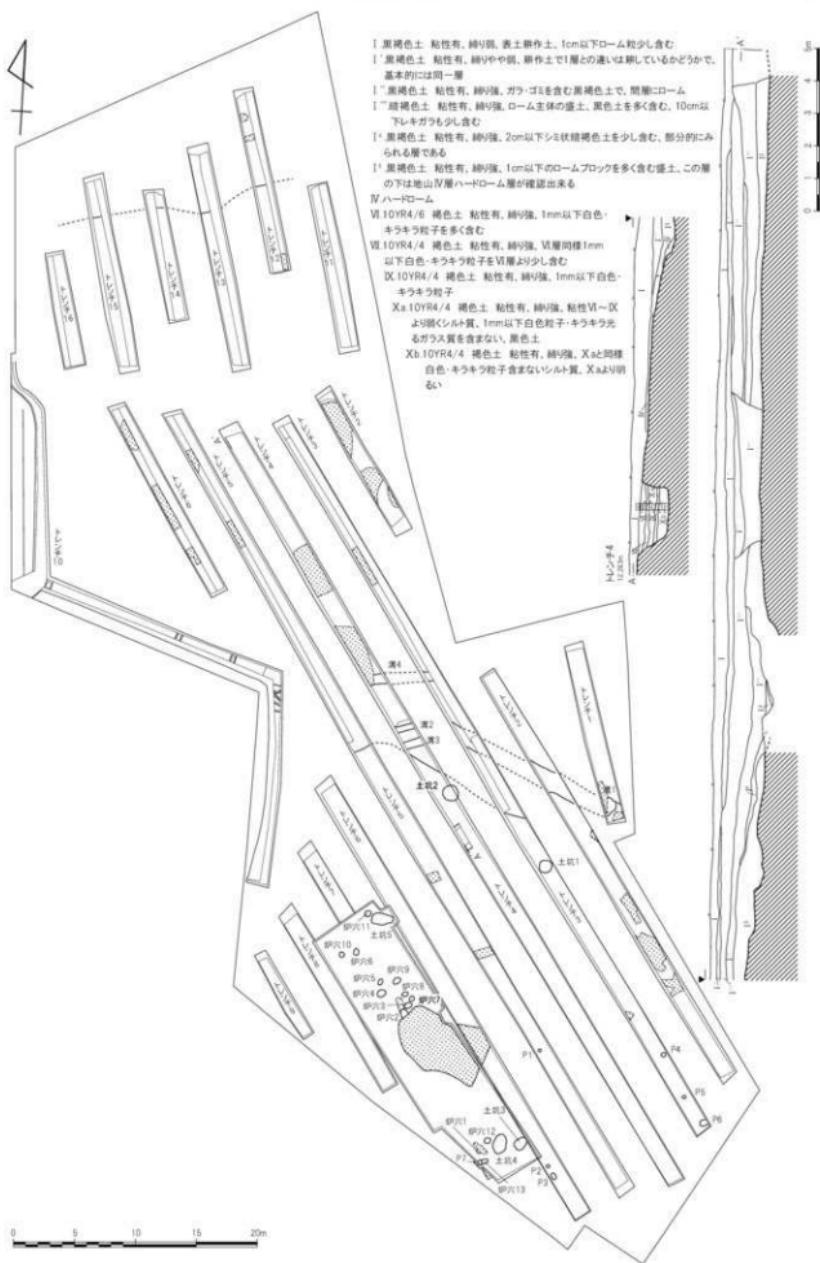
土坑1と2は調査区中央部や南側の斜面地で確認され、筒状の深い掘り込みをもつ。土坑3～5は炉穴群周辺に位置する。出土遺物と覆土層の観察から縄文時代早期から中期のものと考えられる。

③ビット

ビットは調査区中央部や南側の斜面地で確認された。覆土層の観察から縄文時代早期から中期のものと考えられる。

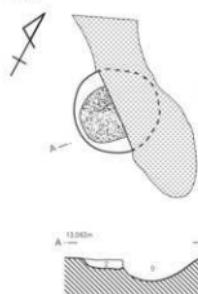


第55図 浄禪寺跡遺跡遺構分布図 (1/2,500)

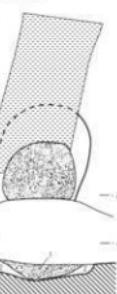


第 56 図 淨禪寺跡遺跡第 56 地点遺構配置図 (1/400)、土層 (1/150)

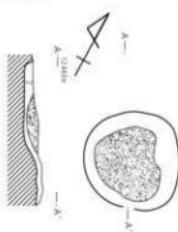
炉穴1



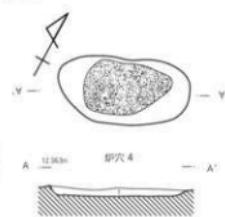
炉穴2



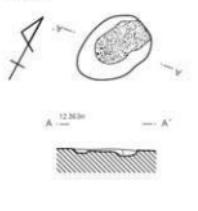
炉穴3



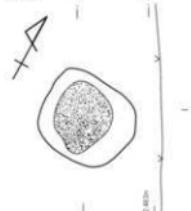
炉穴4



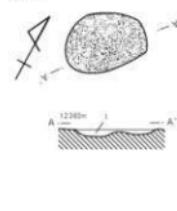
炉穴5



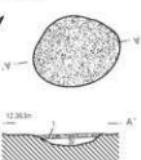
炉穴6



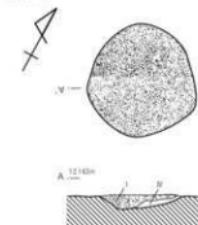
炉穴7



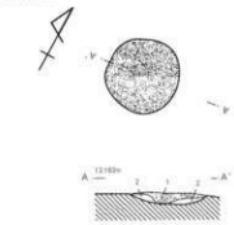
炉穴8



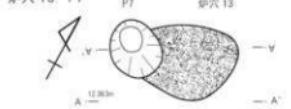
炉穴9



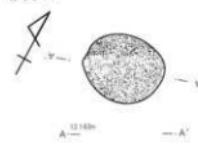
炉穴10



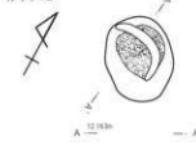
炉穴13・P7



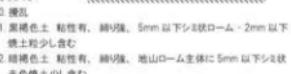
炉穴11



炉穴12



炉穴13



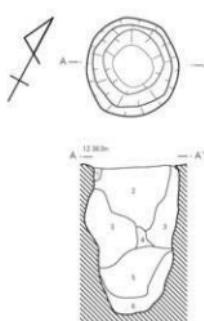
炉穴12

1. 黒褐色土 粘性有、練り強、5mm 大ロームブロック少し。5mm 以下
燒土粒多く含む
2. 細褐色土 粘性有、練り強、ロームブロックで赤褐色で被熱している

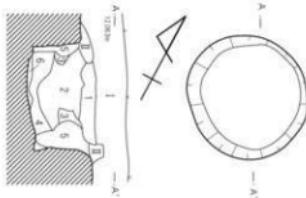
0 0.5 1m

第57図 清淨寺跡遺跡第56地点炉穴(1/30)

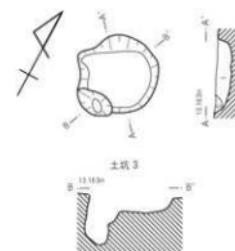
土坑 1



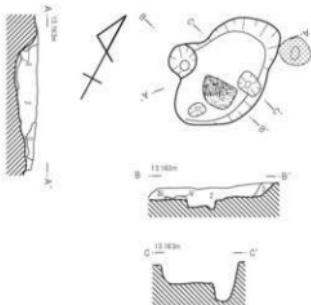
土坑 2



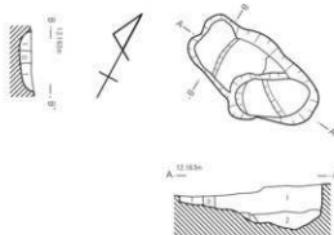
土坑 3



土坑 4



土坑 5



土坑 1

1. 黒褐色土 粘性有、練り弱、褐色ロームブロックと緑褐色土の混合
2. 黒褐色土 粘性有、練りやや強、1cm 以下ロームブロック少く含む
3. 黑褐色土 粘性有、練りやや強、ローム主体に黒褐色土をシミ状に少く含む
4. 黑褐色土 粘性有、練りやや強、1・5 層に層板。ややシミ状ローム多く含む
5. 黑褐色土 粘性有、練りやや強、1 層に層板、2cm 以下ロームブロック少く含む
6. 黑褐色土 粘性有、練りやや強、3 層に層板、やや 3 層よりローム質主で多い

土坑 2

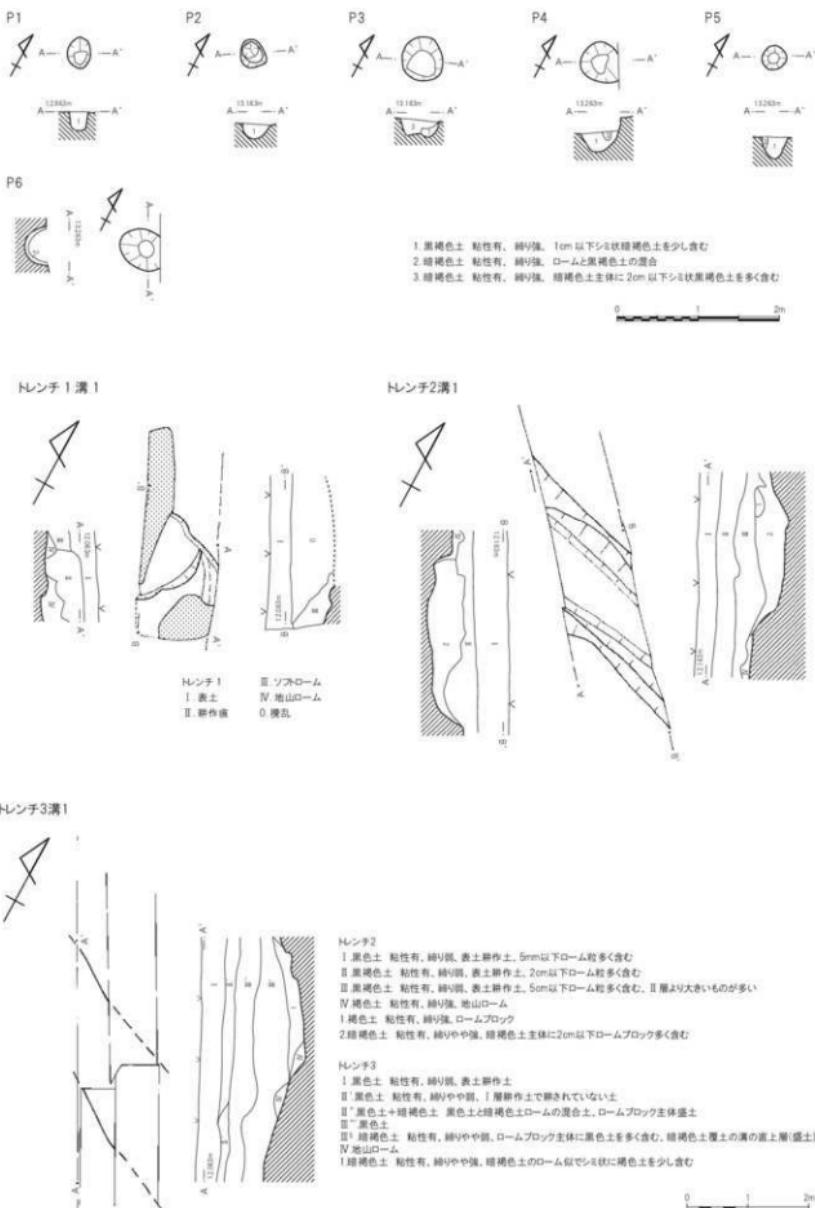
1. 表土
2. 黒褐色土 粘性有、練り弱、表土耕作土、2cm 以下ローム粒多く含む
3. 黑褐色土 粘性有、練りやや強、5mm 以下ローム粒少く含む
4. 黑褐色土 粘性有、練りやや強、黒褐色土と緑褐色土の混合、5mm 以下ローム粒多く含む
5. 黑褐色土 粘性有、練り強、2 層より明く 3mm 以下ローム粒は 2 層より少ない
6. 黑褐色土 粘性有、練り強、ローム地山でシミ状に黒褐色土少し含む
7. 黑褐色土 粘性有、練り強、ローム地山にシミ状に黒褐色土少し含む、元々はローム地山が漏らなくなつたもの

土坑 3 ~ 5

- IV. 地山ローム
- V. 地山ローム
0. 梢乱
1. 黑褐色土 粘性有、練り強、1mm 以下ローム・梢土粒極少く含む
2. 黑褐色土 粘性有、練り弱、2mm 以下ローム・梢土粒多く含む、1mm 以下炭化物粒少く含む
3. 黑褐色土 粘性有、練り強、2cm 以下ロームブロック多く含む、1mm 以下梢土粒少く含む



第 58 図 淨禪寺跡遺跡第 56 地点土坑 (1/60)



第59図 清淨寺跡遺跡第56地点ピット(1/60)・溝(1/80)

(4) 溝

溝 1 は調査区中央部を北西から南東方向に延びる。出土遺物がないので時期は不明であるが、覆土層の観察から近世以降と考えられる。これまでの浄禪寺跡遺跡で確認されている中世期や近世期の堀跡の覆土層とは明らかに色調や締り方が異なる。ローム土質のものであり近世以降の時期と考えられる。

溝 2 ~ 4 は、東西方向に延び、搅乱により詳細は不明であるが、覆土層の観察から近世以降とみられる。

第 37 表 浄禪寺跡遺跡第 56 地点炉穴一覧表(単位 cm) 第 39 表 浄禪寺跡遺跡第 56 地点ピット一覧表(単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	焼土範囲	深さ
1	(円形)	53 × 52	59 × (27)	6.7
2	(楕円形)	60 × (58)	45 × (35)	3.0
3	円形	60 × 59	45 × 38	1.4
4	楕円形	81 × 40	55 × 34	1.2
5	楕円形	47 × 34	36 × 20	0.8
6	隅丸方形	57 × 52	45 × 36	0.7
7	楕円形	51 × 36	51 × 36	0
8	楕円形	56 × 43	56 × 43	1.3
9	円形	67 × 67	67 × 67	1.6
10	円形	46 × 44	46 × 44	0.4
11	楕円形	50 × 47	50 × 47	5.7
12	楕円形	51 × 43	30 × 27	4.3
13	不明	47 × (46)	47 × (46)	0

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	楕円形	40 × 28	16 × 15	25.3
2	円形	34 × 28	7 × 6	31.9
3	円形	54 × 50	34 × 30	37.1
4	不明	49 × (46)	23 × 20	25.5
5	円形	30 × 30	14 × 13	35.8
6	不明	50 × (49)	20 × 20	28.5
7	円形	35 × 32	15 × 14	55.9

第 40 表 浄禪寺跡遺跡第 56 地点溝一覧表(単位 cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ
1	逆台形	170 ~ (185)	53 ~ (128)	62.1
2	不明	50	—	15.9
3	不明	60 ~ 70	—	25.3
4	不明	50 ~ 110	—	15.9

第 38 表 浄禪寺跡遺跡第 56 地点土坑一覧表(単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	120 × 116	50 × 50	189
2	円形	150 × 147	129 × 123	89.9
3	円形	107 × 95	17 × 10	20.4
4	楕円形	160 × 117	46 × 38	17.3
5	楕円形	170 × 100	45 × 43	61.4

第II部 民間開発に伴う調査の成果

第1章 鶴ヶ岡外遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ岡外遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ藤間江川に面した標高27～50mの台地北縁、低地との比高差4mあまりの緩斜面上に立地する南北100m、東西3.5km以上の細長い崖線上にまたがる遺跡である。

周辺の遺跡は、江川下流に鶴ヶ岡遺跡、川越市八幡神社遺跡、西遺跡があり、八幡神社遺跡と西遺跡には縄文時代の集落が広がる。また、本遺跡の対岸でも旧石器時代の石器が表採されている。

2003年11月、鶴ヶ岡遺跡の隣接地において事業所の建設に伴う事前協議があり、同年12月に試掘調査を行ったところ（第1地点）、旧石器時代（立川ロームIV層）の石器群と礫群を検出したため、2004年1月10日包蔵地の変更増補をして鶴ヶ岡外遺跡として新規登録した。また、2005年1月に第2地点を調査した際、崖線に沿って遺跡範囲確認の踏査を行った結果、さらに上流でも旧石器時代の石器を表面採取したため、同年9月に包蔵地の変更増補を行った。主たる時代は旧石器時代～縄文時代早・前・中期である。

II 鶴ヶ岡外遺跡第7地点の本調査に至る経過と概要

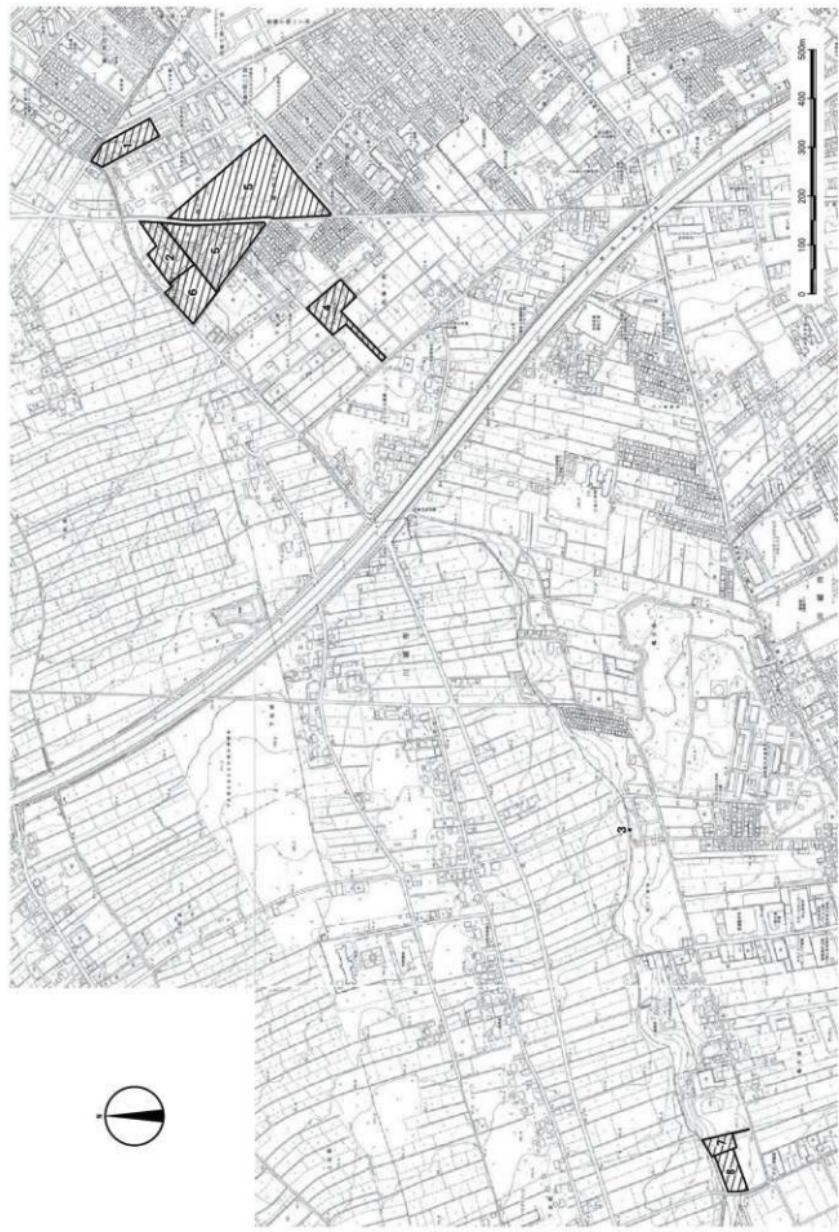
調査は土砂採取に伴うもので、原因者より2021年3月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部、台地の平坦部で川越江川右岸縁辺部の標高45.5～45.9mに位置する。鶴ヶ岡外遺跡で最初に旧石器時代の調査がされた地点から南西に約2,400mに位置する。周辺地域は埼玉県ふるさとの緑の景観地「ふじみ野市八丁ふるさと緑の景観地」にも指定されている。

申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年4月22日～6月8日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。表面精査後、各トレンチに1×1mの旧石器時代の試掘トレンチを4m間隔に設定し調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約20～50cmである。旧石器時代の確認はローム面より20～40cmの立川ローム層IV層まで掘り下げて行った。機材の撤収作業は6月29日～7月6日に行った。試掘調査の結果、調査区北側の川越江川に傾斜する付近から旧石器時代の石器と礫群を確認した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は2021年6月9日～30日まで行った。調査区の西側の境界杭をもとに10×10m方眼の区画

第41表 鶴ヶ岡外遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	鶴ヶ岡 5-177-3	(2003.12.19～2004.1.22) 2004.1.23～2.20	5,526	(212)	事業所	旧石器時代石器群、礫群、落とし穴		町内XIII、大洞 20
2	鶴ヶ岡 5-196、197 の一部	(2004.12.20～2005.2.2) 2005.3.14～6.24	5,000	(964)	老人介護施設	旧石器時代石器群、伊穴群、落とし穴		町内XIII、大洞 20
3	鬼久保 1676-27	2005.10.25～26	160	(25)	鉄塔建設	遺構遺物なし		市内 2
4	鶴ヶ岡 1771-1他	2003.12.10～24	5,911	(191)	給食センター	遺構遺物なし		町内XIII
5	鶴ヶ岡 5-188-1 他	(2007.12.11～2008.1.30) 2008.2.20～3.7	43,449	(400)	共同住宅	旧石器時代石器群、石器		市内 5
6	鶴ヶ岡 5-195-1	(2013.4.23～5.31) 2013.7.31～8.7) 2013.11.1～22	4,099	165.5	老人介護施設	伊穴、集石土坑、土坑、木炭灰、土器等		市内 13
7	鬼久保字大野原 1607-6	(2021.4.22～6.8) 2021.6.9～30	2,043	(688) 350	土砂採取	旧石器IV層石器ブロック、礫群、集石土坑、旧石器、鍬等		市内 26
8	鬼久保字大野原 1606-4	(2022.1.14～3.9) 2022.3.10～24	2,480	(406) 266	土砂採取	旧石器IV層石器ブロック、礫群、集石土坑、旧石器、鍬等		市内 26



第60図 鶴ヶ岡外遺跡の地形と調査区 (1/10,000)

を設定し北から南へ1、2、3～、東から西へA、B、C～の番号を付し、A1区、B1区～とした。さらに各区内を 2×2 m小区の方眼に分け北東隅より南に1～5、順次西側に6～10、11～15、16～20、21～25の番号を付し、一括遺物の取り上げに用いた。(第61図 小グリッド略図参照)。

本調査区の範囲は、ほぼA3区からD3区の標高45.5～45.9mの範囲で、東側は擾乱により不明である。西側は隣接する第8地点の調査でも同様の石器と礫が出土するのが確認されている。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。遺物の取り上げと図化作成の一部を株式会社 東京航業研究所に委託した。

III 遺構と遺物

確認された遺構と遺物は、縄文時代中期の集石土坑、旧石器時代の石器ブロックと礫群である。縄文時代、旧石器時代の遺構と遺物は標高45.5～45.9mで斜面の落ち際、南北約10m、東西約30mの範囲に広がる。東側は擾乱を受けるため更に広がる可能性がある。旧石器時代の石器ブロックと礫群は、第8地点の試掘調査によりさらに西側に延び全長は約70mに広がる。

①集石土坑

縄文時代の集石土坑の平面形態は円形で 97×102 cm、底径 60×64 cm、礫範囲 97×105 cm、礫総点数958点である。集石土坑出土の炭化物の放射性炭素年代測定については附編を参照。

②旧石器時代の遺構と遺物

【礫群】B3区3～5・8～10・13～15小区周辺に最も集中し、B3区からD3区にかけて数ヶ所の分布がみられる。D3区2・3・7・8小区に広がる礫については、集石土坑から拠散した礫があり検討が必要である。本地点から出土した礫の総数は2,797点である。

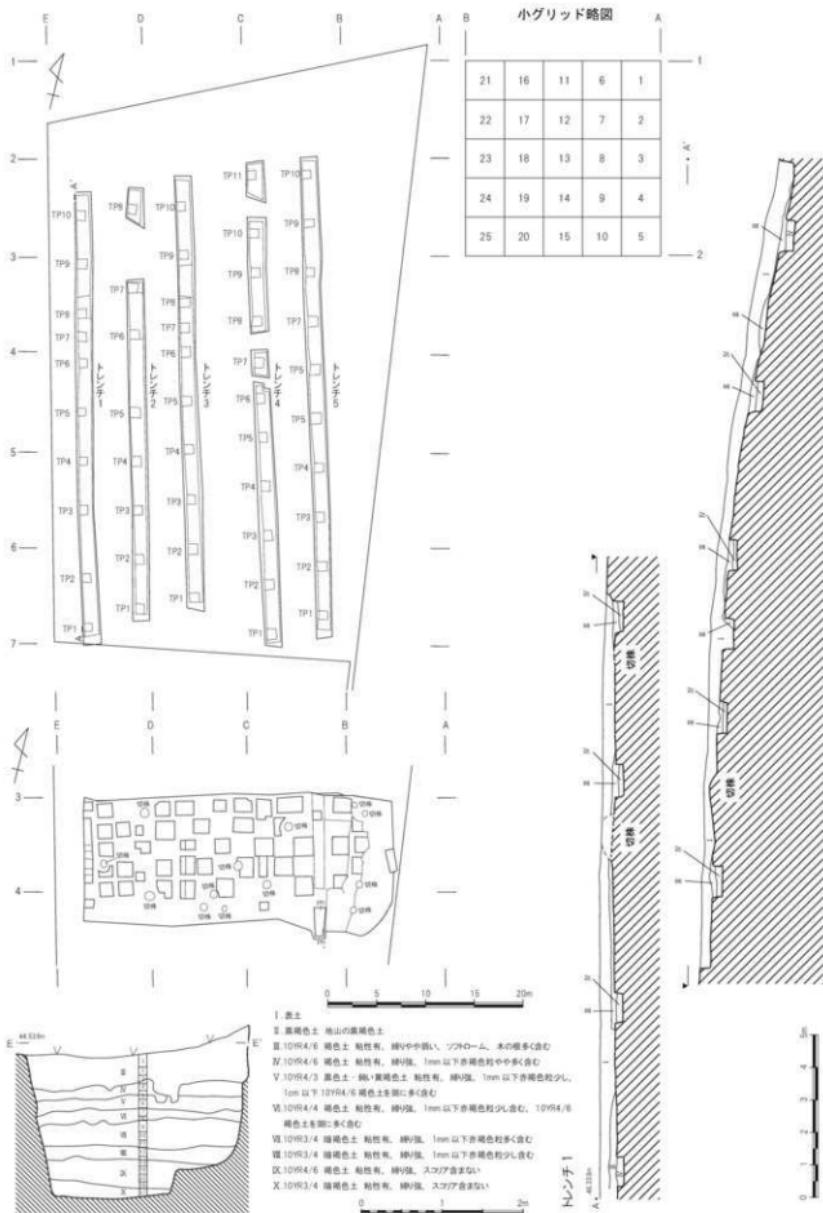
【石器ブロック】B3区2～5・8～10・12～15小区周辺に最も集中し、B3区からD3区にかけて4ヶ所程度の分布がみられる。石器の総数はナイフ形石器8点、スクレイバー3点ほか剥片を含め63点である。

【出土石器】

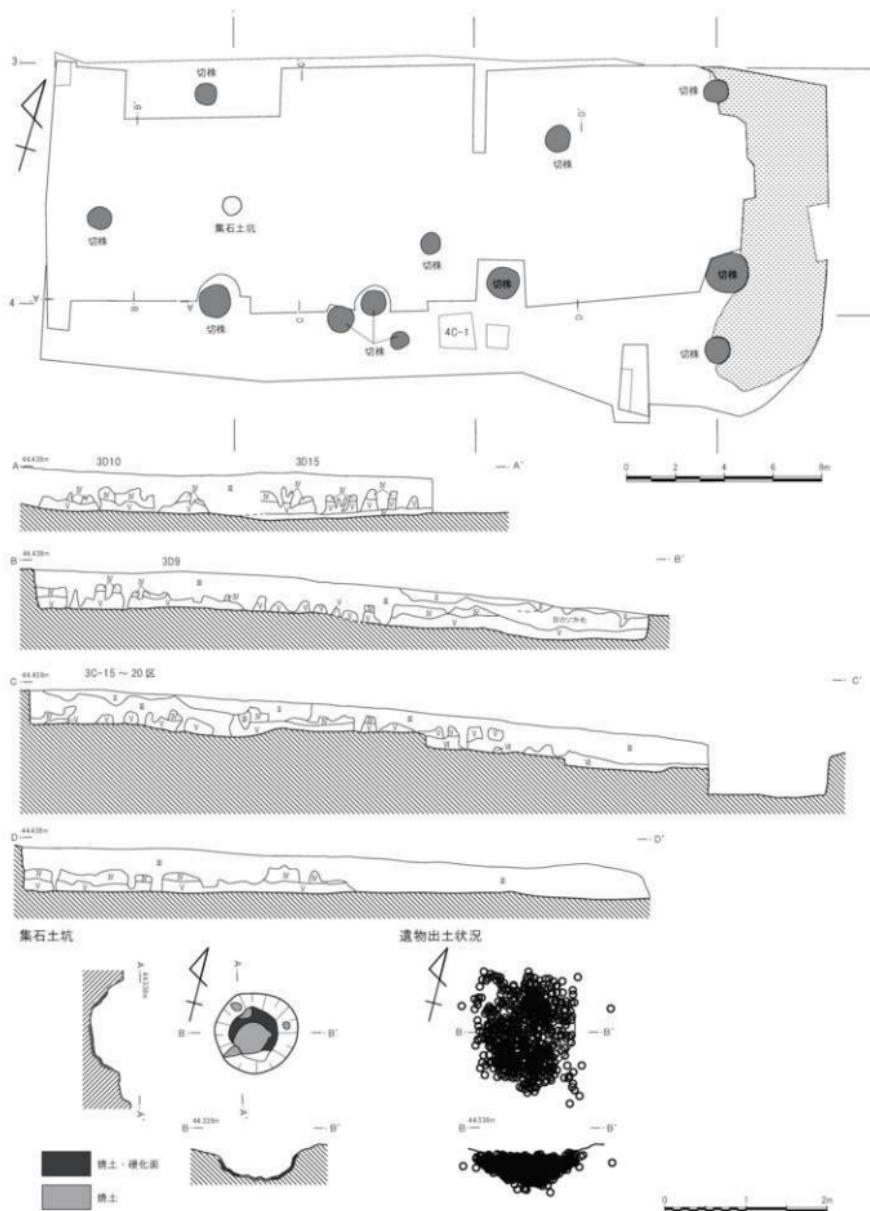
出土遺物のうち特徴的なものについて一部を掲載する(第42表参照)。石器実測の一部を、有限会社アルケーリサーチに委託した。

第42表 鶴ヶ岡外遺跡第7地点出土遺物観察表(単位cm・g)

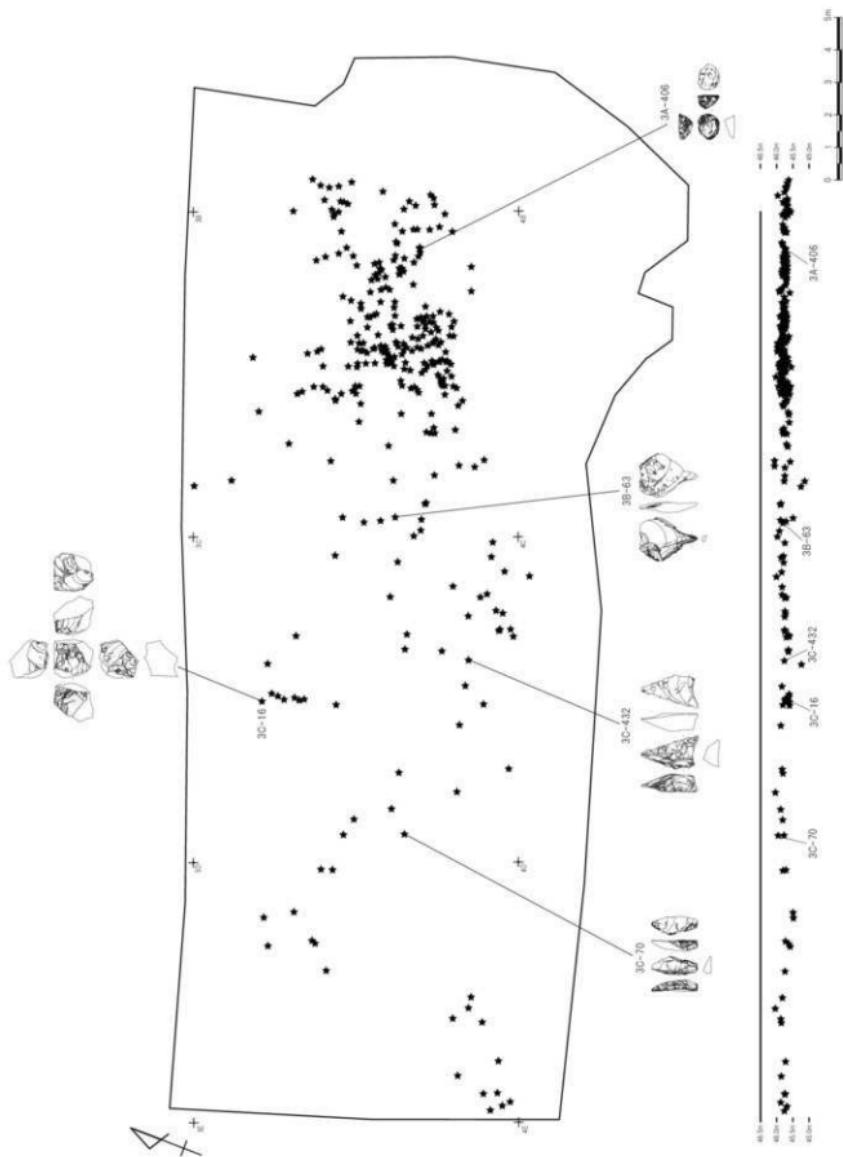
注記No.	種別/器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材/推定生産地
3A-406	スクレーパー	22.30	26.66	14.76	7.35	黒曜石
3B-63	石錐	59.53	44.97	10.81	18.43	頁岩
3C-16	石核	41.05	39.35	40.08	73.55	頁岩
3C-70	ナイフ形石器	47.66	19.57	11.99	8.89	安山岩
3C-432	角錐状石器	58.33	34.72	18.88	25.71	頁岩



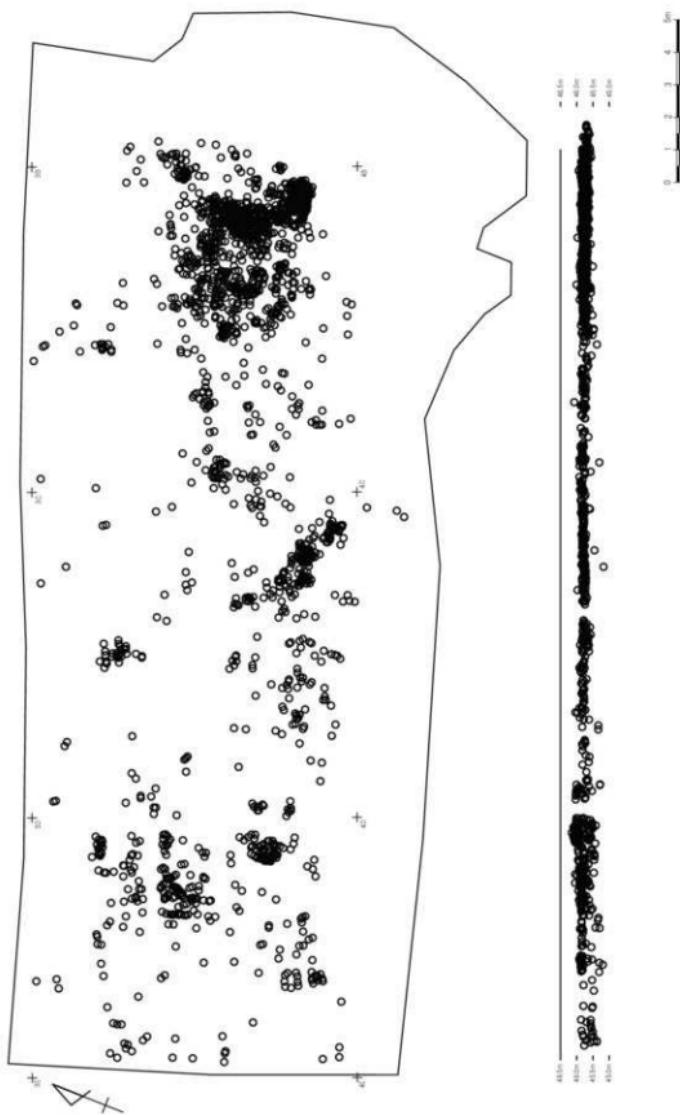
第 61 図 鶴ヶ岡外遺跡第 7 地点試掘調査遺構配置図 (1/500)、土層 (1/150・60)



第62図 鶴ヶ岡外遺跡第7地点本調査遺構配置図(1/200)、集石土坑・土層(1/60)



第63図 鶴ヶ岡外遺跡第7地点石器出土状況(1/150)



第64図 鶴ヶ岡外遺跡第7地点出土状況(1/150)

IV 鶴ヶ岡外遺跡第8地点

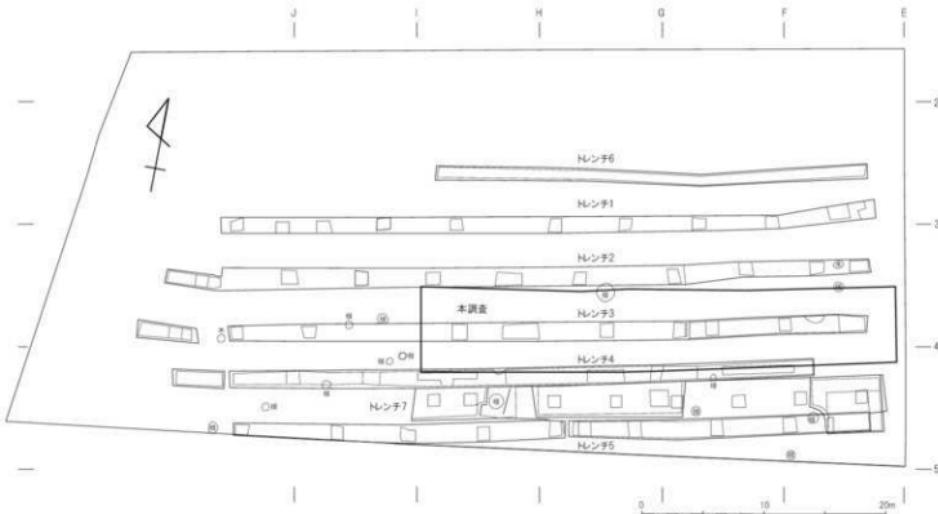
調査は土砂採取に伴うもので、原因者より2022年1月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は鶴ヶ岡外遺跡第7地点の西隣に位置し、開発行為も第7地点と同様であるため申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2022年1月14日～3月9日に試掘調査を実施した。試掘調査は幅約1.5～3mのトレンチ7本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。表面精査後、各トレンチに1×1mの旧石器時代の試掘トレンチを4m間隔に設定し調査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約20～50cmである。旧石器時代の確認はローム面より20～40cmの立川ローム層Ⅳ層まで掘り下げる行った。試掘調査の結果、トレンチ1とトレンチ6以外で旧石器時代の遺構と遺物を確認した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は2022年3月10日～24日まで行った。調査区の設定は第7地点と同様である。10×10m方眼の区画を設定し北から南へ1、2、3～、東から西へA、B、C～の番号を付し、A1区、B1区～とした。さらに各区内を2×2m小区の方眼に分け北東隅より南に1～5、順次西側に6～10、11～15、16～20、21～25の番号を付し、一括遺物の取り上げに用いた。(第61図 小グリッド略図参照)。

本調査区の範囲は、E3区、E4区からH3区、H4区までの東西約40m、南北約7mの範囲である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。調査区の国家座標の測量を株式会社 東京航業研究所に委託した。

V 遺構と遺物

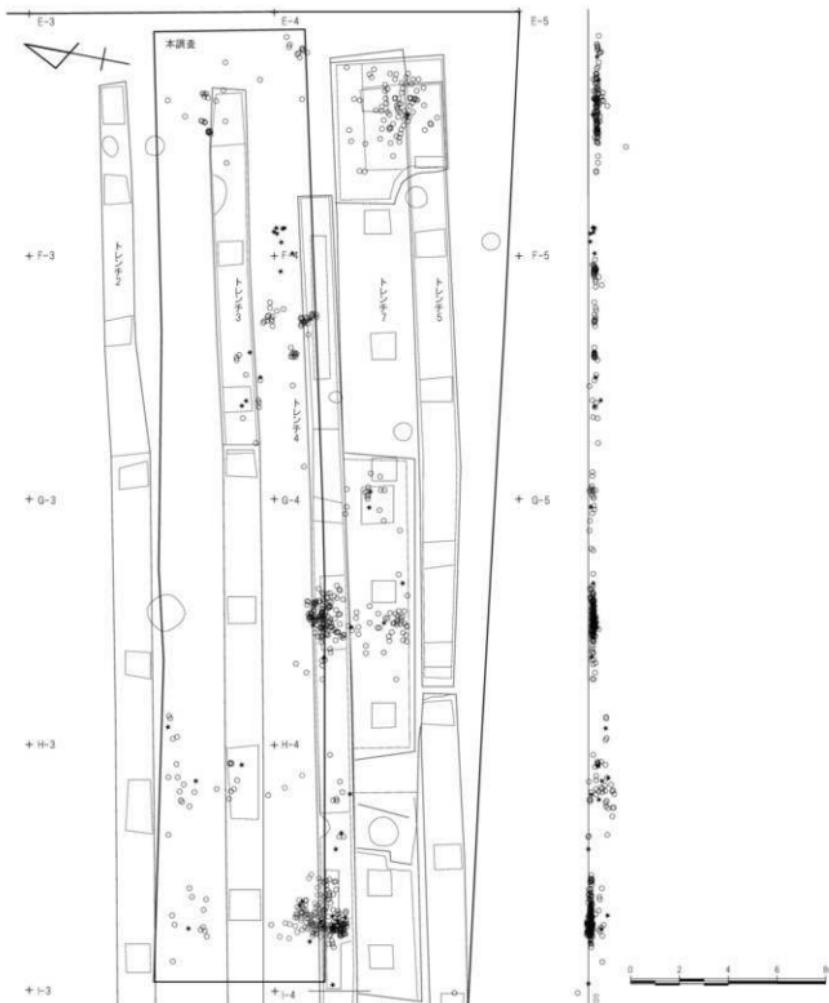
確認された遺構と遺物は旧石器時代の石器ブロックと礫群である。旧石器時代の遺構と遺物は標高45～46.5mで斜面の落ち際、南北約13m、東西約40mの範囲に広がる。Iラインより西側では旧石器時代の遺構と遺物は確認されない。縄文時代の遺物は石鐵1点が出土し、遺構は確認されなかった。



第65図 鶴ヶ岡外遺跡第8地点遺構配置図(1/400)

①旧石器時代の遺構と遺物

【礫群・石器ブロック】第8地点の調査区全体では約6～7カ所で礫群と石器ブロックの集中がみられる。E 3 区 9・10・14・15 小区、E 4 区 中心部に 2ヶ所 級群と石器ブロックの集中がみられる。E 3 区と E 4 区では特に黒曜石を多く含む傾向がみられる。F 3 区では 1・2・6・7 小区周辺に 1ヶ所 級群と石器の集中が見られる。F 4 区 23・24 小区から G 4 区にかけて 級群と石器の集中がみられる。H 3 区 5・10 小区から H 4 区 1・2 小区と 11・12・16・17・22 小区の 2ヶ所に 級群と石器の集中がみられる。出土遺物は製品と剥片を含め約 59 点、礫は約 688 点である。



第 66 図 鶴ヶ岡外遺跡第 8 地点遺物出土状況 (1/200)

第2章 亀久保堀跡遺跡第34地点の調査

I 遺跡の立地と環境

亀久保堀跡遺跡は、福岡江川とさかい川の間の低位台地に位置している。遺跡の標高は18.0～21.0 mで、堀跡は自然の地形を考慮せずに直線的にのびる。

周辺の遺跡は、北側に東久保遺跡、南側に東久保西遺跡が隣接する。これまでの調査から、堀跡は福岡江川付近から南下し江川南遺跡の中央部を南北にのびた後、地蔵院の東約80 m付近で南東に向きを変えた。向きを変えた堀跡は、東久保遺跡と東久保西遺跡の間を約600 m以上直線で延び富士見市域へと続く。富士見市域では調査が行われていないため遺跡の有無は不明である。

堀跡の規模は上幅約3 m、底幅約1.5 m、深さは地表面から約1 m、長さは800 m以上で断面形は逆台形を呈する。覆土層上層に焼土を多く含む層が所々で確認されているが出土遺物は無く、時代などは不明であるが、本遺跡の第30地点と江川南遺跡第17・19地点の調査で検出した堀跡の覆土層に含まれるテフラ分析を行った結果、堀跡の時期が平安時代の11世紀以前に遡るとする分析結果が出ている。

II 本調査に至る経過と概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2021年8月5日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年8月28～31日に試掘調査を実施した。調査は幅約1.5 mのトレンチを7本設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。地表面下約1.8 mで地山ローム層と堀跡を確認したが、建物の基礎などの掘削が地表面下2.4～3.6 mで、遺構への影響が避けられないため、原因者負担による本調査を実施した。本調査は2021年10月6～11日まで実施した。重機による表土除去後、人力による調査を行った。遺構平面図、全体図の作成には平板測量で記録を行った。

III 遺構と遺物

本地点で検出した堀跡は、西北西から東南東にはば直線で延びる。断面形態は逆台形の薬研状を呈する。規模は長さ15.3 mで調査区外に延び、上幅2.4～2.9 m、下幅1.3～1.7 m、深さ1.1～1.2 mでほとんど高低差はない。本地点では擾乱の影響もあり焼土層は確認されず、遺物もない。



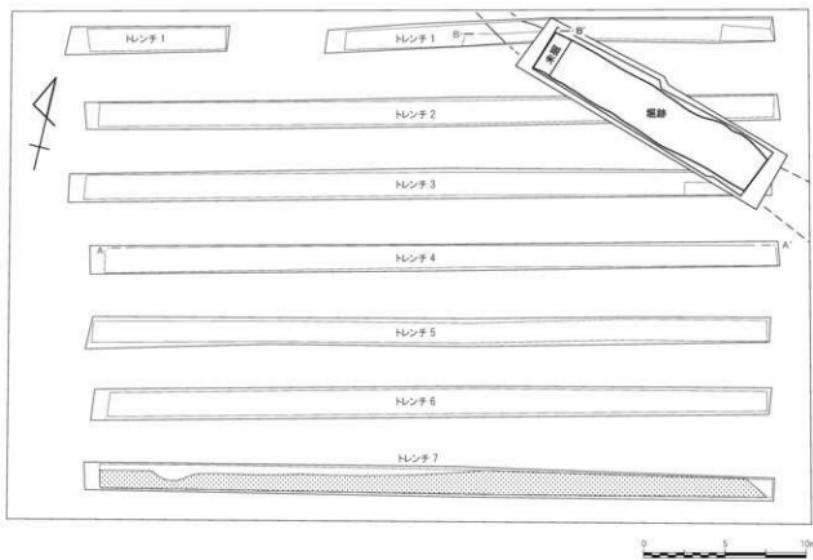
第67図 亀久保堀跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第43表 亀久保堀跡遺跡調査一覧表

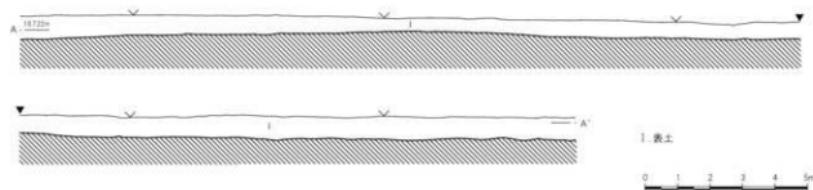
地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1 東久保 260-1・2 他		[A～C区]1997.4.2～6.19 (E区) 1997.9.8～12	2,610		区画整理道路	屋外伊、土坑、ピット、塙跡、溝、縫文土器 等	旧東久保7地点	大調14
2 東久保 6 街区 4・5 両面地		[1997.9.11～25]	120	127	個人住宅	溝、遺物なし	町内Ⅷ	
3 東久保 6 街区 7・8 両面地		[1997.9.11～25]	130	130	個人住宅	溝、遺物なし	町内Ⅷ	
4 東久保 6 街区 9・10 両面地		[1997.9.11～25]	113	113	個人住宅	塙跡、遺物なし	町内Ⅷ	
5 亀久保 264-1・2・3、266 (2号種地)		1997.9.22～10.27	1,200		区画整理公園	落とし穴、土坑、塙跡、溝、縫列、石器 等		大調14
6 東久保 6 街区 11・12 両面地		[1997.9.11～25]	102		個人住宅	塙跡、溝	町内Ⅷ	
7 東久保 32 街区 5・6 両面地		[1997.10.29～11.4) 1998.2.2～19	739		店舗	落とし穴、ピット、塙跡、溝、縫列、遺物なし	町内Ⅷ・Ⅸ、 大調14	
東久保 32 街区 7 両面地		[1998.11.12～16]	165		駐車場	塙跡	町内Ⅷ	
8 東久保 32 街区 2 両面地の一部		[1998.2.6～19]	318		共同住宅	ピット、溝、縫列	町内Ⅷ	
9 東久保 5 街区 9・10 両面地		1998.2.24～3.10	131		個人住宅	塙跡、縫文土器	町内Ⅷ	
10 東久保 382・385 他		[A区]1998.3.9～16 (B区) 1998.4.23 (C区) 1998.5.20・21	436 324		区画整理道路	落とし穴、ピット、石器 等		大調14
11 東久保 2 街区 12 両面地		[1998.4.8～22)	151		個人住宅	塙跡、遺物なし	町内Ⅷ	
12 東久保 258-46		[1998.5.8～21)	123		個人住宅	塙跡、遺物なし	町内Ⅷ	
13 東久保 5 街区 11・12 両面地		[1998.5.8～21)	107		個人住宅	塙跡、遺物なし	町内Ⅷ	
14 東久保 2 街区 11 両面地		[1998.5.1～7)	132		個人住宅	溝、遺物なし	町内Ⅷ	
15 東久保 7-2 街区 4・5 両面地		[1998.5.8～21)	111		個人住宅	溝、縫文土器	町内Ⅷ	
16 東久保 5 街区 18・19 両面地		[1998.5.29～6.1)	117		個人住宅	溝、遺物なし	町内Ⅷ	
17 東久保 253・254 他		1998.10.21～12.2	360		区画整理道路	土坑、溝、石器 等		大調14
18 東久保 7-2 街区 1・2・7～9 両面地		[1998.11.3～30)	908		個人住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、縫列、縫文土器 等	町内Ⅷ	
19 東久保 4 街区 11・12 両面地		[1998.11.3～10)	99		個人住宅	土坑、ピット、溝、遺物なし	町内Ⅷ	
20 東久保 8 街区 5 両面地		[1998.11.21～24)	185		個人住宅	遺物なし	町内Ⅷ	
21 亀久保 262・263・266		[1999.4.19～22)	232		個人住宅	ピット、溝、遺物なし	町内IX	
22 東久保 5 街区 7・20 両面地		[1999.6.10～12)	99		個人住宅	ピット、遺物なし	町内IX	
23 東久保 14 街区 10 両面地		[1999.10.4～8)	386		駐車場	塙跡、遺物なし	町内IX	
24 東久保 6 街区 14 両面地		1999.12.14～16	105		個人住宅	塙跡、遺物なし	町内IX	
25 東久保 8 街区 9 両面地		2000.4.10～12	187		個人住宅	土坑、塙跡、遺物なし	町内X	
26 東久保 6 街区 13 両面地		[2000.5.11～17)	105		個人住宅	溝、縫列、遺物なし	町内X	
27 東久保 31 街区 2・3 両面地		[2000.5.29～6.1)	1,011		駐車場	塙跡、遺物なし	町内X	
東久保 31 街区 2・3 両面地		[2002.6.10～11)	980		店舗	土坑、遺物なし	町内X	
28 東久保 29 街区 3・6・9 両面地		[2000.9.26～29)	1,365		整地工事	塙跡、遺物なし	町内X	
29 東久保 29 街区 1・2・7・8 両面地		[2001.4.17) 2001.4.18～20	1,769		店舗	塙跡、遺物なし	町内X	
30 ふじみ野 2-25-1		(2005.1.11・12) 2005.1.31～2.7	695		店舗	塙跡、土坑、石器		大調14
31 ふじみ野 2-15-4		(2009.2.6～10) 2009.2.12・13	661	(240) 240	個人住宅	塙跡	市内 6	
32 ふじみ野 2-15-3		(2017.8.7)	136.4	(26)	個人住宅	塙跡、遺物なし	市内 24	
33 ふじみ野 2-15-24		(2018.12.10) 2018.12.19～21	138	(28.6) 15.4	個人住宅	塙跡、遺物なし	市内 25	
34 ふじみ野 2-14-4・5		(2021.8.26～31) 2021.10.6～11	1,543.0	(439.5) 68	共同住宅	塙跡、遺物なし	市内 26	



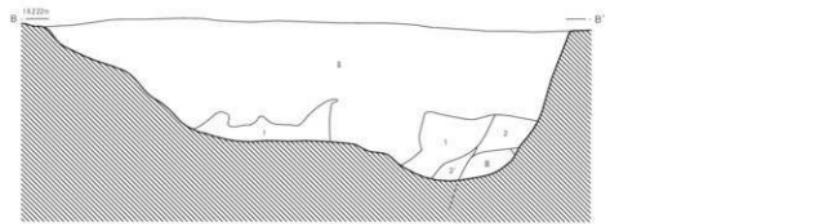
第68図 亀久保埋跡遺跡分布図 (1/2500)



トレンチ4



堀跡



I 緑褐色土 糠状、粘性有、透土のロームベースで裸・ガラを少し含む

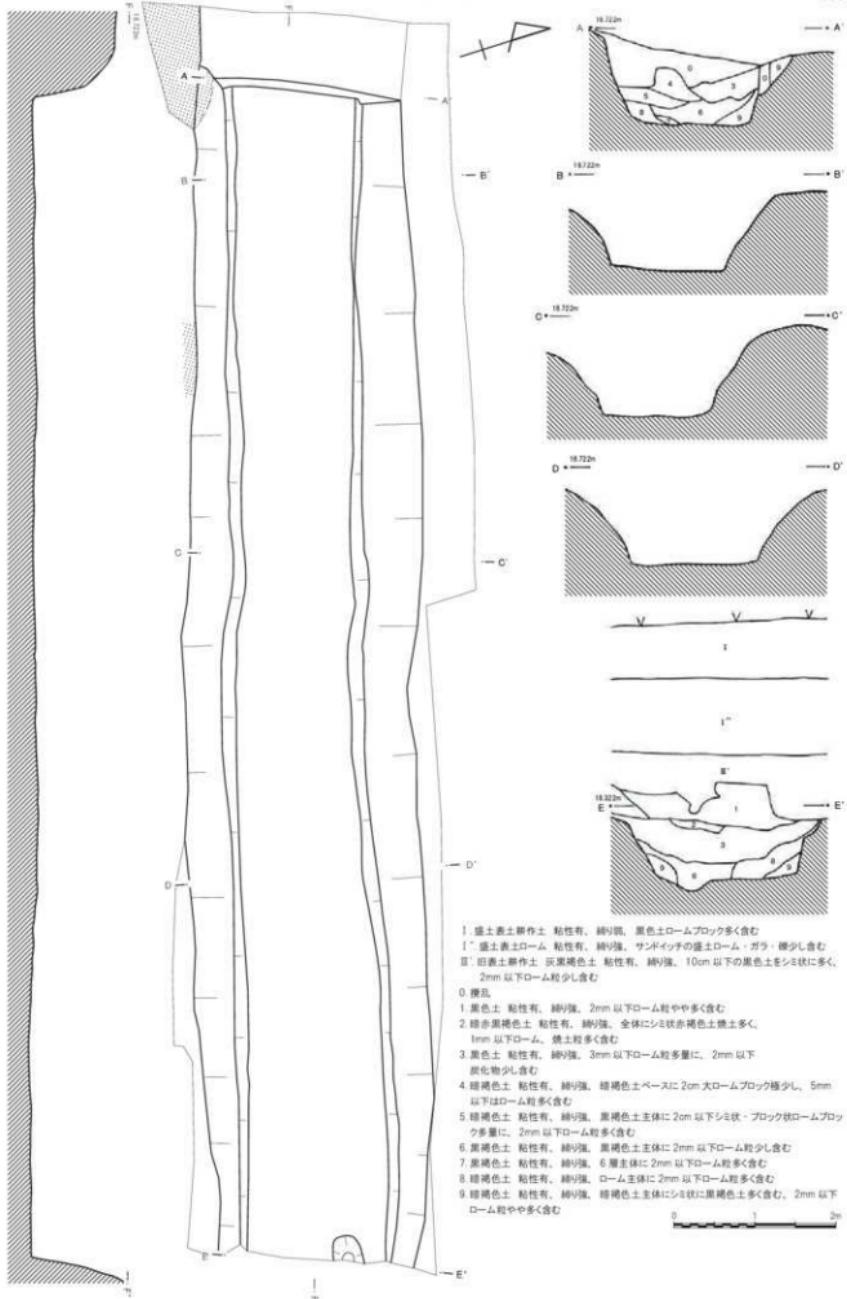
II 緑褐色土 糠状、粘性有、地山ノフローム

3 黒色土 糠状、粘性有、シミ状に緑褐色ソフローム3cm以下を少し含む

2 灰黒色土 糠状、粘性有、地山黒色土、シミ状に5cm以下ソフロームを少し含む

2' 灰黒色土 糠状、粘性有、2層の無漂土、3cm以下シミ状ロームやや多く含む

第69図 亀久保堀跡遺跡第34地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150・1/60)



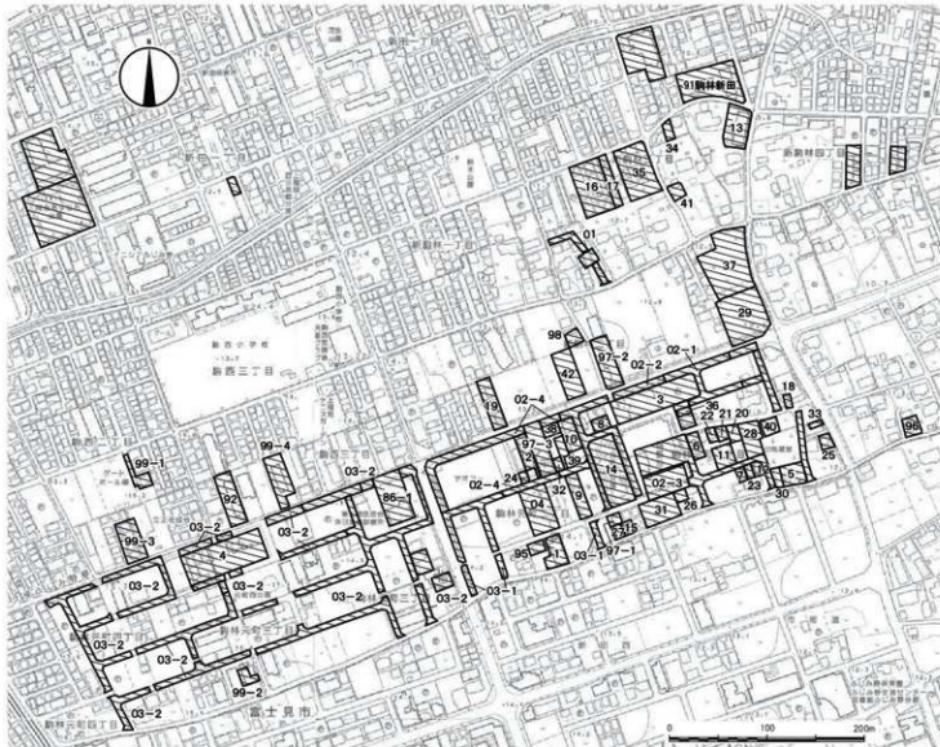
第 70 図 龜久保堀跡遺跡第 34 地点堀跡 (1/60)

第3章 駒林遺跡第42地点の調査

I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武藏野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12~15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの範囲であったが、2002年~2004年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。しかし、第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140~160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に再び遺跡範囲の変更増補を行い、北側の葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓と東側の地下式坑を検出した駒林新田前遺跡を統合した。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ、部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の船荷久保北遺跡がある。2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶毬跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。



第71図 駒林遺跡の地形と調査区(1/5,000)

第44表 駒林遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
86-1	駒林字南原 353・354	1986.8.13～25	1,536		範囲確認	溝、土師器		上埋IX
91 駒林新田	駒林新田 727-1-3	(1991.8.3)	2,186		共同住宅	遺構遺物なし	91 駒林新田遺跡 試掘調査	上埋 14
92	駒林字南原 341	(1992.9.16～18)	987.6		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 15
95	駒林字新田前 271-2	(1995.11.8～24)	231		個人住宅	溝、遺物なし		上埋 18
96	駒林本町 153-3・4	(1996.6.10～13)	231		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 19
97-1	駒林字新田前 266-2	(1997.5.8～12)	132		個人住宅	溝、遺物なし		上埋 20
97-2	駒林字新田前 223	(1997.5.9～15)	991.55		共同住宅	溝、ビット、漆器		上埋 20
97-3	駒林字新田前 291-1・2	(1997.10.6～17)	991		診療所	溝、便器		上埋 20
98	駒林字新田前 312	(1998.8.10)	234		個人住宅	遺構なし、陶磁器		上埋 21
99-1	駒林字南原 424-2・20 の一部、23	(1999.4.9)	330.38		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 22
99-2	駒林字南原 394-2	(1999.5.25)	125.91		個人住宅	遺構なし、陶磁器		上埋 22
99-3	駒林字南原 420-1	(1999.7.1)	1,322		礼拝堂	溝、遺物なし		上埋 22
99-4	駒林字南原 344-2	(2000.1.18～20)	785.79		共同住宅	溝、遺物なし		上埋 22
01	駒林 702・717 の一部	(2001.2.7～9.5)	300		宅地造成	遺構なし、板碑		上埋 24
02-1	駒林字新田前 238・240 ～242-1 の一部	(2002.6.3～21)	650		区画整理 予定地	溝、遺物なし		上埋 25
02-2	駒林字新田前 243～245	(2002.8.9～30)	275		区画整理 予定地	溝、遺物なし		上埋 25
02-3	駒林字新田前 262-1, 263・264 の一部	(2002.8.30～9.19)	1,120		区画整理 予定地	土坑、遺物なし		上埋 25
02-4	駒林字新田前 280～ 282-2、290、292-1～ 298 の一部	(2002.11.11～27)	1,150		区画整理 予定地	溝、遺物なし		上埋 25
03-1	駒林字新田前 263・273, 275	(2003.5.16～21)	558		土地上区画整理	溝、遺物なし		上埋 26
03-2	駒林字南原 364 番外 43 番	(2003.4.25～12.22)	7,278.5		土地上区画整理	溝、遺物なし		上埋 26
04	駒林字新田前 281	(2005.1.7～24)	1,487		範囲確認	溝、カワラケ等		上埋 27
1	駒林土地区画整理事業 地内 20 街区 4・8・9	(2006.7.13～8.2)	646	(146)	共同住宅	溝、茶器類、遺物なし		市内 3
2	駒林土地区画整理事業地 地内 17 街区 7・8 の一部	(2006.11.21～29)	421	(80)	個人住宅	溝、土坑、遺物なし		市内 3
3	駒林土地区画整理事業 地内 21 街区 3・4 地帯	(2006.11.30～12.18)	1,916	(333)	店舗	土坑、溝、井戸、陶磁器		市内 3
4	駒林 B 地区 7 街区 3・4	(2007.5.11～13)	1,866	(72)	共同住宅	土坑		市内 4
5	大字駒林字新田前 256(30 街区 2)	(2008.4.9～16) 2008.5.30～6.28	509	(509) 509	分譲住宅	竪穴土坑、礎石土坑、ビット、溝、 地下式坑、縁石、縁側、繩文土器		市内 5・6
6	大字駒林字新田前 248-2 (1 街区 27 番号 1)	(2008.8.27)	257	(40)	個人住宅	遺構なし、泡面子		市内 6
7	駒林土地区画整理事業 地内 28 街区 5 地帯	(2009.2.3) 2009.2.4～5	152	(54) 54	個人住宅	溝、土製品等		市内 6
8	駒林字新田前 245-5 (21 街区 5 番地他)	(2009.6.8)	132	(42)	個人住宅	遺構なし、繩文土器		市内 78
9	駒林字新田前 284 (19 街区 9 地帯)	(2009.7.22～30) 2009.7.30～8.5	627	(246.2) 100	共同住宅	集石土坑、土坑、ビット、溝		市内 7・8
10	駒林字新田前 288-1 の 一部(17 街区 11 地帯)	(2010.2.17～18)	400	(66)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
11	駒林区画整理事業 27 街 区 2・10 地帯、11 地帯 の一部	(2010.4.12～21)	689.45	(73)	個人住宅	ビット、遺物なし		市内 10
12	駒林字新田前 285-2 (28 街区 12 地帯)	(2010.7.14)	115	(30)	個人住宅	溝		市内 10
13	新駒林 3-722-1・3・4	(2010.7.27～29)	927	(96)	共同住宅	土坑、ビット、丸瓦等		市内 10
14	駒林字新田前 285～287, 288-2・3(22 街区内)	(2010.9.1～8)	2,000	(348)	公園工事	土坑、遺物なし		市内 10
15	大字駒林字新田前 266-3 (24 街区 12 番号)	(2011.2.16～17) 2011.2.17	115	(10)	個人住宅	土坑、遺物なし		市内 10
16	新駒林 3-706 2011.5.25～6.1	1,454	(738) 96		分譲住宅	土坑、ビット、縫跡、溝、井戸、 土製品等		市内 14
17	新駒林 3-707 (2011.5.16～19)	495	(95.5)		分譲住宅			
18	駒林 234-2、238-2(仮 地帯)、31-4・5	(2011.4.28～5.2) 2011.8.25～31	238	(64) 36	個人住宅	土坑、陶磁器等		市内 14
19	新駒林 2-305-1	(2011.11.28～12.5) 2011.12.12	671	(68) 15	分譲住宅	溝、繩文土器		市内 14

地区 地点	所在地	調査期間 ()	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
20	胸林元町1-3-13	(2012.3.5～8)	178.8	(42)	共同住宅	溝、縫合土器	市内14	
21	胸林元町1-3-13の一部	(2012.3.5～8)	110	(39)	個人住宅	ピット	市内14	
22	胸林元町1-3-20	(2012.3.5～8)	118	(31)	個人住宅	遺構遺物なし	市内14	
23	胸林元町1-4-12	(2012.4.10～16)	127	(45)	個人住宅	ピット、溝、遺物なし	市内15	
24	胸林元町2-1-7	(2012.5.16)	127	(1)	個人住宅	遺構遺物なし	市内15	
25	胸林元町1-2-8	(2012.6.4)	212	(8)	個人住宅	遺構なし、土器	市内15	
26	胸林元町1-5-16	(2012.8.29～30)	136	(37)	個人住宅	溝、ピット、遺物なし	市内15	
27	胸林元町1-5-9・10	(2012.12.21)	133	(10)	個人住宅	土坑、遺物なし	市内15	
28	胸林元町1-3-8・14～16	(2013.2.21～25) 2013.5.21～27	1,208	(61.6) 99	宅地造成	堀跡、溝、須恵器等	市内14	
29	新胸林2-231-1	(2013.6.3～17)	2,200	(592.7)	店舗	土坑、溝、石器等	市内18	
30	胸林元町1-3-7	(2013.6.19～20)	68.16	(28)	個人住宅	ピット、遺物なし	市内18	
31	胸林元町1-5-5・6	(2013.9.17～27)	925	(298)	宅地造成	溝、遺物なし	市内18	
32	胸林元町2-1-16	(2014.2.10)	132	(21)	個人住宅	遺構遺物なし	市内18	
33	胸林元町1-2-2	(2016.4.11)	129.6	(27.79)	個人住宅	遺構なし、須恵器等	市内24	
34	新胸林3-725-3	(2016.10.14)	163	(27.5)	共同住宅	遺構なし、瓦片等	市内24	
35	新胸林3-709-1～4, 710-1・2	(2017.7.27～28, 8.21～22) 2017.8.23～9.4	1,815	(470.5) 195	分譲住宅	土坑、堀跡、溝、堀跡内ピット、 石器等	市内23	
36	胸林元町1-7-4	(2017.9.19)	160.45	(41.25)	消防団車庫	遺構遺物なし	市内24	
37	新胸林2-216-1, 217-1	(2018.3.5～7) 2018.3.12～16	2,515.35	(381.45) 189	店舗	ピット、堀跡、溝、陶磁器等	市内23	
38	胸林元町2-1-3	(2018.5.8)	396.06	(79.8)	店舗兼住宅	遺構遺物なし	市内25	
39	胸林元町2-1-19	(2019.6.3)	200	(22.5)	個人住宅	遺構遺物なし	市内25	
40	胸林元町1-3-17・18	(2019.8.26)	285.81	(41.2)	分譲住宅	堀跡、陶磁器等	市内25	
41	新胸林3-723-2	(2020.3.23～24)	226	(30.75)	個人住宅	遺構なし、陶磁器等	市内25	
42	新胸林2-310-1	(2021.2.16～17) 2021.4.12～21	899	(149.29) 122.85	共同住宅	ピット、堀跡、溝、中世土器等	市内26	

II 本調査に至る経過と概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2021年1月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年2月16・17日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約2mのトレンチ5ヶ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40cmである。

調査の結果、古代～中近世の堀跡1本を検出した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は2021年4月12～21日まで、堀跡が確認された部分について重機で表土除去後、人力による調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

III 遺構と遺物

(1) 遺構

① 堀跡

本地点で検出した堀跡は東西方向にはば直線で延び、東側の97-2地点（1997年5月）試掘調査で確認された溝に続くものと考えられる。断面形態は逆台形の薬研状を呈する。規模は長さ11.4m、上幅2.4～2.9m、下幅1.3～1.7m、深さ1.1～1.2mではほとんど高低差はない。出土遺物は表土の耕作土層からのもので遺構の時期は特定できない。

② 溝

溝は堀跡の南側で3本検出したが土層の観察から堀跡より新しい。3本の中で溝1が最も新しく次が溝2で、溝3が最も古いが時期は不明である。

【溝1】溝2と平行して東西方向に掘られた後、南に曲がる。土層の観察から溝2が古く溝1が新しい。規模は長さ15.3mで東側は調査区外に延びる。上幅37～46cm、下幅10～17cm、深さ11.2cmである。



第72図 駒林遺跡遺構分布図 (1/2,000)

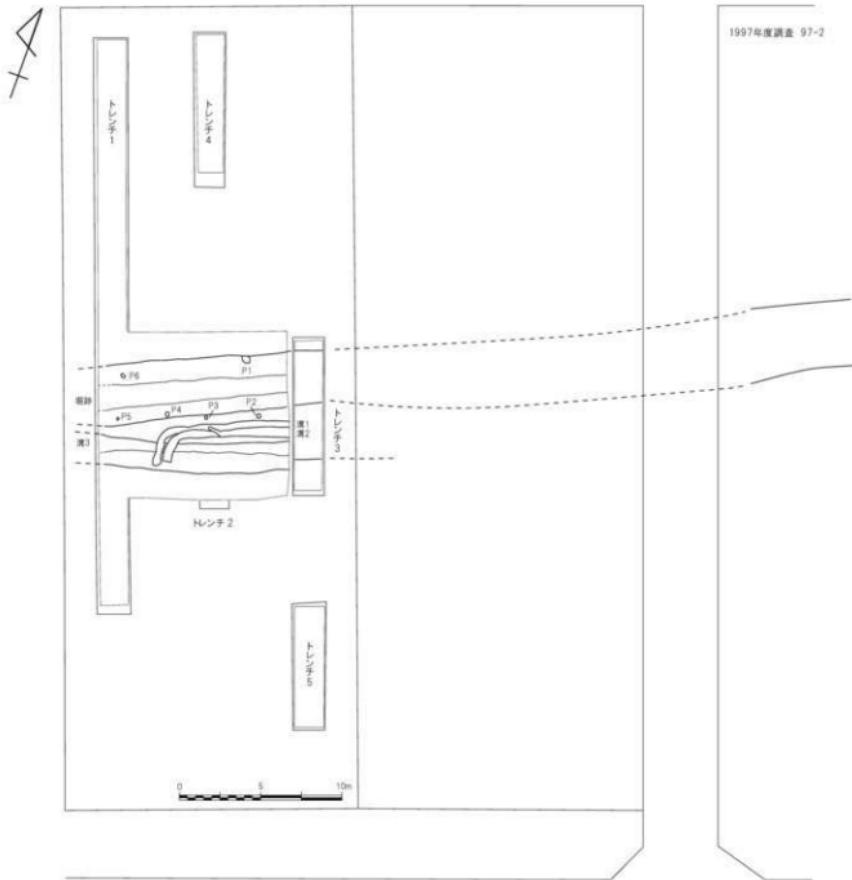
【溝2】東西方向に掘られた後、南に曲がる。規模は長さ15.3mで東側は調査区外に延びる。上幅40~53cm、下幅15~18cm、深さ26.3cmである。

【溝3】堀跡と平行して東西方向に掘られ調査区外に延びる。規模は長さ15.3m、上幅191~205cm、下幅12~35cm、深さ43.1cmである。

【ピット】ピットは6基検出した。堀跡の周辺で検出しており同遺構に関連する可能性もある。詳細は第45表のとおりである。

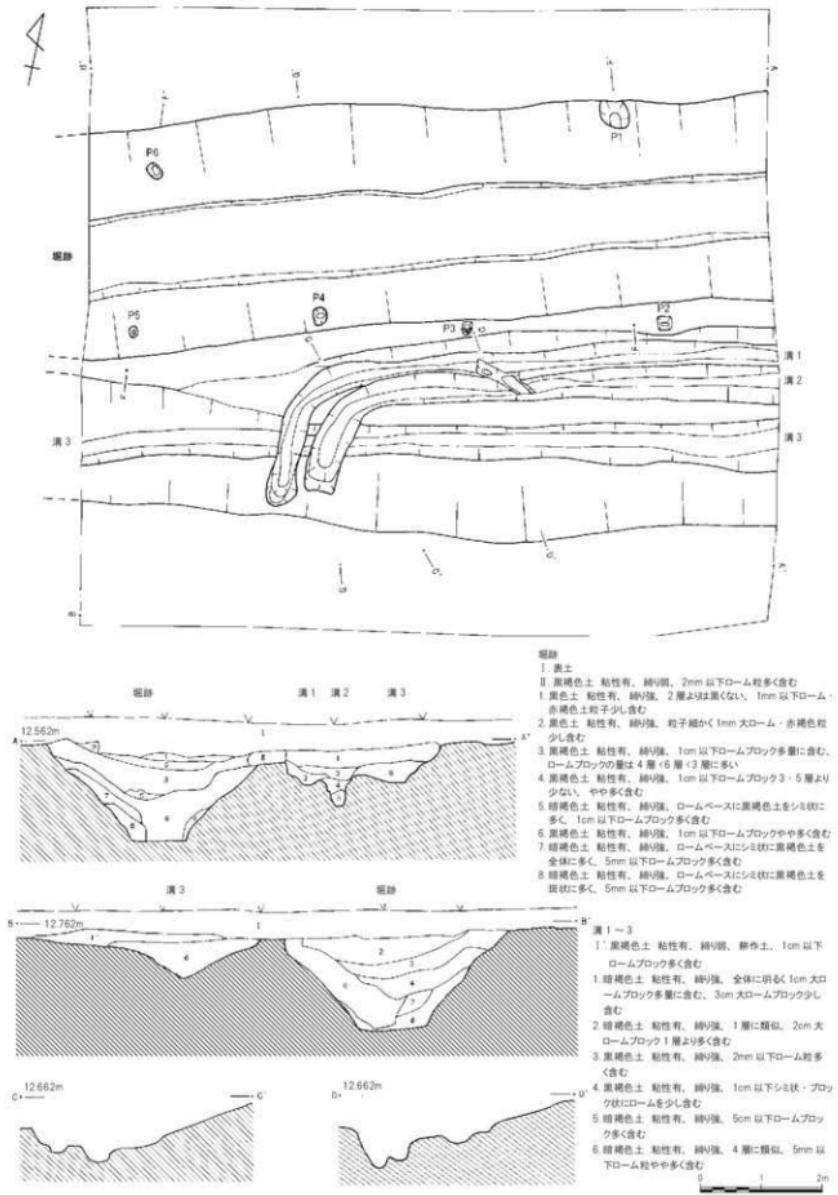
(2) 遺物

遺物は堀跡と溝の表土耕作土層からの出土であり遺構の時期は特定できない。詳細は第75図及び第46表のとおりである。



第73図 駒林遺跡第42地点遺構配置図(1/300)

堀跡・溝・ピット



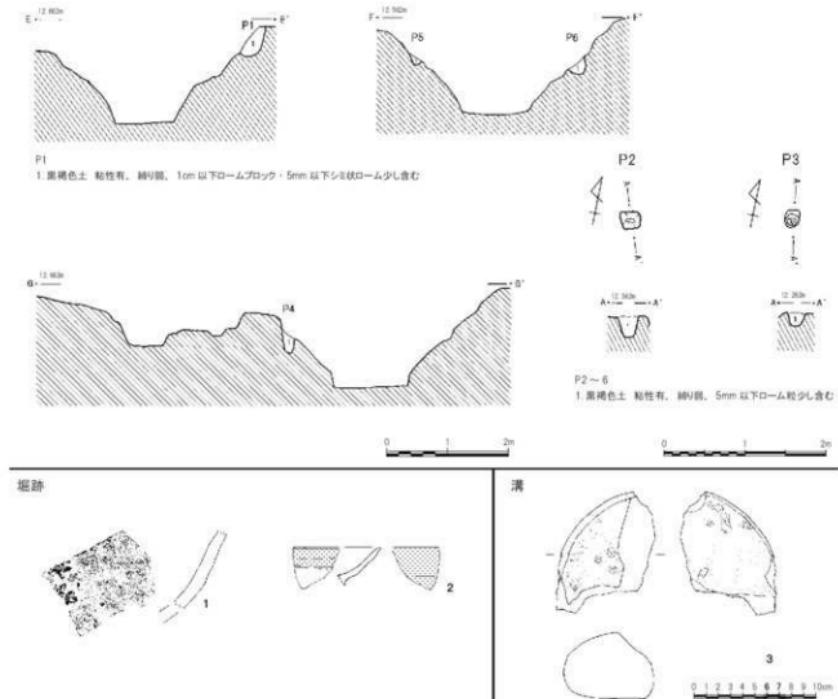
第 74 図 駒林遺跡第 42 地点堀跡①・溝 (1/80)

第45表 駒林遺跡第42地点ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	(椭円形)	58 × 42	25 × 18	23.6	4	方形	28 × 22	13 × 7	58.7
2	方形	23 × 22	12 × 4	31.9	5	方形	15 × 14	6 × 4	17.8
3	方形	18 × 15	4 × 2	25.8	6	方形	27 × 18	16 × 9	33.1

第46表 駒林遺跡第42地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第75図-1	堀跡	常滑罐	-	-	0.1	-	肩部片、窓壁片付着	中世中期
第75図-2		瀬戸美濃丸皿	-	-	0.5	-	輪輪、削り出し高台力、灰釉を内面全体から外部腰まで施釉、内面見込みに重ね焼き痕	17世紀後葉
第75図-3	溝	磨石	9.8	8.1	5.4	475.21	一部残存、両面に磨痕有、砂岩	不明



第75図 駒林遺跡第42地点堀跡②(1/80)、ピット(1/60)、出土遺物(1/4)

第4章 本村遺跡第9地点の調査

I 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心的な集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場及び、集落とみることができる。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は、旧石器時代より良好な生活・住環境であったことがわかる。

2021年4月現在、137地点で調査を行い、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落とし穴・炉穴、中世～近世の掘立柱建物跡・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式壙・茶毬跡などを多数検出している。

II 本調査に至る経過と概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2021年1月15日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。本地点は1989年に試掘調査を実施しており、その際に溝跡を確認したが盛土保存となっていた。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年1月25日～2月1日に試掘調査を実施した。

試掘調査は前回調査したトレンチ間に幅約2.5～3mのトレンチ5ヶ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表から地山ローム層までの深さは約70～90cmである。

調査の結果、中世以降の溝・井戸・土坑等を検出した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は2021年2月22日～3月26日まで、調査区全体を重機で表土除去後、人力による調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

III 遺構と遺物

①土坑

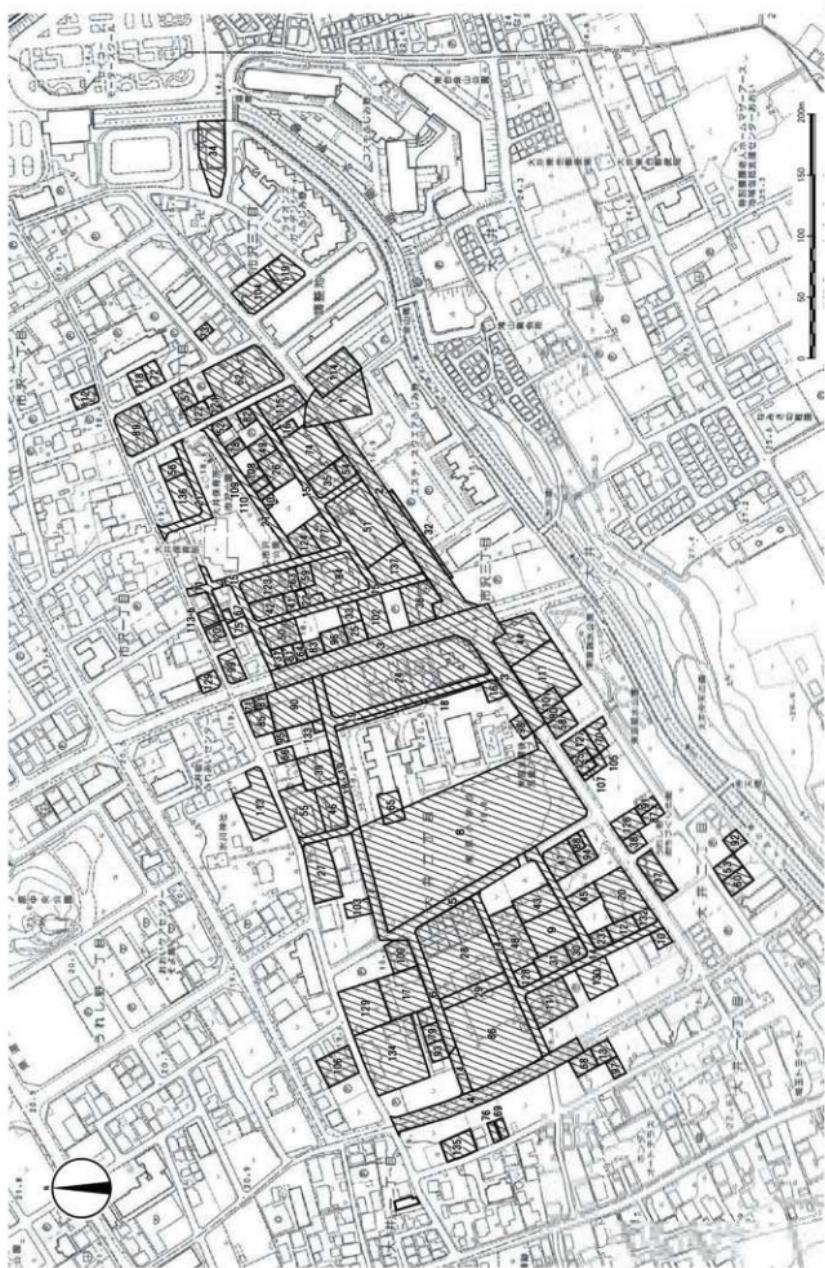
土坑は調査区西側から南側にかけて7基検出した。詳細については第48表に掲載した。土坑2は掘り込みがほとんど確認できないが、焼土と炭化物が一定範囲で検出されたため土坑とした。

②ピット

調査区全体で24基のピットを確認したが、調査区南側に集中する傾向にある。規模等の詳細については第49表に掲載した。

③溝

溝は調査区東側で検出した。どちらもほぼ南北方向に走行し、溝1は調査区中央で東へ走行方向を変えた。遺構の規模は上幅90～150cm、下幅40～60cm、深さ約50cmを測る。断面形態はU字状を呈する。



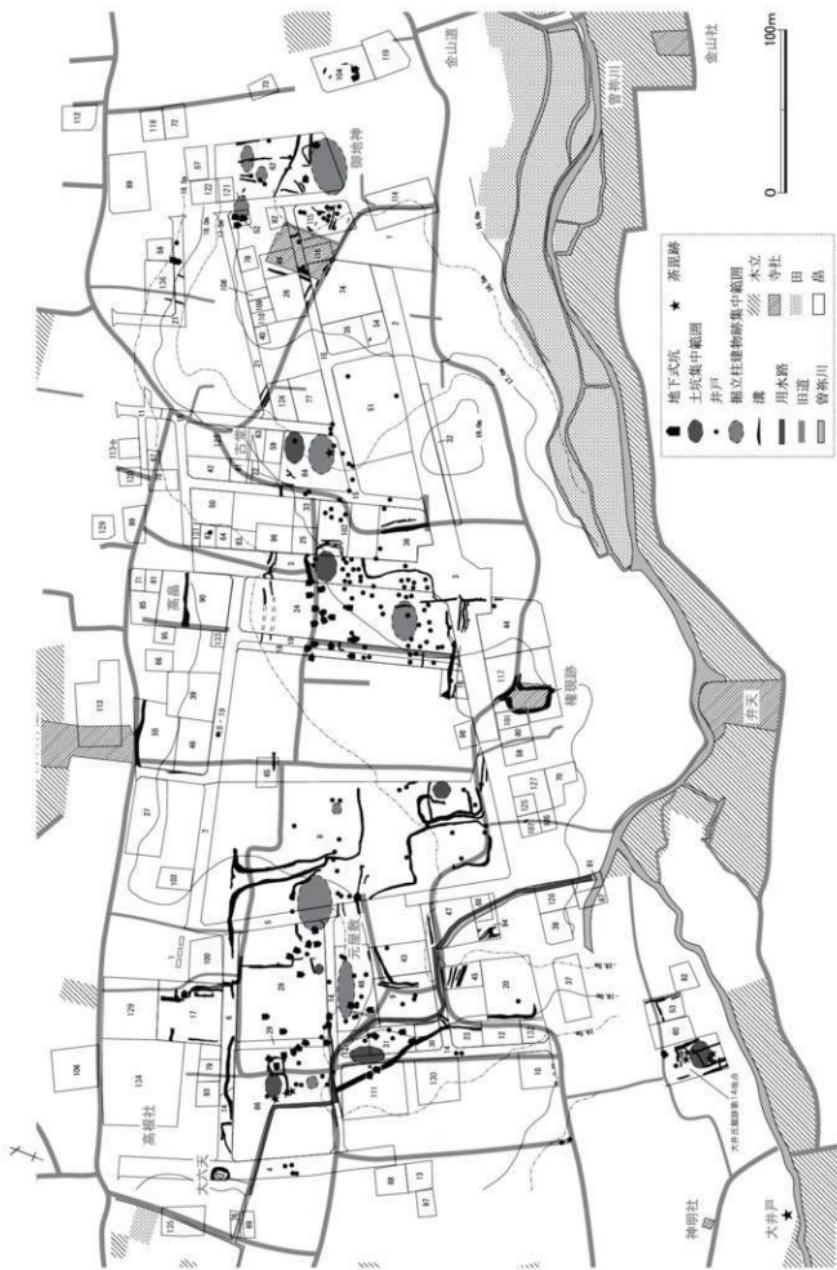
第76図 本村遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第47表 本村遺跡調査一覧表

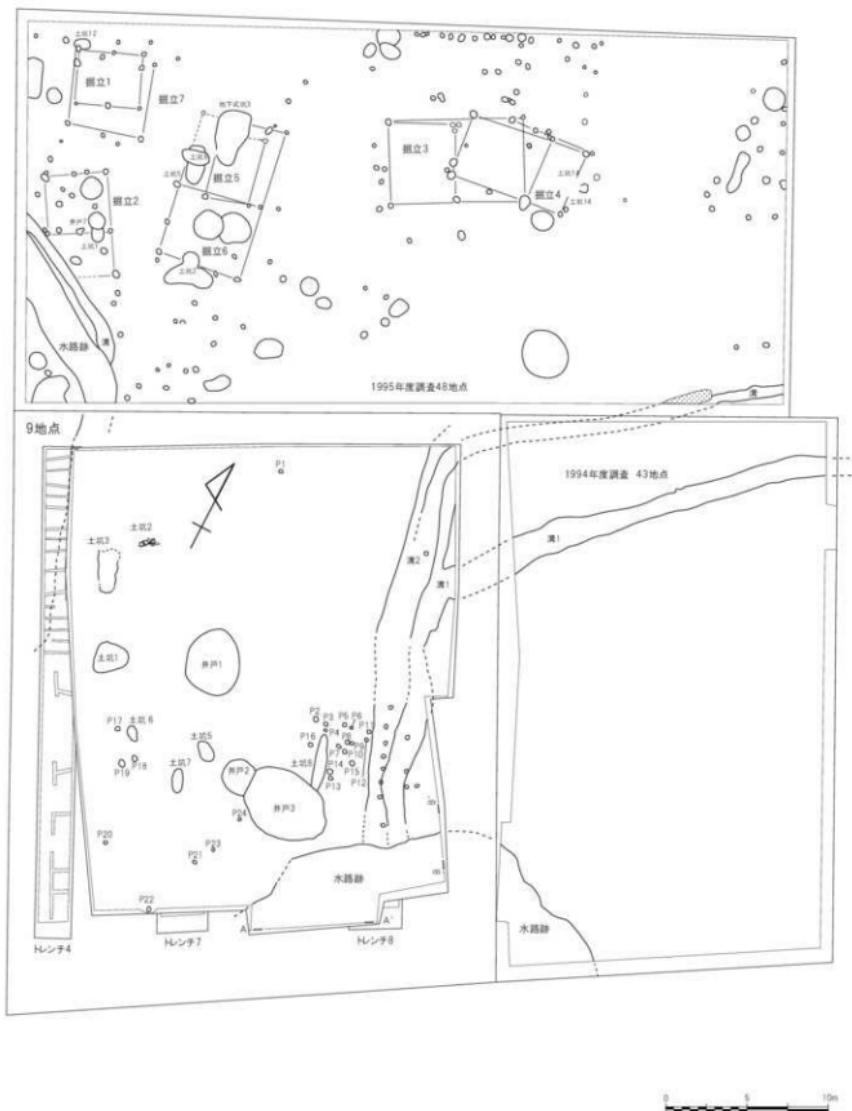
地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	市沢 2-10、市沢 3-1・2	1985.8.27 ~ 30	2,000		農地転用	遺構遺物なし	旧舟天後 1	なし
2	大井 280-1 他	1987.9.1 ~ 12.4	2,500		土地区画整理	旧石器、集石、落とし穴、土坑、 石器等	旧舟天後 2	大調 7
3	大井 111、113-1・2、 114-1、115-1、282	1988.9.5 ~ 1989.1.13	3,600		土地区画整理	孤立柱建物跡 3、落とし穴、柱穴跡、 土坑、溝、井戸、地下式坑、石器等	旧舟天後 3	大調 7
134	大井 2-20	1978.7.27 ~ 8.5	40		町史編纂事業	土坑、柱穴、焼土、地下式坑、遺 物なし	旧東原 1	大史 12
86	大井 2-20	1979.4.29 ~ 5.6	80		町史編纂事業	土坑、柱穴、小ピット、地下式坑、 鐵文士器等	旧東原 2	大史 12
	大井 2-20	1980.12.25 ~ 27、 1981.1.4 ~ 5	130		町史編纂事業	土坑、柱穴、落とし穴、土坑、溝、 井戸、陶磁器等	旧東原 3	大史 12
4	大井 189、190、 191、192	1987.12.8 ~ 1988.1.29	1,872		土地区画整理	落とし穴、土坑、溝、井戸、第六天、 陶磁器等	旧東原 4	大調 7
5	大井 143、144-2	1989.1.13 ~ 2.3	1,600		土地区画整理	孤立柱建物跡 6、土坑、ピット、溝、 井戸、陶磁器等	旧東原 5	大調 7
6	大井 149、160、 164-1	1989.5.15 ~ 6.15	1,565		土地区画整理	旧石器群、落とし穴、土坑、溝、 陶磁器等	旧東原 6	大調 7
7	大井 134 の一部	1989.8.2 ~ 31	500		土地区画整理	鐵文士器等	旧東原 7	大調 7
8	大井 134 他	(1989.9.11 ~ 13) 1993.9.30 ~ 1991.7.11	13,161	(206)	小学校 グランド	孤立柱建物跡 10、旧石器群、落 とし穴、土坑、溝、井戸、陶磁器片		大調 4、東部X
大井 138	(1989.12.24)	200			ゲートボール場	盛土保存		東部X
9	大井 2-18-6	(2021.1.25 ~ 2.1) 2021.2.22 ~ 3.26)	1,086	(261.98) 681.5	分譲住宅	土坑、ピット、溝、井戸、板碑、 中世土器等		市内 26
10	大井 172-1	1989.2.21 ~ 28	500		個人住宅	落とし穴、遺物なし		東部X
11	大井 82-3	(1990.2.7 ~ 22)	370		範囲確認	旧河道		東部X
12	大井 240、241-4	1990.5.8 ~ 9	340		個人住宅	土坑、常滑片		東部X
13	大井 180	1990.7.25 ~ 26	428		個人住宅	土坑、遺物なし		東部X
14	大井 151、152、154 ~ 157	1990.9.17 ~ 10.31	2,160		土地区画整理	土坑、ピット、溝、井戸、陶磁器等		大調 7
15	大井 100、106 ~ 109、344	1990.10.1 ~ 11.30	2,820		土地区画整理	孤立柱建物跡 1、柱穴跡、土坑、ピッ ト、溝、井戸		大調 7
16	大井 110-2	(1990.11.6 ~ 13) 1990.12.11	230		学童保育	溝、井戸、カワラケ等		東部X
17	大井 146、149	1991.1.7 ~ 3.7	1,270		事務所	旧石器群、ブロック、炉穴、土坑、 溝、地下式坑、縫割、段切、石器等		大調 3
18	大井 110	1991.4.1 ~ 6.11	252		フェンス工事	旧石器群、土坑、ピット、溝、 地下式坑、井戸、陶磁器等		大調 3 ~ 7
19	大井 110-2	1991.4.1 ~ 6.11	1,420		土地区画整理	旧石器群、土坑、溝、地下式坑、 井戸、陶磁器等		大調 7
20	大井 253-1	(1991.5.21) 1991.5.22 ~ 6.14	1,150		個人住宅	土坑、井戸、陶磁器等		町内 I
21	大井 81-3、364	1991.6.17 ~ 8.31	1,772		土地区画整理	土坑、溝、井戸、地下式坑、柱穴跡、 土器等		大調 7
22	大井 108、109	1991.7.15 ~ 31	110		個人住宅	土坑、鐵文士器等		大調 2、町内 I
23	大井 169	(1991.8.29 ~ 30)	268		個人住宅	溝、遺物なし		町内 I
24	大井 110-2	1992.2.28 ~ 7.31	4,646		土地区画整理	旧石器群、孤立柱建物跡 16、土坑、 溝、井戸、地下式坑、柱穴跡、石器等		大調 7
25	大井 107	(1992.5.21)	370		倉庫	ピット		町内 II
26	大井 348、369、370 の一部	(1992.10.4 ~ 7)	575.7		個人住宅	遺構遺物なし		町内 II
27	大井 145	(1992.10.27)	1,101		共同住宅	遺構遺物なし		町内 II
28	大井 21-2、137、 143、150、156、 159、373-1	1992.12.1 ~ 1993.2.28	4,358		土地区画整理	孤立柱建物跡 7、土坑、土坑墓、井戸、 地下式坑、段切、鐵文士器等		大調 7
29	大井 159	1993.5.20 ~ 6.4	330		土地区画整理	土坑、ピット、溝、地下式坑、土 器等		大調 7
30	大井 155	(1993.7.28 ~ 30) 1993.8.6 ~ 25	411		個人住宅	土坑、ピット、溝、遺物なし		町内 III
31	大井 154、155	1994.8.4 ~ 5	484		共同住宅	土坑、溝、井戸、石製品等		大調 7
32	大井 351	1994.11.9 ~ 25	14,310		共同住宅	土坑、旧石器、落とし穴、石器等		町内 III
33	大井 107、427-1	1994.11.11	337		駐車場	土坑、縫切		町内 III
34	大井 53-5	1994.12.2 ~ 3	1,013		共同住宅	遺構遺物なし		町内 III
35	大井 357-1	(1994.4 ~ 12)	452		共同住宅	遺構遺物なし		町内 IV
36	大井 101-9-10	(1994.7.28 ~ 8.4) 1994.9.2 ~ 10.31	890		共同住宅	旧石器群、落とし穴、土坑、ピッ ト、溝、井戸、縫切、旧石器等		大調 12
37	大井 251	(1994.8.31 ~ 9.2)	596		事務所	遺構遺物なし		町内 IV
38	大井 253	(1994.8.30 ~ 9.7)	264		個人住宅	溝、カワラケ		町内 IV
39	大井 124-1	(1994.11.9 ~ 16)	805		共同住宅	遺構遺物なし		町内 IV
40	大井 321-1	(1994.11.22)	131		宅地分譲	遺構遺物なし		町内 IV

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書	
41	大井 326	(1994.11.15 ~ 22) 1994.11.29 ~ 12.7	413	宅地分譲	土坑、ゴミ穴、陶磁器等		大調 12、町内IV		
42	大井 325	(1994.11.15 ~ 22) 1994.11.29 ~ 12.7	201	宅地分譲	土坑、ゴミ穴、陶磁器等		大調 12、町内IV		
43	大井 153-2・3	(1995.1.12 ~ 19) 1995.2.23 ~ 3.29	704	宅地分譲	土坑、ピット、溝、井戸、水路跡、陶器等		大調 12、町内IV		
44	大井 287-1	(1995.2.17 ~ 28) 1995.4.10 ~ 5.25	1,198	共同住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、陶器等		大調 12、町内IV		
45	大井 253・254	(1995.6.10 ~ 16) 1995.6.18 ~ 7.17	324	個人住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、陶器片等		町内 V		
46	大井 126	(1995.4.4 ~ 13) 1995.6.1 ~ 7.28	744	共同住宅	土坑、溝、ピット、旧河川		大調 12、町内V		
47	大井 253、255	(1995.7.18 ~ 24)	608	宅地分譲	土坑		町内 V		
48	大井 140	(1995.9.18 ~ 19) 1995.9.30 ~ 11.20	1,122	宅地分譲	擬柱立建物跡 7、土坑、ピット、溝、井戸、地下式坑、横列、水路、陶器片等		大調 12、町内V		
49	大井 333	(1996.1.10 ~ 11) 1996.1.16 ~ 2.3	280	個人住宅	溝、土坑、ピット、堆立河川、陶器片等		町内 V		
50	大井 106	(1996.2.20 ~ 24)	571	個人住宅	溝なし、石器		町内 V		
51	大井 350、360 他	(1996.3.21 ~ 27) 1996.4.3 ~ 5.30	2,412	共同住宅	旧石器、集石土坑、落とし穴、土坑、ピット、井戸、横列、旧石器等		大調 12、町内V		
52	市沢 328	(1996.4.10 ~ 25)	140	倉庫	擬柱立建物跡 1、土坑、ピット、堆立河川、カワラケ等		町内 VI		
53	大井 243-2、244-1、 289-1、289-1、352 の一部	(1996.4.17 ~ 6.25)	139.04	個人住宅	段段、土坑、ピット、溝、縄文土器等		町内 VI		
54	市沢 3491-2	(1996.4.11 ~ 17)	207	個人住宅	溝、遺物なし		町内 VI		
55	大井 125-1、38-2	(1996.5.23 ~ 30) 1996.6.25 ~ 7.31	936	共同住宅	旧石器石器群、横列、土坑、ピット、溝、横列、堆土、旧石器等		大調 12、町内VI		
56	市沢 302-1	(1996.7.18 ~ 19) 1996.7.24 ~ 8.7	243	個人住宅	地下式坑		町内 VI		
57	大井 331	(1996.8.28 ~ 29)	300	共同住宅	遺構遺物なし		町内 VI		
58	大井東原 279、282 の一部	(1996.12.24 ~ 1997.1.9)	284	店舗併用住宅	土坑、遺物なし		町内 VI		
59	大井 365-2	(1997.2.12)	331	共同住宅	遺構遺物なし		町内 VI		
60	大井 129	(1997.6.2 ~ 14)	320	分譲住宅	縄文、ピット、溝		町内 VII		
61	大井 76	(1997.6.4 ~ 14)	134	個人住宅	井戸		町内 VII		
62	大井 342	(1997.6.30 ~ 7.18) 1997.10.21 ~ 1998.1.20	1,947	共同住宅	擬柱立建物跡多群。堅穴状遺構、旧石器縄列、落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、地下式坑、横列、カワラケ等		大調 12、町内VI		
63	大井 380	(1997.10.31 ~ 11.1)	154	個人住宅	遺構遺物なし		町内 VI		
64	市沢 2-8-2	(1997.10.13 ~ 18)	134	個人住宅	ピット		町内 VI		
65	大井 110-2	(1998.3.6 ~ 13) 1998.4.16 ~ 5.21	391	学校増築	旧石器縄列、土坑、ピット、溝、旧石器等		大調 12		
66	大井 2-8-8・9	(1998.2.7 ~ 16)	179	駐車場	ピット、溝		町内 VI		
67	市沢 2-1-4	(1998.3.25 ~ 26)	140	個人住宅	遺構遺物なし		町内 VI		
68	大井 182	(1998.4.17 ~ 21)	302	個人住宅	落とし穴、遺物なし		町内 VI		
69	大井 1-4-5	(1998.8.24)	116	個人住宅	遺構遺物なし		町内 VI		
70	大井 2-12-7	(1998.9.4)	354	個人住宅	ピット、縄文土器片		町内 VI		
71	大井 2-7-3	(1998.10.12)	116	個人住宅	ピット、遺物なし		町内 VI		
72	市沢 2-12-12	(1998.11.12)	210	駐車場	ピット、縄文器		町内 VI		
73	市沢 2-14-1	(1998.11.12)	156	個人住宅	遺構遺物なし		町内 VI		
74	大井 108-2・3・5・7	(1999.1.11 ~ 19) 1999.2.8 ~ 17	1,495	共同住宅	土坑、ピット、溝、横列、遺物なし		町内 VI		
75	市沢 2-1-2	(1999.1.18)	224	個人住宅	遺構遺物なし		町内 VI		
76	大井 1-4-6	(1999.5.15 ~ 18)	118	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 IX	
77	市沢 2-6-18・19	(1999.7.27 ~ 8.2)	538	(168)	駐車場	ピット		町内 IX	
78	市沢 2-6-6	(1999.9.20)	158	(24)	個人住宅	ピット		町内 IX	
79	大井 2-19-9	(1999.10.22 ~ 30)	642	(201)	個人住宅	集石土坑、ピット、遺物なし		町内 IX	
80	大井 2-11-2	(1999.10.26 ~ 30)	204	(74)	個人住宅	土坑、ピット、遺物なし		町内 IX	
81	大井 2-7-3	(1999.12.8 ~ 10)	117	(36)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 IX	
82	市沢 2-6-11	(1999.12.9 ~ 10)	171	(21)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 IX	
83	市沢 2-8-4	(1999.12.9 ~ 13)	181	(52)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 IX	
84	市沢 2-7-6	(1999.12.24 ~ 2000.1.31) 2000.2.2 ~ 3.6	1,314	(434)	共同住宅	中世擬柱立建物跡 10、落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、茶豆跡、横列、切妻		大調 15、町内 IX	
85	大井 2-7-2	(2000.1.6)	409	(18)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 IX	
86	大井 2-19-1 ~ 4・14	(2000.4.19 ~ 5.11) 2000.5.15 ~ 6.29	5,745	(1,528)	公衆浴場	中世擬柱立建物跡 1、土坑墓、ピット、溝、井戸、地下式坑、茶豆跡、横列、段切、埋葬施設、縄文土器片等		大調 15、町内 X	

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
87	大井 2-12-2	(2000.5.31 ~ 6.3)	165	(72)	個人住宅	旧河川流域路、ビット、縄文土器 雨水路、磁器片		町内 X
88	大井 2-17-6	(2000.6.27 ~ 7.3)	154	(43)	個人住宅			町内 X
89	市沢 2-11-1・2	(2000.7.19 ~ 8.1)	942	(326)	分譲住宅	落とし穴、遺物なし		町内 X
90	大井 2-7-4・5	(2000.8.31 ~ 9.22)	1,340	(540)	店舗	旧河川流域路、集石、ビット、溝、 近世土器片		町内 X
91	大井 2-12-2	(2000.9.25 ~ 27)	142	(37)	個人住宅	旧河川流域路、遺構なし、陶器片		町内 X
92	大井 2-14-11	(2000.10.10)	100	(25)	個人住宅	旧河川流域路、遺構遺物なし		町内 X
93	大井 2-20-9	(2001.2.16 ~ 21)	283	(97)	社員寮	ビット、陶器片		町内 X
94	大井 2-18-6	(2001.2.17 ~ 19) 2001.2.20 ~ 3.6	192	(87)	個人住宅	土坑、ビット、溝、陶磁器片等		町内 X
95	大井 2-7-10	(2001.3.6 ~ 9)	108	(41)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 X
96	市沢 2-8-5	(2001.7.16 ~ 13)	301	(99)	個人住宅	遺構なし、板磚片		町内 X
97	大井 1-7-11	(2001.7.11 ~ 12)	132.0	(40.5)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 X
98	大井 2-9-3	(2001.12.17 ~ 19)	144	(17)	学童保育	溝、遺物なし		町内 X
99	市沢 2-1-1	(2002.6.19 ~ 21) 2002.7.1 ~ 31	446	300	共同住宅	旧石器標群、石器集中、土坑、ビッ ト、柱穴、旧石器等		大調 15、町内 XII
100	大井 2-20-7	(2002.8.20 ~ 25)	463		分譲住宅	遺構遺物なし		町内 XII
101	大井 2-11-3	(2002.9.30 ~ 10.4)	217		店舗併用住宅	集石、磁器片		町内 XII
102	市沢 2-8-8	(2002.11.11 ~ 15) 2003.2.10	1,264		共同住宅	落とし穴、土坑、ビット、溝、井戸、 柱穴列、道路状遺構、陶磁器片等		大調 15、町内 XII
103	大井 143	(2003.2.13 ~ 18)	237		個人住宅	土坑、ビット		町内 XII
104	市沢 3-4-1	(2003.5.14 ~ 30)	804		共同住宅	炉穴、土坑、ビット、溝、地下式坑、 段切		町内 XII
105	大井 2-12-4	(2003.6.4 ~ 6)	131		個人住宅	土坑		町内 XII
106	大井 2-1-11	(2003.7.2 ~ 8)	135		分譲住宅	遺構遺物なし		町内 XII
107	大井 2-12-4	(2003.7.3 ~ 5)	130		個人住宅	土坑、ビット、溝		町内 XII
108	市沢 2-6-25	(2003.7.17 ~ 23)	109		個人住宅	ビット		町内 XII
109	市沢 2-6-6	(2003.7.17 ~ 23)	114		個人住宅	遺構遺物なし		町内 XII
110	市沢 2-6-27	(2003.10.16 ~ 18)	101		個人住宅	遺構遺物なし		町内 XII
111	大井 2-16-2	(2003.11.14 ~ 20) 2003.11.21 ~ 12.11	1,033	740	分譲住宅	炉穴、土坑、ビット、溝、地下式坑、 木炭窯、不明遺構、陶磁器等		大調 21
112	市沢 1-17-16	(2004.7.27)	289		共同住宅	遺構遺物なし		町内 XII
113	大井 2-4-8	2002.8.22	1,051		駐車場	遺構遺物なし		町内 XII
113-b	市沢 2-2-3	(2005.5.9 ~ 10)	162	(27)	個人住宅	ビット、縄列		市内 2
114	市沢 3-2-1・12	(2005.10.21 ~ 28)	887	(129)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 2
115	市沢 2-10-6	(2005.11.21 ~ 29) 2005.12.19 ~ 2006.1.31	573	(170)	分譲住宅	中世直壁建物跡 4、土坑、ビット、 溝、井戸、中世陶磁器等		市内 2
116	市沢 2-10-4 の一部	(2006.1.17)	168	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
117	大井 2-11-4・6	(2006.3.22 ~ 4.14)	1,582	(1,487)	店舗	土坑、溝、ビット、縄列、近世陶 磁器		市内 2・3
118	市沢 2-12-13	(2006.5.24 ~ 25) 2006.5.25	257	(80)	個人住宅	落とし穴、遺物なし		市内 3
119	市沢 3-4-24	(2008.5.27 ~ 6.4) 2008.6.4 ~ 25	559	(245)	共同住宅	土坑、ビット、地下式坑、カワラ ケ等		市内 5・6
120	市沢 2-2-2	(2008.12.18)	141	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
121	市沢 2-11-9	(2009.4.22)	150	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
122	市沢 2-11-26・27	(2009.5.25 ~ 6.3)	301	(121)	宅地造成	旧地式坑、カワラケ等		市内 8
123	市沢 2-7-2	(2010.7.5 ~ 9)	619.57	(218)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 10
124	市沢 2-6-1	(2010.7.8 ~ 12)	428	(80)	宅地造成	土坑		市内 10
125	大井 2-12-17	(2010.9.6)	143	(40)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 10
126	大井 2-12-2	(2010.10.4 ~ 6)	631	(126)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 10
127	大井 2-12-5・16・18	(2010.11.4 ~ 8)	417	(112)	分譲住宅	旧流路、遺構遺物なし		市内 10
128	大井 2-18-1	(2014.11.17 ~ 27)	327	(109.5)	分譲住宅	ビット、溝、井戸、遺物なし		市内 20
129	市沢 1-1-8	(2012.8.26)	262		個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
129	大井 2-20-4	(2015.1.15 ~ 13)	1,253.9	(397.3)	宅地造成	ビット、陶磁器		市内 22
130	大井 2-16-17	(2015.11.16 ~ 20)	776	(263.3)	分譲住宅	土坑、ビット、土器		市内 22
131	市沢 2-8-2	(2016.3.4 ~ 8)	135.18	(22.18)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 22
132	大井 2-17-9	(2016.8.4 ~ 5)	212	(63.2)	分譲住宅	溝、陶磁器		市内 24
133	大井 2-7-6	(2016.10.11)	107.54	(18.75)	個人住宅	ビット、遺物なし		市内 24
134	大井 2-20-2・3・9	(2017.6.5 ~ 16)	2,870.6	(655.4)	宅地造成	ビット、溝、磁器		市内 24
135	大井 1-4-9・10 の一部	(2018.9.19)	698	(52.52)	分譲住宅	遺構なし、陶磁器		市内 25
136	市沢 2-4-7	(2018.10.17 ~ 19) 2019.4.11 ~ 23	651	(140.7)	駐車場	旧石器標群、落とし穴、土坑、ビッ ト、溝、地下式坑、段切、石器		市内 24
137	市沢 2-9-1・8・9	(2019.4.8 ~ 9)	843	181.99	個人住宅	ビット、遺物なし		市内 25



第77図 本村遺跡中世遺構分布図(1/3,000)



第 78 図 本村遺跡第 9 地点遺構配置図 (1/300)

溝2は調査区北東隅で走行方向をやや東へと変えるようである。遺構の規模は150～200cm、下幅30～60cm、深さ約50cmを測る。断面形態はまちまちであるが、おおよそ逆台形を呈し、一部葉研状に近い箇所も見受けられる。溝1は本地点の東側に隣接する第43地点調査で検出した溝1と同一である。溝2は北側に隣接する第48地点調査で検出した溝につながる可能性が考えられる。また、溝内でピットが複数確認された。ピットの規模等詳細については第50表に掲載した。南側に集中し、傾斜面に掘削される傾向にある。溝との関係性は現状では言及できない。

④井戸

井戸は調査区中央部で1基と、そこから約5m南側で2基の計3基検出した。規模の詳細等については、第51表に掲載した。

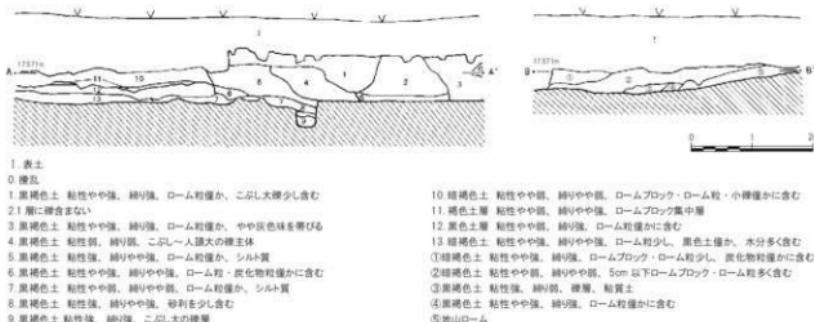
【井戸1】 調査区中央部に位置する。平面形態はほぼ円形を呈するが、北側が僅かに突出しており、壁面も北側が比較的緩やかであることから、この部分から水の汲み上げを行っていたものと推測される。地山の礫層まで掘り込んでいる。

【井戸2】 調査区南側に位置し、井戸3と切り合う。土層の観察から井戸2の方が新しい。

【井戸3】 調査区南側に位置する。井戸3については掘り込みが比較的浅いが、礫層まで掘り込んでいる点から井戸であると判断した。しかしながら他の用途も考えられよう。

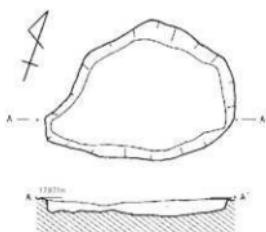
⑤出土遺物

出土遺物については第85・86図及び第52表に掲載した。特に井戸1より出土した板石塔婆（板碑）と板碑転用砥石、石白片は注目される。第85図8の板碑は現地表面下約230cmのところより出土した。他の井戸出土の遺物は比較的覆土上層より出土している。第85図9は井戸1の北側壁面に張り付くようにして見つかった。



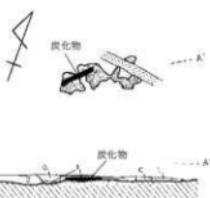
第79図 本村遺跡第9地点水路跡・土層(1/80)

土坑 1



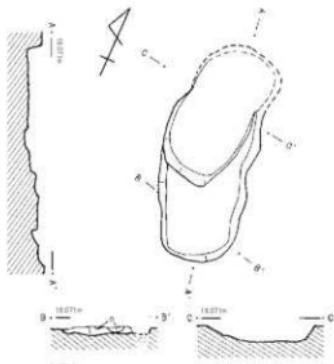
1. 細褐色土 粘性強、練り強、ローム粒・赤色粒多く含む

土坑 2



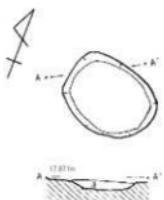
0 濃乳
1. 細褐色土 粘性や弱、練りやや弱、炭化物多く、燒土粒僅かに含む
2. 細褐色土 粘性弱、練りやや強、炭化物多く、燒土粒僅かに含む

土坑 3

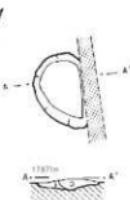


0 濃乳
1. 細褐色土 粘性弱、練りやや強、炭化物多く、燒土粒僅かに含む

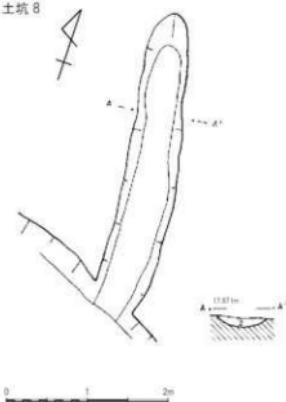
土坑 5



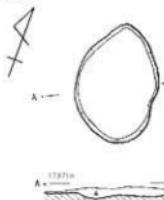
土坑 6



土坑 8



土坑 7

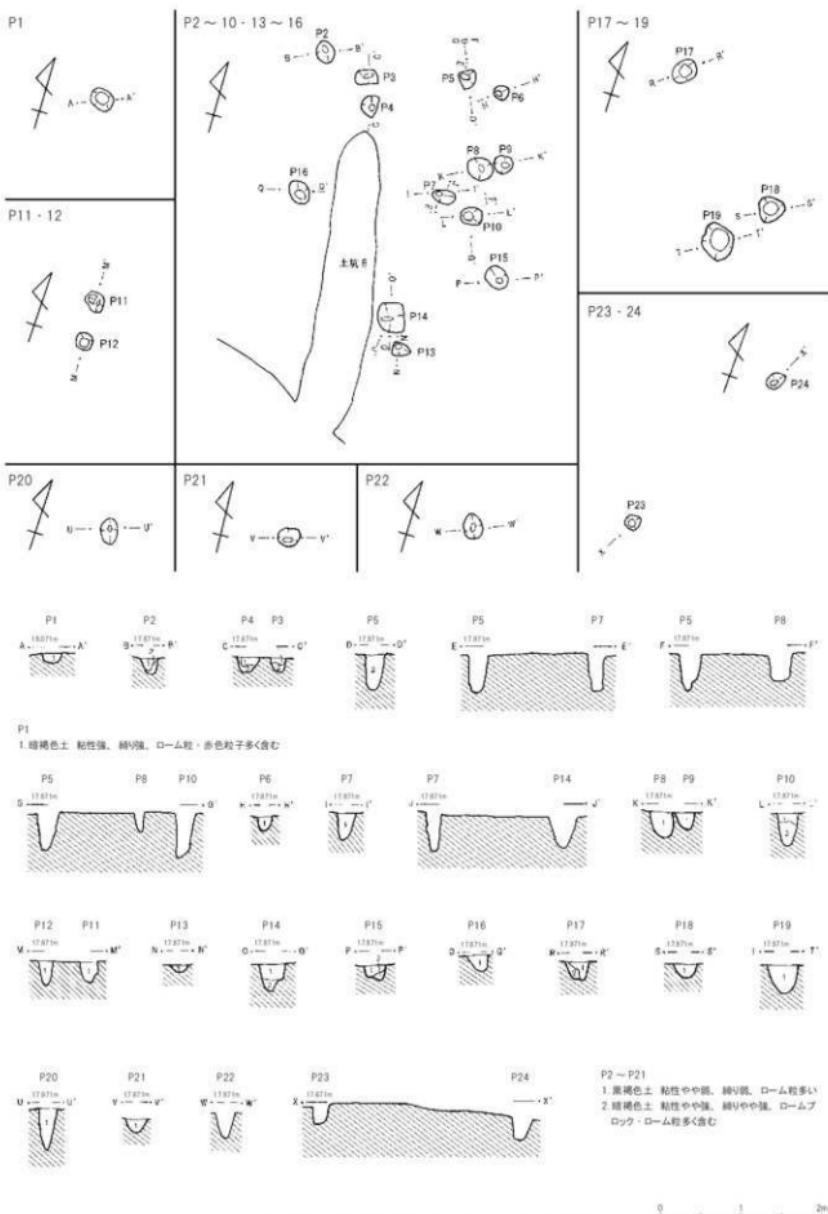


土坑 5~8
0 濃乳
1. 黒褐色土 粘性やや弱、練り弱、ローム粒多く含む
2. 細褐色土 粘性やや強、練りやや強、ロームブロック・ローム粒多く含む
3. 細褐色土 粘性やや弱、練り強、ロームブロック・ローム粒多く含む
4. 細褐色土 粘性やや弱、練り強、ローム粒・炭化物粒・燒土粒少し含む

第 48 表 本村遺跡第 9 地点土坑一覧表 (単位 cm)

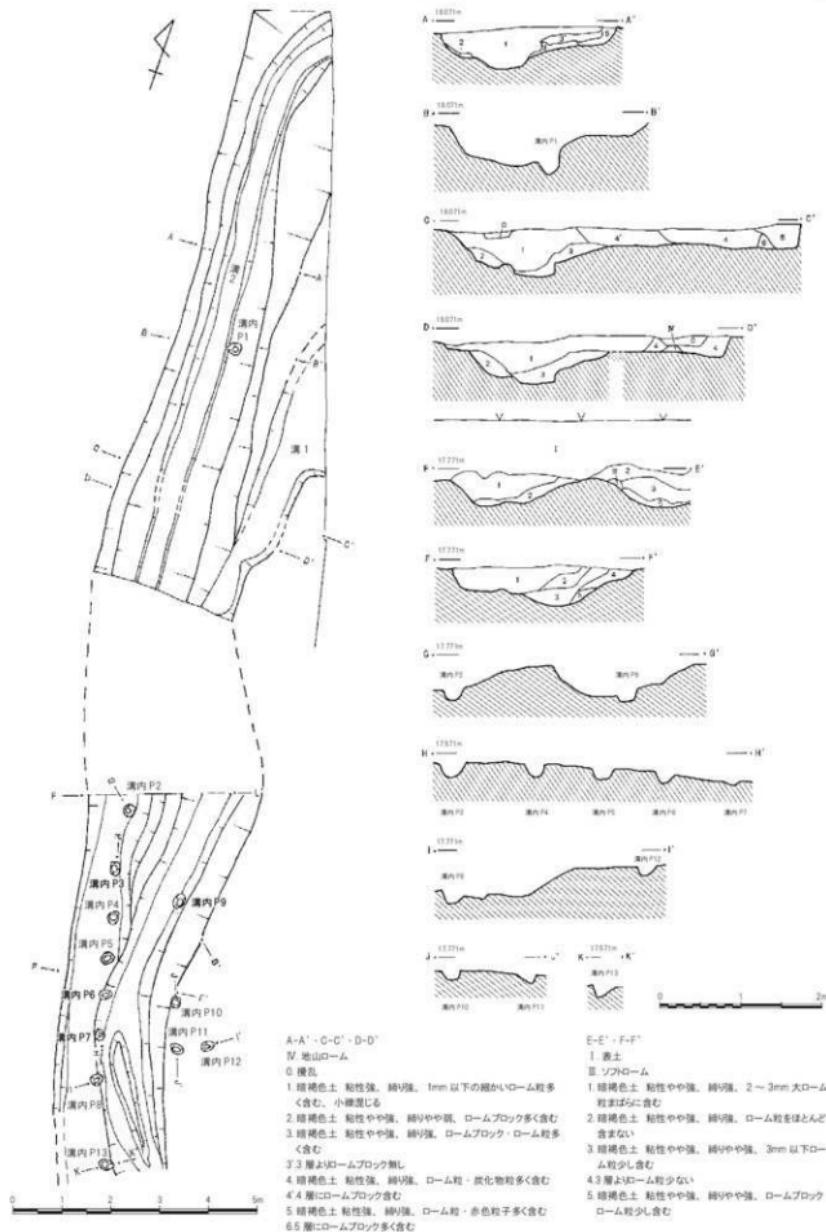
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	236 × 170	214 × 115	29.6	
2	不明	—	—	—	炭、茶毬痕?
3	不明	(191) × 117	(93) × 93	20.6	
4	欠				井戸 3 へ変更
5	楕円形	119 × 92	79 × 52	16.4	
6	不明	97 × (57)	77 × (50)	10.8	
7	楕円形	143 × 102	135 × 86	10.9	
8	不明	(382) × 68	(342) × 33	31.1	

第 80 図 本村遺跡第 9 地点土坑 (1/60)



第 81 図 本村遺跡第9地点ピット (1/60)

図 造構と遺物



第 82 図 本村遺跡第 9 地点溝 (1/100)、土層 (1/60)

第49表 本村遺跡第9地点ピット一覧表(単位cm)

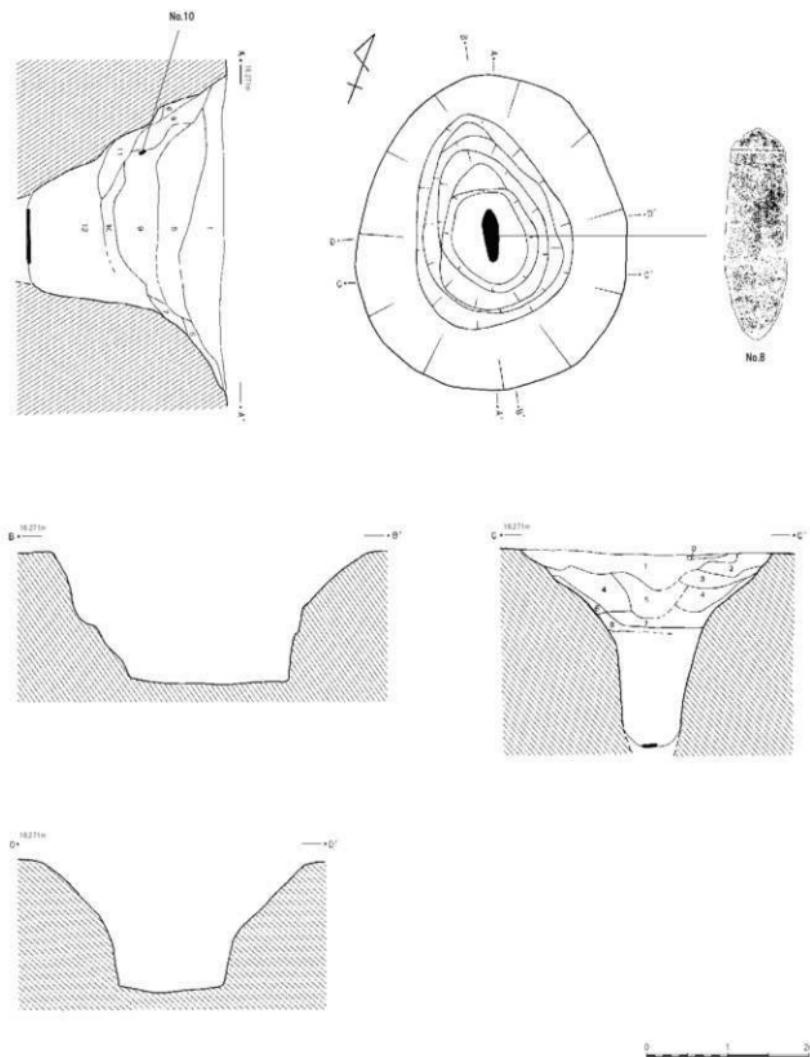
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	32 × 27	18 × 13	14.7
2	楕円形	32 × 20	11 × 7	23.1
3	隅丸方形	28 × 19	13 × 5	18.3
4	台形	25 × 20	9 × 8	20.6
5	台形	28 × 22	13 × 8	46.3
6	円形	19 × 17	8 × 7	21.7
7	楕円形	29 × 17	8 × 5	45
8	円形	30 × 30	11 × 7	34.4
9	円形	23 × 21	11 × 7	20.2
10	楕円形	27 × 14	13 × 10	53.6
11	楕円形	27 × 22	9 × 4	26.7
12	円形	20 × 20	11 × 10	34.2
13	三角形	22 × 18	9 × 6	17.6
14	隅丸方形	36 × 30	16 × 6	15.9
15	楕円形	30 × 26	8 × 6	0.5
16	楕円形	32 × 23	15 × 10	25.6
17	楕円形	32 × 26	15 × 14	24.1
18	三角形	32 × 30	17 × 16	18.8
19	円形	45 × 39	28 × 23	35.4
20	楕円形	32 × 21	9 × 4	58.3
21	円形	28 × 22	13 × 6	18.2
22	楕円形	31 × 23	10 × 6	33.2
23	円形	20 × 19	9 × 9	25.4
24	楕円形	24 × 13	12 × 7	29.6

第50表 本村遺跡第9地点溝内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	楕円形	30 × 23	10 × 9	31.6
2	円形	27 × 24	13 × 13	13.1
3	方形	26 × 19	17 × 12	17.8
4	楕円形	29 × 25	15 × 15	17.8
5	方形	27 × 19	16 × 11	14.5
6	楕円形	28 × 20	15 × 7	15.2
7	円形	21 × 20	11 × 5	10
8	円形	24 × 22	14 × 5	16.2
9	楕円形	31 × 21	19 × 9	45.5
10	方形	22 × 19	14 × 13	11.7
11	三角形	26 × 22	16 × 8	12
12	方形	28 × 20	15 × 8	13.1
13	楕円形	30 × 19	13 × 11	20.8

第51表 本村遺跡第9地点井戸一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	386 × 330	114 × 88	245.8	
2	円形	232 × 205	15 × 12	132	
3	楕円形	533 × 398	76 × 57	187.3	土坑4より 変更



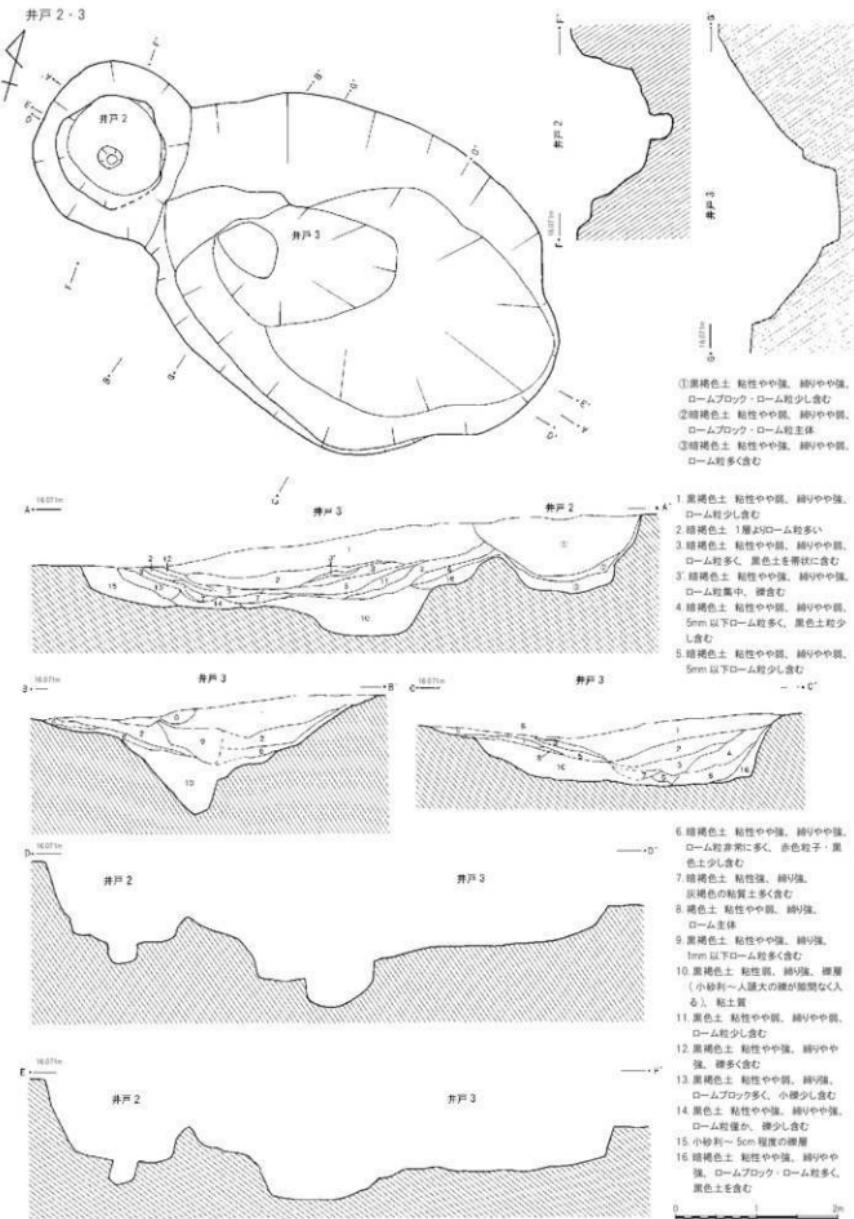
0 横乱

1. 細褐色土 粘性強。紺少強。ローム粒・小礫僅かに含む
2. 細褐色土 粘性強。紺少や強。1層より幾多く混む
3. 細褐色土 粘性やや強。紺りやや強。1層に僅かに混じない
4. 黒褐色土 粘性やや強。紺りやや強。ローム粒多く、小礫少々含む
5. 黑褐色土 粘性やや強。紺りやや強。小礫へこみ次第多く含む。遺物混じる
6. 細褐色土 粘性やや強。紺りやや強。ローム粒多く含む

7.4 順に複数入しない

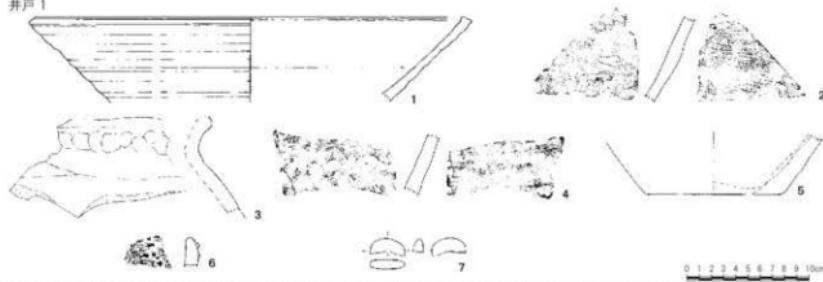
7. 細褐色土 粘性やや強。紺りやや強。ローム粒多し。ローム粒多く含む。礫は含まない
8. 細褐色土 粘性やや強。紺りやや強。ローム粒少し。ローム粒多く含む。礫は含まない
9. 黑褐色土 粘性弱。紺り弱。礫層（ごぶしだ～人頭大）：粘質土层
10. 黑褐色土 粘性強。紺り弱。上層に灰化物。粘質土層。小礫混
11. 細褐色土 粘性やや強。紺り弱。ローム粒多量に。紺強・黒色土含む
12. 細褐色土 粘性強。紺りやや強。褐色粒子・小礫を含む

第 83 図 本村遺跡第 9 地点井戸 1(1/60)

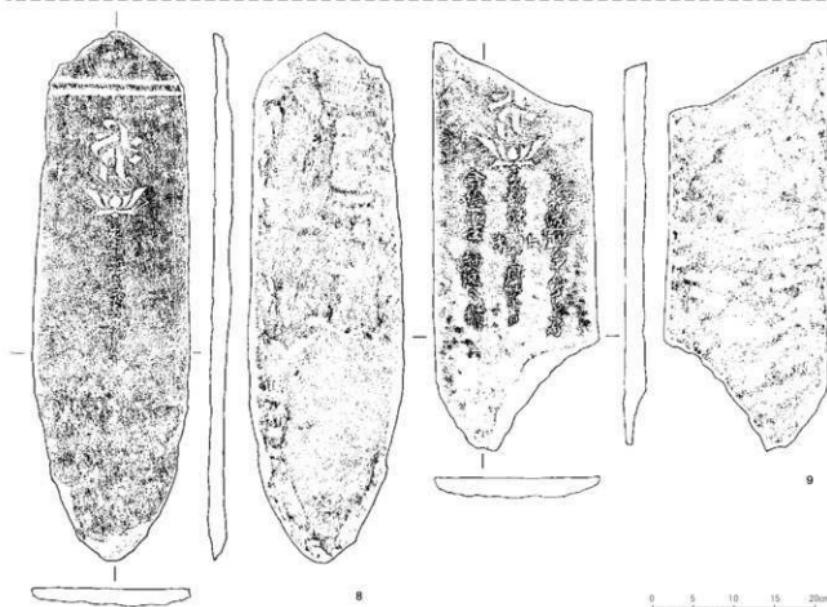


第 84 図 本村遺跡第9地点井戸 2・3(1/60)

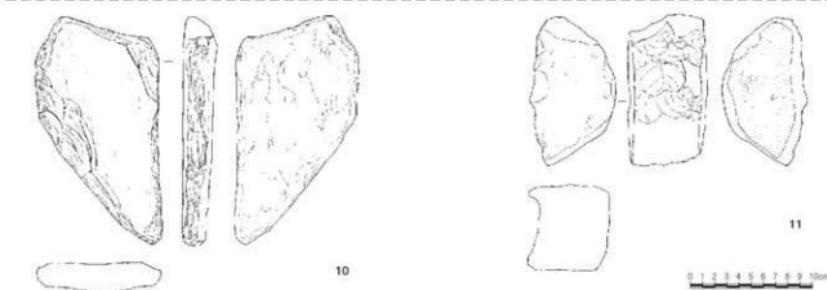
井戸 1



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

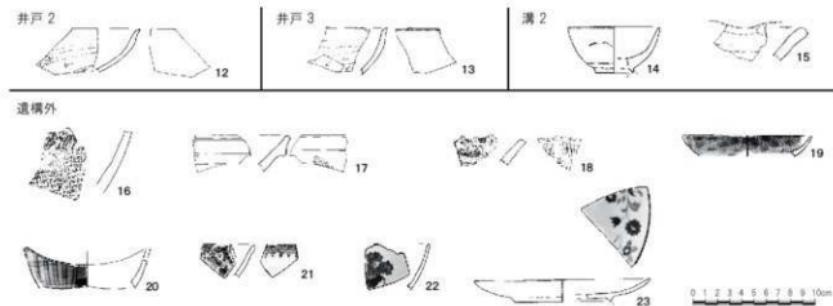


0 5 10 15 20cm



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第 85 図 本村遺跡第 9 地点出土遺物① (1/6・1/4)



第 86 図 本村遺跡第 9 地点出土遺物②(1/4)

第 52 表 本村遺跡第 9 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 85 図 -1	井戸 1	志戸呂鉢	36.2	—	(7.0)	—	輪轍使用、口縁部内側に丸く肥厚、鉄輪、胎土灰色、黒色粒子含まない	16世紀末～17世紀初頭
第 85 図 -2		常滑盤	—	—	—	—	内外面輪目状のナデ、器壁薄い	中世前期
第 85 図 -3		瓦質土器壺	—	—	—	—	口縁部片、土師質部あり、胎土に白色砂礫、赤褐色粒子含む、器面剥落、指頭痕、3・5は同一個体力	中世
第 85 図 -4		瓦質土器壺	—	—	—	—	胴部片、胎土に白色砂礫含む、指頭痕	中世
第 85 図 -5		瓦質土器壺	—	11.3	—	—	赤褐色粒子含む、器面剥落、指頭痕、3・5は同一個体力	中世
第 85 図 -6		縞文式土器深鉢	—	—	—	—	口縁部片、集合条線、半裁竹管文の降線	諸磯 C 式
第 85 図 -7		縞文式土器深鉢	—	—	—	—	口縁部片の貝殻状貼付文力	諸磯 C 式
第 85 図 -8		板石塔婆	65.2	17～19.5	2.2	—	完形、山形、二条線・棒線、裏面一部に鑿痕、阿弥陀一尊、瓶の中心と達座下に割付線、紀年名：文和四年十月廿日 緑泥片岩	1355 年
第 85 図 -9		板石塔婆	(49.5)	20.0	2.5	—	上部と基部を欠失、棹線の痕跡僅か、裏面一部に鑿痕、阿弥陀一尊、紀年名：文和四年乙未十月廿七日 傷：光明遍照 十方世界 念仏衆生 摂取不捨（親無量寿經）緑泥片岩	1355 年
第 85 図 -10		板石転用砥石	19.1	9.6	2.0	—	板石塔婆片の縁辺部が磨かれる、緑泥片岩	中世～近世
第 85 図 -11		石臼転用石器	12.4	7.0	6.5	—	石臼を半月状に半裁し刃を殴打し形成、花崗岩	中世～近世
第 86 図 -12	井戸 2	土器師杯	—	—	—	—	外面体部ヘラケズリ、口縁部内側に 1 条の沈線巻る、口縁部外側から内面赤彩	8世紀
第 86 図 -13	井戸 3	土器師杯	—	—	—	—	外面体部ヘラケズリ、口縁部内側に 2 条の沈線巻る、口縁部外側から内面赤彩	8世紀
第 86 図 -14	遺構外	磁器小碗	7.5	3.0	3.5	—	片口部、胎土粗手	18世紀
第 86 図 -15		山茶碗系鉢	—	—	—	—	端部欠損	13世紀
第 86 図 -16		縞文式土器	—	—	—	—	地文 LR、胎土に纖維は含まれない	縞文前期
第 86 図 -17		瀬戸美濃產描鉢	—	—	—	—	内面にすり目、鉄釉	16世紀中葉
第 86 図 -18		丹波産描鉢	19.4	8.5	5.2	—	内面にすり目、鉄泥塗布	17世紀後葉
第 86 図 -19		磁器皿	10.6	—	(1.6)	—	輪轍成形、コバルト染付、型紙	1880年代～
第 86 図 -20		磁器碗	—	—	—	—	輪轍成形、吳須染付、胎土灰色、波佐見産	18世紀末～19世紀前半
第 86 図 -21		磁器碗	—	—	—	—	輪轍成形、コバルト染付、型紙	1880年代～
第 86 図 -22		磁器碗	—	—	—	—	輪轍成形、コバルト・緑色絵具の下絵付、銅版転写	1890年代～
第 86 図 -23		磁器皿	14.5	7.8	1.8	—	型作り、灰色・桃色・黒色絵具の下絵付け、置付無地	1890年代～

第 III 部 川崎遺跡第 16 次の調査

I 本調査に至る経過と概要

川崎遺跡第 16 次の調査地点は遺跡範囲のほぼ中央部に位置する。本地点の北側約 50m のところには、8 世紀後半～9 世紀の住居跡 13 軒が確認された第 1 次・第 15 次・第 31 地点がある。さらに、西側には 9 世紀代の住居跡 7 軒を確認した第 3 次・第 18 次が隣接し、9 世紀代の集落が集中する地域である。また、古代より数は減少するが、縄文時代の住居跡についても、本地点の周辺より多数発見されている。

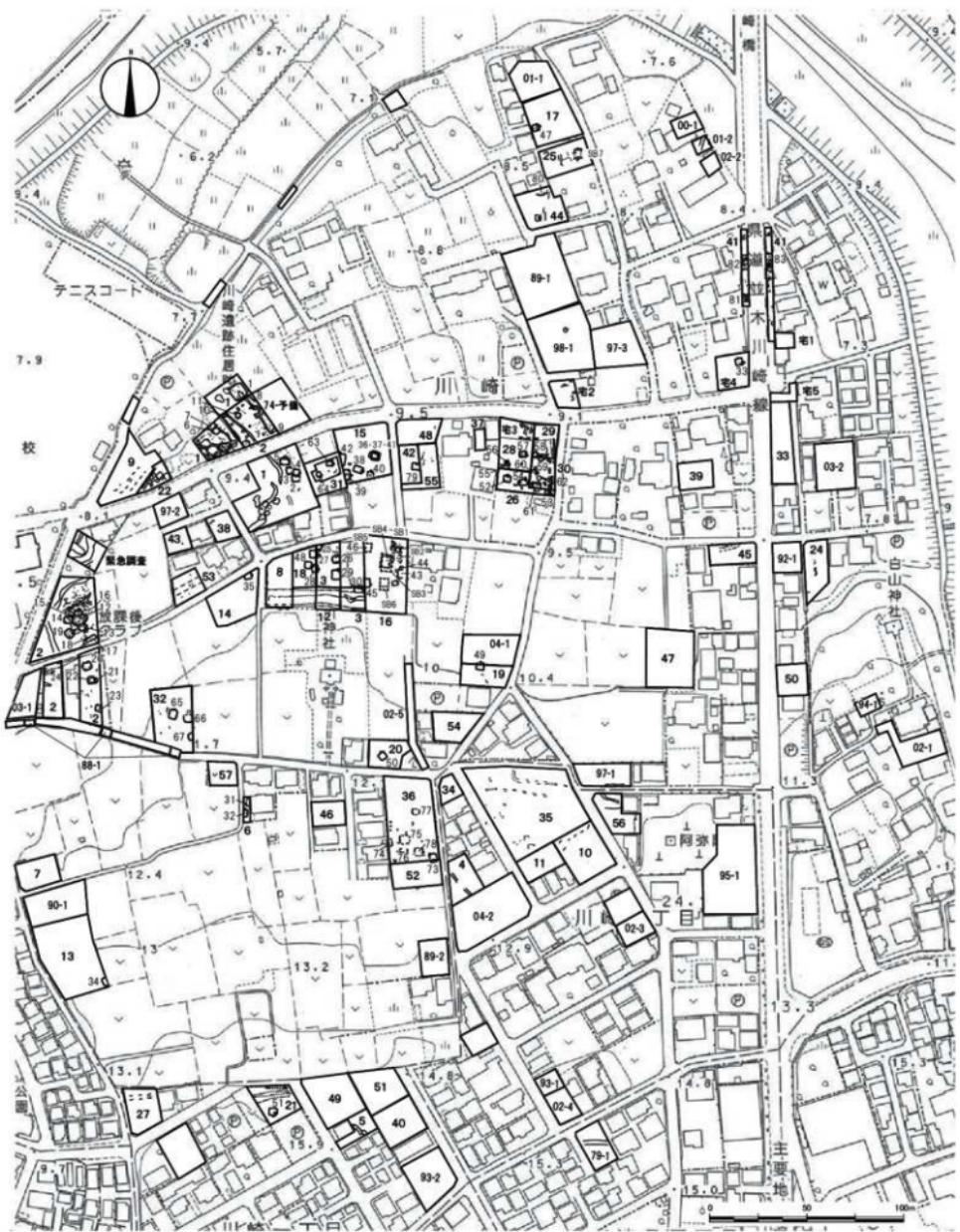
調査は駐車場及び資材置場敷設に伴うもので、平成 7 年 12 月 4 ～ 8 日に上福岡市教育委員会で試掘調査を実施した。2m 間隔でグリッドを設定し、一区画置きに人力で表土除去及び遺構面精査を行った。遺構確認面までの深さは約 40 ～ 50 cm であったとされる。表土中より縄文時代前期の土器片や須恵器の破片などが多く見られたため、12 月 7 日に重機による遺構確認に切り替えた。その結果、縄文時代住居跡、古代住居跡、井戸等複数の遺構を確認した。原因者と協議の結果、保護層の確保が困難なため、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は遺跡調査会を設置して、平成 7 年 12 月 11 日～平成 8 年 3 月 8 日まで実施した。調査の結果、縄文時代の大型住居跡 1 軒を含む住居跡が 3 軒、古代住居跡 4 軒、古代掘立柱建物跡 6 軒、中世と考えられる竪穴状遺構 1 基、土坑、井戸を検出した。

本地点はこれまでに正式に報告書は刊行されておらず、上福岡市史等に断片的に報告されてきたのみである。ある程度まとまった報告の必要性を感じ、今回は古代・中世について報告することとした。なお、標高については当時の記録が不十分な為、今回の報告では記載していない。

【参考文献】

柳沢健司 1996 「郷土資料第 47 集 球磨文化財の調査 (18)」 上福岡市教育委員会



第87図 川崎遺跡古代住居跡分布図 (1/2,500)

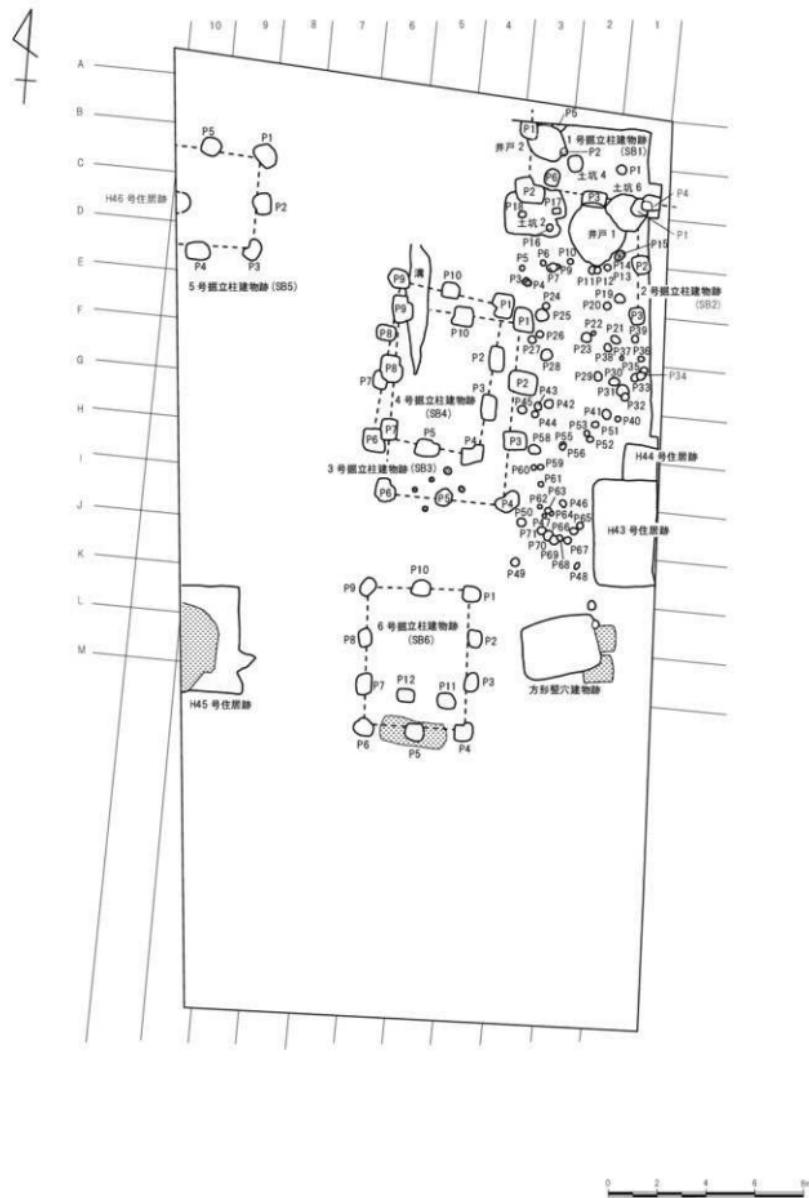
第53表 川崎遺跡古代住居跡一覧表(単位cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉 K (電) 設 置 壁	竪 電 規 模	周 溝	主軸方位	時期	備考	所収報告書	
地 床 炉	規 模	主軸方位											
1	1974	第1次 LN72	完掘	隅丸方形	760 × 730 × 40	地床 炉	60 × 50	○	N-60-E	3C終末	市指定文化財 8 住と重複	川崎1次、市史資料1	
2	1974	第1次 LN05	完掘	長方形	390 × 320 × -	K	-	○	N-5-E	国分	4住と重複	川崎1次、市史資料1	
3	1974	第1次 LN06	完掘	重んだ 方形	320 × 320 × -	K	東	-	N-13-W	9C4半期	4住と重複	川崎1次、市史資料1	
4	1974	第1次 LN07	完掘	方形	320 × 320 × -	K	東	80 × 90	○	N-83-W	9C中葉	2・3住と重複	川崎1次、市史資料1
5	1974	第1次 LN24	完掘	長方形	470 × 340 × 50	K	北	120 × 75	○	N-5-E	10C1半期	川崎1次、市史資料1	
6	1974	第1次 LN25	完掘	方形	320 × 300 × -	K	北	40 × 40	○	N-42-E	9C1半期	7住と重複	川崎1次、市史資料1
7	1974	第1次 LN28	西側未掘 (長方形)	- × 300	K	東	50 × 60	○	N-69-W	9C3半期	6住と重複	川崎1次、市史資料1	
8	1974	第1次 LN71	1/4	(長方形)	- × 600	-	-	○	-	国分	1住と重複	川崎1・2次	
9	1975	第2次 LN75	1/4	(長方形)	-	-	-	-	-	国分	-	川崎2次、市史資料1	
10	1975	第2次 LN92	1/4	隅丸 長方形	-	-	-	-	-	国分	-	川崎2次、市史資料1	
11	1975	第2次 LN72	完掘	隅丸方形	250 × 250 × 13	K	南	50 × 80	○	N-18-E	国分	-	川崎2次、市史資料1
12	1975	第2次 LN07	完掘	方形	800 × 710	K	北	-	○	N-32-E	6C後半	13・14・16住と 重複	川崎2次、市史資料1
13	1975	第2次 LN04	完掘	隅丸方形	390 × 350	K	東	60 × 70	○	N-64-E	6C前半	12住と重複	川崎2次、市史資料1
14	1975	第2次 LN05	完掘	長方形	450 × 370	K	北	100 × 80	○	N-1-E	10C2半期	12・15住と重複, 土槽	川崎2次、市史資料1
15	1975	第2次 LN19	-	-	-	K	東	-	-	9C4半期	14住と重複	川崎2次、市史資料1	
16	1975	第2次 LN14	完掘	長方形	370 × 260	K	北	90 × 80	○	N-4-E	9C3半期	12住と重複	川崎2次、市史資料1
17	1975	第2次 LN12	南側未掘 (隅丸方形)	700 × -	-	-	-	-	N-55-E	6C	18住と重複, 筋跡塗	川崎2次、市史資料1	
18	1975	第2次 LN33	-	不明	-	-	-	-	-	-	17住と重複	川崎2次、市史資料1	
19	1975	第2次 LN06	完掘	隅丸方形	410 × 420	K	北東	-	○	N-45-E	6C	J34住と重複	川崎2次、市史資料1
20	1975	第2次 LN22	完掘	長方形	410 × 330	K	北	120 × 120	○	N-29-W	-	-	川崎2次、市史資料1
21	1975	第2次 LN53	完掘	長方形	350 × 280	K	東	70 × 60	○	N-87-E	10C2半期	22住と重複	川崎2次、市史資料1
22	1975	第2次 LN54	一部	方形	330 × 320	地床 炉	-	-	N-6-W	五循	21住と重複	川崎2次、市史資料1	
23	1975	第2次 LN20	3/5	(長方形)	- × 350	K	北	-	○	N-23-E	9C2半期	鍛冶工房跡	川崎2次、市史資料1
24	1975	第2次 LN22	ほぼ完掘	正方形	580 × 580	K	北西	50 × 70	○	N-43-W	兔高	筋跡塗	川崎2次、市史資料1
25	1977	第3次 1号住居	南東隅のみ (長方形)	-	K	東	-	○	-	-	徒歩で南廻	川崎3次	川崎3次、市史資料1
26	1977	第3次 2号住居	完掘	長方形	350 × 330	K	北	× 70	○	-	国分	鉄製品多い	川崎3次
27	1977	第3次 4号住居 (完掘)	長方形	350 × 400	K	東	170 × 110	○	-	国分	-	川崎3次、上堆19	
28	1977	第3次 5号住居 (完掘)	長方形	350 × 320	K	東	120 × 90	○	-	国分	-	川崎3次、上堆19	
29	1977	第3次 6号住居	4/5	正方形 (方形)	440 × -	K	北	155 × 90	○	-	9C4半期	撲滅家屋	川崎3次、上堆19
30	1977	第3次 9号住居	1/2	415 × -	-	○	-	○	-	国分	-	川崎3次、上堆19	
31	1979	第6次 18号住居	-	340 × -	-	○	-	○	-	9C2半期	1A・1Cと重複	上堆8	
32	1979	第6次 2号住居	1/3	340 × -	K	北-東	140 × 80	○	-	9C1半期	鉄製品多い	上堆8	
33	1984	古地添第4次3号住居	完掘	正方形	340 × 340	K	東	120 × 100	○	-	8C3半期	-	上堆8B
34	1990	第13次 1号住居	1/2 1/3	390 × -	K	-	○	-	-	7C	後半	-	上堆13
35	1990	第14次 2号住居	南1/2	340 × -	K	東	-	○	-	9C1半期	-	上堆13	
36	1991	第15次 1号住居	-	395 × 285	K	北東	-	-	-	9-10C	37・41住と重複	上堆14	
37	1991	第15次 2号住居	-	380 × 380	K	東	-	-	-	9C中葉	36・41住と重複	上堆14	
38	1991	第15次 3号住居	完掘	長方形	265 × 430	K	南東	-	○	-	9C初頭	-	上堆14
39	1991	第15次 4号住居	1/2	正方形	580 × -	K	東	-	○	-	8末～ 9C初頭	-	上堆14
40	1991	第15次 5号住居	3/4	-	280 × -	K	北	-	○	-	9C前半 -中	-	上堆14
41	1991	第15次 6号住居	-	正方形	425 × 270	K	北	-	○	-	8C後半	36・37住と重複	上堆14
42	1991	第15次 7号住居	1/2	正方形	570 × -	K	北	-	○	-	9C前半 -中	鍛鉄陶器、焼失 家屋	上堆14
43	1995	第16次 1号住居	1/2	(方形)	450 × -	K	東?	-	○	-	8C中 -9C中	2住と重複	市内26
44	1994	第16次 2号住居	北西隅のみ (方形)	約 330 × -	K	北 or 東	-	-	N-87-E	9C中～ 後半	1住と重複	市内26	
45	1994	第16次 5号住居	2/3	(方形)	約 430 × -	K	東	-	○	N-86-E	8C後半	-	市内26
46	1994	第16次 6号住居	カマドのみ	-	-	K	東	-	-	-	10C初	SBSと重複	市内26
47	1996	第17次 3号住居	完掘	長方形	400 × 400	K	東	-	○	-	国分	唐土器	上堆19
48	1996	第18次 2号住居	完掘	長方形	300 × 300	K	東	-	○	-	国分	-	上堆19
50	2005	第20次 1号住居	完掘	長方形	320 × 350	K	北西	-	○	N-45-W	7C前半 -中	-	市内1
51	2006	第21次 1号住居	完掘	方形	410 × 365 × 10	K	東	145 × 125	○	N-106-E	9C後半	-	市内3

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉 K (電)	設 置 型	竈 規模	周 溝	主軸方位	時期	備考	所収報告書	
52	2008	第 26 地点 H28 号住居	完掘	方形	349 × 316 × 33	K	北	95 × 83	○	N-16-E	9C 後半		市内 6	
53	2008	第 26 地点 H29 号住居	北側のみ	(方形)	431 × 205 × 24	K	北	70 × -	○	N-16-E	9C 後半		市内 6	
54	2008	第 26 地点 H30 号住居	完掘	長方形	424 × 296 × 20	K	北	98 × 71	○	N-4-E	8C 後半		市内 6	
55	2008	第 28 地点 H31a 号住居	北側のみ	(方形)	(390 × 233) × 15	K	北	88 × 84		N-19-E	8C 中		市内 6	
56	2008	第 28 地点 H31b 号住居	北側のみ	(方形)	(404) × 325 × 2			-	○	N-18-E			市内 6	
57	2008	第 28 地点 H32 号住居	完掘	長方形	357 × 295 × 24	K	東	108 × 80	○	N-105-E	8C 中	~後半	市内 6	
58	2008	第 29 地点 H33 号住居	北東のみ	(方形)	(214 × 205) × 16	K	東	(65 × 65)	○	N-98-E	8C 後半~	9C 初頭	市内 6	
59	2008	第 29 地点 H34 号住居	完掘	方形	(378) × 372 × 12	K	北	71 × 90	○	N-16-E	9C 後半	墨書き土器	市内 6	
60	2008	第 30 地点 H35 号住居	完掘	長方形	294 × 232 × 26	K	東	141 × 88	○	N-104-E	9C 前半		市内 6	
61	2008	第 30 地点 H37 号住居	完掘	方形	415 × 414 × 21	K	北	88 × 140	○	N-16-E	9C 後半	灰釉陶器	市内 6	
62	2008	第 30 地点 H38 号住居	1/2	(方形)	375 × (105) × 17			-	○	N-5-E	9C 後半	墨書き土器	市内 6	
63	2009	第 31 地点 H63 号住居	完掘	長方形	310 × 276 × 29	K		105 × 90	○	N-7-E	9C		市内 8	
64	2009	第 31 地点 H64 号住居		長方形	215 × 265 × 15	K		82 × 40		N-88-E	9C		市内 8	
65	2011	第 32 地点 H65 号住居	完掘	長方形	355 × 460 × 35	K	北東	113 × 132	○	N-27-E	10C		市内 10	
66	2011	第 32 地点 H66 号住居	ほぼ完掘	方形	420 × 365 × 50	K	東	49 × 105	○	N-99-E	8C ~	9C 初頭	市内 10	
67	2011	第 32 地点 H67 号住居	1/2	方形	(220) × 330 × 30		未検出		○	N-0-E	10C		市内 10	
68 ~ 71	は欠番													
72	2011	第 35 地点 H72 号住居		楕丸長方形	(370 × 470) × 50			-	-	-	プランのみ		市内 14	
73	2012	第 36 地点 H73 号住居	完掘	楕丸方形	320 × 415 × 60	K	北	77 × 40	○	N-2-E	9C 中		市内 14 ~ 25	
74	2012	第 36 地点 H74 号住居		(長方形)	(90 × 350)			-	-	-			市内 14	
75	2012	第 36 地点 H75 号住居		(長方形)	(440 × 450)			-	-	-			市内 14	
76	2012	第 36 地点 H76 号住居		(長方形)	(130 × 460)			-	-	-	プランのみ		市内 14	
77	2012	第 36 地点 H77 号住居		(長方形)	340 × (260)			-	-	-			市内 14	
78	2012	第 36 地点 H78 号住居		(長方形)	(390) × 420			-	-	-			市内 14	
79	2015	第 42 地点 H79 号住居			(340 × 350)			-	-	-	プランのみ		市内 22	
80	2015	第 44 地点 H80 号住居	1/2 ~ 1/3	(長方形)	330 × 140 以上			-	○	-	9C 代	J24 住と重複		市内 19
81	2014	第 41 地点第 1 号住居		方形	300 × (360)	K		-			N-19-W			御埋文 420
82	2014	第 41 地点第 3 号住居		(長方形)	480 × (210)		未検出				N-7-E	J29 住と重複		御埋文 420
83	2014	第 41 地点第 6 号住居		(方形)	540 × (200)		未検出				N-0			御埋文 420

第 54 表 川崎遺跡掘立柱建物跡一覧表(単位 cm)

番号	調査年度	調査名	平面形 ()は推定	規模		主軸方位	時期	備考	所収報告書
				(cm)	柱 間				
1	1994	第 16 次 1 号掘立	長方形	(500) × (230)	桁行 3 間 × 梁行 2 間	東西	8C 中 ~ 9C 前	土坑 2、戸戸 1 と重複	市内 26
2	1994	第 16 次 2 号掘立	長方形	- × (440)	梁行 2 間	E-5-S	9C 前 ~ 後	一部のみ	
3	1994	第 16 次 3 号掘立	長方形	760 × 490	桁行 3 間 × 梁行 2 間	南北	9C 前	SB4 と重複	
4	1994	第 16 次 4 号掘立	長方形	630 × 430	桁行 3 間 × 梁行 2 間	N-5-E	8C 後 ~ 9C 初	SB3 と重複	
5	1994	第 16 次 5 号掘立	長方形	(220) × 370	桁行 2 間 × 梁行 2 間	東西	9C 中	H46 号住版と重複	
6	1994	第 16 次 6 号掘立	長方形	570 × 410	桁行 3 間 × 梁行 2 間	N-3-E	8C 中 ~ 後		
7	2008	第 25 地点 1 号掘立	長方形	430 × 320	桁行 2 間 × 梁行 2 間	N-11-E	平安時代		市内 6



第 88 図 川崎遺跡第 16 次遺構配置図 (1/200)

II 遺構と遺物

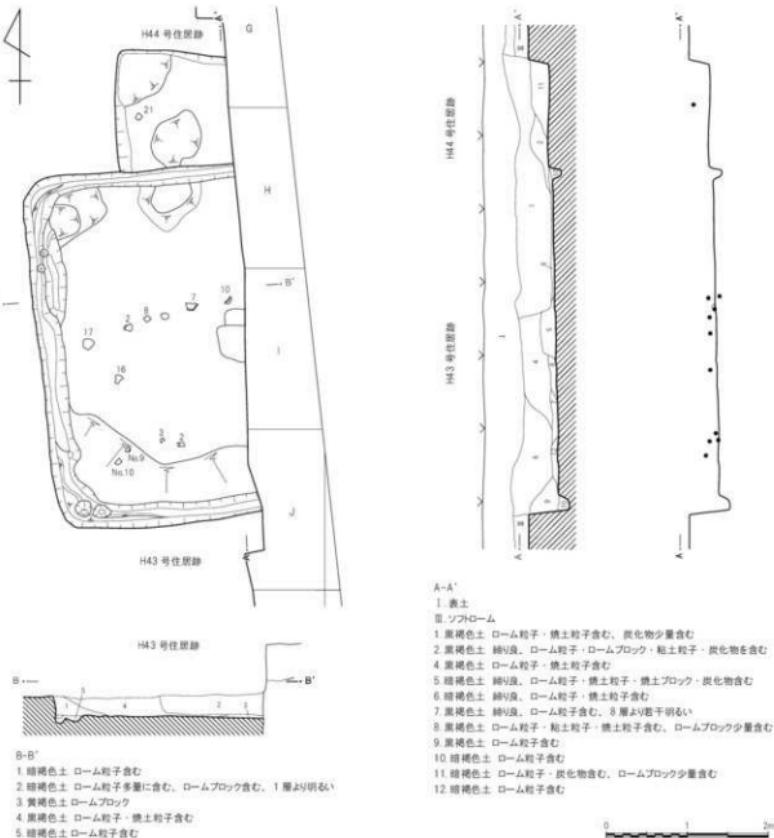
H43号住居跡

【位置】調査区東端のやや南寄りの H ~ J - 1 グリッドに位置する。H44号住居跡との新旧関係は土層より H 43号→H 44号と判断される。

【形状・規模】遺構東部が調査区外にあるため全体の形状は確定できないが検出部分の形状及び遺構の年代からほぼ方形と推定される。規模は南北長約 450 cm。確認面から床面までの深さは約 40 cm。なお北壁寄りの床面に約 5cm ほどの高さのステップ状の高まりがある。壁溝は調査範囲内では全周する。周溝内ピットが 2 本一対で 2ヶ所確認された。掘り方は北西隅と南壁壁寄りで検出された。

【竈】調査区内では確認されていない。おそらく東カマドと推定される。

【遺物】南壁寄り床面から須恵器壺（第 100 図 3）が、住居中央で床面から約 10 cm 程度浮いて須恵器壺・塊（第 101 図 2・8・10）、灰釉陶器長頸瓶・須恵器壺（第 100 図 16・17）が出土した。遺物の時期は 8 世紀後葉から 9 世紀中葉。



第 89 図 川崎遺跡第 16 次 H43・44 号住居跡 (1/60)

1. 細褐土 ローム粒子含む
2. 細褐土 ローム粒子多量に含む。ロームブロック含む。1 層より明るい
3. 黄褐色土 ロームブロック
4. 黑褐色土 ローム粒子・植土粒子含む
5. 细褐土 ローム粒子含む

6. 細褐土 ローム粒子・植土粒子・植土ブロック・炭化物含む
7. 黑褐色土 ローム粒子・植土粒子含む。8 層より若干明るい
8. 黑褐色土 ローム粒子・植土粒子・植土粒子含む。ロームブロック少量含む
9. 黑褐色土 ローム粒子含む
10. 細褐土 ローム粒子含む
11. 細褐土 ローム粒子・炭化物含む。ロームブロック少量含む
12. 細褐土 ローム粒子含む

H44 号住居跡

【位置】調査区東端のやや南寄りの G ~ I - 1 グリッドに位置する。H43 号住居跡との新旧関係は土層より H 43 号 - H 44 号と判断される。

【形状・規模】遺構東部が調査区外で南部は H43 号住居跡の入れ子状の関係となっているため全体の形状は確定できないが遺構の年代等からほぼ方形と推定される。規模は南北長が約 330 cm。確認面から床面までの深さが約 40 cm。掘り方は土層図の通り浅い。

【竈】調査区内で確認されていない。土層図中の 2 層に粘土・炭化物粒子が見られることから東寄りの北カマドの可能性があるが、東カマドも否定はできない。

【遺物】覆土中から、須恵器坏（第 100 図 18）、灰釉陶器塊・灰釉陶器瓶（第 100 図 19、20）が出土した。出土遺物の年代は 9 世紀中葉～後葉。

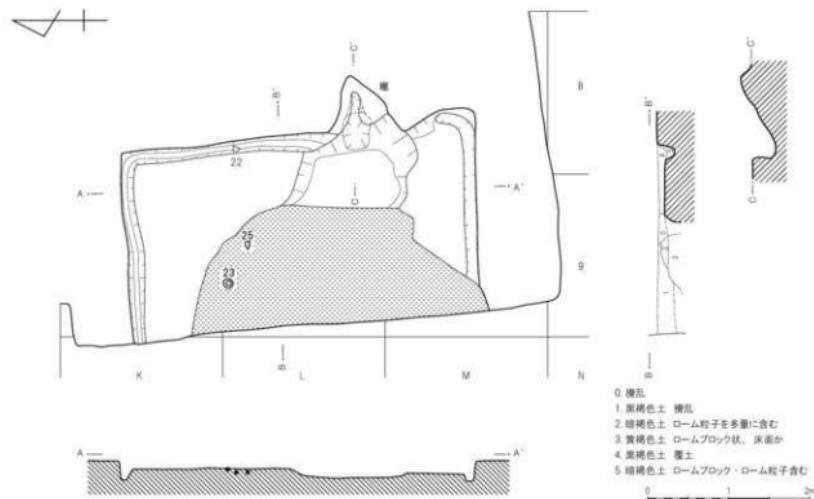
H45 号住居跡

【位置】調査区南西隅の K ~ M - 8 ~ 10 グリッドに位置する。なお、調査区外側から攪乱が入る。

【形状・規模】平面形態は遺構西部分が調査区外のため形状は確定できないが、調査部分の形状及び遺構の年代からほぼ方形と推定される。規模は南北長が約 430 cm。確認面から床面までの深さが約 10 cm と浅い。壁溝はカマド南側を除き調査区内では全周する。掘り方はカマド手前で検出された。

【竈】東壁の南寄りにある。壁溝がカマド南に見られないことから、カマドに向かって右手側に棚状遺構があった可能性が指摘できる。住居が浅いことからすると耕作等で攪乱され消失したと考えられる。

【遺物】住居中央やや北寄りの床面近くで完形で底部に掘立柱建物跡 5 出土（40）と類似した「廿」または「井」のヘラ記号のある須恵器坏（第 100 図 23）が、東壁溝上で土師器甕片（22）が出土した。遺物の年代は主に 8 世紀後葉。



第 90 図 川崎遺跡第 16 次 H45 号住居跡 (1/60)

H46号住居跡

【位置】調査区北西隅のC-10グリッドでカマドのみが検出される。

【遺物】カマド内より土師器甕（第101図26）、須恵器皿（第101図27）が出土した。遺物の年代は9世紀末から10世紀初頭。

SB1(掘立柱建物跡1)

【位置】調査区北東隅のA-B-1~3グリッドに位置する。土坑2及び井戸1と切り合い関係にある。新旧関係はSB2→井戸1。土坑2とは不明。

【形状・規模】梁間2間以上、桁行3間以上の側柱の掘立柱建物跡と推定される。ピット平面形態は隅丸長方形を基本とするが南西隅のピットは「く」字状を呈する。但し西の内側に軸線からずれるピットが2基あるが本掘立柱建物に伴うとすれば壁か棚となる可能性がある。SB6に同様な柱穴がある。柱痕は確認されていないがピット底の小ピットから柱の位置はほぼ確認できる。棟方向はほぼ東西方向。

梁間ピット間隔は230cm。桁行ピット間隔は西から262cm、226cm。

【遺物】建物南西隅のピット2から須恵器坏（第101図28~30）、須恵器蓋（第101図31）が出土。遺物の年代は8世紀中葉から9世紀前葉。

SB2(掘立柱建物跡2)

【位置】調査区北東隅のB-E-1グリッドに位置する。SB1と切り合い関係にある。新旧関係はSB2→SB1と判断される。

【形状・規模】張間2間の掘立柱建物跡と推定される。ピット平面形態は隅丸方形。すべてのピットに柱痕を残す。棟方向はE-5°-S。

梁間430cm、ピット間隔は北から224cm、210cm。

【遺物】出土遺物はない。

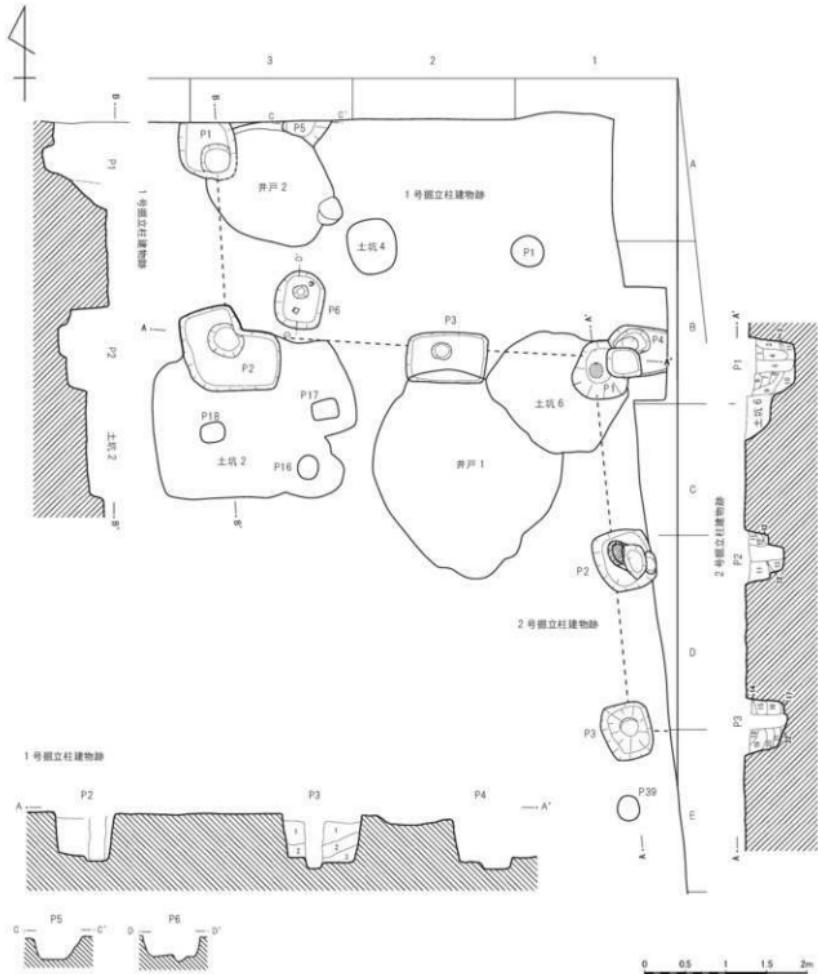
SB3(掘立柱建物跡3)

【位置】調査区中央のE-I-3~6グリッドに位置する。縄文前期の大型竪穴住居跡及びSB4と切り合い関係にある。新旧関係はSB4→SB3と判断される。

【形状・規模】梁間2間、桁行3間の側柱の掘立柱建物跡。本調査で最大規模。棟方向はほぼ南北方向。ピットの平面形態は隅丸長方形を基本とし、南東・南西隅のピットが「く」字状を呈する。

北梁間500cm、ピット間隔距離は西から250cm、250cm。南梁間488cm、ピット間隔距離は西から244cm、244cm。西桁行772cm、ピット間隔距離は北から250cm、256cm、256cm。東桁行758cm、ピット間隔距離は北から254cm、254cm、260cm。

【遺物】東桁行のピット3から須恵器蓋・甕（第101図32・33）。南西隅ピット4から灰釉陶器瓶（第101図34）、西桁行ピット8から須恵器坏（第101図35）を出土。遺物の年代は9世紀前葉。



1号掘立柱建物跡

- 1 黒褐色土
- 2 塔褐色土 ローム粒子含む
- 3 塔褐色土 ローム粒子を多量に含む

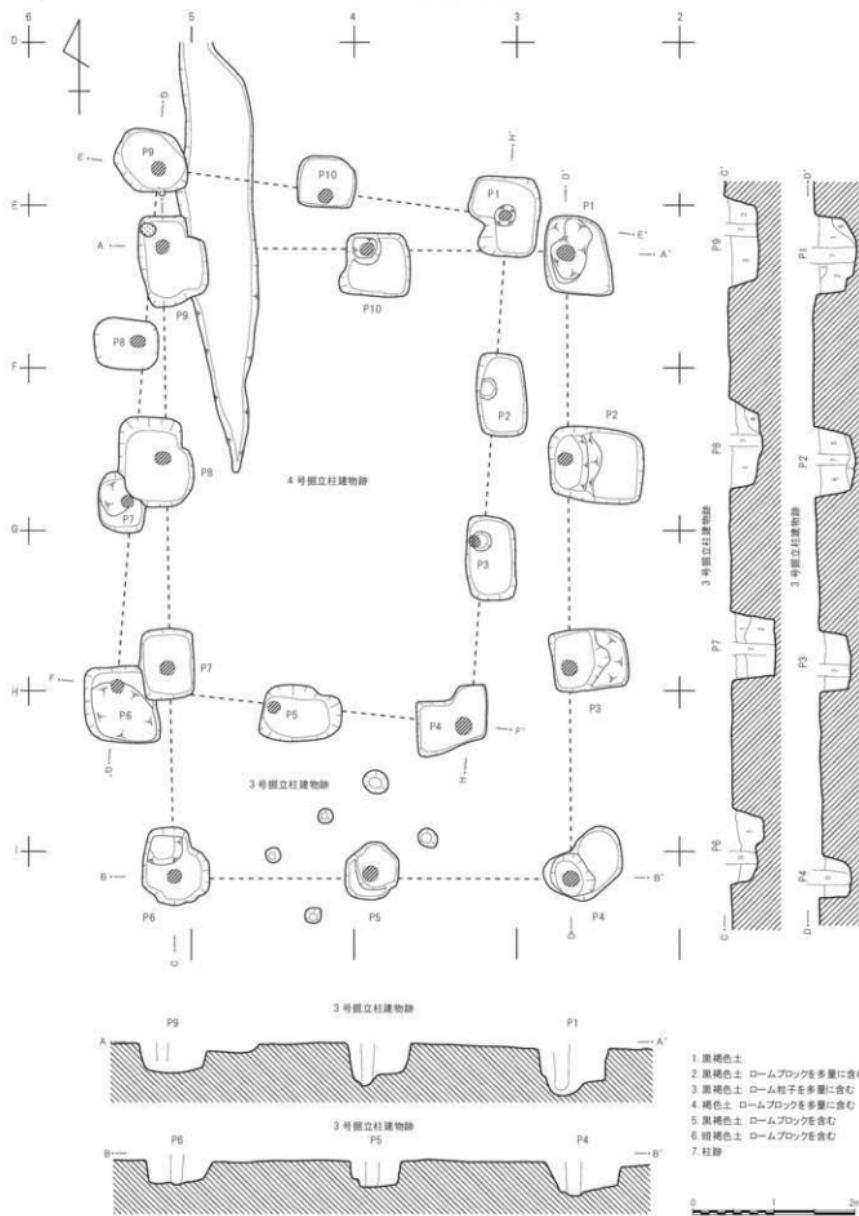
2号掘立柱建物跡

- 1 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒子含む
- 2 塔褐色土 ローム粒子含む
- 3 塔褐色土 ローム粒子含む
- 4 黒褐色土 ローム粒子含む
- 5 塔褐色土 やや鉢円削り、ローム粒子・ロームブロック含む
- 6 塔褐色土 硬い
- 7 黒褐色土 土器粒子・ローム土粒子を少量含む
- 8 黒褐色土 色調は7層より暗い
- 9 塔褐色土
- 10 黒褐色土 破片無し、ロームブロックを少量含む
- 11 黄褐色土

12 緑黄褐色土 ローム粒子を多量に含む

- 13 塔褐色土
- 14 黒褐色土
- 15 塔褐色土 ローム粒子・5cm 大ロームブロック含む
- 16 塔褐色土 ローム粒子を多量に含む
- 17 塔褐色土 細まり良く硬い、ローム粒子含む
- 18 塔褐色土 色調は6層と8層の中間くらい
- 19 黒褐色土
- 20 塔褐色土 ローム粒子を多量に、5cm 大ロームブロック含む
- 21 黒褐色土
- 22 黄褐色土

第91図 川崎遺跡第16次1・2号掘立柱建物跡(1/60)



第92図 川崎遺跡第16次3・4号掘立柱建物跡(1/60)

SB4(掘立柱建物跡 4)

【位置】調査区中央の3～6-D～Hグリッドに位置する。縄文前期の大型竪穴住居跡及びSB3と切り合ひ関係にある。新旧関係はSB4→SB3と判断される。

【形状・規模】梁間2間、桁行3間の側柱の掘立柱建物跡。ピットの平面形態は隅丸長方形を基本とし、建物北東・南東隅が「く」字状を呈する。柱痕はほぼすべてのピットで確認された。棟方向はN-5°-E。

北梁間430cm、ピット間隔距離は西から210cm、220cm。南梁間430cm、ピット間隔距離は西から194cm、236cm。西桁行630cm、ピット間隔距離は北から210cm、200cm、220cm。東桁行630cm、ピット間隔距離は北から210cm、190cm、230cm。

【遺物】ピットから土師器壺(第101図36)、須恵器壺・高台付壺(第101図37～39)を出土。遺物の年代は8世紀後葉。

SB5(掘立柱建物跡 5)

【位置】調査区西北隅のB～D～9・10グリッドに位置する。H46号住居跡と切り合う。

【形状・規模】梁間2間、桁行2間以上の側柱の掘立柱建物跡と推定される。棟方向はほぼ東西。ピットの平面形態は隅丸長方形を基本とし南東隅が「く」字状を呈する。柱痕跡はすべてのピットに確認できる。

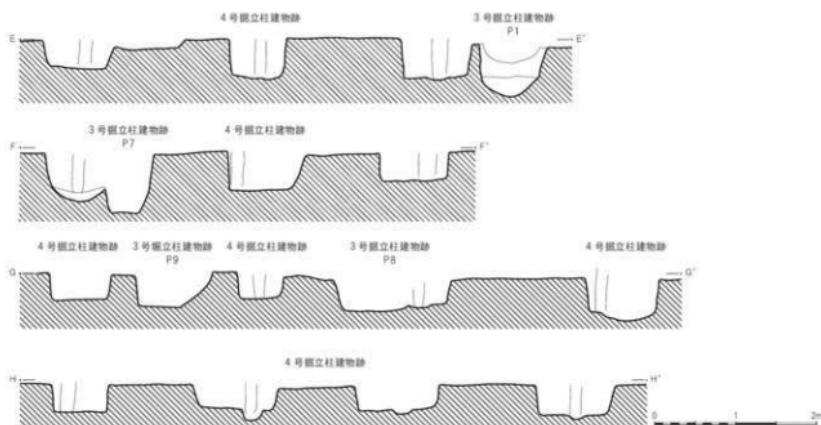
東梁間370cm、ピット間隔距離は北から190cm、180cm。北桁行のピット間隔距離は210cm。南桁行のピット間隔距離は230cm。

【遺物】北東隅(鬼門)のピット1から完形で底部に「井」または「廿」のヘラ記号と体部に横位で「禾」に「一」の合わせ字と推定される墨書がある須恵器壺(第101図40)、南西隅のピット3から須恵器高台付皿(第101図43)、南桁行のピット4から須恵器壺(第101図42)が出土。遺物の年代は9世紀中葉。

SB6(掘立柱建物跡 6)

【位置】調査区南寄りのJ～N～3～6グリッドに位置する。

【形状・規模】梁間2間、桁行3間の側柱の掘立柱建物跡。棟方向はN-3°-E。但し南に軸線からずれるピッ

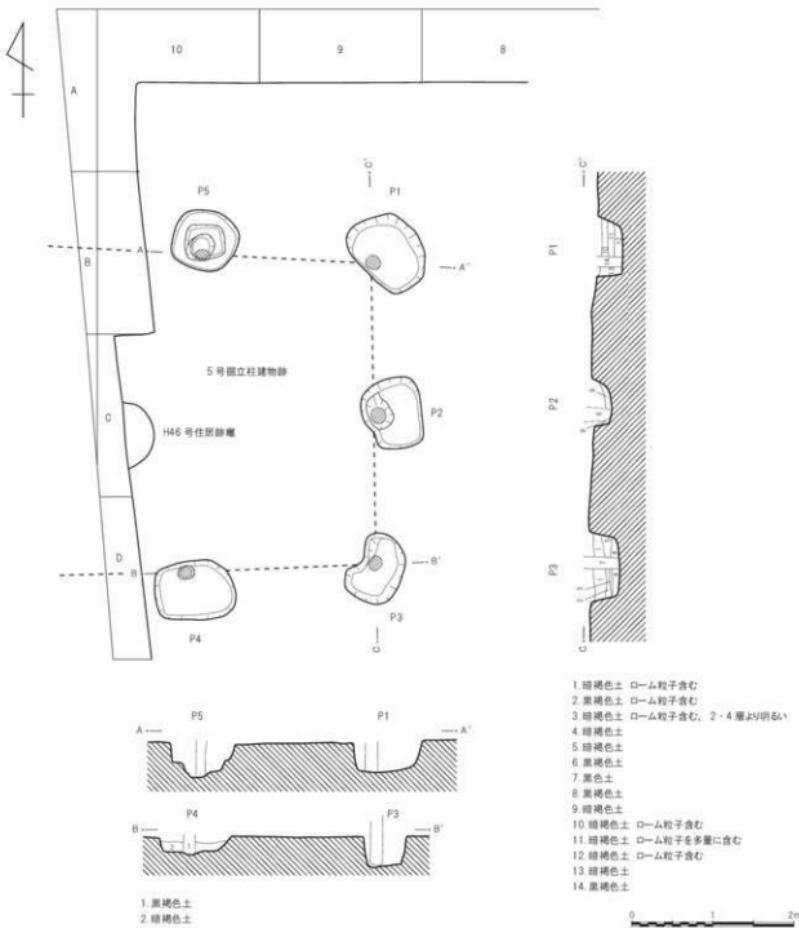


第93図 川崎遺跡第16次3・4号掘立柱建物跡土層(1/60)

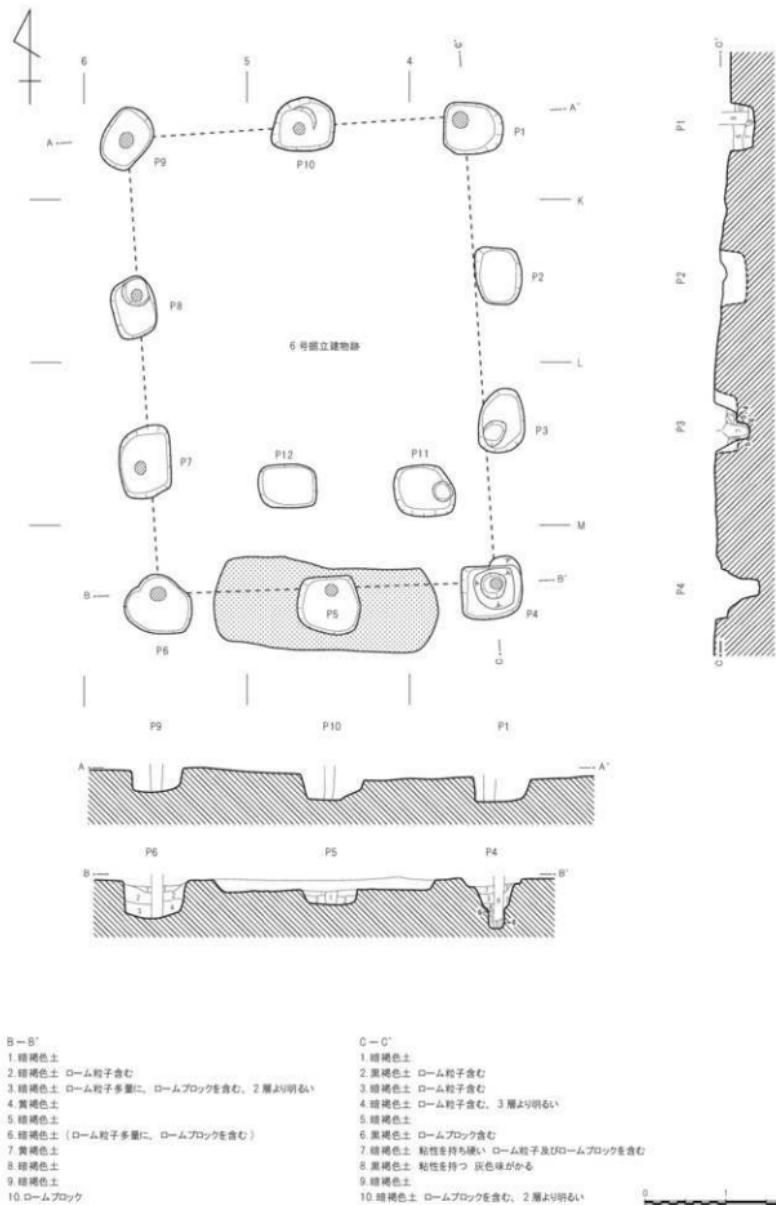
トが2基あるが本掘立柱建物に伴うとすれば壁ないし棚が想定できる。SB1に同様な柱穴がある。南庇が付く建物になる可能性もある。平面形態は隅丸長方形を基本とするようであるが規格外もある。柱痕はほぼすべての柱で確認できる。

北梁間410cm、ピット間隔距離は西から210cm、200cm。南梁間416cm、ピット間隔距離は西から210cm、206cm。西桁行556cm、ピット間隔距離は北から190cm、210cm、156cm。東桁行570cm、ピット間隔距離は190cm、200cm、180cm。

【遺物】北東隅のピット1から須恵器高台付坏(第101図44)、西桁行のピット7から須恵器蓋(第101図45)が出土。遺物の年代は8世紀中葉～後葉。



第94図 川崎遺跡第16次5号掘立柱建物跡・H46号住居跡(1/60)



第 95 図 川崎遺跡第 16 次 6 号掘立柱建物跡 (1/60)

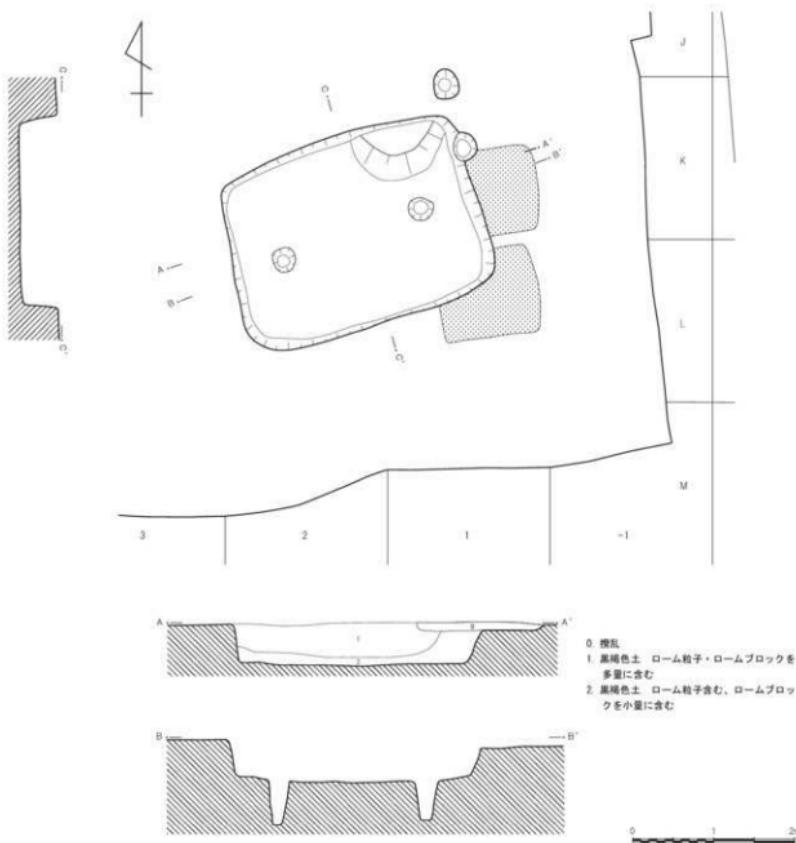
方形竪穴建物跡

【位置】調査区南東寄りのK・L-1・2グリッドに位置する。

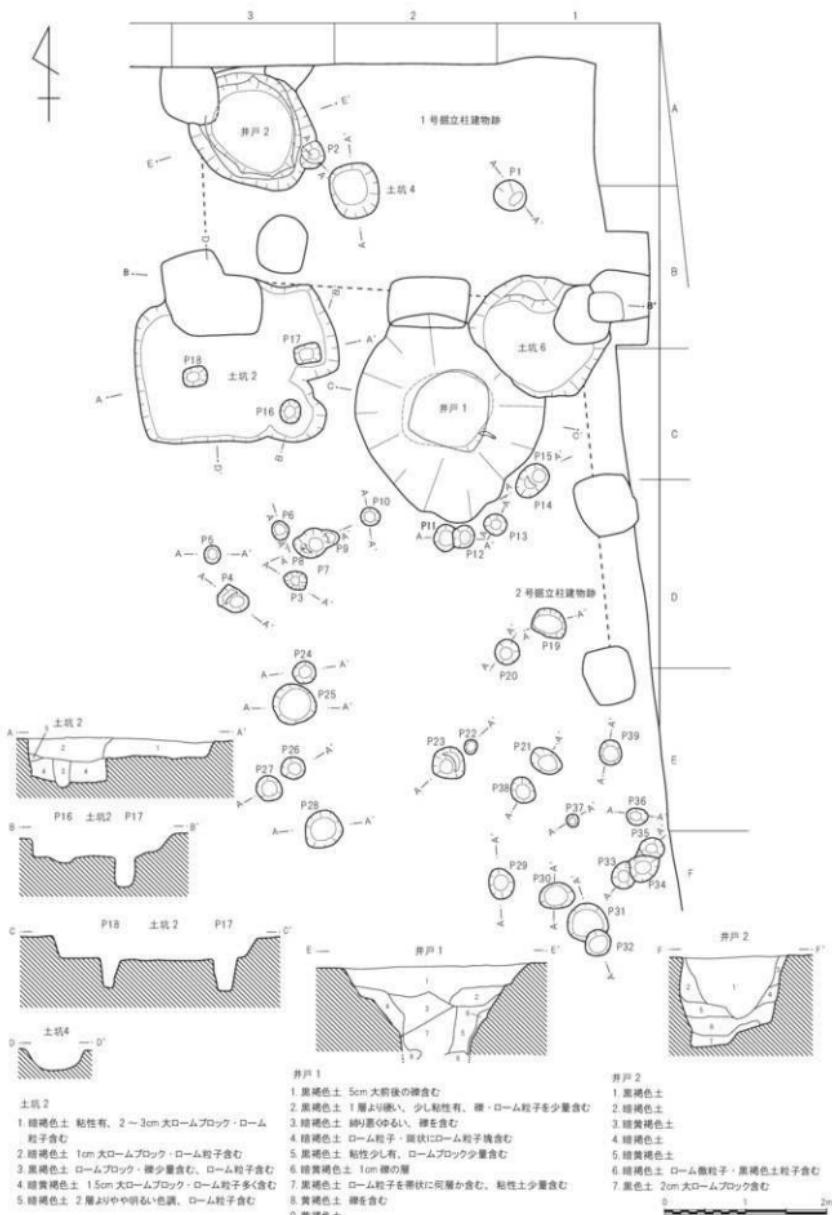
【形狀・規模】隅丸長方形。長軸方向はE-19°-N。床面に長軸方向に2基のピット。北壁東寄りにローム混じりの土を盛った高さ10cm余りの段があり出入口と考えられる。覆土はロームブロックを多く含み、人為的に埋め戻されていると考えられる。

長軸長300cm、短軸長220cm。床面のピットの深さは東で50cm、西で55cm。

【遺物】平安時代の須恵器を含むが、中世中期頃と推定される渥美焼壺片（第102図52）が出土する。



第96図 川崎遺跡第16次方形竪穴建物跡(1/60)



第97図 川崎遺跡第16次土坑・ビット①・井戸(1/60)

井戸 1

【位置】調査区北東寄りのB～D-1・2グリッドに位置する。SB1及び土坑6と切り合い関係にある。新旧関係はSB1→井戸1。土坑6とは不明。

【形状・規模】平面形態は円形で、断面形態は上部がロート状に開き、確認面から1m以下は筒形を呈していたと考えられる。調査段階では井戸中位の井戸側が崩落し袋状に広がっていた。調査は確認面から約2mまで実施した。確認面での径は約240cm、筒形部で約1m。

【遺物】平安時代の土師器・須恵器片が多く含むが、中世の常滑窯片が調査範囲下層から出土する。

井戸 2

【位置】調査区北東端のA-3グリッドに位置する。SB1と切り合い関係にある。新旧関係は不明。

【形状・規模】平面形態はやや梢円に近い円形で、断面形態は上部で若干開き、確認面から約60cmから筒形を呈する。調査は確認面から約130cmまで実施した。確認面で径が約140cm、筒形部で約1m。

【遺物】出土遺物はなし。

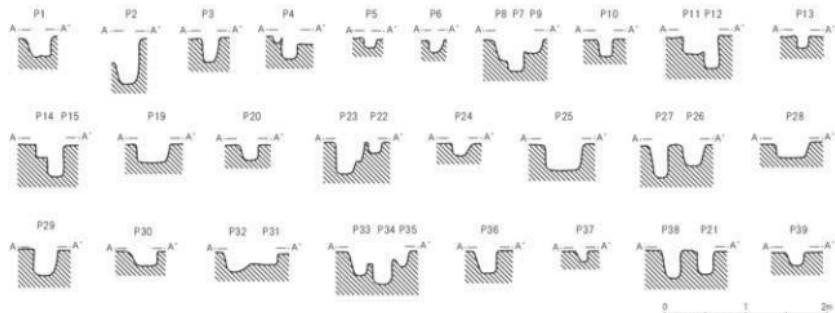
ピット

A～J-1～3グリッドにかけてピットが多数検出されている。この範囲には掘り込みの浅い縄文前期の竪穴住居跡が検出されていることから、その柱穴となるピットも含まれると考えられる。

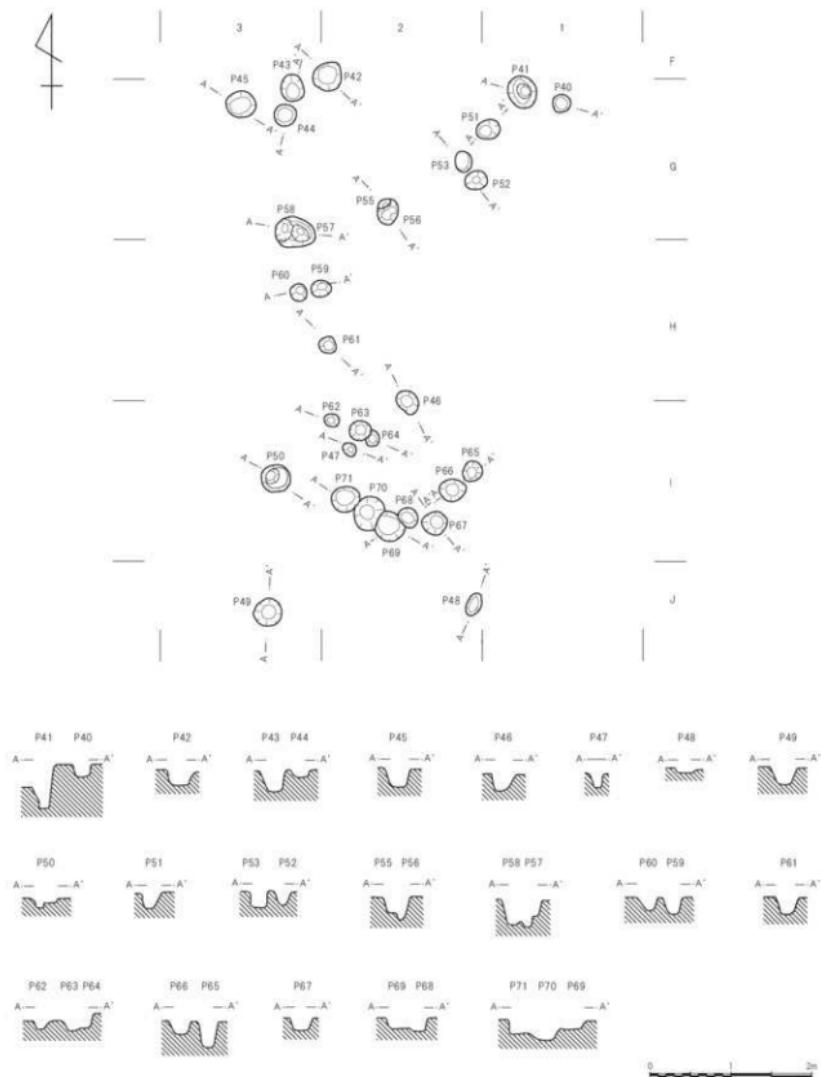
なお、実測不能であるが時期がおよそ判定できる遺物が出土したピットは以下のとおりである。

ピット1・10・47からは縄文前期の深鉢土器片、ピット20からは縄文中期の深鉢土器片を出土した。ピット7からは9世紀の須恵器環片、ピット11からは9世紀の須恵器環片・土師器甕片、ピット34からは8世紀・9世紀前半の須恵器環片、ピット41からは9世紀の須恵器環片を出土した。また、ピット4からは中世の在地産甕片を出土している。

ピットの詳細については、第62表を参照。



第98図 川崎遺跡第16次ピット②(1/60)



第99図 川崎遺跡第16次ピット③(1/60)

第55表 川崎遺跡第16次土坑一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	154 × 137	103 × 89	131	
2	不整形	247 × 186	223 × 170	31	
3	隅丸方形	70 × 58	55 × 43	32	
4	隅丸方形	67 × 58	42 × 41	25	
5	不明	63 × (30)	33 × (24)	27	
6	不明	148 × (88)	124 × 75	41	

第57表 川崎遺跡第16次2号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	72 × (38)	38 × 17	30	
2	方形	77 × 70	33 × 16	147	
3	方形	70 × 59	22 × 20	45	

第59表 川崎遺跡第16次4号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1		97 × 67	17 × 13	41	
2	長方形	102 × 61	18 × (16)	34	
3	長方形	104 × 58	15 × 14	47	
4		87 × 66	21 × 20	33	
5	長方形	100 × 53	15 × 14	20	
6	方形	92 × 89	17 × 16	54	
7		72 × 58	16 × 14	44	
8	方形	80 × 61	18 × 15	26	
9	円形	98 × 80	18 × 18	33	
10	方形	73 × 62	18 × 18	52	

第61表 川崎遺跡第16次6号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	73 × 63	19 × 15	30	
2	方形	69 × 57	63 × 51	31	
3	楕円形	80 × 67	(26) × 19	36	
4		75 × 65	16 × 13	55	
5	方形	78 × 70	16 × 14	16	
6		83 × 72	18 × 17	50	
7	長方形	89 × 63	17 × 13	32	
8	長方形	71 × 54	15 × 13	49	
9	長方形	76 × 55	19 × 17	31	
10	方形	75 × 66	14 × 13	31	
11	方形	74 × 63	20 × 18	47	
12	長方形	73 × 53	62 × 45	48	

第56表 川崎遺跡第16次1号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1		(68) × 68	31 × 29	81	
2		119 × 73	30 × 28	63	
3	長方形	102 × 62	17 × 15	66	
4		(75) × 57	30 × 28	66	
5	不明	53 × (17)	32 × (15)	27	
6		70 × 60	10 × 10	32	

第58表 川崎遺跡第16次3号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	96 × 78	23 × 19	51	
2	長方形	117 × 93	18 × 15	49	
3	長方形	93 × 76	21 × 17	37	
4		100 × 62	17 × 17	36	
5	円形	70 × 65	18 × 18	27	
6		95 × 56	17 × 15	30	
7	長方形	86 × 67	18 × 17	60	
8		108 × 87	19 × 15	48	
9		111 × 66	17 × 17	37	
10	方形	87 × 77	18 × 16	58	

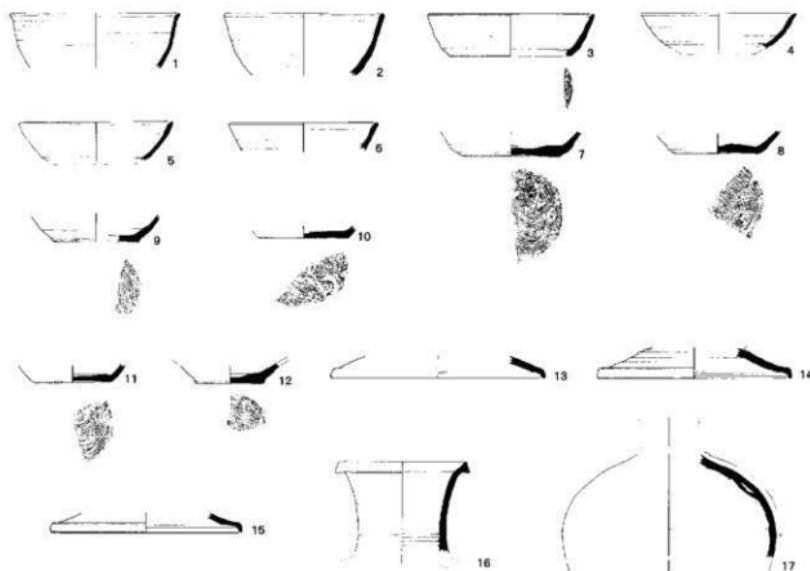
第60表 川崎遺跡第16次5号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1		104 × 78	19 × 17	41	
2		88 × 61	19 × 15	32	
3		87 × 52	18 × 16	35	
4		98 × 73	18 × 13	20	
5	円形	82 × 74	16 × 12	33	

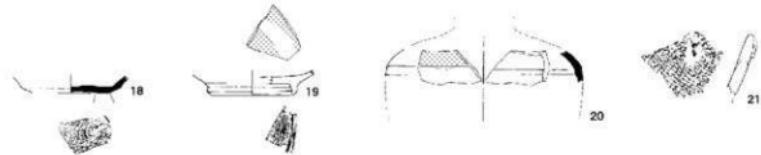
第 62 表 川崎遺跡第 16 次ピット一覧表(単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	38 × 36	20 × 9	23		37	円形	12 × 12	8 × 8	13	
2	方形	30 × 25	16 × 15	57		38	円形	31 × 25	18 × 16	34	
3	円形	29 × 23	11 × 10	29		39	円形	29 × 27	19 × 18	16	
4	方形	37 × 30	18 × 16	27		40	円形	24 × 22	19 × 14	15	
5	円形	21 × 20	11 × 10	11		41	円形	36 × 34	10 × 9	54	
6	円形	21 × 20	12 × 10	14		42	円形	33 × 32	24 × 21	12	
7	不明	29 × 23	11 × 10	39		43	円形	30 × 25	21 × 14	26	
8	不明	24 × (12)	12 × (5)	26		44	円形	25 × 23	18 × 16	9	
9	不明	24 × (19)	16 × 14	16		45	円形	33 × 31	24 × 18	23	
10	円形	22 × 19	12 × 10	20		46	楕円形	30 × 24	17 × 12	20	
11	(円形)	34 × (25)	22 × 19	21		47	円形	18 × 16	9 × 6	17	
12	円形	28 × 24	18 × 15	40		48	楕円形	26 × 15	21 × 8	6	
13	円形	27 × 24	15 × 11	21		49	円形	36 × 32	21 × 19	20	
14	不明	30 × (17)	16 × (7)	16		50	円形	34 × 31	11 × 9	12	
15	不明	30 × (24)	17 × 15	39		51	円形	24 × 22	13 × 11	19	
16	方形	26 × 20	16 × 11	7		52	円形	27 × 23	8 × 7	16	
17	方形	32 × 26	15 × 13	40		53	楕円形	23 × 18	22 × 13	20	
18	方形	26 × 24	14 × 11	37		54	欠番				
19	楕円形	42 × 37	35 × 23	21		55	不明	18 × (11)	(7) × 6	21	
20	楕円形	30 × 27	19 × 15	18		56	不明	30 × 25	19 × 11	27	
21	楕円形	37 × 28	23 × 18	27		57	不明	35 × (28)	13 × 7	34	
22	円形	18 × 17	14 × 12	12		58	不明	31 × (20)	12 × 11	31	
23	方形	40 × 36	16 × 16	39		59	円形	23 × 21	14 × 10	21	
24	円形	27 × 27	15 × 15	12		60	円形	20 × 19	10 × 9	15	
25	円形	50 × 50	39 × 38	28		61	円形	22 × 18	15 × 11	21	
26	円形	28 × 27	18 × 14	26		62	円形	20 × 17	11 × 10	9	
27	円形	30 × 28	20 × 17	40		63	円形	26 × 23	14 × 11	17	
28	円形	44 × 43	31 × 28	19		64	円形	(17) × 17	12 × 9	9	
29	円形	36 × 31	16 × 11	30		65	円形	27 × 25	16 × 14	31	
30	楕円形	41 × 33	26 × 23	17		66	楕円形	32 × 26	15 × 15	17	
31	不明	50 × 45	40 × 31	13		67	円形	27 × 26	17 × 14	17	
32	楕円形	41 × 29	31 × 21	22		68	円形	24 × (18)	15 × 15	14	
33	不明	32 × (23)	14 × 13	28		69	円形	(34) × 32	(34) × 22	10	
34	不明	(40) × 36	22 × 19	40		70	円形	42 × 36	18 × 17	23	
35	円形	29 × 22	16 × 11	18		71	円形	32 × 30	22 × 20	17	
36	円形	26 × 21	13 × 11	27							

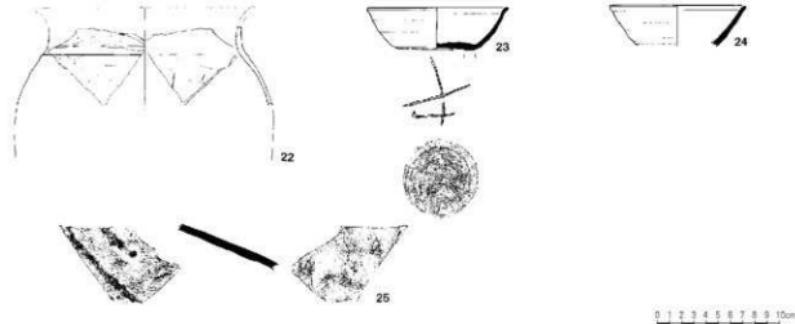
H43号住居跡



H44号住居跡



H45号住居跡

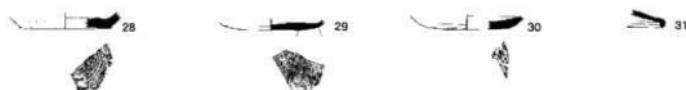


第100図 川崎遺跡第16次出土遺物(1/4)①

H46号住居跡



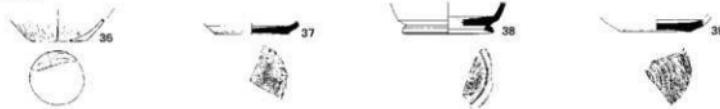
掘立柱建物跡 1



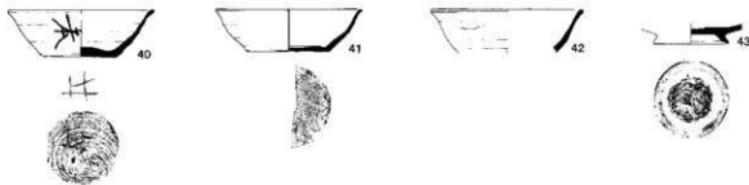
掘立柱建物跡 3



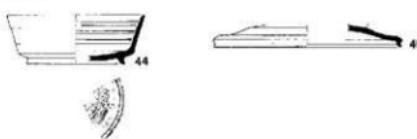
掘立柱建物跡 4



掘立柱建物跡 5



掘立柱建物跡 6

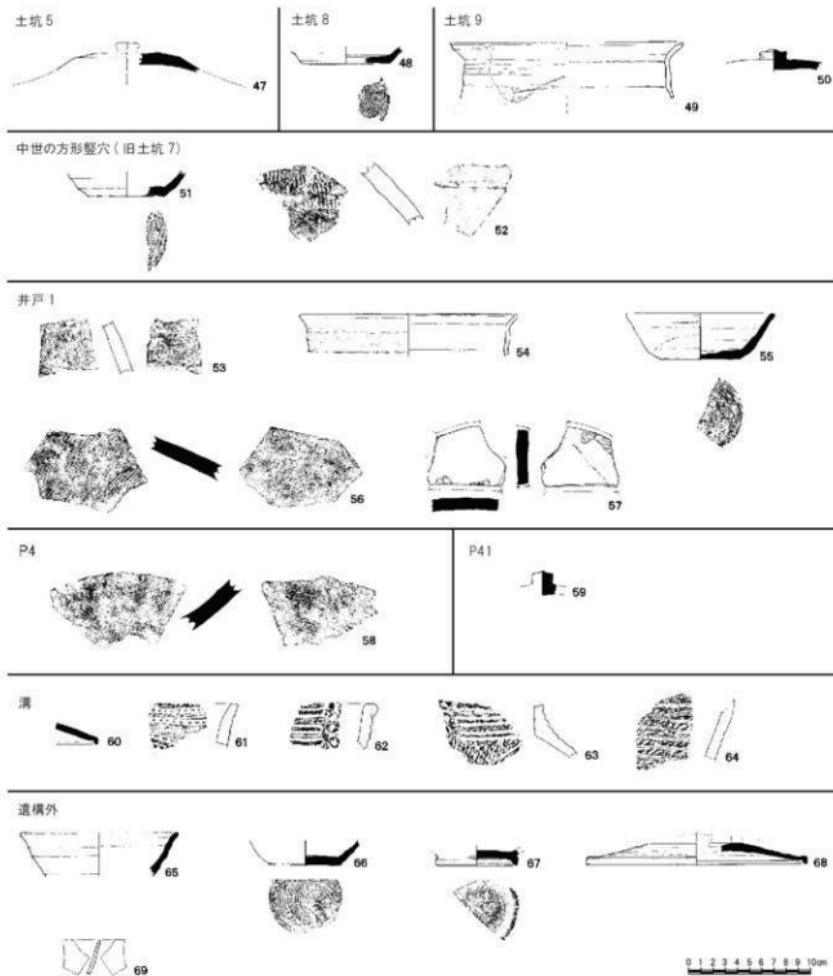


集石



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第101図 川崎遺跡第16次出土遺物(1/4)②



第102図 川崎遺跡第16次出土遺物(1/4)③

第 63 表 川崎遺跡第 16 次出土遺物観察表（単位 cm・g）

回収番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 100 回 -1	H43 号住居跡	須恵器壺	13.9	—	(4.6)	—	輪縫使用。口唇部使用による摩耗。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀中葉
第 100 回 -2			6.6	—	(5.3)	—	輪縫使用。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀中葉
第 100 回 -3		須恵器壺	13.7	3.5	10.1	—	輪縫使用。残存底部から回転ヘラケズリか、東金子窓産。内面に赤色顔料付着	8世紀後葉
第 100 回 -4			12.8	—	(3.0)	—	輪縫使用。口縁部外側に若干煤付着。胎土は灰白色でやや軟質で海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀中葉
第 100 回 -5			11.6	—	(3.3)	—	輪縫使用。口縁部外側に若干煤付着。胎土は灰白色でやや軟質で海綿骨片針を含む。南比企窓産。4と同一個体の可能性もある	8世紀後葉
第 100 回 -6			12.3	—	(2.4)	—	輪縫使用。口縁部胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産。2と同一個体の可能性もある	9世紀中葉
第 100 回 -7			—	8.3	(2.2)	—	輪縫使用。回転左、底部は回転糸切り離し。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀中葉
第 100 回 -8			—	7.0	(2.0)	—	輪縫使用。底部は回転糸切り離し。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀中葉
第 100 回 -9			—	—	—	—	輪縫使用。底部は回転糸切り離し。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀中葉
第 100 回 -10			—	7.4	(1.1)	—	輪縫使用。回転右、底部は回転糸切り離し。東金子窓産	9世紀中葉
第 100 回 -11			—	6.1	(1.5)	—	輪縫使用。回転右、底部は回転糸切り離し。東金子窓産	9世紀中葉
第 100 回 -12		須恵器皿	—	17.3	(1.8)	—	輪縫使用。回転右、底部は回転糸切り離し。東金子窓産	9世紀中葉
第 100 回 -13	H44 号住居跡	須恵器蓋	17.0	—	(1.8)	—	輪縫使用。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀
第 100 回 -14			16.0	—	(2.5)	—	輪縫使用。東金子窓産	9世紀
第 100 回 -15		須恵器蓋	15.8	—	(1.7)	—	輪縫使用。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀
第 100 回 -16			10.3	—	(9.5)	—	輪縫使用。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀中葉
第 100 回 -17			10.8	6.2	(8.5)	—	輪縫使用。肩部に灰釉。猪投窓産	9世紀中葉
第 100 回 -18		須恵器蓋	—	6.4	(1.5)	—	輪縫使用。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀中葉
第 100 回 -19		灰釉陶器壺	—	6.6	(2.2)	—	輪縫使用。三日月形高台、内面の高台接続部を除き灰釉ハケ。猪投窓産。黒窓 90 号室式の 2 型式	9世紀後葉
第 100 回 -20	H45 号住居跡	灰釉陶器瓶	—	16.2	(3.0)	—	輪縫使用。肩部に灰釉。猪投窓産	9世紀後葉
第 100 回 -21		跳文土器	—	—	—	—	波状口縁。地文 LR、波状部に粘結文	唐式期
第 100 回 -22		土師器甕	—	—	(6.5)	—	口縁部・頸部横ナデ。頸部外側へラケズリ。内面ヘラナデ	8世紀後葉
第 100 回 -23		須恵器壺	11.6	6.2	3.6	—	輪縫使用。右回転、底部は回転糸切り離しの後周縫部手持ちヘラケズリ。底部に「廿」または「井」のヘラ記号。内面見込みに糸の原体痕あり。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産。変形	8世紀後葉
第 100 回 -24			—	11.2	—	(3.4)	—	輪縫使用。胎土表面褐色で酸化炎焼成。胎土に小標痕含む。外面部平行叩き。内面当て具痕。外面上に自然釉が流れる。東金子窓産
第 100 回 -25		須恵器壺	—	—	—	—	—	—
第 101 回 -26	H46 号住居跡	土師器甕	12.0	—	(6.3)	—	口縁部横ナデ。頸部外側横ナデから斜位のヘラケズリ。内面に僅かにおこげ痕	9世紀末～10世紀初
第 101 回 -27		須恵器皿	15.6	6.9	3.0	—	輪縫使用。右回転。底部は回転糸切り離し。焼成甘く胎土黄灰褐色。見込部が摩耗。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産。ほぼ完形	9世紀末～10世紀初
第 101 回 -28		SB1	—	7.4	(1.9)	—	輪縫使用。底部は回転糸切り離し。焼成甘い。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀前葉
第 101 回 -29			—	8.0	(0.9)	—	輪縫使用。底部は回転糸切り離しの後周縫部回転ヘラケズリ。胎土の海綿骨片針を含む。南比企窓産	8世紀中葉
第 101 回 -30			—	8.0	(1.1)	—	輪縫使用。底部は回転糸切り離しの後周縫部回転ヘラケズリ。胎土の海綿骨片針を含む。南比企窓産	8世紀中葉
第 101 回 -31	SB3	須恵器蓋	—	—	—	—	輪縫使用。上面に胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	8世紀後葉
第 101 回 -32		須恵器蓋	—	—	(2.2)	—	輪縫使用。上面は回転ヘラケズリ。南比企窓産	9世紀前葉
第 101 回 -33		須恵器壺	—	—	—	—	外面部平行叩き。内面当て具痕。外面上に灰斑	9世紀前葉
第 101 回 -34		灰釉陶器瓶	—	—	—	—	輪縫使用。肩部に灰釉。猪投窓産	9世紀中葉
第 101 回 -35		須恵器壺	—	6.7	(2.9)	—	輪縫使用。底部は回転糸切り離し。胎土に海綿骨片針を含む。南比企窓産	9世紀前葉

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第101 図-36	SB4	土師器甕	-	3.4	(1.5)	-	外面脛位のヘラケズリ、内面ヘラナデ	8世紀後葉
第101 図-37		須恵器壺	6.1	-	(1.1)	-	輪縫使用。右回転。底部は回転糸切り離し。東金子窯産	8世紀後葉
第101 図-38		須恵器高台付壺	-	7.6	(2.6)	-	輪縫使用。底部は回転糸切り離し。高台は付高台。見込みの立ち上がりに爪先手法。東金子窯産	8世紀後葉
第101 図-39		須恵器壺	-	5.9	(1.0)	-	輪縫使用。底部は回転糸切り離し。見込みの立ち上がりに爪先手法。一部酸化炎焼成。東金子窯産	8世紀後葉
第101 図-40	SB5	須恵器壺	12.2	6.1	3.9	-	輪縫使用。右回転。底部は回転糸切り離し。胎土の海綿骨片を含む。南比企窯産。底部に焼成前の「井」または「丁」のへら記号。体部の墨書は「禾」に「一」の合わせ字カ、口縁部の三角の欠損は窯裏に伴う可能性がある	9世紀中葉
第101 図-41							輪縫使用。底部は回転糸切り離し。東金子窯産。内面口縁部と見込みが掌耗	9世紀中葉
第101 図-42		須恵器壺	12.5	-	(3.6)	-	輪縫使用。口縁部外面に若干窯付着。やや酸化炎焼成気味。南比企窯産	9世紀中葉
第101 図-43		須恵器高台付皿	-	6.2	(1.7)	-	輪縫使用。底部は回転糸切り離し。高台は付高台。東金子窯産。見込みに摩耗	9世紀中葉
第101 図-44	SB6	須恵器高台付壺	11.2	8.0	4.1	-	輪縫使用。底部は回転ヘラケズリの後付高台。見込みの立ち上がりに爪先手法。施成良好。产地不明	8世紀中葉
第101 図-45		須恵器蓋	15.6	-	(1.9)	-	輪縫使用。東金子窯産	8世紀後葉
第101 図-46	集石	土師器甕	-	3.3	(2.8)	-	外面脣位のヘラケズリ、内面ヘラナデ	9世紀
第102 図-47	土坑 5	須恵器蓋	-	-	(2.5)	-	横欠裂痕あり。輪縫使用。右回転。糸切り離しの後回転ヘラケズリ。胎土灰白色。南比企窯産力	9世紀第
第102 図-48	土坑 8	須恵器壺	-	7.0	(1.4)	-	輪縫使用。底部は回転糸切り離し。酸化炎焼成。胎土に海綿骨片を含む。南比企窯産	9世紀前葉
第102 図-49	土坑 9	土師器甕	19.2	-	(4.6)	-	口縁部は模ナデ。肩部は模位のヘラケズリ	9世紀中葉
第102 図-50		須恵器蓋	-	-	(2.7)	-	輪縫使用。回転糸切り離しの後回転ヘラケズリ後横み貼付。胎土に海綿骨片を含む。南比企窯産	9世紀中葉
第102 図-51	方形堅穴建物跡	須恵器壺	-	6.3	(2.0)	-	輪縫使用。底部は回転糸切り離し。胎土の海綿骨片を含む。南比企窯産	9世紀後葉
第102 図-52		溝炎焼甕	-	-	-	-	外面部押印	12世紀末~13世紀初
第102 図-53	井戸 1	常滑焼	-	-	-	-	便携部片	中世
第102 図-54		土師器甕	17.8	-	(3.4)	-	口縁部ナデ	9世紀前葉
第102 図-55		須恵器壺	12.3	6.6	3.8	-	輪縫使用。回転右。底部は回転糸切り離し。胎土に海綿骨片を含む。南比企窯産	9世紀中葉
第102 図-56		須恵器甕	-	-	-	-	肩部ア、外面平行引き目。内面当て具痕ナデ。胎土に海綿骨片を含む。南比企窯産	9世紀前葉
第102 図-57	ピット 4	須恵器転用砾石	4.9	6.4	0.9	-	頸部片	9世紀前葉
第102 図-58		須恵器壺	-	-	-	-	内外面ナデ調整。南比企窯産力	9世紀
第102 図-59		須恵器蓋	-	-	(2.0)	-	宝珠部片	9世紀
第102 図-60		須恵器蓋	-	-	-	-	輪縫使用。南比企窯産力	9世紀
第102 図-61	溝 2	縄文式土器	-	-	-	-	波状口縁。爪型ア。胎土に織維を含む	黒須式期
第102 図-62		縄文式土器	-	-	-	-	口縁部、半瓶口質による平行丸縁。円形刻文突起	諸穂式期
第102 図-63		縄文式土器	-	-	-	-	附加条縄文。胎土に織維を含む	黒須式期
第102 図-64		縄文式土器	-	-	-	-	地文 RL、平行沈縁による三角文	諸穂式期
第102 図-65	溝構外	須恵器壺	13.0	-	(3.6)	-	輪縫使用。回転右。底部は回転糸切り離し。胎土の海綿骨片を含む。南比企窯産	9世紀
第102 図-66			-	5.8	(2.1)	-	輪縫使用。体部内外面に火燐痕。胎土に海綿骨片を含む。南比企窯産	9世紀後葉
第102 図-67		須恵器高台付壺	-	6.6	(1.3)	-	輪縫使用。底部は回転糸切り離しの後付高台。胎土に海綿骨片を含む。南比企窯産	9世紀
第102 図-68		須恵器蓋	18.2	-	(1.2)	-	輪縫使用。回転糸切り離しの後回転ヘラケズリ。下面に障灰。東金子窯産	9世紀
第102 図-69		西洋陶器皿	-	-	-	-	頭料酸化コバルト	幕末~明治

I 市内出土の西国産陶器・土器について

－ 搬入の背景を探る試み －

はじめに

松山遺跡では、鎌倉時代の東播系擂鉢（魚住窯産）が出土している。関東にはこの時代、東海諸窯の製品が大量に入るが、東播系のような西国産の製品は中世都市鎌倉を除いて多くはない。ふじみ野市内ではこの他に、長宮遺跡で南伊勢系土鍋と備前系擂鉢が、権現山遺跡で中北勢系茶釜形土器が出土している。これらの西国産調理具の出土は、本市の中世史にとってどのような意味を持つのであろうか。

そこでここでは、埼玉県内で出土した西国産の調理具をピックアップし、その搬入状況や搬入の背景を探ることをおして本市での出土の意味を探ってみたい。具体的な製品としては、南伊勢系土鍋、中北勢系羽釜形・茶釜形土器、東播系擂鉢、備前系擂鉢、（仮称）山陰系土鍋である（第1・2図）。

1. 南伊勢系土鍋（1～7）

南伊勢系土鍋は、伊勢国南部で主体的に生産・使用された、古代由来の器形を保持した土鍋である。ところが隣接する伊賀地域、志摩地域及び紀伊東部では多くはない。一方、流通圈と呼べるような分布の広がりは安部川辺りまで認められる。関東では鎌倉で一定量出土するが、その他の地域ではいくつかの遺跡で少量出土するにとどまる。

7の頸部に吊るすための穿孔のある南伊勢系土鍋は、参考としてあげた鎌倉市千葉地遺跡出土のものである。鎌倉では12世紀末に出現し、13世紀になると「民家1軒に1個くらい入っている」(1)といえる位に出土するようになる。さらに14世紀にかけても使用が継続する（河野2005）。今のところ鎌倉以外で出土が目立つのは葛飾区だけである。

埼玉県内の出土は、本市長宮遺跡(1)を含め6遺跡で知られる。いずれも河川に近い自然堤防上、または低位段丘上の遺跡である。

宮瀬交二氏は、関東地方における南伊勢系土鍋は、「江戸湾」近郊または「江戸湾」に直結した河川沿いの中世遺跡から出土する傾向があるとし、その用途については、薄手で脆弱で遠距離輸送に不向きな特性から日常的な煮炊具とは到底見做しがたいとする（宮瀬1995）。

東海地方の土器研究を精力的に進める伊藤裕偉氏は、分布の状況から「広域流通品」といえるが、耐久性の低さから「商品流通」とは考えづらいとする。それが「広域流通品」のごとく広く分布することとなりえたのは、平安時代末期以降、神宮の權禪宣の活動により神宮への尊崇の念が浸透・深化し、併せて御厨が拡大する中で、神宮の「有爾御器長」に従う工人らが生産する製品が広く分布することとなつたためと考える。さらに、関東において特に出土が顕著な鎌倉については、「武士階級の住居において神宮に関わるある種の祭祀に伴った煮炊きに用いられたと考えられないだろうか」とする（伊藤1992）。

葛西城及び周辺の調査をとおして谷口榮氏は、関東の南伊勢系土鍋は、圧倒的に13世紀のもので、14世紀以降では鎌倉以外では確認できないとする。また関東への搬入については、神宮神道の普及に幕府が好意的であったことや、神宮神官である權禪宣（御厨）が関東地方に積極的に普及活動を行った事実と重なる可能性があるとし、葛飾区で南伊勢系土鍋が比較的多く出土するのは御厨との関係によると考えている（谷口1993）。

なお、葛西御厨は長塚孝氏によれば「建久3年(1192)8月、伊勢大神宮領注文が作成されているが、その中には葛西御厨の記載がないので御厨は建久3年以降に成立したと考えられる。さらに葛西清重が神宮への寄進に関与したのが事実であるならば、清重の死去する嘉承3年(1237)までの間に成立したこと

なる」とする（長塚 1993）。

以上のような諸氏の研究から、南伊勢系土鍋の関東への入り方は、「鎌倉タイプ」と「江戸湾直結河川沿いタイプ」に分けられると言えよう。鎌倉では12世紀の末に入って以降、都市の整備に伴い使用量が増え「民家1軒に1個くらいは」というほどに普及し、14世紀代まで使用される。

それに対し、少量しか出土しない江戸湾直結河川沿いでは13世紀、おそらくその前半にほぼ集中し14世紀には残らない。江戸湾直結河川沿いの時期的、地点的な限定性は、伊勢神人、御厨及び神宮権禪宜との関係を抜きにしては考えにくいように思える。

鎌倉での使用のあり方は、武家地に多いという指摘もあるが、おおむね偏在性なく使用されている傾向（宗臺 2004）から、鉄鍋を補完する日常雑器という見方もできなくはないが、やはり製品の脆弱性からして圧倒的な耐久性を有する鉄鍋の補完足りうるとはとても考えにくい。仮に宗教行為に伴うとした場合、特定の信仰に使用されたとするには偏在性が見られない。

そこで大胆な仮説が許されるなら、特定の信仰にとどまらないさまざまな宗教行為に使用可能な鍋であったと考えるのはいかがか。伊勢神宮の神は言わずと知れた神々の頂点たるアマテラスであり、それは密教の中心仏大日如来の権現とされる。つまり信仰の適応幅は最も広い神仏である。そのような神を祀る伊勢の地で、その土（粘土）でつくられた鍋⁽²⁾だからこそ、信仰を選ばずに鎌倉の各家で行う宗教行為に使用できる煮炊道具となりえたのではないかと。

南伊勢系土鍋の信仰的な使用を伺わせる事例としては、瀬戸の中世窯で灰原や焚口から単独で出土する例があり、窯の火入れの神事に使用された可能性が指摘されている（座談会 1996）。東海諸窯は地理的に見て、伊勢湾をはさみ伊勢神宮と対岸に位置するが、その点も注意すべき位置関係といえよう。

2. 中北勢系羽釜形・茶釜形土器（8～10）

今のところ出現が15世紀以降と考えられることから、南伊勢系土鍋と時間的に断絶が見られる。その搬入のルートや背景については不明であるが、遺跡の立地はやはり、南伊勢系鍋同様、河川沿いの中世遺跡という傾向はみられるか。

この一群については管見に触れた点数が少ないが、中世において遺物が増加する時期だけに、小片で出土した場合、見落としも多いと思われる。今後の資料増加を待ちたい。

なお、中北勢系茶釜形土器（10）は本市権現山遺跡出土の事例である。

3. 東播系擂鉢（11～16）・備前擂鉢（17～26）

東播系擂鉢は、東播磨南部（現在の明石市から神戸市西部付近）で焼かれた須恵器系陶器で、関東には鎌倉時代の早い段階から入る。埼玉県内では、熊谷市中条氏関連遺跡群（11・12）や所沢市お伊勢山遺跡（13）が早い例であろう。その後14世紀前葉頃まで搬入が確認される。本市の松山遺跡出土（16）は13世紀後葉から14世紀前葉の製品であろう。

東播系擂鉢と入れ替わるように現れるのが備前系擂鉢である。14世紀前葉頃には搬入が始まり、15世紀前葉まで見られる。東播系擂鉢に比べ分布範囲も広く出土量も多い。東播系から備前系への移行は生産地の盛衰とも連動するのであろうが、スムーズに引き継がれている印象を受ける。鎌倉では鎌倉幕府段階が東播系、鎌倉府段階が備前系と大まかには分かれる。

埼玉県内の分布傾向を見ると、東播系擂鉢は南伊勢系土鍋のように沖積地の河川沿いにも見られるが、県北や西の丘陵地域にも搬入がある。備前系擂鉢はさらに分布の密度が高くなっている。

吉岡康暢氏は、鎌倉で出土する魚住・備前両窯の擂鉢は、13世紀半ばの鎌倉中の人口急増に伴い需要が急増した粉食用の調理器を、西国（特産品）の製品で賄おうとする都市型の志向によるとみる。

また、鎌倉以外で出土する製品は、武士や商人によって「関東の市」たる鎌倉で購入され、二次的に流通したものと位置付けている（吉岡 1995）。

一方、宮瀧氏は非東海系の魚住窯や備前焼の擂鉢は、関東地方において商品流通しないもので、点的に分布するのは、「河川交通ひいては陶磁器流通に密接に関与していたと思われる国人領主クラスの在地領主層がその立場、何らかの契機により入手」したものと考える（宮瀧 1995）。

それに対し浅野晴樹氏は河川流域に多く見られるのは「河川流通に携わった階層の遺跡に多く認められたものではなく、流通の上で入手しやすい場所に多く検出されたと解釈した方が素直ではないか」とする（浅野 1995）。

関東では12世紀後半に、東播系擂鉢に先んじて同様の機能を有する東海諸窯の山茶碗系片口鉢が入ってくる。13世紀になると、高まる粉食文化の需要により不足する山茶碗系片口鉢を補完するように、在地で瓦質こね鉢が生産されるようになる。

ところが在地産こね鉢がモデルとしたのは最初に入った東海系の製品ではなく、東播系の製品であると鋤柄俊夫氏は指摘する（鋤柄 1988）⁽³⁾。それはなぜか。先に述べたとおり吉岡氏は東播・備前系擂鉢が鎌倉に入るるのは、それが持つ「土産」（特産品）的価値への志向によると理解するが、私はもう一つ別の価値が東播系擂鉢には付与していたとみる。

古代から須恵器系鉢の使用の伝統のある京都では、11世紀末以降、東播系の擂鉢が主体を占めるようになるという。つまり、鎌倉時代において東播系の擂鉢は西の都で使用される一種ブランド品であったといえる⁽⁴⁾。東の王権都市鎌倉は、西の王権都市京都で使用される文物を模倣するように積極的に取り入れていたと考えられ、その一つが東播系擂鉢であった可能性がある。そう理解すると、在地産こね鉢が模倣のモデルとしたのが東播系であった理由も理解できよう。

4. 山陰系土鍋（27～29）

中世は基本的に煮炊具に鉄製品を使う時代であった。東国の大鍋は口の内側に耳が付き西国の大鍋にはそれが付かないという明確な差がある。ここで取り上げる「山陰系土鍋」は西日本独特の耳の付かない鉄鍋模倣の土鍋のうち山陰地方で生産されたと考える一群に与えた仮の名称である。本市では出土が見られないが、関東における中世前期の西国産製品を考える上で貴重な資料であるため取り上げてみた。

その出土は現在までのところ、児玉党に属する庄氏の拠点とされる本庄市大久保山遺跡と河内系鉄物師の大規模吹き工房と考えられている嵐山町金平遺跡の2か所に限られる。

遺物の年代は、金平遺跡から弘安四年（1281）の鋳型（30）が出土していることから搬入年代の定点が押さえられる。大久保山遺跡出土（27）は金平遺跡出土（29）と非常によく似ており、产地及び年代も近いといえよう。28についても時期はおおむね13世紀代と考えたい。

このタイプの土鍋は、これまでの西国産陶器・土器と比べ明らかに分布域が異なり、南関東では出土がない。鎌倉で似たタイプの土鍋が若干出土しているが、技法的には畿内系とされている（河野 2015）。

一方、大久保山・金平遺跡の土鍋は、技法的に山陰の出雲から伯耆辺りが产地と想定される。同タイプの土鍋が北陸地方（石川県・永町ガマノマガリ遺跡、石川県・辰口西部遺跡群⁽⁵⁾）でも知られ、また大久保山遺跡の南西約3kmにある壱田丁遺跡⁽⁶⁾では珠洲焼の壺が出土していることから、北関東には、日本海ルートで山陰方面から北陸の漆を経て陸路で物資や人の移動があったことが想定される。

問題は、西国産の土鍋が、なぜこの両遺跡に入ったかである。金平遺跡については、鉄物師の出吹き工房の存在とどう関わっていたのか。大久保山遺跡は、館の主と推定される児玉党庄氏の惣領家が鎌倉時代初頭に西遷し南北朝期に備中國で有力国人になるが、それと土器の搬入が関係するのかどうか。また、得宗専制が進む13世紀後半、それに対抗する勢力が安達泰盛を中心に北関東から上野・信濃へと日本海側

に連なる勢力であったこととどう関わるのか、興味深い点である。

5. ふじみ野市の西国産陶器・土器は何を語るか

ふじみ野市出土の南伊勢系土鍋、東播系・備前系擂鉢は、瀬戸内や伊勢湾の産地近くの湊から船積みされ、あるいはそれらが一旦集積された湊で船積みされて鎌倉または江戸湾に運ばれ、川船に積み替えられ旧入間川をさかのぼり、この地にもたらされたものであろう。または、それらの船に乗船した人物が持参したものか。さらには「関東の市」たる鎌倉で商人やこの地元の武士が購入し陸路で運んできたものかもしれない。

搬入・使用の目的については、南伊勢系土鍋は伊勢神宮関連の組織や信仰を背景に搬入され、伊勢の土で焼かれていることに意味がある煮炊具として使用された。また東播系や備前系の擂鉢は京都ブランドの西国産粉食調理具として買い求められ使用されたと考えたい。

では、当地へこのように西国の陶磁器土器を搬入させしめた要因は何であったのか。当地にはどのような政治上、流通上の背景があったのか、確認してみたい。

荒川の右岸でふじみ野市に隣接する東から北の一帯は、元暦元年(1184)、源頼朝により京都の石清水八幡宮に寄進され「古尾谷莊」として立荘された。この荘園はこの年に武藏守に就く平賀義信の子大内惟義が地頭と預所を兼ね領したと考えられている。その後、平賀(大内)家が承久の乱(1221)で没落すると、同荘は有力御家人の内藤盛時がやはり地頭兼預所として領することになる。

盛時は天福元年(1233)に亡くなるが、古尾谷八幡神社の由緒を伝える同社の銅鐘(正保4年・1647年鋳造)によれば、弘安元年(1278)に荒廃した社を当地を支配していた藤原時景が再興したことから、内藤盛時の後に藤原時景⁽⁷⁾が領したことがわかる。

石井進氏は、古尾谷莊が幕府の有力御家により預所・地頭を兼任されていることから、古尾谷莊が幕府の経済的基盤である関東御領と同様の機能を有する莊園であったことに注目している。

古尾谷莊の莊域は、江戸時代に「古尾谷十三郷」と総称された古尾谷八幡宮の氏子圏と共に通すると考えられており、それは現在の川越市古谷本郷、古谷上、八ツ島、高島、大中居、小中居、並木、久下戸、今泉、木野目、古市場、渋井、富士見市東大久保の範囲とされる。今のところ、ふじみ野市域に該当はないと考えられているが、長宮遺跡群の出土遺物の様相や遺跡群の位置が新河岸川(内川)をはさみ古市場、渋井の対岸にあることから、古尾谷莊の動向と無関係であったとは考えにくい。

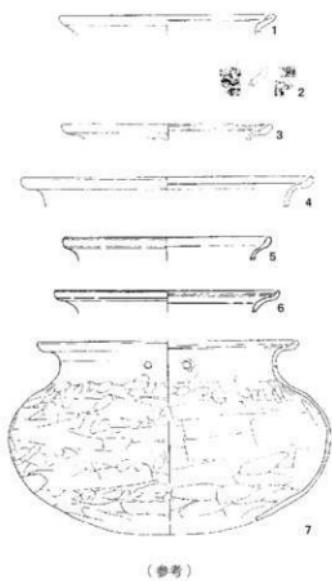
つまり、長宮遺跡群(長宮遺跡、権現山遺跡、松山遺跡等)は、鎌倉幕府の関与が強く働く古尾谷莊に隣接し、その影響を直接的に受けるような場所であったといえよう。

また、長宮遺跡群周辺について注目すべき史料として「市場之祭文写」(延文6年(1361)成立を応永22年(1415)に写す)⁽⁸⁾があげられる。これは、主に武藏国東部の各地で開催された市の市神に対し読み上げられた祝詞で、その市場開催地として「武州河越庄古尾屋市」、「武州入間郡水子市」があげられている。

「古尾屋市」については先にあげた古市場に比定する説があり、長宮遺跡群はその対岸に位置していることから、やはり「古尾屋市」との関係が指摘できる。また富士見市針ヶ谷遺跡群は「水子市」に近いことから、長宮遺跡(17)や針ヶ谷遺跡群出土(21)の備前系擂鉢はそれぞれの市で購入された可能性も考えられよう。

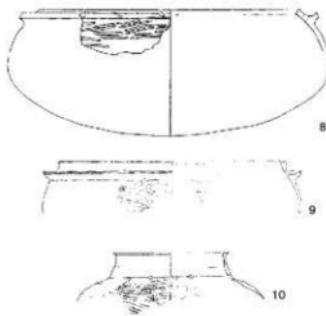
いずれにしろ、詳細は今後の調査研究の進展を待たなければならないが、中世において、ふじみ野市の長宮遺跡群一帯には西国の陶器・土器を引き寄せ得る力が働く何かが存在したことだけは間違いないのである。

南伊勢系土鍋(1～7)

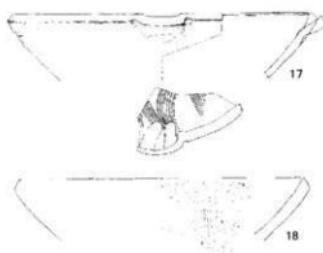


(参考)

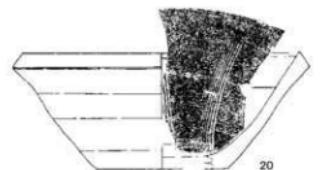
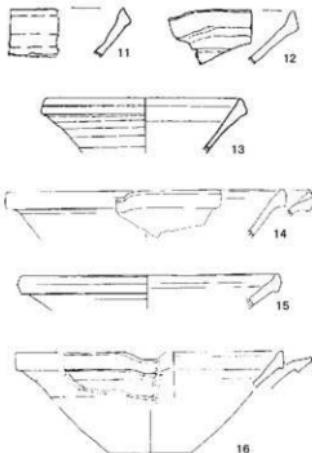
中北勢系羽釜形・茶釜形土器(8～10)



備前系擂鉢(17～26)



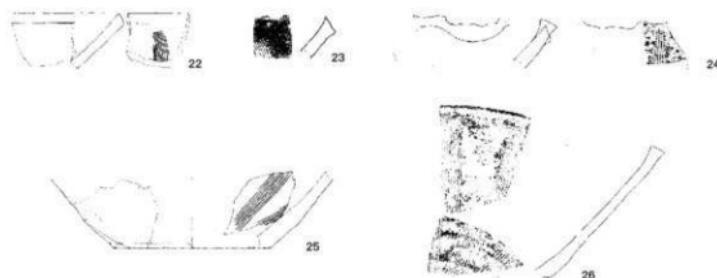
東播系擂鉢(11～16)



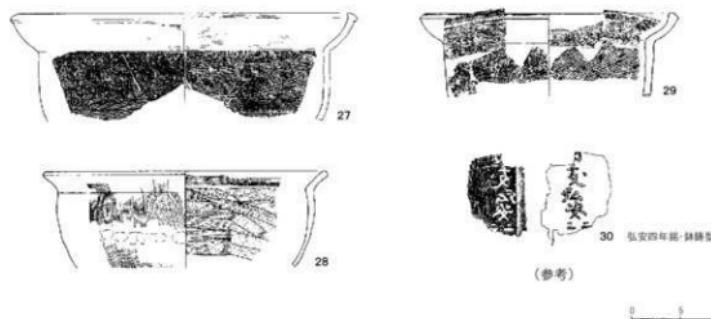
0 5 10cm

第1図 埼玉県内出土の西国産陶器・土器図①

備前系擂鉢(17~26)



山陰系土鍋(27~29)



0 5 10cm

出土遺跡

- 長宮1次(ふじみ野市)
- 白銀宮腰(さいたま市)
- 大久保領家(さいたま市)
- 大久保領家(さいたま市)
- 三ツ和6次(川口市)
- 堂地(川島町)
- 千葉地東(鎌倉市)
- 石御堂(川口市)
- 田鳥(さいたま市)
- 椎原山(ふじみ野市)
- 中条氏関連遺跡群北2地(熊谷市)
- 中条氏関連遺跡群東2地(熊谷市)
- お伊勢山(所沢市)
- 下柄(杉戸町)
- 里字屋敷添3次(川口市)
- 松山104地点(ふじみ野市)
- 長宮1次(ふじみ野市)
- 大久保領家10次(さいたま市)
- 皂樹原(神川町)
- 山口城8次(所沢市)
- 鉢ヶ谷遺跡群II(富士見市)
- 会下3次(川越市)
- 河越館1期整備(川越市)
- 河越館2期整備(川越市)
- 河越館整備2次(川越市)
- 河越館2期整備(川越市)
- 大久保山III(本庄市)
- 大久保山IV(本庄市)
- 金平(嵐山町)

第2図 埼玉県内出土の西国産陶器・土器図②

【註】

- (1) 河野真知郎氏は鎌倉での出土量を 1992 年段階(『中世土器の基礎研究Ⅳ』)では「民家 1 軒に 1 個までは入っていないと思われる」として
いたが 2005 年段階(『鎌倉考古学の基礎研究』)で「民家 1 軒に 1 個くらいは入っている」と訂正されている。
- (2) 佐佐木隆氏は『日本書紀』崇神天皇の条の武埴安彦が天皇の支配権を奪うために香具山の土を盗ませる話から「埴・土は支配領域としての「國」
を象徴」していたとする(佐佐木隆『日本神話の伝説を読む』岩波新書 2007)。また中世では、市の始まりは三輪山の市で、新市を立てるには
は三輪山の土を敷くという伝説が語られていて、実際新しく市を立てる時には既存の市の土を盗み敷いていたとされる(久野俊彦『商人の巻
物にみる民俗』『中世商人の世界』ニホンエディタースクール出版部 1998)。つまり古代中世の社会では神聖な場所の土には特別な力があると
考えられていたのである。
- (3) 在地こね鉢は東備系体の模倣とする説に対し、浅野晴樹氏は「一概に西日本との模倣による類似ではなく、結果として類似したものが生まれ
た可能性もある」と指摘している(浅野晴樹 1991「東国における中世在地系土器についてー主に関東を中心にー」『国立歴史民俗博物館研究報告』
第 31 集)。
- (4) 鎌倉から出土する多くの西国産の陶器・土器については、「食文化の京都ブランド」の観点で見る必要もあるかもしれない。そうすると南伊
勢系土器は「信仰の伊勢ブランド」とも言えるかもしれない。
- (5) «永町ガマノマガリ遺跡» 石川県埋蔵文化財センター 1987 「辰口西部遺跡群」 石川県立埋蔵文化財センター 1985・1988
- (6) «向田 A・向田 B・堺丁遺跡』 神川町文化財調査報告書第 27 集 1998
- (7) 藤原時景については、内藤系団(『統群書類綱』)にある内藤盛時の子時景とする説(落合 1993、峰岸 1994)と安達家系団(『尊卑分脈』)
安達泰盛の末弟の時景とする説(石井 1995、鈴木 2008)がある。いずれも若年頃活動の弘安 8 年(1285)に亡くなるとそれぞれの系団にある。
落合義明「古尾谷荘についての考察」『西河原遺跡－第 1 次調査－』川越市遺跡調査会 1993、峰岸純夫「鎌倉時代の地域と社会」「富士見
市史・通史編』上巻 富士見市 1994、石井進「武藏国古尾谷荘と児玉郡池屋のことなど」『新編埼玉県史だより』埼玉県 1985、鈴木宏美「安
達一族」『北条時宗の時代』八木書店 2008
- (8) «新編埼玉県史 資料編 5 中世 I 古文書 I』埼玉県 1982

【引用文献】

- 浅野晴樹 1995 「陶磁器から見た物流」『中世東国の中の物流と都市』 山川出版
- 伊藤裕博 1992 「南伊勢系土器の展開と中世土器工人」『研究紀要』第 1 号 三重県埋蔵文化財センター
- 河野真知郎 2015 「鎌倉考古学の基礎的研究」 高志書院
- 座談会 1996 「南伊勢系土器をめぐる諸問題」『博物館研究紀要』第 4 号 葛飾区郷土と天文の博物館
- 宗臺富貴子 2004 「南関東の陶磁器流れ」『中世東国の世界』 高志書院
- 鶴柄俊夫 1988 「北関東における平安時代以降の生産と流通の諸段階 I (在地土器を中心)」『中世土器研究』52 号
- 谷口榮 1993 平成 5 年特別展図録「下町・中世再発見」葛飾区郷土と天文の博物館
- 長琢孝 1993 「鎌倉・室町期の葛西地域」平成 5 年特別展図録「下町・中世再発見」葛飾区郷土と天文の博物館
- 宮瀬交二 1995 「陶磁器から見た物流」『中世東国の中の物流と都市』 山川出版
- 吉岡康輔 1995 「東国の中の都市と物流をめぐって」『中世東国の中の物流と都市』 山川出版

【第 1・2 図 所収遺跡掲載報告書等】

- 1.『上福岡市史』通史編上巻 2000
- 2.・9.『博物館研究紀要』第 4 号 173 頁 葛飾区郷土と天文の博物館 1996
- 3.『大久保領家遺跡(第 9 次)』さいたま市遺跡調査会報告書第 71 集 2008
- 4.『大久保領家遺跡発掘調査報告書(第 2 次)』浦和市教育委員会報告書第 88 集 1988
- 5.『三ツと道路-第 4・5・6 次調査-』埼玉谷市埋蔵文化財調査報告書第 13 集 2001
- 6.『堂地遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第 266 集 2000

7. 「千葉地東」神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告書 10 1986
8. 「中原後・石御堂」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 39 集 1984
10. 「上福岡市史」資料編第 1 卷 1999
- 11・12. 「熊谷市史 資料編 1 古古」 熊谷市 2015
13. 「お伊勢山遺跡の調査」早稲田大学所沢校地内埋蔵文化財調査報告書 1994
14. 「下橋」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 18 集 1982
15. 「里字屋敷添遺跡群」埼ヶ谷市埋蔵文化財調査報告書第 26 集 2005
16. 本報告
17. 「川崎遺跡(第 3 次)・長宮遺跡」上福岡市教育委員会 地土資料第 21 集 1978
18. 「大久保領家遺跡(第 10 次)」さいたま市遺跡調査会報告書第 80 集 2008
19. 「色樹原・檜下遺跡Ⅰ」色樹原・檜下遺跡調査会報告第 1 集 1989
20. 「山口城跡-第 8 次調査-」所沢市埋蔵文化財調査報告書第 28 集 2002
21. 「針ヶ谷遺跡群Ⅱ」富士見市遺跡調査会報告書第 7 集 1979
22. 「会下遺跡(第 3 次調査)」川越市埋蔵文化財発掘調査報告書第 19 集 2007
23. 「河越館跡史跡整備(第 1 期整備)に伴う発掘調査」川越市河越館跡調査報告書第 2 集 2006
- 24・26. 「河越館跡史跡整備(第 2 期整備)に伴う発掘調査」川越市河越館跡調査報告書第 3 集 2014
25. 「河越館跡史跡整備に伴う発掘調査 第 1 次~4 次調査」川越市河越館跡調査報告書第 1 集 2000
27. 「大久保山Ⅲ」早稲田大学本庄校地文化財調査報告書 3 1995
28. 「大久保山VI」早稲田大学本庄校地文化財調査報告書 6 1998
- 29・30. 「金平遺跡Ⅱ」嵐山町遺跡調査会報告 9 2000

II 川崎遺跡第16次調査からふじみ野市の古代を復元する試み

はじめに

川崎遺跡第16次調査の報告をするにあたり、市内の遺跡について学ぶ機会が頂けた。その好機を生かし、ふじみ野市及びその周辺の古代律令期の様相の復元を試みた。

本稿は、市内各地の遺跡に散らばる点の情報を集め、つなぎ合わせ、見つからないところは推論を交えて、古代の姿を蘇らせようとする甚だ拙い試みである。

1. 川崎遺跡第16次調査の概要（本文第88図参照）

最初に、川崎遺跡16次調査の内容を確認しておきたい。

本調査で最も古い遺構は8世紀後葉に位置づけられるH45号住居である。

9世紀初頭頃になると、SB2・SB4・SB6号掘立柱建物が構築される。この段階でH45号住居は廃絶されていたと考える。なぜなら、SB6号掘立柱建物の西側近くにH45号住居のカマドが位置し、同時存在したとすればSB6号掘立柱建物が火災になる可能性が高いからである。SB5号掘立柱建物は、柱穴から完形で出土した遺物の年代から3棟の建物よりやや遅れると判断した。

9世紀中頃になり、SB4号掘立柱建物がSB3号掘立柱建物に、SB2号掘立柱建物がSB1号掘立柱建物に建て替えられる。SB5号掘立柱建物については調査区内で建て替えの痕跡がみられないことから、この時期にも残った可能性がある。また、竪穴住居のH43号住居はこの時期に存在したと考える。同住居は9世紀後半での中で位置を少し北に移しH44号住居に建て替えられている。

この時期の遺物として、H43・H44号住居及びSB3号掘立柱建物からは9世紀中葉から後葉の狼投産灰釉陶器が出土する。なお、SB5号掘立柱建物の鬼門の北東隅の柱穴から底面に「井」又は「升（井の楷書）」のヘラ書きと体部外面に「禾に一」の墨書き須恵器坏が出土しており、H45号住居の覆土から類似のヘラ書きの須恵器坏が出土している点は注目される。

9世紀末から10世紀初頭になると、カマド跡だけが検出されたH46号住居が建てられるが、重複するSB5号掘立柱建物はその時点で解体されていたことになる。おそらく、SB1・SB3号掘立柱建物も、あまり時間差なく解体されたと考えられようか。

今回の川崎遺跡16次調査では、古代において「屋」と呼ばれた側柱建物が、2時期に亘って南北、東西方向に直線的に配置され発見された。また遺物では東海産灰釉陶器の瓶・皿が出土している。

川崎遺跡16次調査の成果については、今回の調査だけでなくこれまでの調査成果も踏まえると、いわゆる「一般的な集落とは異なる官衙的な遺跡」の様相を呈していると言えそうである。

そこでここでは、この16次調査を含む川崎遺跡全体や周辺遺跡が、この地域にとってどのような歴史的な背景を有するのか、検証の範囲を広げながら考えてみたいと思う。

まずは、ふじみ野市内で古代律令期の遺構が多く検出されている新河岸川沿いの遺跡群の様相を調べてみたい。

2. 新河岸川沿いの古代律令期の遺跡

遺構・遺物の変遷をみるために、8世紀前半から10世紀前半までを4期に分けて概観してみたい（図1）。なお、遺構・遺物については既刊報告書を参照願いたい。

1期 8世紀前半

2期 8世紀後半～9世紀初頭

3期 9世紀前葉

4期 9世紀中頃～10世紀前半

1期の遺構は、松山遺跡を主とし、新河岸川沿いの滝遺跡、権現山遺跡、ハケ遺跡に点在する。松山遺跡は新河岸川から少し内陸に入るが南に新河岸川支流の江川が面し、東に沼（赤沼・現水天宮公園周辺）をもつ。遺構では鍛冶関連遺構が注意される（24地点土坑1、松山100地点H53住）。

遺物では湖西産須恵器（滝17地点H23、松山100地点H53住）が入ってきており、生業等に関わる鉄製鋤先（権現山2住）、土製紡錘車（権現山2住、滝15地点H20住）、土製錘（滝26地点H43住、松山1次2住ほか）も散見される。またこの時期では希少な墨書き土器（松山遺跡93地点H50住「子子」）は特記される。

2期になると、松山遺跡の江川の対岸の福岡新田遺跡で1期の「子」を三つ連ねた墨書き土器が出ている。この時期に新河岸川上流の川が大きく蛇行するところの川崎遺跡で竪穴住居が出現する。川崎遺跡も西に沼（西沼）をもつ。2期は後半で掘立柱建物が松山遺跡を中心にして広く展開する（松山22次・45地点・55地点・56地点・65地点、滝21地点、ハケC2次）。松山遺跡ではこの時期にも鍛冶関連遺構（滝21地点H31住・松山49地点H36住）が見られ、大型井戸（12次1号井戸）が出現する。ハケ遺跡では解体された馬骨が入れられた井戸が出ている（7地点井戸1）。

この時期を特徴づけるのは相模型壺の頗著な出土である（滝2次5住・14地点H13住、松山40地点H33住、ハケC1次8住、川崎26地点H54住・宅地添4次3住）。数は少ないが甲斐型壺（滝21地点土坑4）の出土もある。ハケ遺跡の鉢帶（C4次33住）や滝遺跡のコップ形須恵器（2次4住）など官衙的な遺物が見られる。他に仏教的色彩の強い獸脚付須恵器壺（松山56地点土坑1）や鉄鉢形須恵器（松山15次9住）など有力者の存在を示唆するような遺物の出土もある。

3期では、2期まで官衙的な性格の遺構・遺物が多く見られた松山遺跡が、3期の9世紀第2四半期頃に急激に衰退する。それと入れ替わるように川崎遺跡で掘立柱建物（川崎16次2・4・6号）や鍛冶関連遺構（2次）が出現し、縁軸陶器の優品も見られるようになり有力者の存在を暗示させる（15次2住・7住）。

4期になると、遺構は川崎遺跡にほぼ限られてくる。また、川越市域であるが西沼（現寺尾遊水池）の対岸の寺尾地区で国分寺瓦を葺く堂宇が建てられ、周囲に集落が形成されるようである。おそらく沼を挟んで関連する遺跡群と考えられる。川崎遺跡西側の沼に近い場所（新井氏宅）では曳舟の水路と推定できる遺構が確認され、瓦塔（新井氏宅）が出土する。また、その約100m東では瓦（1次・2次・9次・32地点H65住）が出土する場所がある。

掘立柱建物は、現在までのところ氷川神社の北側に一つのまとまり（16次）が確認されているが、その北東や北の地域（25・26・28・30地点）でも検出始めている。16次調査の掘立柱建物はこの時期の始めに解体され、同じ場所ないし列に建て替えられている（川崎16次SB1・3号）。

遺物では灰釉陶器（川崎2次H10住・16地点・30地点H61住）が器種豊富に出土し、鍛冶関連遺物（川崎2次H23住）や種類豊富な鉄製品（川崎3次2住）の出土がある。

以上から、当地の古代律令期の歴史を明らかにするうえで解決すべき問い合わせてきた。それが次の5点である。

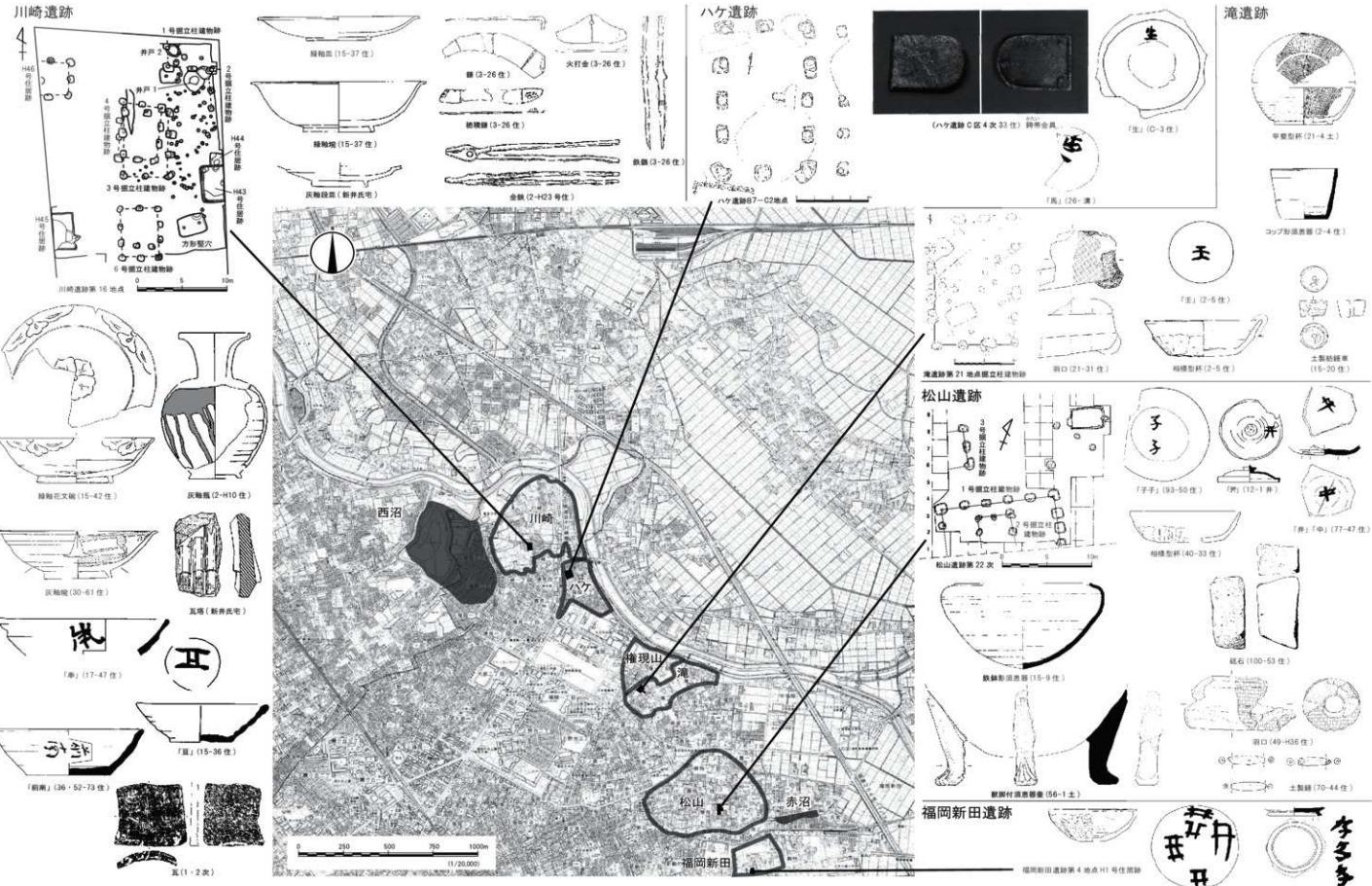
問1. 8世紀前半に松山遺跡・滝遺跡の集落が形成されるのはなぜか。

問2. 鍛冶工房やそれに関連する遺物が多いのはなぜか。

問3. 官衙や豪族層の存在を示すような遺物が出るのはなぜか。

問4. 8世紀中頃から後半かけて、相模型壺・甲斐型壺が出土するのはなぜか。

問5. 9世紀前半に、松山遺跡が衰退し、川崎遺跡が勃興するのはなぜか。



第1図 新河岸川沿いの掘立柱建物と主な遺物 (1/20,000)

3. 謎の亀久保堀跡とは

合併前の大井町教育委員会が平成5年に東久保地区の発掘調査に入る頃から、第2図のような、ほぼ東西に一直線にのびる堀跡が検出されるようになり「亀久保堀跡」と命名された。

これまでに検出された堀跡の総延長は約800m。堀の伸びる方向は西端の一部がN-21°～26°-Wで、他はN-83°-W方向に一直線に伸びる。堀の断面形態は逆台形で、確認面では上幅200～300cm、底面幅150～180cm、深さ70～100cmとなる（大井町報告16集2005梶原）。東端は富士見市との境まで確認されているので、同市内にもその延長部があると予想される。

長年本市の埋蔵文化財に携わってきた鍋島直久氏は、古文書や絵地図などに全く記載がない謎の亀久保堀跡について2005年の報告（大井町報告14集）の中で、周辺開発のために用水路として掘られたがまもなく埋め戻された堀とする説は推論の域を出ないであろうとする。また氏は、発見当初から出土遺物に近世期以降の陶器片が1点もみられないことから近世期以前に埋められた堀とみており、その考えは土壤分析によって後づけられたとして、亀久保堀跡を当地の歴史を解明するうえで注目しなければならない遺構と評価した。

梶原勝氏も同年の報告（大井町報告16集）の中で、武藏南部で発見されている中世の区画溝と形態的な比較を行い中世の溝の可能性を否定している。一方、用水を目的に掘られたが工事を中断した堀の可能性については否定できないとしている。しかし、氏は土壤分析の成果を踏まえ、「駒林」の地名に注目し、古い時代の牧の可能性をすでに指摘している。

本市は亀久保堀跡の発掘調査の際、丹念に土壤分析を実施してきた。その分析報告では、堀の最上部に天仁元年（1108年）に浅間火山より噴出した浅間Bテフラ（As-B）の降灰層準が存在する可能性があることから、堀は平安時代末にはほぼ埋積していた可能性が高いとし、さらに各地点の堀覆土の半ば程で延暦年間（782～806年）に噴出したS-24°-7の可能性のあるテフラが検出されていることから、堀の構築年代は9世紀よりも以前である可能性が推定できるとしている（大井町報告16集ほか）。

今回、川崎遺跡16地点の整理作業を進める中で亀久保堀跡の南に所在する東久保南遺跡第4地点H1から出土していた墨書が「廐」と読めるのではないかと考えた。そう読めたことで、この地域の律令期の問の答えが少しみえてきた。

亀久保堀跡は古代の牧を囲う堀である。

では、その堀によって囲まれた牧はどのように成立し、どのように経営されていたのか、具体的に見ていく。

まずはその年代である。下限は、土壤分析で延暦年間（782～806年）が示されているので問題は上限である。その答えは亀久保堀跡の西端の折れが教えてくれた。

これまででは、亀久保堀跡が現在の川越街道の手前で折れ、それに並走することから、亀久保堀の掘削は近世以降、遡っても戦国時代以降ではないかという暗黙の前提があったように思われる。しかし、この前提自体、土壤分析によって再考が迫られていたといえる。

4. 伝路の復元をとおして牧の年代を探る

私は以前、入間郡家と足立郡家（大久保領家遺跡）を結ぶ伝路は現在の日高県道（県道15号）に近いルートを通るだろうと予想したことがある（1）。

そのルートとは、入間郡家のそばの東山道武藏路の駅家（八幡前・若宮遺跡）から東に向かい入間川を渡河するというルートである。川越台を上ると左手に官衙的な大型井戸や縁軸陶器の優品を出土する仲町遺跡がある。その先の右手には入間郡の有力郷の中心城と推定される小仙波4丁目遺跡・弁天西遺跡がある。足立郡家への伝路としてこの東西方向のルートが適当だろうと考えた。

問題はこの先で、そのまま東に向かって、台地を下りたところから南西に進み旧入間川を渡り足立郡家に至るルートがまず考えられる。しかしこのルートは、旧入間川が形成した氾濫原を斜めに渡るコースとなり、伝路の敷設やその維持管理がかなり困難と予想される。とすれば、できる限り陸路を通り、氾濫原での渡河の距離が短い場所を選んだのではないかと考えられる。

足立郡家まで極力陸路を使い至る適切なルートは、現日高県道に近いルートから川越街道（国道254号）に乗り換え、水量の少ない不老川を渡河した後で松山遺跡の方に向かい、そこから真東に渡河するルートと考えられる。

このルートには、川越台を下りる手前の熊野神社西遺跡に7世紀末の古代瓦を出土する廃寺（仮に熊野神社西廃寺とする）がある。その崖沿いには総延長が1キロはありそうな岸町横穴墓群がある。台地を下りる坂は「鳥頭坂」と呼ばれ、中世の紀行文にも度々登場する場所となっている。なお、不老川を渡河した後、松山遺跡に向かう道は江戸道と呼ばれた古道である。

つまり、松山遺跡は入間郡家と足立郡家の間の伝路の中継点として、また入間川を亘る渡津の役割を託され、8世紀前半に計画的に作られた集落と考えられる。また、渡河する船を停泊させた場所が東の赤沼と思われる。

これが問1の8世紀前半に松山遺跡とそれに続く滝遺跡が形成された理由の答えである。

では、入間郡家を割いて建都されたとされる新羅郡家とをつなぐ伝路は、どこを通っていたのか。

入間郡家と足立郡家の伝路が現日高県道に近いルートから川越街道に乗り換え南に向かうルートを選んだのだとすれば、さらに南の新羅郡へ向かう新たな伝路は、そのルートを延長することを選ぶのは当然のことと考える（2）。

つまり、亀久保堀跡が西の端で川越街道を避けつつ、それに並走しているのは、牧の区画の堀を設ける時点で、入間郡家と新羅郡家を結ぶ伝路があったか、あるいは予定コースが決まっていたからであろう。また、亀久保堀の見事なまでの直進性は、伝路が持つ直進性とよく符合している（3）。

よって、亀久保堀跡の掘削の年代、つまり亀久保堀跡で区画された牧の開始年代は、新羅郡が建都された天平宝字2年（758）以降で、土壤分析の結果が示す延暦年間（782～806年）以前といえる。

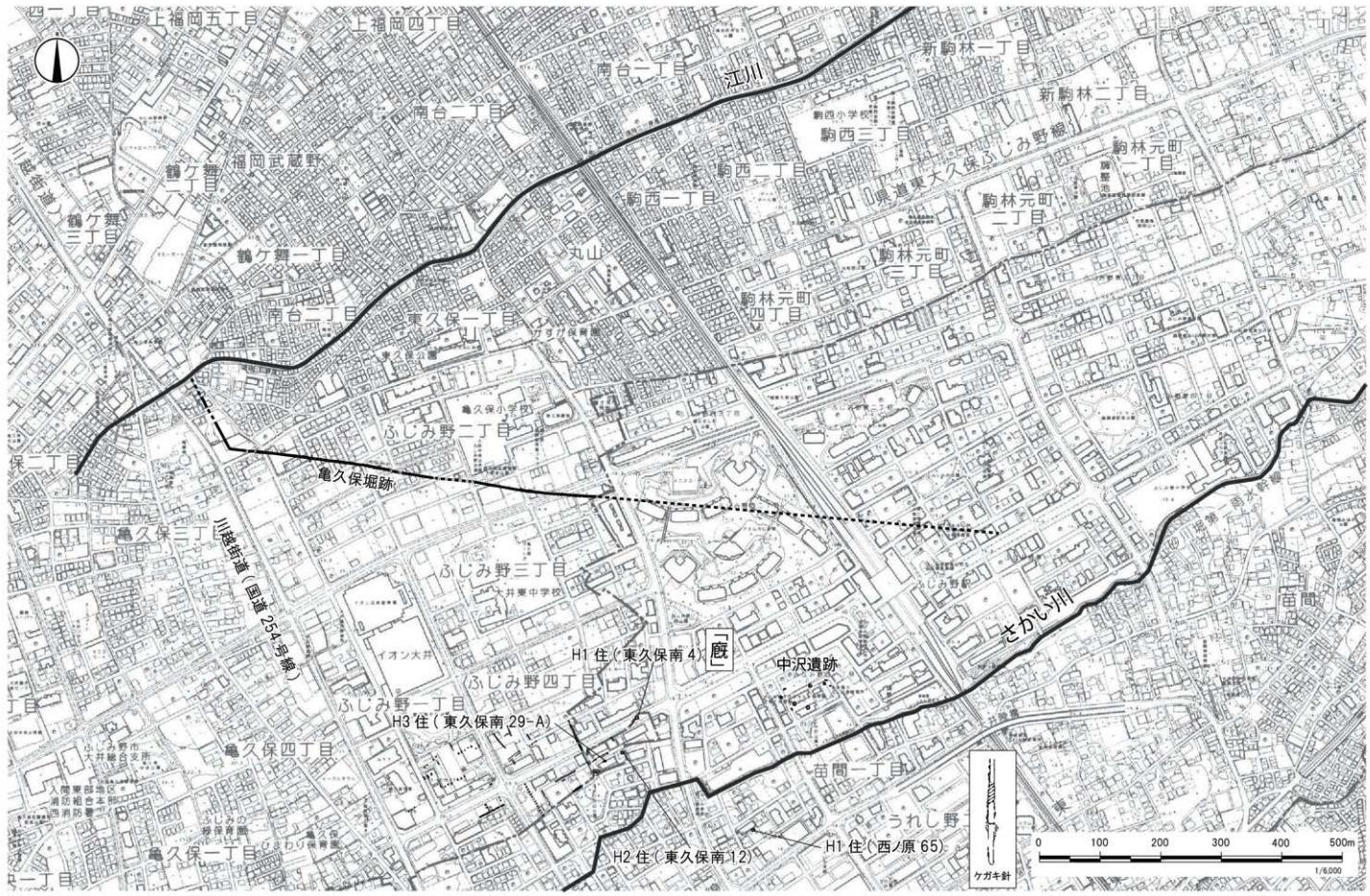
5. 大井戸と伝路

現在の川越街道に近いルートが入間郡家と新羅郡家を結ぶ伝路とした場合、もう一つの長年の疑問が氷解する。

それは、旧大井町の町名の由来となった「大井戸」（第3図）の年代である。曾称川（俗称砂川堀）左岸のふじみ野市大字大井字東原219に所在するこの「大井戸」の掘削時期は長年不明とされてきた（4）。旧大井町が1975年に発掘調査を実施したところ、一片の平安時代と推定できる須恵器片が発見されている。わずか一片ではあるが近隣に古代の遺跡が所在しないことから時期判断の貴重な資料といえる。報告書では「大井の地名の起源は、武藏七党の村山党の一族「大井五郎大夫」がこの地に住したことに始まる」といわれ、井戸から大井名が出たとすれば、鎌倉期の12世紀には、この井戸が存在したことを示すと述べている。「また小字「おい戸」の東側には、鎌倉街道と地元民によっていわれている「古坂」が通っている」とある（5）。

富元久美子氏は、発掘調査等で検出された武藏国内の大型井戸を集成し分析した結果から、古代の大型井戸は官的交通機関の結節点に設けられ、それが後の宿の置かれる場所となるとしている。氏に従えば、「大井戸」は入間郡家と新羅郡家のほぼ中間点に位置する結節点と理解できる。

また、富元氏は松山遺跡の大型井戸（第4図）にも注意を向けており（6）。井戸の年代は覆土の遺物が9世紀前半ということから、9世紀代の井戸とされるが、おそらく8世紀代には存在した井戸であろう。例



第2図 亀久保塚跡の位置及び牧関連遺物

えば東山道の駅家に関わるとされる川越市八幡前若宮遺跡の大型井戸は、井戸構築時と廃棄時の遺物の年代差が約200年あることから改修されながら使われ続けていたことが分かっている。松山遺跡の大型井戸についても伝路が敷設された当時まで遡る可能性は十分であろう。

つまり、松山遺跡の大型井戸は8世紀前半に入間郡家と足立郡家を結ぶ伝路の中継点であり、渡津である場所に設けられた井戸で、川越街道沿いにある「大井戸」は8世紀後半に入間郡家と足立郡家を結ぶ伝路の中継点に設けられ井戸であったと考えられる。

6. 龜久保堀跡が囲う牧とは

さて、ここで牧に戻って、その範囲はどこまでなのかを考えてみたい。

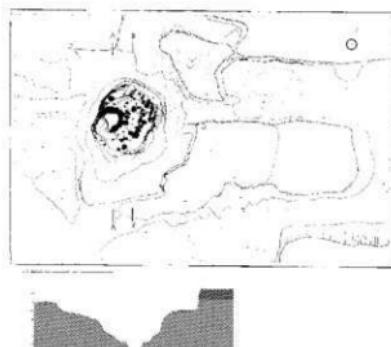
北については新河岸川の支流の江川が区画し、南は亀久保堀が東に延びてさかい川と交わり仕切ったと推定できる。西は亀久保堀が北に折れて、すぐに江川に接することで囲える。東については、新河岸川が区画し得る。ただし、東部分については、北を画する江川の南側の福岡新田遺跡で8世紀後半の堅穴住居が存在し、さらにその東の新河岸川に近い位置に9世紀の堅穴住居が検出される伊佐島遺跡があることから、東の区画については、どのように区画していたのかも含め今後の調査による解明が待たれる。仮に福岡新田遺跡辺りが東の区画とした場合でも、牧の面積は約100ha余りある。

では、ここで亀久保堀跡を牧の区画溝とする根拠を確認しておこう。

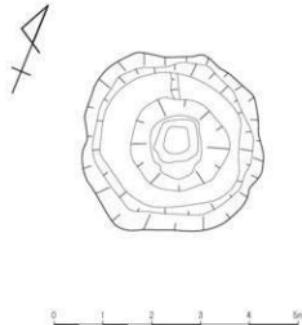
まず第一は、亀久保堀跡から約300m南の東久保南遺跡の9世紀の堅穴住居から「履」の墨書き土器が出ていることである（第5図）。

次は、亀久保堀跡の堀の形態が他地域の古代律令期の牧遺構とされる遺跡で確認されている牧格（牧の区画溝）と共通性が認められることである。松崎元樹氏は古代の牧格跡例として町田市木曾森野遺跡と群馬県安中市中原遺跡の堀をあげているが、亀久保堀跡の堀も規模及び形態において近いことが分かる（第6図）（7）。

また、牧の経営に関わったと考えられる集落のハケ遺跡（26地点）の溝から9世紀前半の「馬」（第7図）の墨書き土器が出土していることも根拠となる。



第3図 ふじみ野市の「大井戸」(1/100)



第4図 松山遺跡(12次)の大型井戸(1/100)

さらに同遺跡の7次調査区井戸1から古代と推定される解体された馬の骨（第8図）が出土していることもあげておきたい。古代の遺跡で出土する牛馬死体は牛革・馬革などの原料として加工された後、溝や土坑に廃棄される例が多いという（8）。ハケ遺跡の例もそのような馬の事例と考えられる。

これと関連するものが、「厩」の墨書き土器を出土した東久保南遺跡に隣接す西ノ原遺跡の9世紀中頃のH1住居から出土しているケガキ針状の鉄製品（第9図）である。この竪穴住居では土間中央に炉があり、ケガキ針は南寄りの床面から出土した。ケガキ針は彫金だけでなく皮革製品の製造にも使用されることから、馬具の皮革製品を作る工房があった可能性が指摘し得る。

ここで、問2の鍛治工房や関連遺物が多い理由がわかってきた。それは、馬の飼育や牧に必要な鉄製品の需要が多かったからである（第10図）。そのように鍛治工房が多い点も、各地の牧遺跡で見られる特徴と共通する。

地名の「駒林」も根拠となろう。『新編武藏風土記稿』には「村名の起りは昔林の中に駒馳れしことありし故かく名づく由、信するに足らざれど、暫く里人の傳るまゝを記せり」とあり、幕末には牧としては使われていなかったが、発掘調査では駒林遺跡内で中世段階の南北方向の堀が検出されており、その堀の覆土から馬歯が出土していることから、律令期の牧がそのまま継続したとは言い難いが、牧として再生できる形状を保ちながら中世段階で再び牧として利用された可能性は高いと考える。また、「駒林」という地名が現在検索されている亀久保塚跡より主に東の地域の地名であることは、古代の牧が、より東へ広がっていたであろう根拠にもなる。

では、この牧の現地経営に関わった人々はどこにいたのか。

「厩」墨書き土器を出土した東久保南遺跡、その近隣でケガキ針を出土した西ノ原遺跡、牧から少し離れるが「馬」の墨書き土器を出土した新河岸川沿いのハケ遺跡等がまず考えられる。

では、牧を現地で直接運営する管理責任者はどこにいたのであろうか。

牧の北側の区画が江川であったとすれば、牧に最も近い松山遺跡が有力である。8世紀前半には成立し9世紀初頭まで、この地域で最大規模の有力な集落であったことから、その時期、現地経営の管理責任者である有力者は松山遺跡内にいたと考えるべきであろう。ちなみに松山遺跡では、2019年の段階で時期不明も含め53軒の竪穴住居が検出されている。

また、牧から見て松山遺跡の反対側にある東久保南遺跡と富士見市中沢遺跡では、8世紀代の竪穴住居が5軒確認されている。これらは松山遺跡の有力者の指示のもと、牧の現地経営に当たっていた小集落か、または、牧に馬が放たれる季節に限って使用された建物と予想される。

ところが、松山遺跡が衰退した後も東久保南遺跡と中沢遺跡では9棟の竪穴住居が確認されている。その中には牧に關係する「厩」の墨書き土器を持つ住居や馬具の皮革製品工房跡が存在することから、牧の経営が統一していたことは間違いないだろう。ではそれはどの集落が運営管理していたのか。

それが、川崎遺跡、ハケ遺跡と考えられる。

川崎遺跡・ハケ遺跡は8世紀後半頃から集落の形成を見るが、その段階では規模が小さかった。ところが9世紀になると竪穴住居が爆発的に増え、整然と並ぶ掘立柱建物も出現していく。遺物の面でも縁袖陶器の優品や灰釉陶器、瓦塔、瓦が出土するようになり、さらに鍛冶工房跡も確認されるなど、有力な集落に成長している。

また、明治初頭の地図からではあるが、ハケ遺跡から牧の西端に延びる直線的な道が存在していることからもその繁がりがうかがえる。

間違いなく川崎遺跡・ハケ遺跡が9世紀段階の、この地区の中心的な集落であり、おそらく牧の経営を引き継いだと考えられる。

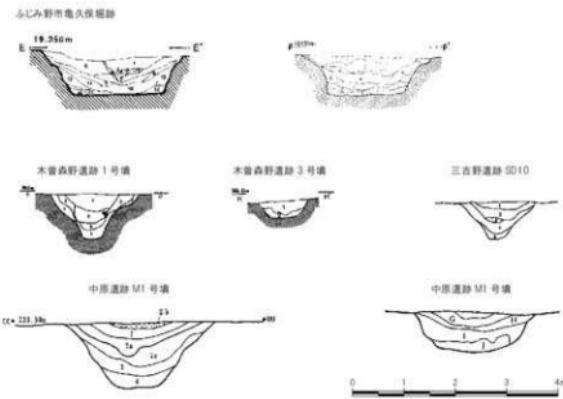
ここで問3の答えが見えてきた。松山遺跡と川崎遺跡には、牧の現地経営を行い、伝路の中継点や津の



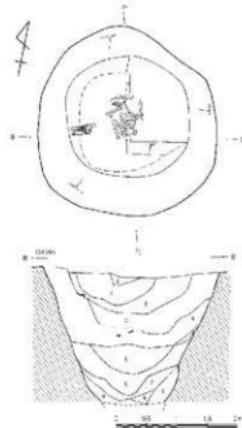
第5図 東久保南遺跡第4地点
H1号住居跡出土「底」墨書



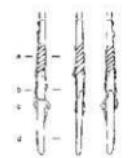
第7図 ハケ遺跡第26地点
溝出土「馬口」墨書



第6図 亀久保堀及び各地の牧格の断面図



第8図 ハケ遺跡第7地点井戸1



第9図 西ノ原遺跡
のケガキ針



第10図 鋼冶関連遺構・遺物

業務をこなす有力者が存在し、それにふさわしい品々を保有していたと考えられる。

7. 墨書き土器から遺跡をみる

ふじみ野市内の古代律令期の遺跡では、漢字等を墨書きした土器が出土している。それらの文字から、遺跡の性格や動向を読み解いてみよう(11図)。

松山遺跡では8世紀前半に墨書き土器が出現する。それが1と2の「子子」で、次が8世紀中頃の5の「子子」、8世紀後半の10の「子子子」、最後が8世紀末から9世紀初頭の16の「子子子」と続く。「子」は松山・福岡新田遺跡の集落の最初から最後まで系譜が追える墨書きとなっている。

書体及び文字数から、8世紀前半と中頃の1・2・5が2文字で、8世紀後半から末ないし9世紀初頭の10・16が3文字の「子」を記す。字体は1・2が楷書風で、続く5がやや草書風と異なるが、再び10・16は2と似た字体となる。ただし10・16は一画目の入りで右上から左下にはらう特徴的がある。

以上から、1は全体が不明なので外すとして、2→5→10・16という変化と系譜が指摘できる。

このような墨書き文字の差異と系譜は集落内における分布と変遷とも対応している(12図)。2は松山遺跡の南東端の江川寄りにあり、10は江川対岸の福岡新田遺跡の出土で、16が2の近くの掘立柱建物の柱穴から出土していくまとまりをなす。一方、書体が異なる5は松山遺跡の反対側、北西部の堅穴住居から出ている。

「子」の墨書き土器に次ぐ数が出ているのが「中」で7~9の3例、次が14・15の「开」(井の楷書体)の2例、「万」は「千」か「子」の字と組になって1例あるが、亀久保塙跡の東端のさかい川対岸に位置する神明後遺跡で「十萬」が出ているのは注意される。

この「中」は8で「井」と組となり、11では「井」と「开」と組となるという関連性が指摘できる。さらに「万」も含め「中」「井」「开」は松山遺跡の西寄り、12地点の大型井戸・55地点の掘立柱建物付近に集中する傾向がある。

墨書き土器の文字は家号の役割を果たしていたとする説⁽⁹⁾に従えば、松山遺跡内には東に「子」を家号とする集団、西に「中」「井」「开」「万」を家号とする集団と二つの集団が存在したといえる。また、それぞれの集団の地区内に8世紀末から9世紀初頭頃に掘立柱建物がつくられている。ただし大型井戸は今のところ西の集団内だけに存在する。

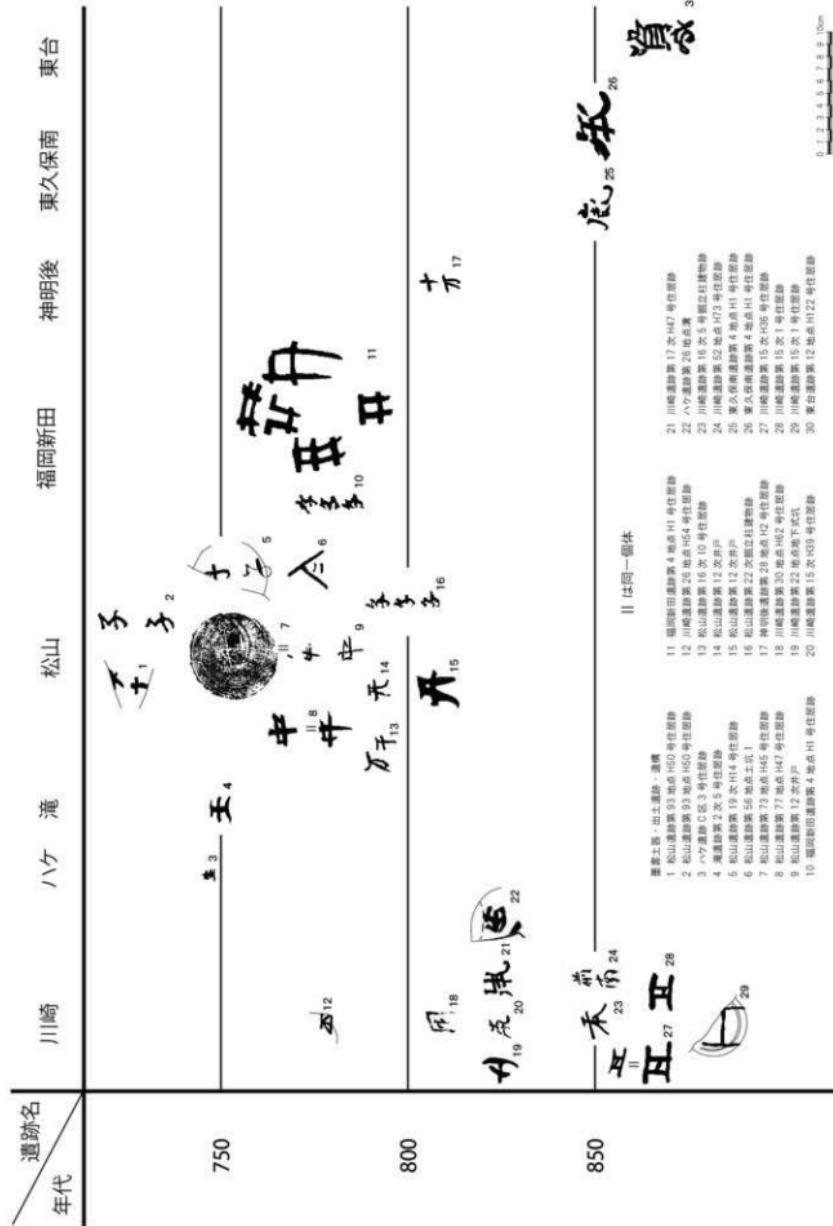
松山遺跡は9世紀初頭までは、遺構や遺物の面から栄えていたといえるが、それ以降急激に衰退に向かう。一方、9世紀初頭までは小さな集落であった川崎・ハケ遺跡がそれ以降栄え、牧の経営を引き継いだのではないかと予想したが墨書き土器からはどう見えるか。

まずは、先に指摘したハケ26地点溝出土の「馬」墨書き土器で、牧との関係は明らかであろう。20・21の則天文字風の「奉」では、21と同じ字体の26「奉」が、東久保南遺跡で牧経営の関わりを示す25「厩」と共存していることは、川崎遺跡が牧の南で経営にあたっていた地域と関わっていたことを示しているといえよう。

以上、墨書き土器からも牧の経営を川崎遺跡が引き継いだことが理解できるといえる。

川崎遺跡で興味深いのは、他でもほとんど見かけない27・28の記号のような墨書きである。

これを「わたる」「わたす」の「亘」(案1)または「亘(楷書体)」(案2)と読んだ。つまり、一画目と六画目が「日」の字に付いた合わせ文字と理解した。中央の横棒が斜めになるのは、案2の楷書体が意識されているようにもみえる。案2の字は「上下に二線の間に舟をはさみ、こちらから向こう岸までわたることを示す会意文字」(『学研漢大辞典』1990)のことである。この漢字の持つ本来の意味を踏まえると、この記号風の文字は、川崎遺跡が松山遺跡から引き継いだもう一つの性格、入間郡家と足立郡家の渡河点の施設という意味を示すと言えようか。



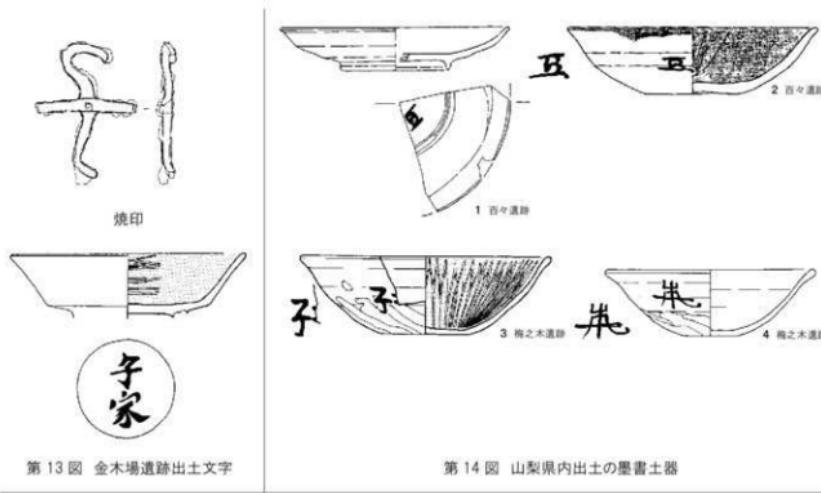
第11図 ふじみ野市出土の古代律令期の墨書き(1/4)



第12図 松山遺跡の墨書き土器と集団

実は、ここで取り上げた「子」、「豆」の文字が、他の地域の牧関連の遺跡で見出せるのは注目される。13図は茨城県金木場遺跡から出土した9世紀の「子」の焼印と「子家」の墨書き土器である。14図は山梨県内の牧関連遺跡から出土した墨書き土器である。1と2は川崎遺跡出土の合字の「豆」と似たもので、甲斐国八田牧とされる山梨県南アルプス市百々遺跡2で出土している。なお八田牧は前御勤使川と御勤使川に挟まれた牧である(10)。3・4は山梨県明野村梅之木遺跡出土の墨書き土器である。同遺跡は9世紀後半から11世紀前半にかけての集落遺跡であるが、焼印や馬骨が出土し鐵冶工房が多く検出されたことから甲斐国小笠原牧の関連遺跡と推定されている。梅木遺跡からは松山遺跡の「子」や川崎遺跡・東久保南遺跡の「豆」「奉」が出土している。「子」「奉」は出土例として珍しいものではないが、「豆」は類例が少なく、牧や河川の渡河に関わる集団を表象する文字の可能性も指摘できる(11)。

入間郡内の「牧」を語る上で外せないのが、坂戸市山田遺跡の「片牧」と川越市弁天西遺跡の「片牧家」である(第15図)(12)。



第13図 金木場遺跡出土文字

第14図 山梨県内出土の墨書き土器



第15図 入間郡内出土の墨書き土器

特に、弁天西遺跡の「片牧家」出土地点からふじみ野市の牧までは約6kmという距離にあることから、本市の牧遺構が「片牧」と呼ばれていた可能性がひとつ考えられる。その場合、「片」の意味が入間郡の「片端」の「片」とも読めるし、また本牧に対する「片われ」の「片」とも読みそうである。後者とすれば、田中広明氏が茨木県金木場遺跡の出土の「子」の焼印や「子家」の「子」を「元(本)」家に対する「子」と読める可能性を指摘したように「片」と「子」が近い意味を持って使われていた可能性が考えられる⁽¹³⁾。

ただし、本市の牧の広大さを思うと「片牧」のレベルなのか、悩むところはある。

なお、「片牧家」を出土した弁天西遺跡は、8世紀後半に、ふじみ野市を中心とした新河岸川沿いの遺跡同様、いやそれ以上に沢山の相模型坏を出土する遺跡で、相模型坏を出土する新河岸川沿いの遺跡と何らかの関係を持っていたことが予想される⁽¹⁴⁾。

8. 年代の齟齬とその背景

ところで、これまで述べてきた牧の年代の上で、開始時期に相当する年代が二つあげられていることをお気づきであろうか。一つは、牧の南を画する亀久保堀跡の掘削年代が新羅郡建郡の天平宝字2年(758)より古くならないとする年代。もう一つが、牧の現地経営の目的で設けられた松山遺跡と東久保南遺跡・中沢遺跡の集落の形成が8世紀前半にあるという、二つの年代の齟齬である。

この時期差の矛盾はなにか。その理由はこう理解する。

8世紀前半、牧は、松山遺跡の「子」集団が中心となって現地経営を始めた。放牧は北の江川とその南のさかい川に挟まれた範囲でおこなわれ、松山遺跡とその反対側の東久保南遺跡・中沢遺跡にも集落が置かれた。

その後、新羅郡が建郡され入間郡家と新羅郡家を結ぶ伝路が放牧地の西部分を縦断することとなった。そこで、放牧された馬が伝路の通行を遮ることのないように亀久保堀が掘られたのではないか。このように解釈すれば年代のズレの説明はつく。

ただ、伝路敷設と亀久保堀の掘削は同時であったのではないかと考えている。なぜならば、何れも律令的な直線を指向しているからである。その位置決めには同じ意思が働いているように見える。

亀久保堀跡の牧は、入間郡の中の有力郷で、牧にも近い大家郷が設置に関与していたと考えられる。その現地には8世紀前半に「子」を家号とする集団が送り込まれた。当初は、北を江川、南をさかい川、東を新河岸川に囲まれた範囲で放牧を行なっていたが、天平宝字2年に新羅郡が建郡され、現在の川越街道の位置に伝路が敷設されるに及び、西に牧を区画する施設が必要となり、亀久保堀が掘られた。それはおそらく伝路敷設の作業と同時に行われたのであろう。

加えて、「片牧」「片牧家」の墨書き土器がいずれも8世紀中頃の須恵器坏であることから、この時期からこの名称が使われ始めたのだとしたら、亀久保堀が掘削された8世紀中頃に牧の運営管理の体制に変化があったと予想され、それを契機に「片牧」という名称が使われ始めたとも推測できる。

ここまでくれば問4の答えも出してよさそうである。

8世紀中頃から後半にかけて、相模型坏や甲斐型坏が多く出土するのは、天平宝字2年に新羅郡が建郡され、新たな伝路の敷設や牧経営の変化に対応するための、相模国や甲斐国方面から人を移住させた結果であったと考えられる。人を集めめる理由は他にもあったと考えるが、それは最後に述べる。いずれにしろ、伝路敷設、伝路中継点・津の維持管理、牧の現地経営等のための相模国や甲斐国からの移住であれば、国を超える人の移動であることからして、入間郡司の了解のもと、国司が関与していると考えるべきであろう。

ところで、今さらではあるが、これまで述べてきた考え方、現川越街道に近い官道が、天平宝字2年(758)の新羅郡建郡に伴う伝路という前提での話である。しかし、この伝路について違う年代が考え得る

ことも、一応触れておきたい。

それは、現川越街道に近いルートが新羅郡建郡以前の入間郡家と豊嶋郡家との間の伝路の可能性である。この説であれば、亀久保堀跡の土壌分析の結果と齟齬はないし、あえて牧設置の年代と掘削の年代をずらす必要もない。また川越台を南に下りる位置にある仮称熊野神社西廃寺が7世紀末に創建される意味がむしろ理解しやすい。この場合、この伝路の敷設年代は8世紀前半頃となり、入間郡家と足立郡家をつなぐ伝路と同じ時期になる(15)。

今回この説を採らなかったのは、8世紀中頃に見られるこの地域の変化を重視したからである。やはり、その契機は新羅郡建郡に求められるだろうと判断した。

9. 残された課題

仮に、この牧が本牧に対する片牧とした場合、その本牧がどこに所在するかが問題である。

また、飼育された馬は、どこに、何の用途で貢馬されたのかも重要であろうが、それを明らかにする史料も能力も、私は持ち合わせていない。

ちなみにこの牧が当時においてどの程度の規模の牧であったのか、少し考えてみたい。

福島邦男氏(16)によれば、古代の牧においては、1頭あたりの放牧地面積には2haが必要とされたという。また5歳馬1頭を貢馬するためには25頭は必要だったとされている。

$$100\text{ha} \div 2\text{ha} = 50\text{頭} \quad 50\text{頭} \div 25 = 2\text{頭}$$

この計算から、ふじみ野市の牧では50頭の馬が飼育でき、年に2頭が貢馬できたことになる。また、養老飼牧令五牧毎牧条には「一群百疋」、同条に牧長・牧子など飼育従事者「一群百五十人」とある。一群が百頭とすると50頭だと半群となり、150人の半分の75人がこの牧の経営に必要であった計算となる。あくまでも参考の数字である。

ところで、牧経営の当初から関わり、松山遺跡の衰退とともに姿を消した「子」の集団はどこから来て、そしてどこ行ったのか。

8世紀前半の竪穴住居出土の土器をみると、「子子」の墨書が記された土師器壺も含め、入間郡域で主體を占める続比金型壺と胎土や底部の作りが異なる土師器壺が多くみられる点は注意される。また富士見市域の中沢遺跡では、それに甲斐型壺が共伴する。これらの土師器の故郷が「子子」を集團表象とする集團の故郷かもしれない。今後、詳細に検討してみたい。

また、古代牧が多く存在した山梨県内の牧関連遺跡には本市の牧関連遺跡と同じ「子」「亘」の墨書き土器を出す遺跡があることを指摘した(梅之木遺跡I百々遺跡)。茨城県の金木場遺跡の「子」焼印は松山遺跡で「子」の集團が姿を消す9世紀の焼印である。直接関係するとは言えないとしても、牧経営に携わる集團が表象として使う文字には共通点があったことも考えられ、やはり今後検討が必要であろう。

なお、今回取り上げてなかったが、この地域の律令期を語る上で外せないのが、東台製鉄遺跡である。

この遺跡は松山遺跡の南約2.5kmに位置する8世紀中頃から9世紀初頭の武藏国でも古い製鉄・鋳造工房群の遺跡である。高島英之氏は、古代律令期の「牧」には製鉄・鍛冶工房、皮革製品工房等が附属しており、最先端技術基地であると同時に、基幹物資の生産流通・各種経済活動・労働力の拠点としての側面も有していた」とする。東台製鉄遺跡を含めこの地域の古代の景観は、高島氏の指摘そのものを具現化しているといえよう(17)。

そして、当該地の8世紀中頃に起こる変革には、東台の製鉄・鋳造工房群の動向が大きく関係していたであろうことは注意されなければならない。

10. 瓦の水上輸送の可能性

最後に、松山遺跡と川崎遺跡のそばの沼について、予察を述べておきたい。

なぜ、この二つのこの地域の中心となった遺跡が沼のそばに置かれたのか。当然、渡津であれば船の停泊地が必要なのはわかる。

しかし、そこで気になるのが、川崎遺跡東方の入間川の氾濫原の中央に浮かぶ自然堤防上の地名「久下戸」である。入間郡家の所在地論争が盛んだったころ、この久下戸も「くげ」という音が「ぐうけ=郡家」に通じることから、郡家所在地の候補にあげられていた。しかし、現在霞ヶ関遺跡入間郡家説がほぼ確定した状況で郡家所在地とするのは難しい。

ところが、今まで見落とされていた「ど」の音に注意してみると、「くげど」は「ぐうけど」つまり「郡家津」が転じた地名ではないかという仮説が立てられそうである。

8世紀中頃の武藏国分寺造営瓦の生産、9世紀中頃の七重塔再建瓦の生産と入間郡が主導的に事業に関与していたことはすでに明らかにされている。そうした場合、当然窯元から国分寺までの輸送にも入間郡が関与していたであろうとみるのは自然ではなかろうか。

つまり、久下戸の「郡家津」とは、入間郡の郡津で、南比企窯の瓦は入間川の支流の越辺川を介して、東金子窯の瓦は入間川を介して水上輸送し、両河川が合流する位置の郡家津を中継点にして、事によっては検品もを行い、東京湾に出て多摩川をさかのぼり、国府や国分寺まで運んでではないか。また、郡家津を利用する水上輸送では、筏にした国府・国分寺の建築部材も運ばれたことが予想できる⁽¹⁸⁾。松山遺跡や川崎遺跡にいた有力者は、そばの沼に停泊させていた船を使い、郡家津の業務を補助していたのではないか。

創建期の瓦については確認できていないが、承和12年(845)以降の武藏国分寺七重塔再建期の八坂前窯の瓦が川崎遺跡の沼の対岸の寺尾地区で発見されている。また寺尾廃寺の瓦とされる軒丸瓦も塔再建時の可能性が高い高麗系の瓦とされ、東金子窯産の瓦とみてよいのではなかろうか。国分寺瓦の使用は、その造営に貢献のあった豪族に限って使用が特別に許されたことから、東金子産の瓦輸送に寺尾遺跡の有力者が関与し、川崎遺跡もそれに関わったと考えられる。そのような背景があつて川崎遺跡16次の「屋」の掘立柱建物は9世紀中頃に建て替えられたと考えられないか。例えば瓦の一時保管倉庫として。

ここで問5の、なぜ9世紀前半に松山遺跡が衰退し川崎遺跡が勃興したのかという問い合わせらしきものが出来るかもしれない。

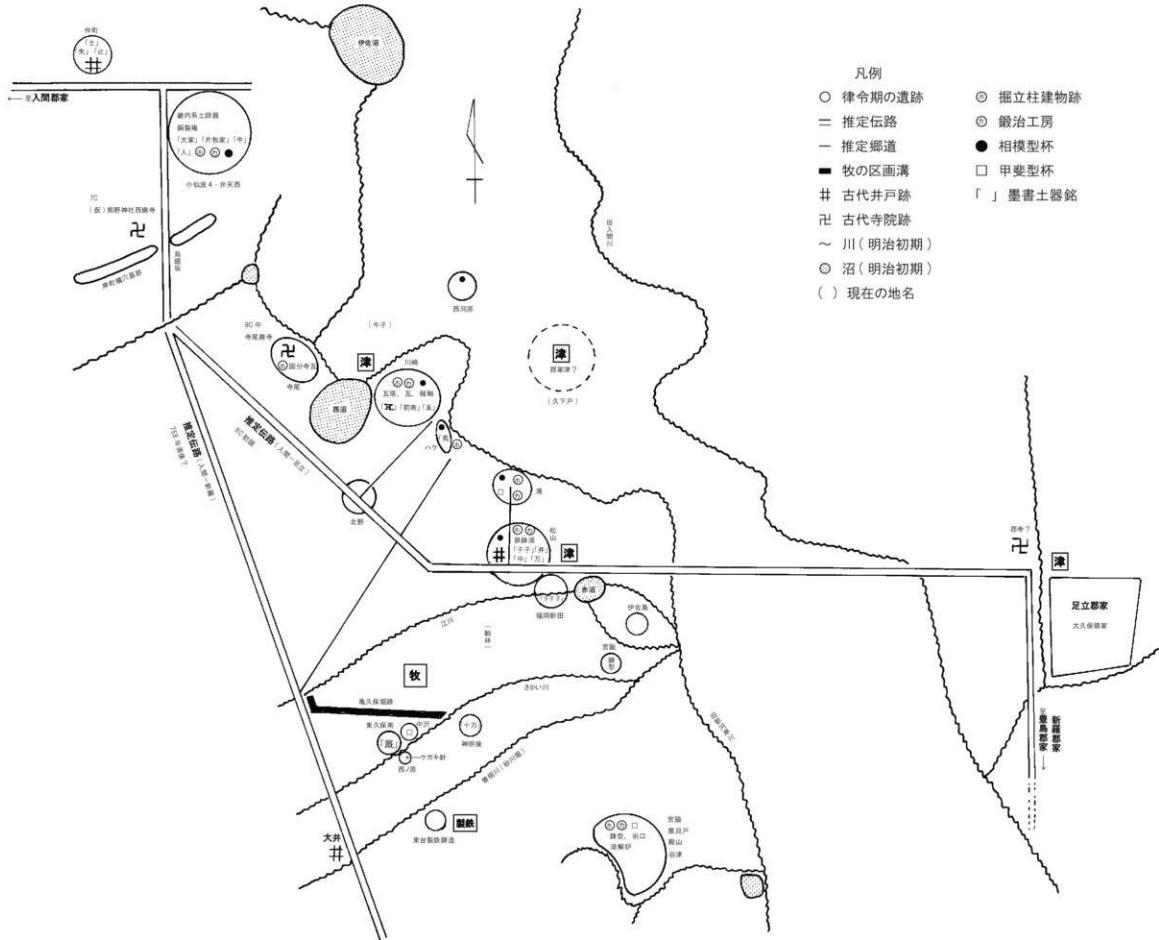
ひとつは、松山遺跡から川崎遺跡に人及び機能の移動があった。ただしその場合、墨書土器にはその連続性が見て取れない。二つ目は寺尾地域の有力者と組んだ川崎遺跡の新興勢力が松山遺跡の持っていた機能を継承または奪い取ったか。三つめは、松山遺跡の有力者自身が寺尾地区も含めた新興勢力であったか。いずれにしろ、その正確な答えは今後の研究に委ねたい。

11. ふじみ野市の古代の景観復元の試み（第16図）

武藏国に東山道武蔵路が敷設された7世紀の後半頃から、在地の地域社会は目に見えて変化を遂げ始める。それはかつてないほどの数のヒトとモノの移動をもたらした。陸上の道路のように痕跡を残しはしなかつたが、水上の移動手段もその変化を担つたのであろう。

ふじみ野市域の律令社会が大きく変化を遂げはじめるのは、8世紀前半、松山遺跡や淹遺跡に官の意思で集落が形を成した頃からである。その集落の設置目的は、江川とさかい川に挟まれ牧の現地経営と、入間郡家と足立郡家をつなぐ伝路の中継点・渡津としての機能を担うことであった。

天平13年(741)、聖武天皇は仏教による鎮護国家を目指し、国ごとに国分二寺を造る詔を出す。当初国司指導で始められた造営は進捗がはかばかしくなかったため、天平19年、郡司主体に切り替えられる。



第 16 図 ふじみ野市周辺の古代律令期景観復元

また、天平宝字2年(758)には、帰化した新羅僧等を入間郡の南の閑地に移住させ新羅郡が建郡された。8世紀中頃のこの二つの出来事は、当地に大きな変化をもたらした。

その一つが入間郡と新羅郡の伝路の敷設であり、もう一つが製鉄・鋳造工房(東台製鉄遺跡)の操業である。加えて牧の経営にも変化がみられたようである。

武藏国分寺造営には入間郡が積極的に協力している。創建瓦は入間郡と比企郡の境の南比企窯、高麗郡との境の東金子窯で生産し供給された。また新たに建郡された新羅郡との境に製鉄・鋳造工房(東台製鉄遺跡)を置き、国分寺に必要な鉄製品を生産・供給させている。その瓦や鉄製品、さらには建築部材の輸送には水上輸送が利用されたと考えられる。その中継基地の役割を果たしたのが、ふじみ野市の東の川越市久下戸にあったと推定する入間郡の郡津、ではないかと考えてみた。そして、松山遺跡をはじめ新河岸川沿いの集落は、その郡津の仕事にも協力したのではないかと考えられる。

この8世紀中頃に起きた大きなプロジェクトには、当然多くの人手が必要とされたであろう。そのために入員された人々の中に、相模型坏や甲斐型坏を携え、新河岸川沿いの集落に移住してきた人々がいたと考えられる。

9世紀に入ると、それまで地域の中心的な集落であった松山遺跡が何らかの理由で衰退していく。それと入れ替わるように成長を遂げるのが川崎遺跡で、牧や伝路中継点・津の機能が引き継がれた。

承和12年(845)から国分寺七重塔の再建が始まると、再び入間郡はその造営に協力をする。その再建瓦を焼いたのが東金子窯の八坂前窯である。七重塔再建瓦が川崎遺跡の西沼対岸の寺尾庵寺にも葺かれていることから、国分寺までの瓦の水上輸送の中継点に西沼が使われ、その輸送に寺尾地区の集団と共に川崎遺跡の人々が協力したと考えられる⁽¹⁹⁾。それを可能にしたのは松山遺跡が栄えた時期に当地が保有していた水上輸送のノウハウであったのだろう。

このようにふじみ野市及び周辺は、奈良時代から平安時代の初めにかけてヒトやモノが大きく動き、さまざまな産業が勃興する、まさに大開拓時代にあったといえそうである。

最後になりますが、本稿を草するにあたり、ふじみ野市教育委員会の文化財担当者の方々には、長年の調査成果を利用する便宜を図っていただきとともに、多方面にわたりご教示を賜わったことを深謝いたします。

(田中 信)

【註】

- 1 田中信 2009 「東山道武蔵路と入間郡家の歴史－古代から中世への転換－」『論叢：古代武藏國入間郡家Ⅱ』古代の入間を考える会、川越市立博物館 2015 「第41回企画展図録：古代入間郡の役所と道」
- 2 富元久美子氏は、大型井戸を出した川越市仲町遺跡、大井町大井戸、下宿内山遺跡を結ぶ現在の川越街道のルートが入間郡南西部、新座市、豊島郡を結ぶ連絡ルートとして律令期に存在したとする（富元久美子 2005 「推定東山道支路について」『八幡前・若宮遺跡（第1次調査）』川越市教委）。また、平野寛之氏は富元氏の説を踏まえ、川越街道のルートを入間郡家・新羅郡家を結ぶ伝路と想定している（川越市立博物館 2015 「コラム：8世紀の入間郡と交通（試案）」「古代入間郡の役所と路」）。
- 3 木本雅康氏は下野国内において、駅場とは別のルートで検出された郡家を指向する直線的な道路痕跡を伝路に比定している（木本雅康 1993 「下野国の古代伝路について」『交通史研究』30）。
- 4 大井戸はこの鎌倉街道に接して所在することから、その鎌倉街道の部分が伝路であった可能性が高い。『新編武藏風土記稿』の「大井村」の項に「小名 大井戸 村の東によりあり。土人或はおみども呼ぶ。昔古井などありて村名も此井より起りし舊地なるにや。されど其つたへを失せり」とある。
- 5 大井町教育委員会 1976 「文化財調査報告書第5集 大井戸跡発掘調査報告書」
大井戸の北には「さかい川」があり、東には「吉さか」という地名がある。この「さか」は「境」を意味する「さか」と考えられる。
- 6 富元久美子 2015 「遺構について」『八幡前・若宮遺跡（第1次調査）』川越市教育委員会
- 7 松崎元樹 2008 「武藏国多摩郡域の牧をさぐる」『牧の考古学』高志書院
- 8 松崎元樹 2000 「武藏国多摩郡域を中心とする古代牧関連の遺跡について」『古代の牧と考古学』山梨県考古学協会
- 9 間和彌 1994 「日本古代社会生活史の研究」校倉書房
- 10 山梨県埋蔵文化財センター 2004 報告書第212集「百々道路2・4」
- 11 山梨県明野村教育委員会 2002 「梅之木遺跡！」
- 12 埼玉県遺跡調査会 1973 「山田遺跡・相模場遺跡発掘調査報告書」
弁天西遺跡 14次調査、川越市教育委員会 2000 「川越市文化財保護年報 平成12年度」なお、「片牧家」の墨書きの実測図は、川越市教育委員会から提供していただいた。
- 13 田中広明 2008 「牧の管理と地域開発」『牧の考古学』高志書院
- 14 一方、入間郡家の最有力候補地の裏が関道跡では相模型坏の出土は確認されていないという対照的なあり方を示す。
- 15 官道の敷設年代とその官道に沿ってある施設の設置年代をどう見るかである。つまり道が設置されてから施設が置かれたのか、施設を置いてから道の敷設を開始したのか。道が先行するとすれば、伝路の工事は松山遺跡等の集落より早く、7世紀末には敷設工事が始まっていたと考えられる。それであれば坂野神社西慶寺の創建年代と一致する。また東山道武蔵路の駅場の年代ともほぼ同時ということになる。
- 16 福島邦男 1999 「東信濃の古代の牧－望月の牧を中心に－」『信濃の牧・春近道・宿場』伊那市
- 17 高島英之 1996 「牧と古代の土地開発」『帝京大学山梨文化財研究所報告』7
- 18 井上尚明氏は、古代において沖積低地は大量の建築資材を調達できる植生環境ではなく、台地奥部の丘陵地や山地からの伐採・運搬が必要であったとして国分寺造営においても、丘陵・山間部からの建築部材の水上輸送の可能性を指摘している（井上尚明 2013 「官面と路と津」『東国の古代官衙』高志書院）。
- 19 川越市仙波東照宮が寛永15年（1638）の川越大火で焼失後、幕府により再建された際、建築部材等の輸送に新河岸川が使われ、船の泊地として西沼北岸が利用されたことを、宮原一郎氏（川越市教委）よりご教示頂いた。おそらく、この西沼北岸の河岸機能は、古代の泊りに起源をもつと考えられる。

- 福岡町教育委員会 1965 「福岡構内石器時代遺跡発掘調査報告／埼玉県」上福岡市教育委員会 1999 『埋蔵文化財の調査(21)』
- 福岡村繩文前期住居跡と竪穴住居の系統について 上福岡市教育委員会 2000 『埋蔵文化財の調査(22)』
- 福岡町教育委員会 1966 「福岡町文化財調査報告書」上福岡市教育委員会 2001 『埋蔵文化財の調査(23)』
- 川崎横穴群発掘調査団 1972 「福岡町川崎横穴群発掘調査報告書」上福岡市教育委員会 2002 『埋蔵文化財の調査(24)』
- 上福岡市教育委員会 1975 『川崎遺跡第1次調査概報』上福岡市教育委員会 2003 『埋蔵文化財の調査(25)』
- 上福岡市教育委員会 1976 『川崎遺跡第2次調査概報』上福岡市教育委員会 2004 『埋蔵文化財の調査(26)』
- 上福岡市教育委員会／沼上遺跡調査会 1977 『沼上遺跡発掘調査報告書』上福岡市教育委員会 2005 『埋蔵文化財の調査(27)』
- 上福岡市教育委員会 1978 『川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡発掘調査報告書』上福岡市教育委員会／上福岡市史編纂委員会 1999 『上福岡市史 資料編第1巻 自然史・考古』
- 上福岡市ハケ遺跡調査会 1979 『ハケ遺跡C地区』上福岡市教育委員会／上福岡市史編纂委員会 1997 『上福岡市史 資料編第2巻 古代・中世・近世』
- 上福岡市教育委員会 1981 『上福岡市遺跡調査報告書』上福岡市教育委員会／上福岡市史編纂委員会 1998 『上福岡市史 資料編第3巻 近代』
- 上福岡市教育委員会 1987 『鶴森遺跡の調査』上福岡市教育委員会／上福岡市史編纂委員会 2000 『上福岡市史 資料編第4巻 現代』
- 上福岡市遺跡調査会 1982 『長宮遺跡第8次調査』上福岡市教育委員会／上福岡市史編纂委員会 2000 『上福岡市史 通史編 上巻』
- 上福岡市遺跡調査会 1993 『西遺跡第1次調査概要』上福岡市教育委員会／上福岡市史編纂委員会 2002 『上福岡市史 通史編 下巻』
- 上福岡市遺跡調査会 1994 『松山遺跡第19次調査概要』
- 上福岡市遺跡調査会 1997 『伊佐島遺跡第2次の調査』
- 上福岡市遺跡調査会 1997 『松山遺跡第20次調査』
- 上福岡市教育委員会 1994 『考古文献資料(1)上福岡貝塚』
- 上福岡市教育委員会 1998 『福岡信所の歴史』
- 上福岡市教育委員会 1998 『田畠屋造兵廠福岡工場(川越製造所)』
- 上福岡市教育委員会 2000 『上福岡の板碑』
- 上福岡市教育委員会 2004 『椎現山古墳群』
- 上福岡市教育委員会 1979 『埋蔵文化財の調査(Ⅰ)』
- 上福岡市教育委員会 1980 『埋蔵文化財の調査(Ⅱ)』
- 上福岡市教育委員会 1981 『埋蔵文化財の調査(Ⅲ)』
- 上福岡市教育委員会 1982 『埋蔵文化財の調査(Ⅳ)』
- 上福岡市教育委員会 1983 『埋蔵文化財の調査(Ⅴ)』
- 上福岡市教育委員会 1984 『埋蔵文化財の調査(Ⅵ)』
- 上福岡市教育委員会 1985 『埋蔵文化財の調査(Ⅶ)』
- 上福岡市教育委員会 1986 『埋蔵文化財の調査(Ⅷ)』
- 上福岡市教育委員会 1987 『埋蔵文化財の調査(Ⅸ)』
- 上福岡市教育委員会 1988 『埋蔵文化財の調査(Ⅹ)』
- 上福岡市教育委員会 1989 『埋蔵文化財の調査(11)』
- 上福岡市教育委員会 1990 『埋蔵文化財の調査(12)』
- 上福岡市教育委員会 1991 『埋蔵文化財の調査(13)』
- 上福岡市教育委員会 1992 『埋蔵文化財の調査(14)』
- 上福岡市教育委員会 1993 『埋蔵文化財の調査(15)』
- 上福岡市教育委員会 1994 『埋蔵文化財の調査(16)』
- 上福岡市教育委員会 1995 『埋蔵文化財の調査(17)』
- 上福岡市教育委員会 1996 『埋蔵文化財の調査(18)』
- 上福岡市教育委員会 1997 『埋蔵文化財の調査(19)』
- 上福岡市教育委員会 1998 『埋蔵文化財の調査(20)』
- 大井町史編さん委員会 1980 『江川南・西ノ原遺跡』
- 大井町史編さん委員会 1981 『東原遺跡』
- 大井町史編さん委員会 1981 『五輪山』
- 大井町史編さん委員会 1982 『大井町大井地区の民俗』
- 大井町史編さん委員会 1982 『郷土を語る』
- 大井町史編さん委員会 1982 『図説 大井の歴史』
- 大井町史編さん委員会 1983 『鶴ヶ岡一弓塚』
- 大井町史編さん委員会 1984 『東台遺跡』
- 大井町史編さん委員会 1985 『東台遺跡Ⅱ』
- 大井町史編さん委員会 1989 『大井町史 資料編Ⅰ 原始古代・中世』
- 大井町史編さん委員会 1988 『大井町史 資料編Ⅱ 近世』
- 大井町史編さん委員会 1988 『大井町史 通史編 上巻』
- 大井町史編さん委員会 1988 『大井町史 通史編 下巻』
- 大井町教育委員会 1976 『大井戸跡発掘調査報告書』
- 大井町教育委員会 1977 『東久保遺跡発掘調査報告書』
- 大井町教育委員会 1980 『東部遺跡群発掘調査報告書Ⅰ』
- 大井町教育委員会 1981 『東部遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』
- 大井町教育委員会 1982 『東部遺跡群発掘調査報告書Ⅲ』
- 大井町教育委員会 1983 『東部遺跡群発掘調査報告書Ⅳ』
- 大井町教育委員会 1984 『東部遺跡群発掘調査報告書Ⅴ』
- 大井町教育委員会 1986 『東部遺跡群VI』
- 大井町教育委員会 1987 『東部遺跡群VII』

- 大井町教育委員会 1988 「東部遺跡群Ⅵ」
 大井町教育委員会 1989 「東部遺跡群Ⅸ」
 大井町教育委員会 1990 「東部遺跡群Ⅹ」
 大井町教育委員会 「大井町の遺跡（Ⅰ）」
 大井町教育委員会 1991 「東部遺跡群Ⅺ」
 大井町教育委員会 1992 「町内遺跡群Ⅰ」
 大井町教育委員会 1993 「町内遺跡群Ⅱ」
 大井町教育委員会 1995 「町内遺跡群Ⅲ」
 大井町教育委員会 1996 「町内遺跡群Ⅳ」
 大井町教育委員会 1997 「町内遺跡群Ⅴ」
 大井町教育委員会 1998 「町内遺跡群Ⅵ」
 大井町教育委員会 1999 「町内遺跡群Ⅶ」
 大井町教育委員会 2000 「町内遺跡群Ⅷ」
 大井町教育委員会 2001 「町内遺跡群Ⅸ」
 大井町教育委員会 2002 「町内遺跡群Ⅹ」
 大井町教育委員会 2003 「町内遺跡群Ⅺ」
 大井町教育委員会 / 大井町遺跡調査会 2005 「東台製鉄遺跡」
 大井町教育委員会 2005 「町内遺跡群Ⅻ」
 大井町教育委員会 1979 「西ノ原遺跡」
 大井町遺跡調査会 1990 「大井・苗間の遺跡」
 大井町遺跡調査会 1992 「亀居遺跡第29地点／本村遺跡第17・18地点」
 大井町遺跡調査会 1993 「本村遺跡（第8地点）」
 大井町遺跡調査会 1995 「西ノ原遺跡第52・55地点／苗間東久保遺跡」
 跡第18地点／淨禪寺跡遺跡第7地点／大井氏館跡遺跡第5地点」
 大井町遺跡調査会 1996 「西ノ原遺跡」
 大井町遺跡調査会 1987 「亀居遺跡」
 大井町遺跡調査会 1998 「亀居遺跡」
 大井町遺跡調査会 2001 「東久保の遺跡」
 大井町遺跡調査会 2002 「東台遺跡」第33地点発掘調査報告書
 大井町遺跡調査会 2003 「武州大井のむかしを覗る」
 大井町遺跡調査会 2004 「本村道路Ⅲ／淨禪寺跡遺跡Ⅱ／苗間東久保
 遺跡Ⅱ／大井氏館跡遺跡Ⅱ」
 大井町遺跡調査会 2004 「西ノ原遺跡Ⅲ／東台遺跡Ⅲ」
 大井町遺跡調査会 2005 「東久保の遺跡」
 大井町遺跡調査会 2005 「本村遺跡Ⅳ／大井氏館跡道路Ⅲ／淨禪寺跡
 道路Ⅲ」
 大井町遺跡調査会 2005 「江川南遺跡Ⅱ／神明後遺跡Ⅰ」
 大井町遺跡調査会 2005 「西ノ原遺跡Ⅳ／東台遺跡Ⅴ」
 大井町遺跡調査会 2009 「本村遺跡Ⅰ・大井氏館跡遺跡Ⅰ」
 大井町遺跡調査会 2009 「亀居遺跡Ⅲ／鶴ヶ舞遺跡Ⅰ／江川南遺跡Ⅲ／
 東中学校西遺跡Ⅰ／西ノ原遺跡Ⅴ／神明後遺跡Ⅱ」
- 大井町遺跡調査会 2009 「鶴ヶ岡外遺跡」・鶴ヶ舞遺跡Ⅱ・江川南遺跡Ⅳ」
 大井町遺跡調査会 2009 「中沢前遺跡Ⅰ／本村遺跡Ⅴ／大井宿遺跡Ⅰ」
 ふじみ野市教育委員会 2007 「東台の遺跡」
 ふじみ野市教育委員会 2006 「市内遺跡群Ⅰ」
 ふじみ野市教育委員会 2007 「市内遺跡群Ⅱ」
 ふじみ野市教育委員会 2008 「市内遺跡群Ⅲ」
 ふじみ野市教育委員会 2009 「市内遺跡群Ⅳ」
 ふじみ野市教育委員会 2011 「市内遺跡群Ⅴ」
 ふじみ野市教育委員会 2011 「市内遺跡群Ⅵ」
 ふじみ野市教育委員会 2012 「市内遺跡群Ⅶ」
 ふじみ野市教育委員会 2013 「市内遺跡群Ⅷ」
 ふじみ野市教育委員会 2013 「市内遺跡群Ⅸ」
 ふじみ野市教育委員会 2014 「市内遺跡群Ⅹ」
 ふじみ野市教育委員会 2014 「市内遺跡群Ⅺ」
 ふじみ野市教育委員会 2014 「市内遺跡群Ⅻ」
 ふじみ野市教育委員会 2015 「市内遺跡群Ⅼ」
 ふじみ野市教育委員会 2015 「市内遺跡群Ⅽ」
 ふじみ野市教育委員会 2016 「市内遺跡群Ⅾ」
 ふじみ野市教育委員会 2016 「市内遺跡群Ⅿ」
 ふじみ野市教育委員会 2016 「市内遺跡群ⅰ」
 ふじみ野市教育委員会 2018 「市内遺跡群ⅲ」
 ふじみ野市教育委員会 2019 「市内遺跡群ⅳ」
 ふじみ野市教育委員会 2019 「市内遺跡群ⅴ」
 ふじみ野市教育委員会 2020 「市内遺跡群ⅵ」
 ふじみ野市教育委員会 2021 「市内遺跡群ⅶ」

III 2020年度の調査について

2020年度は試掘調査が25件、うち本調査に至ったものが3件であった。駒林遺跡第42地点の本調査については2021年度の実施となる。また、2021年度実施の民間開発による本調査7件のうち、5件については本書にて報告した。以下2020年度の調査について時代ごとに概観する。

【縄文時代】

縄文時代の遺構としては、川崎遺跡第57地点の住居跡が挙げられる。今回の調査では検出した住居跡の大半が調査区外のため、全容を捉えることは難しい。本地点の南東に位置する第6次調査でも今回同様黒浜期の住居跡2軒が確認されており、当時の集落の一端がうかがえる。

【古代】

古代に関する遺構は、まず滝遺跡第37地点の遺物が挙げられる。南北方向に走行する溝及び近接するピットの覆土中より、4世紀後半を中心とした土器器片が出土した。完形になるものではなく、いずれも破片であるため、溝に伴うものではない。本地点の南側に位置する第18地点では、4世紀後半の住居跡を2軒検出している。また、第18地点の西側に隣接する第1次調査では4世紀前半の住居跡が確認されており、いずれも今回の調査との関連が想定できる。もしくは、周辺の未調査の住居跡を示唆する可能性も考えられよう。今後の調査に期待する。

権現山遺跡第29地点では、古代の住居跡1軒を検出した。保護層の確保が可能であったため本調査には至っていないが、覆土中の遺物より8世紀代であることが判明した。8世紀代の住居跡は周辺でも確認されており、同時期の集落形成を解明する一助となるであろう。また、本地点の東側には権現山古墳群が位置している。中でも6号墳は近接しているが、今回の調査では周溝は確認されなかった。隣接する第27地点の調査でも明確に6号墳の周溝は確認されていないため、規模等再検討が必要な可能性も考えられる。

【中近世・近代】

中近世以降の調査としてはまず神明後遺跡第58地点が挙げられる。本地点では地下式坑と溝の一部が確認されたが、保護層の確保が可能なため全体の調査には至っていない。周辺では同じく中世の井戸跡や地下式坑、段切りが確認されており、当時の集落の範囲を知る上で貴重な事例であろう。

本村遺跡第9地点が挙げられる。本村遺跡ではこれまでに区画整理事業による調査を含めて第137地点で発掘調査を実施しており、中世から近世初頭の村落の様相が明らかになりつつある。今回の調査では、井戸3基と溝2条を検出した。本村遺跡の井戸については、過去の調査より①飲料用(生活用水)、②葬送用、③農業用と立地等から用途が分けられるという指摘がある。(坪田2005) 今回の井戸の一致を検討すると、周辺から建物跡や地下式坑は発見されていないことを踏まえると、農業用であった可能性が高い。

また、井戸1より出土した板碑は3点あり、うち1点はほぼ完形である。2点は紀年銘より1355年のものであることがわかる。井戸出土の板碑の意味については諸説あり、現在も定まっていないが、第85図9は井戸上層の縁に張り付くように出土しており、水を汲み上げるための足場にするため転用した可能性も考えられる。一方、第85図8の板碑については井戸の底部に近く、ほぼ中央より出土しており、單なる廃棄か儀礼的な意味を含むのかは定かではないが、上面より投げ入れた様子がうかがえる。今後、事例の増加で詳細が明らかになっていくことに期待する。

〈参考文献〉

・ふじみ野市立大井郷資料館編 2005 『平成17年度企画展 大井戸と鉄 古代の大井を復元する』

(岡崎裕子)

附編

鶴ヶ岡外遺跡第7地点の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

ふじみ野市に所在する鶴ヶ岡外遺跡第7地点は、入間川の支流である新河岸川のさらに支流である川越江川の右岸に広がる台地上に位置する。遺跡の立地する台地は、武蔵野台地北部を構成する台地に相当し、遠藤ほか(2019)による武蔵野台地の地形区分では、M2面に対比されている。同著によるM2面はM2aからM2dまで細分され、約8万年前から7万年前までの時期に形成されているが、ふじみ野市付近のM2面は細分がなされていない。発掘調査では、旧石器時代とされる石器が出土し、礫群などの遺構も確認されている。

本報告では、集石土坑とされた遺構より出土した炭化材の放射性炭素年代測定および樹種の同定を行い、遺構の年代や植生等に係る資料を作成する。また、遺構遺物の検出された火山灰土層(いわゆるローム層)の重鉱物組成と火山ガラスの産状を明らかにすることにより、その層序対比を行う。

1. 炭化材の分析

1. 試料

試料は、集石土坑から出土した炭化材片1点である。「3A 炭化物 1727」の記載がある。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

炭化材は、形状を観察し、メス・ピンセットなどにより、根や土壌など後代の付着物を、物理的に除去する。次に塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lであるが、試料が脆弱な場合や少ない場合は、アルカリの濃度を調整して試料の損耗を防ぐ(AaAと記載)が、今回の試料はAAA処理である。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAGE3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて、14Cの計数、13C濃度(13C/12C)、14C濃度(14C/12C)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。

δ 13Cは試料炭素の13C濃度(13C/12C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach,1977)。また、曆年較正用に一桁目まで表した値も記す。

曆年較正は、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、その後訂正された半減期(14Cの半減期5730

± 40 年) を較正することによって、曆年代に近づける手法である。曆年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal4.4(Bronk,2009) である。較正曲線は Intcal20 (Reimer et al.,2020) を用いる。

(2) 樹種同定

削刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の剖片を作成する。双眼実体顕微鏡や電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察する。材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler 他(1998)、Richter 他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表 1 に示す。今回は加速器質量分析計による年代測定に必要な炭素量は十分回収できている。同位体補正を行った試料の年代値は、 4430 ± 20 BP である。

表 1 および図 1 には曆年較正值も示す。試料の測定誤差 2σ の曆年代は、 $5272 \sim 4880$ calBP である。

表 1 放射性炭素年代測定結果

試料	種別 / 性状	方法	補正年代 (曆年較正用) BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	曆年較正年代								確率 %	Code No.						
					年代値															
3A 炭化物 (クリ) 1727	炭化材 (1M)	AAA (1M)	4430 ± 20 (4432 ± 22)	-28.81 ± 0.21	σ	cal	BC	3264	-	cal	BC	3246	5213	-	5195	cal	BP	7.4	YU- 14711	pal- 13727
					cal	BC	3101	-	cal	BC	3016	5050	-	4965	cal	BP	60.9			
					cal	BC	3323	-	cal	BC	3236	5272	-	5185	cal	BP	20.6			
					cal	BC	3178	-	cal	BC	3159	5127	-	5108	cal	BP	2.4			
					cal	BC	3107	-	cal	BC	3007	5056	-	4956	cal	BP	64.2			
					cal	BC	2988	-	cal	BC	2931	4937	-	4880	cal	BP	8.2			

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。

2) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68.2% が入る範囲) を年代値に換算した値。

4) AAA は、酸・アルカリ・酸处理を示す。AaA は試料が熱害なため、アルカリの濃度を薄くして処理したことを示す。HCl は塗酸処理のみを示す。

5) 曆年の計算には、Oxcal v4.4 を使用

6) 曆年の計算には、補正年代に 0 で曆年較正用年代として示した。一枠目を丸める前の値を使用している。

7) 1 枠目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 枠目を丸めていない。

8) 統計的に真の値が入る確率は、 σ が 68.2%、 2σ が 95.4% である

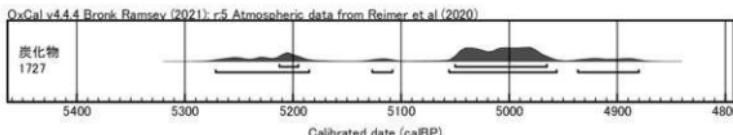


図 1 曆年代較正結果

(2) 樹種同定

同定の結果、試料はクリである。以下に検出された種類の解剖学的特徴を述べる。

- ・クリ (*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3～4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

4. 考察

炭化材が示す曆年代は、小林(2017)の年代区分に従えば縄文時代中期に相当する。炭化材は、その出土状況から遺構に伴うものとされていることから、集石土坑は縄文時代中期の遺構であることが示唆される。これまでの鶴ヶ岡外遺跡の発掘調査では、第2地点において縄文時代の遺構が確認されているが、今回の分析により、第7地点においても縄文時代中期の遺構の存在が確認されたといえる。

なお、炭化材の樹種であるクリは、重硬で割裂性が良く、加工も容易であることから、建物の構造材をはじめ、家具、建具、器具等様々な用途で使われる。この他、火持ちが良いことから薪炭材としても使われる。クリは成長が早く、萌芽による更新が容易であるため、河川沿い、伐採地、林縁部、人里近くの里山林に生育する。このため、遺跡の周辺で容易に採取可能な樹種であったとみられる。伊東・山田編(2012)の出土木製品用材データベースをみると、クリの炭化材は、関東地方南部の縄文時代の遺跡において、最も多く出土する種類である。

II. ローム層の分析

1. 試料

試料の採取された土層断面は、ローム層上面より深度約1.7mまでのローム層の断面が作成されている。ローム層は、発掘調査所見により、上位よりⅢ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹの各層が分層されている。これらのうち、Ⅶ、Ⅷ、Ⅹの各層の色調は暗褐色とされ、他の層の色調は褐色とされている。

試料は、Ⅲ層上面からⅩ層上部まで厚さ10cm(一部試料は層界に合わせて調整)で連続に、試料番号1～17までの17点が採取された。試料採取位置の柱状図は、分析結果を呈示した図2に併記する。

分析には、推定される指標テフラであるAT(後述)の降灰層準が考慮されて、試料番号4、6、9の3点が選択されている。

2. 分析方法

ここでは、ローム層を対象として重鉱物・火山ガラス比分析を行う。重鉱物分析は、当社によって行った武藏野台地の立川ローム層の多くの分析例(例えば矢作・橋本(2012)など)と比較することにより、層序の詳細な対比が可能である。また、火山ガラス比分析は、姶良Tn火山灰(AT;町田・新井,1976)に由来する火山ガラスの量比の層位的な変化を求め、その降灰層準を推定する。分析処理手順は以下の通りである。

試料約40gに水を加え、超音波洗浄装置を用いて粒子を分散し、250メッシュの分析篩上にて水洗して粒径が1/16mmより小さい粒子を除去する。乾燥させた後、篩別して、得られた粒径1/4mm1/8mmの砂分を、ポリタンクスチレン酸ナトリウム(比重約2.96に調整)により重液分離し、得られた重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するものの「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒は「その他」とする。

火山ガラス比分析は、重液分離により得られた重鉱物中の火山ガラスとそれ以外の粒子を、偏光顕微鏡

下にて 250 粒に達するまで計数し、火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、その形態によりバブル型、中間型、軽石型の 3 つの型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分である Y 字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

3. 結果

結果を表 2、図 2 に示す。重鉱物組成は、試料番号 4 と 6 では斜方輝石が最も多く、約 50% ほどを占め、他に 20% 程度のカンラン石と単斜輝石、10% 程度の不透明鉱物を含む組成である。これに対して、試料番号 9 では、カンラン石が最も多く、約 60% を占め、次いで斜方輝石が 15% 程度、他に少量の単斜輝石と不透明鉱物を含むという組成になる。

火山ガラス比では、試料番号 4 と 6 に少量のバブル型火山ガラスと極めて微量の中間型火山ガラスが含まれるが、試料番号 9 には極めて微量のバブル型と中間型が含まれるに過ぎない。

4. 考察

分析の目的とされた AT は、バブル型火山ガラスを主体とする火山ガラス質テフラである。今回の分析では、IV 層と V 層の試料にバブル型火山ガラスが少量含まれ、VII 層の試料にはそれが極めて微量しか含まれないことが確認された。土壤中に特定テフラが混交して産出する場合は、テフラ最濃集部の下限がそのテフラの降灰層準にはほぼ一致するという早津 (1988) の例に従って降灰層準を推定することが多い。鶴ヶ岡外遺跡第 2 地点の分析結果 (パリノ・サーヴェイ株式会社, 2009) を考慮すれば、今回の第 7 地点においても VI 層にバブル型火山ガラスの濃集層準が推定され、したがって VI 層下部に AT の降灰層準が想定される。これまでの分析事例では、武蔵野台地の立川ローム層標準層序の VI 層と VII 層の層界ないしは VII 層の最上部に AT の降灰層準が推定されたことから、今回の土層断面における VI 層と VII 層は、ほぼ標準層序の VI 層と VII 層に対比されるとしてよい。

なお、AT の噴出年代については、Smith et.al.(2013) による福井県の水月湖のボーリングコアの年縞堆積物の研究事例に基づき、曆年で 30,000 年前であることが定まったとされている。

重鉱物組成では、IV 層・V 層と VII 層との間で、カンラン石および斜方輝石の量比関係が明瞭に異なることが示された。同様の事例は、鶴ヶ岡外遺跡第 2 地点の分析でも述べたように、浦和市以北の大宮台地における立川ローム層で認められ、堀口・河原塚 (1979) は、これを「大里ローム層」と呼んだ。今回の第 7 地点においても、III 層から V 層までのローム層は大里ローム層に対比される。

表 1 放射性炭素年代測定結果

層名	試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑レン石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
IV	4	53	127	36	0	0	0	0	23	11	250	22	2	0	226	250
V	6	44	124	41	1	0	0	0	29	11	250	23	1	0	226	250
VII	9	151	40	19	1	0	0	0	6	33	250	5	3	0	242	250

引用文献

- Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.
- 遠藤邦彦・千葉達朗・杉中佑輔・須貝俊彦・鈴木毅彦・上杉 陽・石綿しげ子・中山俊雄・舟津太郎・大里重人・鈴木正章・野口真利江・佐藤明夫・近藤玲介・堀 伸三郎, 2019, 武藏野台地の新たな地形区分. 第四紀研究, 58, 353-375.
- 林 昭三, 1991, 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 早津賢治, 1988, テフラおよびテフラ性土壤の堆積機構とテフロクロノロジー-AT にまつわる議論に関する-. 考古学研究, 34, 18-32.
- 堀口萬吉・河原塚順司, 1979, 大宮台地南部の大里ローム層について. 埼玉大学教養部紀要(自然科学篇), 15, 1-11.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I . 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 II . 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 III . 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV . 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V . 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.
- 小林謙一, 2017, 繩紋時代の実年代・土器型式編年と炭素 14 年代-. 同成社, 263p.
- 町田 洋・新井房夫, 1976, 广域に分布する火山灰-姶良 Tn 火山灰の発見とその意義-. 科学, 46, 339-347.

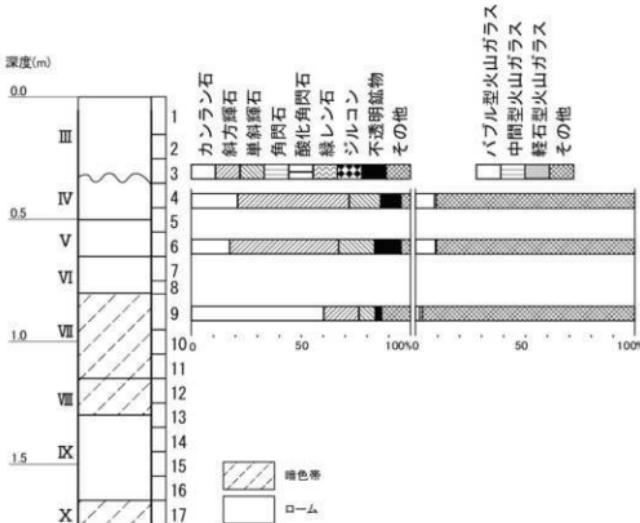
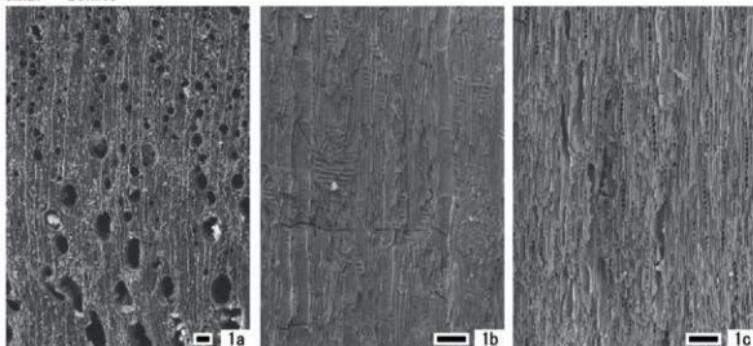


図 2 基本土層のローム層の重鉱物組成および火山ガラス比

- バリノ・サーヴェイ株式会社,2009,鶴ヶ岡外遺跡第2地点のローム層層序・大井遺跡調査会報告 20 鶴ヶ岡外遺跡 I 鶴ヶ舞遺跡 II 江川南遺跡IV,92-94.
- Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト .伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘 (日本語版監修) ,海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .
- 島地 謙・伊東隆夫 ,1982, 國說木材組織 . 地球社 ,176p.
- Smith, V.C., Staff, R.A., Blockley, S.P.E., Ramsey, C.B., Nakagawa, T., Mark, D.F., Takemura, K., Danhara, T., Suigetsu 2006 Project Members, 2013, Identification and correlation of visible tephras in the Lake Suigetsu SG06 sedimentary archive, Japan: chronostratigraphic markers for synchronizing of east Asian/west Pacific palaeoclimatic records across the last 150 ka. Quaternary Science Reviews, 67, 121-137.
- Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト .伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修) ,海青社 ,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .
- 矢作健二・橋本真紀夫 ,2012, 重鉱物組成と火山ガラス比による武藏野台地の立川ローム層層序対比 .新規文化 ,2,7-18.

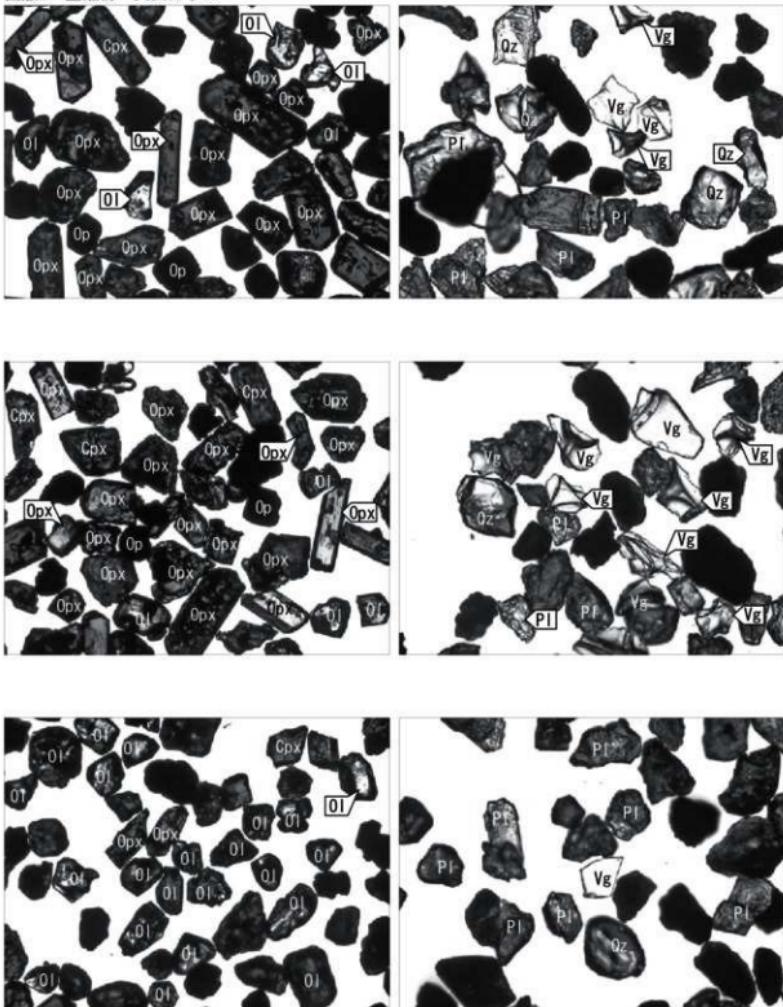
図版1 炭化材



1. クリ(3A 1727)

a:木口 b:柾目 c:板目
スケールは100 μm

図版2 重鉱物・火山ガラス



5. 重鉱物(基本土層VII層:9)

OI: カンラン石, Opx: 斜方輝石, Cpx: 単斜輝石, Op: 不透明鉱物, Vg: 火山ガラス,
Qz: 石英, Pl: 斜長石.

6. 火山ガラス(基本土層VII層:9)

0.5 mm



北野遺跡第50地点トレンチ1



北野遺跡第50地点調査風景



北野遺跡第51地点トレンチ1



北野遺跡第51地点出土遺物



川崎遺跡第56地点トレンチ1



川崎遺跡第56地点トレンチ2



川崎遺跡第56地点トレンチ2土層



川崎遺跡第56地点トレンチ1・2



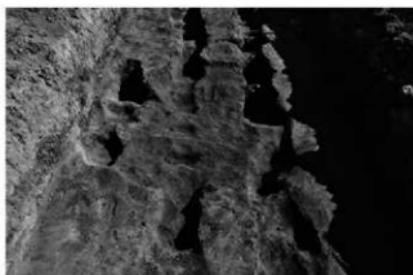
川崎遺跡第 57 地点 J36 号住居跡完掘



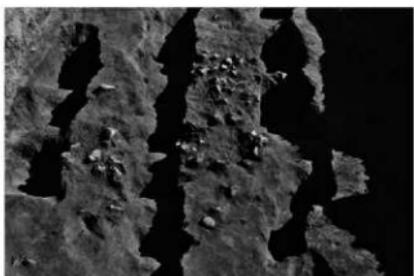
川崎遺跡第 57 地点 J36 号住居跡遺物出土状況



川崎遺跡第 57 地点 J37 号住居跡完掘



川崎遺跡第 57 地点集石土坑

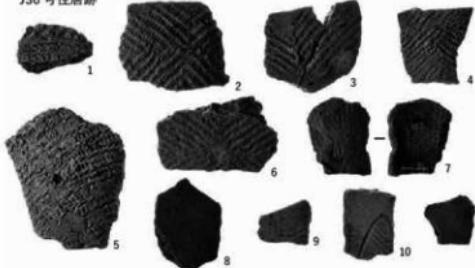


川崎遺跡第 57 地点集石土坑遺物出土状況



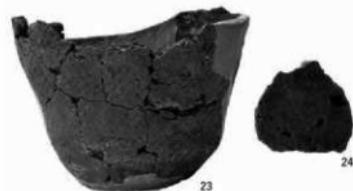
川崎遺跡第 57 地点調査風景

J36 号住居跡



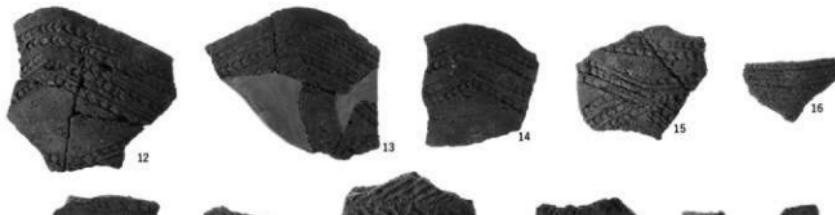
川崎遺跡第 57 地点出土遺物①

集石

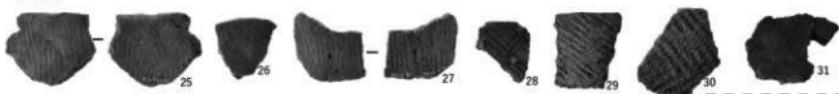


24

J37 号住居跡



遺構外



川崎遺跡第 57 地点出土遺物②

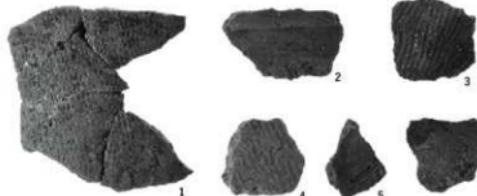


ハケ遺跡第 28 地点堀跡



ハケ遺跡第 28 地点調査風景

堀跡



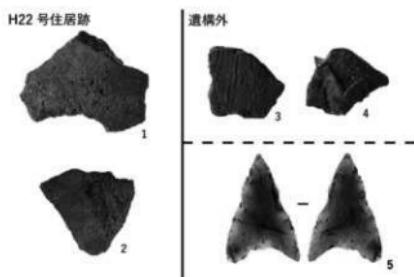
遺構外



ハケ遺跡第 28 地点出土遺物



権現山遺跡第 29 地点 H22 号住居跡プラン確認



権現山遺跡第 29 地点出土遺物



権現山遺跡第 29 地点土坑



滻遺跡第 36 地点トレンチ 3



滻遺跡第 36 地点トレンチ 7



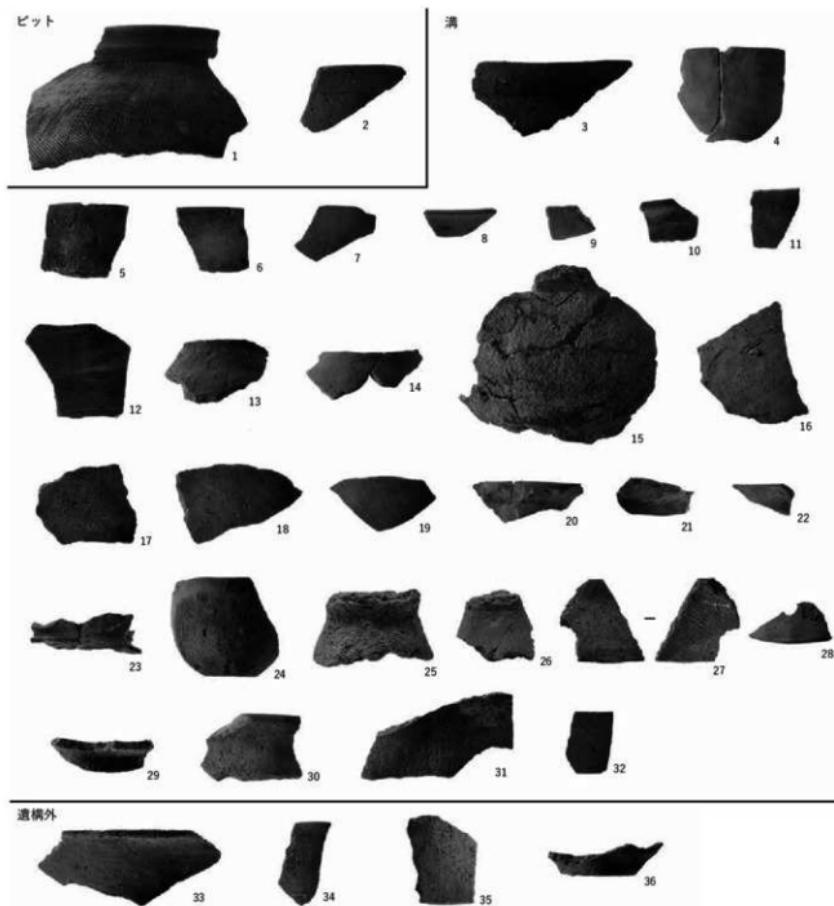
滻遺跡第 37 地点土坑



滻遺跡第 37 地点トレンチ 2 ピット・溝



滻遺跡第 37 地点遺物出土状況



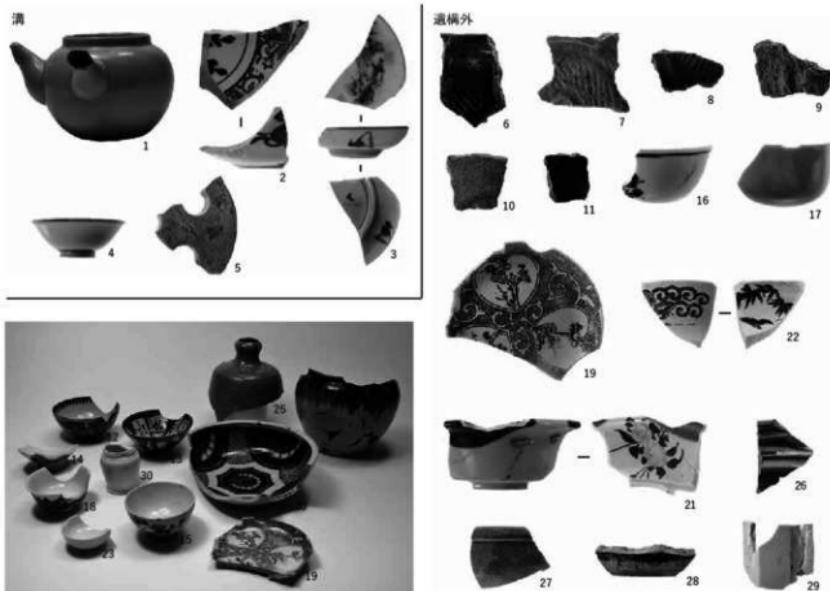
滝遺跡第37地点出土遺物



長宮遺跡第59地点トレンチ1溝



長宮遺跡第59地点調査風景



長宮遺跡第 59 地点出土遺物



鶴ヶ舞遺跡第 38 地点トレンチ 1



鶴ヶ舞遺跡第 38 地点トレンチ 3



鶴ヶ舞遺跡第 38 地点トレンチ 2



鶴ヶ舞遺跡第39地点トレンチ1



鶴ヶ舞遺跡第39地点トレンチ2



鶴ヶ舞遺跡第40地点トレンチ1



鶴ヶ舞遺跡第40地点トレンチ2



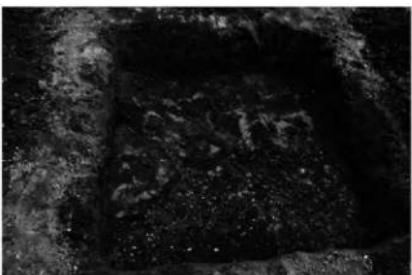
鶴ヶ舞遺跡第41地点トレンチ1



鶴ヶ舞遺跡第41地点トレンチ2



鶴ヶ舞遺跡第42地点グリッド3



鶴ヶ舞遺跡第42地点グリッド4



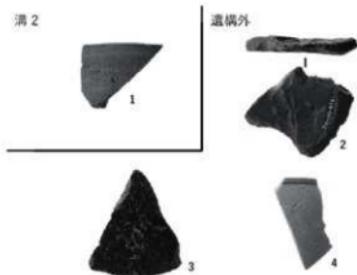
松山遺跡第 103 地点トレンチ 1



松山遺跡第 103 地点トレンチ 3 溝



松山遺跡第 103 地点調査風景



松山遺跡第 103 地点出土遺物



松山遺跡第 104 地点トレンチ 1



松山遺跡第 104 地点トレンチ 1



松山遺跡第 104 地点出土遺物



松山遺跡第105地点トレンチ3



松山遺跡工事立会調査風景
第105地点 遺構外



工事立会 遺構外



松山遺跡第105地点、工事立会出土遺物



江川東遺跡第27地点トレンチ1



東久保遺跡第78地点トレンチ2



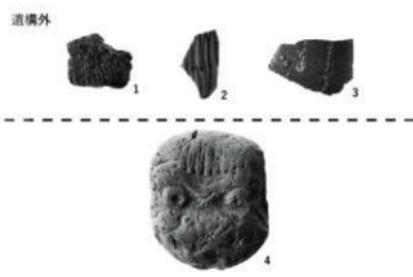
東中学校西遺跡第 37 地点トレンチ 1



西ノ原遺跡第 179 地点トレンチ 1



西ノ原遺跡第 179 地点トレンチ 3



西ノ原遺跡第 179 地点出土遺物



西ノ原遺跡第 179 地点（博物館実習）



西ノ原遺跡第 179 地点（博物館実習）



神明後遺跡第 58 地点トレンチ 2 堀跡



神明後遺跡第 58 地点堀跡・地下式坑



地下式坑



地下式坑



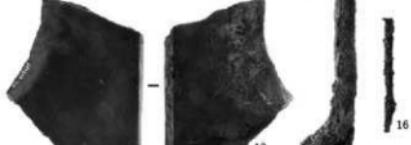
遺構外



遺構外



遺構外



遺構外



苗間東久保遺跡第 35 地点トレンチ 1

神明後遺跡第 58 地点出土遺物



浄禪寺跡遺跡第 56 地点表土除去



浄禪寺跡遺跡第 56 地点 トレンチ 3



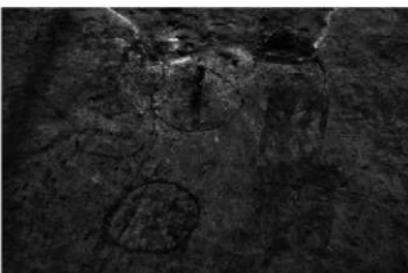
浄禪寺跡遺跡第 56 地点 トレンチ 1 溝 1



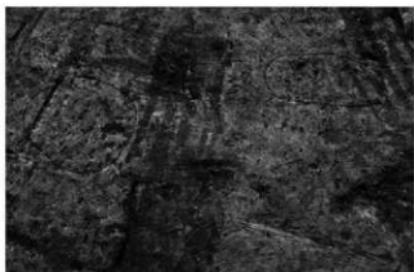
浄禪寺跡遺跡第 56 地点 トレンチ 2 溝 1



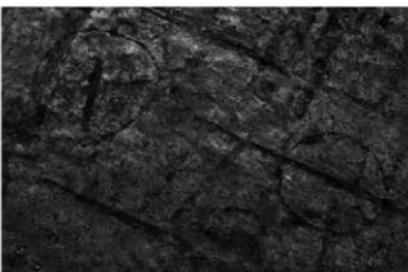
浄禪寺跡遺跡第 56 地点炉穴 1



浄禪寺跡遺跡第 56 地点炉穴 2・3・7・8



浄禪寺跡遺跡第 56 地点炉穴 4・5・9



浄禪寺跡遺跡第 56 地点炉穴 6・10



净禅寺跡遺跡第 56 地点全景①(南から)



净禅寺跡遺跡第 56 地点全景②(南から)



净禅寺跡遺跡第 56 地点全景③(西から)



净禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 1



净禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 1 土層



净禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 2



净禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 3・4、炉穴 12・13



净禅寺跡遺跡第 56 地点土坑 5、炉穴 11



鶴ヶ岡外遺跡第7地点調査前近景



鶴ヶ岡外遺跡第7地点トレンチ1



鶴ヶ岡外遺跡第7地点トレンチ1 TP1



鶴ヶ岡外遺跡第7地点トレンチ5 TP7



鶴ヶ岡外遺跡第7地点遺物出土状況



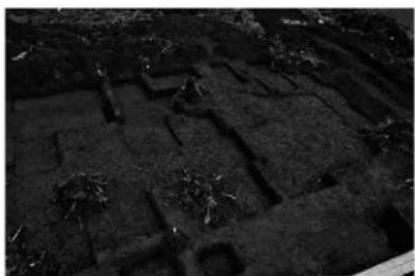
鶴ヶ岡外遺跡第7地点基本土層



鶴ヶ岡外遺跡第7地点調査風景



鶴ヶ岡外遺跡第7地点トレンチ5調査風景



鶴ヶ岡外遺跡第7地点 3B・3C区



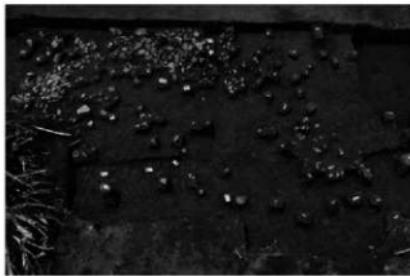
鶴ヶ岡外遺跡第7地点 3B・3C・3D区



鶴ヶ岡外遺跡第7地点 3D区



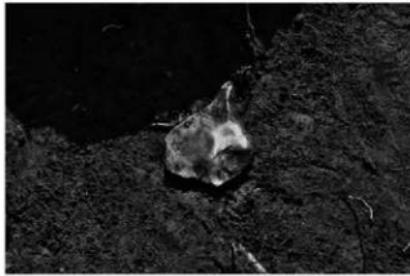
鶴ヶ岡外遺跡第7地点 3A・3B区遺物出土状況



鶴ヶ岡外遺跡第7地点 3C区遺物出土状況



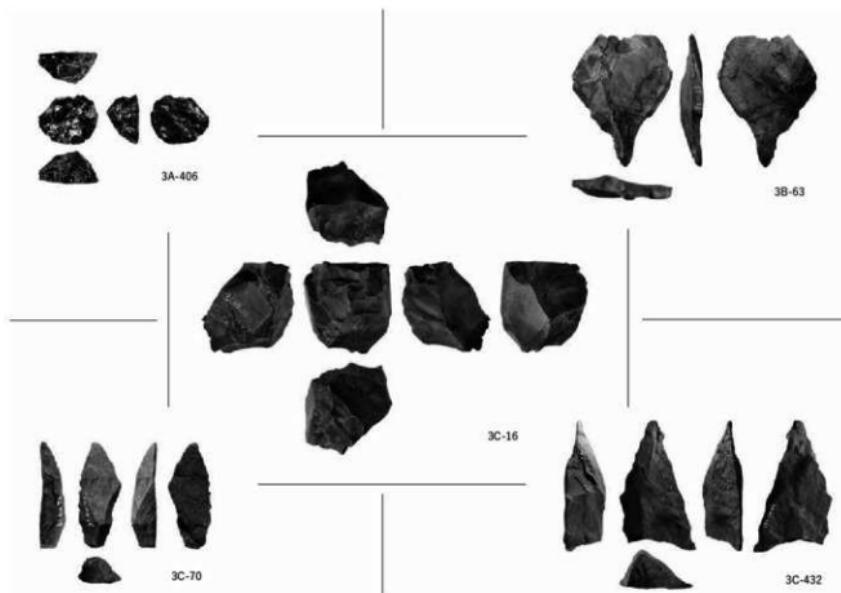
鶴ヶ岡外遺跡第7地点 3C・3D区遺物出土状況



鶴ヶ岡外遺跡第7地点石器出土状況



鶴ヶ岡外遺跡第7地点集石土坑



鶴ヶ岡外遺跡第7地点出土石器



鶴ヶ岡外遺跡第8地点トレンチ2表土除去



鶴ヶ岡外遺跡第8地点G4区砾群



鶴ヶ岡外遺跡第8地点トレンチ1調査風景



鶴ヶ岡外遺跡第8地点トレンチ4調査風景



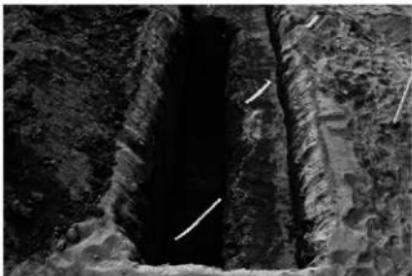
亀久保堀跡遺跡第34地点調査前近景



亀久保堀跡遺跡第34地点トレンチ1①



亀久保堀跡遺跡第34地点トレンチ1②



亀久保堀跡遺跡第34地点トレンチ3



亀久保堀跡遺跡第34地点トレンチ7



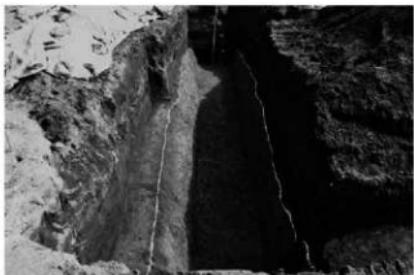
亀久保堀跡遺跡第34地点調査風景①



亀久保堀跡遺跡第34地点調査風景②



亀久保堀跡遺跡第 34 地点堀跡①



亀久保堀跡遺跡第 34 地点堀跡②



亀久保堀跡遺跡第 34 地点堀跡土層



亀久保堀跡遺跡第 34 地点調査風景①



亀久保堀跡遺跡第 34 地点調査風景②



駒林遺跡第42地点調査前近景



駒林遺跡第42地点堀跡土層



駒林遺跡第42地点トレンチ1



駒林遺跡第42地点調査風景①



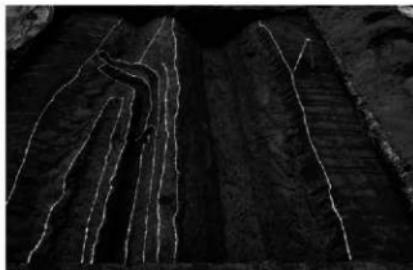
駒林遺跡第42地点調査風景②



駒林遺跡第42地点調査風景③



駒林遺跡第 42 地点完掘①



駒林遺跡第 42 地点完掘②



駒林遺跡第 42 地点堀跡土層①



駒林遺跡第 42 地点堀跡土層②



駒林遺跡第 42 地点調査風景①



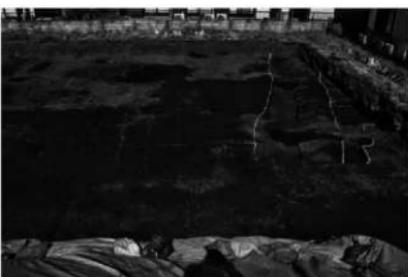
駒林遺跡第 42 地点調査風景②



駒林遺跡第 42 地点調査風景③



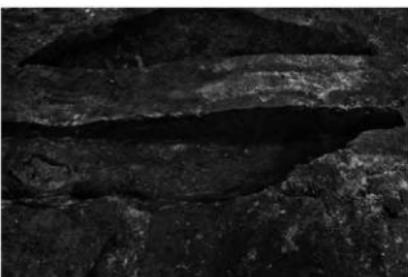
本村遺跡第9地点A区全景①



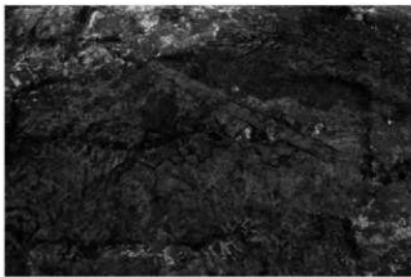
本村遺跡第9地点A区全景②



本村遺跡第9地点B区全景



本村遺跡第9地点土坑1



本村遺跡第9地点土坑2



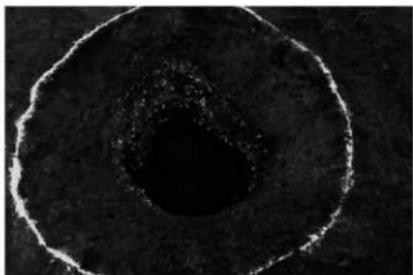
本村遺跡第9地点土坑3



本村遺跡第9地点溝1・2



本村遺跡第9地点溝2



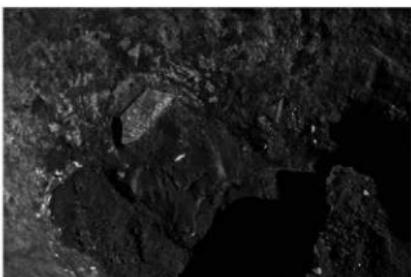
本村遺跡第9地点井戸1①



本村遺跡第9地点井戸1②



本村遺跡第9地点井戸1遺物出土状況①



本村遺跡第9地点井戸1遺物出土状況②

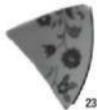
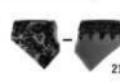
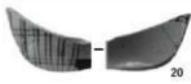
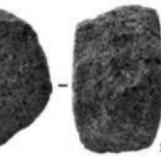
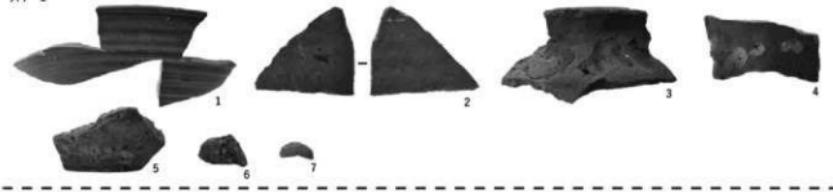


本村遺跡第9地点調査風景①



本村遺跡第9地点調査風景②

井戸 1



本村遺跡第9地点出土遺物



川崎遺跡第 16 次調査区全景（古代）



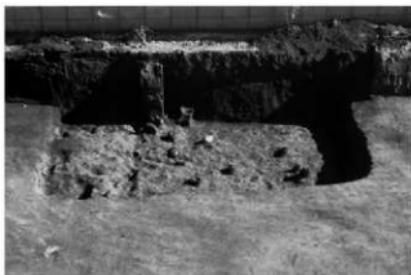
川崎遺跡第 16 次調査区全景



川崎遺跡第16次H43・44号住居跡(北から)



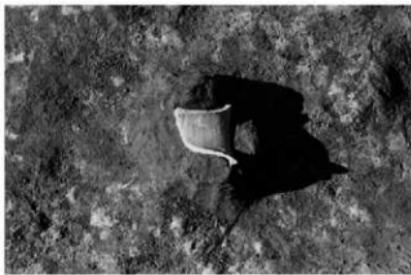
川崎遺跡第16次H43号住居跡竈遺物出土状況



川崎遺跡第16次H43号住居跡



川崎遺跡第16次H43号住居跡遺物出土状況



川崎遺跡第16次H43号住居跡遺物出土状況No.16



川崎遺跡第 16 次 H43 号住居跡遺物出土状況 No. 2・8



川崎遺跡第 16 次 H43 号住居跡遺物出土状況 No. 17



川崎遺跡第 16 次 H45 号住居跡遺物出土状況 No. 23・25



川崎遺跡第 16 次 H45 号住居跡遺物出土状況 No. 23



川崎遺跡第 16 次 H45 号住居跡遺物出土状況 No. 25



川崎遺跡第16次掘立柱建物跡1・2



川崎遺跡第16次掘立柱建物跡1・2、井戸1・2、ピット群



川崎遺跡第16次掘立柱建物跡1



川崎遺跡第16次掘立柱建物跡1ピット3土層



川崎遺跡第16次掘立柱建物跡1ピット6



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 3・4(南東から)



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 3・4(南から)



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 3・4(東から)



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 3・4



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 3 ピット 8



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 5、H46 号住居跡竪（東から）



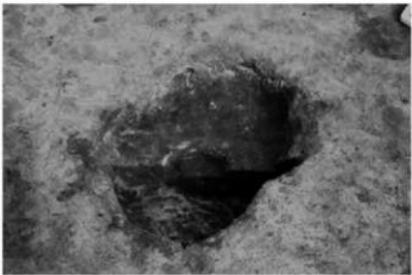
川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 5、H46 号住居跡竪



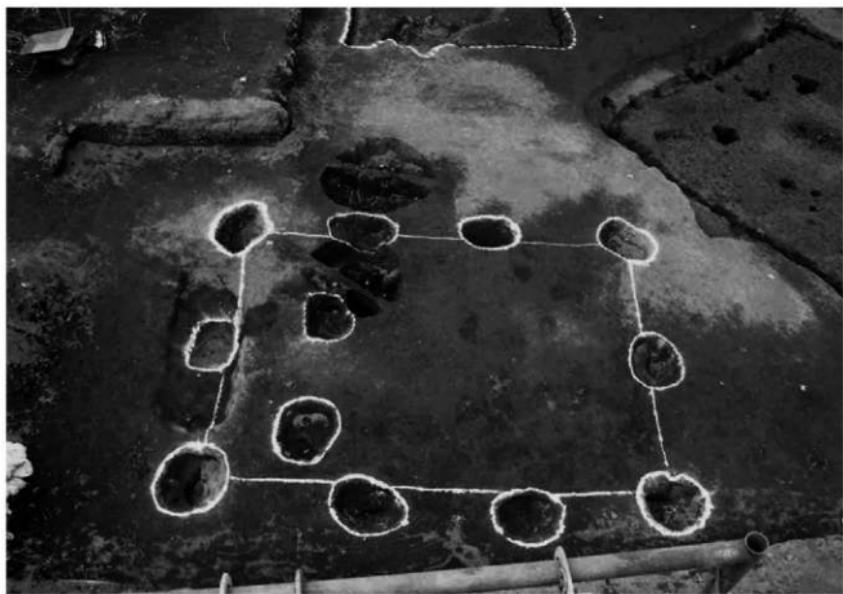
川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 5 ピット 1



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 5 ピット 2



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 5 ピット 3



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 6(東から)



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 6(南から)



川崎遺跡第 16 次 H43・44 号住居跡、方形竪穴建物跡、ピット群



川崎遺跡第 16 次方形竪穴建物跡（北から）



川崎遺跡第 16 次方形竪穴建物跡（東から）



川崎遺跡第 16 次方形竪穴建物跡



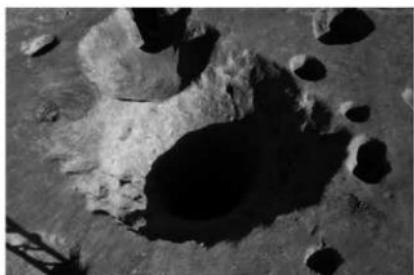
川崎遺跡第 16 次方形竪穴建物跡土層



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 1・2、土坑 2・4・5、ピット群、井戸 1・2



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 1(南から)



川崎遺跡第 16 次井戸 1



川崎遺跡第 16 次調査風景①



川崎遺跡第 16 次調査風景②



川崎遺跡第 16 次調査風景③

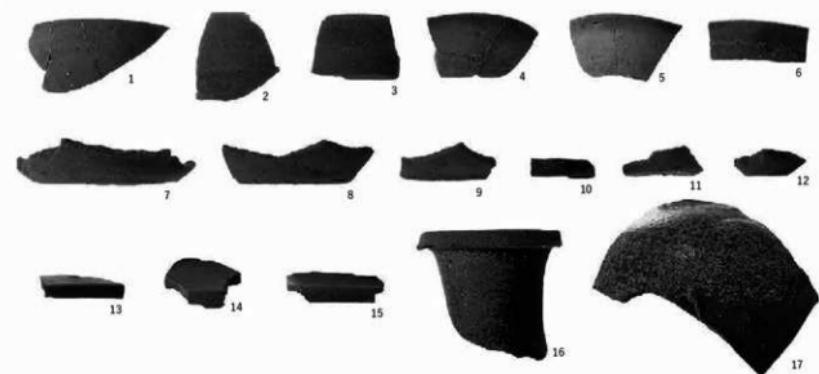


川崎遺跡第 16 次調査区全景



川崎遺跡第 16 次調査区全景

H43 号住居跡



H44 号住居跡



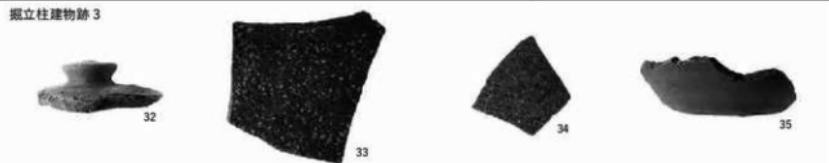
H45 号住居跡



H46 号住居跡



掘立柱建物跡 3



掘立柱建物跡 4



川崎遺跡第 16 次出土遺物①

掘立柱建物跡 5



掘立柱建物跡 6



Figure 45

集石



土坑 5



土坑 8



土坑 9



方形堅穴建物跡



井戸 1



ピット 4



ピット 41



溝



遺構外





④ 川崎遺跡第 2 次 5 号住居跡「壬」



⑥ 松山遺跡第 56 地点土坑 1 「入」



⑨ 松山遺跡第 12 次井戸「中」



⑩ 福岡新田遺跡第 4 地点 H1 号住居跡「子子子」



⑪ 福岡新田遺跡第 4 地点 H1 号住居跡「中・井・开」



⑯ 松山遺跡第 22 次掘立柱建物跡「子子子」



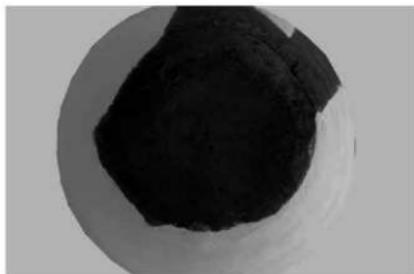
⑰ 川崎遺跡第 15 次 H39 号住居跡「奉」



⑱ 川崎遺跡第 17 次 H47 号住居跡「奉」



⑲ 川崎遺跡第 15 地点 H36 号住居跡「奉」



⑬ 松山遺跡第 16 次 H10 号住居跡「万・千」



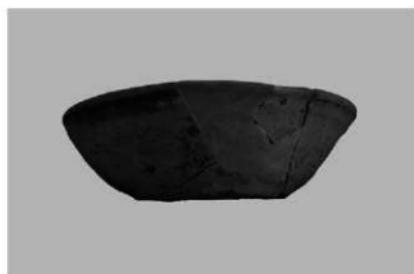
⑭ 神明後遺跡第 28 地点 H2 号住居跡「十万」



⑮ 川崎遺跡第 30 地点 H62 住居跡「用」



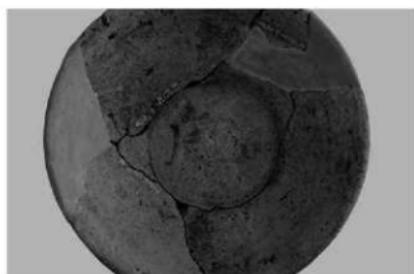
⑯ ハケ遺跡第 26 地点溝「馬」



⑰ 東久保南遺跡第 4 地点 H1 号住居跡「廐」



⑱ 川崎遺跡第 52 地点 H73 号住居跡「前南」



⑲ 東久保南遺跡第 4 地点 H1 号住居跡「廐」底部



⑳ 東久保南遺跡第 4 地点 H1 号住居跡「奉」

報告書抄録

所取遺跡 地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了	m ²	調査担当者
種別 / 主な時代 / 主な遺構 / 主な遺物		特記事項				
鶴ヶ舞遺跡 第40地点	埼玉県ふじみ野市鶴ヶ舞一丁目 106-2	112453 30-046	35° 51' 53" 139° 30' 41"	20201005 20201005	17.24	分譲住宅 岡崎裕子・坪田幹男
	集落跡 / 繩文時代 / ピット / 遺物なし 確認された遺構は、当地域の土地利用と集落形成を知る上で貴重である。					
松山遺跡 第103地点	埼玉県ふじみ野市松山二丁目 1-4の一部、1-5	112453 25-010	35° 52' 20" 139° 31' 42"	20200610 20200612	137	共同住宅 岡崎裕子・坪田幹男
	集落跡 / 中近世 / 溝 2 条 / 須恵器・磁器 確認された溝は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					
松山遺跡 第104地点	埼玉県ふじみ野市池上 355、 356-1、357、360、361 の各一部	112453 25-010	35° 52' 19" 139° 32' 01"	20200928 20200929	68.75	宅地造成 岡崎裕子・坪田幹男
	集落跡 / 近世 / 土坑・溝 2 条 / 陶器片 確認された遺構は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					
龜久保堀跡 第34地点	埼玉県ふじみ野市ふじみ野二丁 目 14-4・5	112453 30-006	35° 51' 45" 139° 30' 54"	20210828 20211011	439.5	共同住宅 鍋島直久
	集落跡 / 中世 / 堀跡 / 遺物なし 確認された堀跡は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					
駒林遺跡 第42地点	埼玉県ふじみ野市新駒林二丁目 310-1	112453 25-013	35° 52' 03" 139° 31' 34"	20210216 20210421	149.29	共同住宅 鍋島直久・岡崎裕子・坪田幹男
	集落跡 / 中近世 / 堀跡・溝 3 条 / ピット 6 基 / 石器・陶磁器片 確認された堀跡は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					
西ノ原遺跡 第179地点	埼玉県ふじみ野市苗間一丁目 2 -1・12・13	112453 30-001	35° 51' 28" 139° 31' 13"	20200804 20200805	93.9	共同住宅 岡崎裕子・坪田幹男
	集落跡 / 繩文時代 / 遺構なし / 繩文土器片・陶磁器片・泥面子 確認された出土遺物は、当地域の集落範囲を知る上で貴重である。					
神明後遺跡 第58地点	埼玉県ふじみ野市苗間字神明後 301-1	112453 30-041	35° 51' 38" 139° 31' 44"	20200626 20200629	35.7	個人住宅 岡崎裕子・坪田幹男
	集落跡 / 中近世 / 堀跡・地下式坑 / 繩文土器・陶磁器・鉄製品 確認された遺構は、当地域の集落範囲及び集落形成を知る上で貴重である。					
淨禅寺跡 第56地点	埼玉県ふじみ野市苗間 338-5 外 14 筒	112453 30-022	35° 51' 41" 139° 31' 51"	20211105 20220131	693.1	分譲住宅 鍋島直久
	集落跡 / 繩文時代 / 炉穴 13 基・土坑 5 基・ピット 7 基・溝 確認された炉穴群は、当地域の集落範囲と土地利用を知る上で貴重である。					
本村遺跡 第9地点	埼玉県ふじみ野市大井二丁目 18-6	112453 30-034	35° 51' 05" 139° 31' 11"	20210125 20210326	681.5	分譲住宅 岡崎裕子・坪田幹男
	集落跡 / 旧石器時代・中近世 / 土坑・ピット・溝・井戸 / 板石塔婆・陶器・磁器・石製品 確認された溝と井戸跡は、当地域の集落範囲と土地利用を知る上で貴重である。					

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第27集

埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群 26

2022年3月20日印刷

2022年3月25日発行

発 行 ふじみ野市教育委員会

〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡一丁目1番1号

TEL 049-261-2611

FAX 049-266-6271

印 刷 朝日印刷工業株式会社
